

札幌市立大学年報

平成28年度

(2016年度)



札幌市立大学

SAPPORO CITY UNIVERSITY

目 次

I 概要

1 大学の概要	1
2 デザイン学部の概要	4
3 看護学部の概要	5
4 デザイン研究科の概要	6
5 看護学研究科の概要	7
6 助産学専攻科の概要	8
7 平成28年度の特筆すべき事項	9
8 行事	10

II 教育活動

1 教育活動概要	11
2 共通教育・連携教育	12
3 デザイン学部	14
4 看護学部	30
5 デザイン研究科	49
6 看護学研究科	56
7 助産学専攻科	65
8 デザインと看護の連携教育	68

III 研究活動

1 個人研究費による研究一覧	70
2 学内公募研究課題一覧	73
3 学外からの研究費、研究補助金などの受入状況	74
4 寄附金の受入状況	77
5 海外出張記録	78

IV 社会活動

1 地域貢献諸活動	80
2 公開講座開催実績	94
3 国・自治体審議会等への就任状況	98
4 ウェルネス×協奏型地域社会の担い手育成「学び舎」事業(COC事業)	103
5 専門職支援・セミナー講師等	105
6 国際交流実績	112
7 サテライトキャンパスの利用状況	113

V キャリア支援活動

1 デザイン学部	114
2 看護学部(助産学専攻科含む)	119
3 デザイン研究科	121

VI 平成29年度入学者選抜結果

1 デザイン学部・看護学部	124
2 デザイン研究科・看護学研究科	130
3 助産学専攻科	134

Ⅶ 附属図書館

1 概要	136
2 利用状況	137

Ⅷ 法人・学内運営の概要

1 平成28(2016)年度公立大学法人札幌市立大学 組織図	138
2 役員会及び審議会の審議状況	138
3 役員及び審議会委員名簿	139
4 経営会議	140
5 部局長会議	140
6 企画室会議	141
7 広報室	141
8 教授会	141
9 地域連携研究センター	141
10 附属図書館	143
11 アドミッションセンター	143
12 キャリア支援センター	143
13 教育支援プロジェクトセンター	143
14 学内委員会	144
15 構成員名簿	146
16 FD・SD活動	152

Ⅸ 資料

1 平成28年度年度計画	154
2 平成28年度決算	162
3 教職員数	163
4 管理職一覧表	164
5 学生定員及び学生数	165
6 授業料等	166
7 奨学金貸与・授業料減免実施状況	166
8 学生の入選・受賞	168
9 学生の課外活動	170
10 後援会	171
11 教育・研究刊行物一覧	171
12 施設	172
13 大学へのアクセス	178
14 札幌市立大学 大学歌『みらいの手』	179

X 教員一覧

1 教員一覧	180
2 教員業績一覧	181



I 概要

1 大学の概要

1) 設置の経緯

環境問題や少子高齢化、高度情報化、国際化などの進展に伴い、社会構造がますます複雑化する中で、学術研究の高度化、学際化とともに、社会では高い資質と能力を持った職業人が強く求められている。

特に、札幌市においては、公共事業の削減が進む中、IT産業に代表される札幌の産業特性に対応したデザイン分野、積雪寒冷という札幌の気候風土に着目したデザイン分野など、地域社会に密着した産業の振興への取組が特に重要であり、こうした取組に対応できる幅広いデザイン能力を持った職業人が求められている。

また、今後も当分の間、看護職の不足が続くと予測されているにもかかわらず、看護職養成施設の廃止や定員の削減に伴う新卒看護職の減少が懸念されている。そうした中、在宅医療を支える訪問看護等の需要増加を始めとして、今後は、患者の生活の質向上を目指したケアを行うことができる、広範で高度な看護能力を有する看護職の確保が求められている。

一方、今日の高等教育機関には、その高度な教育研究機能を通じて、これまで以上に地域社会への貢献を果たすことが大きな社会的要請となっている。

平成3年に開校した札幌市立高等専門学校は、中学卒業時から5年間の早期一貫教育を行うデザイン系高等教育機関として、実践的職業人を数多く輩出してきたほか、企業や行政からの受託研究などを通じて、産業の振興や市民生活の向上に貢献してきた。

また、昭和40年に開校した札幌市立高等看護学院は、高校卒業後の3年課程の専修学校として、市立札幌病院を始めとする札幌市内の医療機関に看護職を多数輩出し、市民の健康支援に貢献してきた。

このような状況の中で、先の地域課題への対応や社会的要請にこたえるために、札幌市立高等専門学校と札幌市立高等看護学院の大学化の必要性和方向性について幅広い論議を行うべく、平成13年11月、「市立高等専門学校・高等看護学院の大学化検討懇話会」を設置した。

大学化検討懇話会は、市民論議の中心的役割を担う立場から、インターネットを始め、さまざまな形で寄せられる市民の意見に耳を傾け、審議経過を逐次公開しながら検討を進め、平成14年12月、約1年間にわたる市民論議の集大成として、「札幌市立高等専門学校と札幌市立高等看護学院が社会構造の変化に的確に対応し、かつ、地域社会の要請にこたえていくためには、4年制大学化によるレベルアップをできるだけ早期に図る必要がある。」とした「市立高等専門学校・高等看護学院の大学化に関する提言」をまとめた。

こうした市民論議の経過を踏まえて、札幌市では、平成15年9月に「（仮称）札幌市立大学基本構想」を策定し、平成18年春の札幌市立大学の開学を目指すこととした。

そして、この基本構想に盛り込まれた方向性を具体化するために、平成15年11月に大学教育の専門家を中心とする「（仮称）札幌市立大学設置 準備委員会」を設置して調査・審議を進め、学部・学科や教育課程、学生の受入れ、校地・校舎のあり方といった事項について、準備委員会における検討内容を踏まえて、平成16年7月に「（仮称）札幌市立大学基本計画」を策定し、平成17年4月に札幌市立大学の設置認可申請を行った。同年12月に大学の設置が認可され、平成18年4月に開学した。

また、デザインと看護の学部での教育を基盤として、より高度な専門的知識を有する高度専門職業人及び研究者・教育者の育成を目的として大学院修士課程を設置することとした。

大学院修士課程は大学院基本計画に基づき学部1期生の卒業時期に合わせた開設が計画され、平成21年5月に札幌市立大学大学院設置認可申請書を文部科学省に提出、10月に大学院の設置が認可され、平成22年4月に札幌市立大学大学院修士課程を開設した。

大学院修士課程の開設と併せて、より高度な能力を持った助産師の養成が必要とする社会的要請を受け、本学に助産学専攻科を設置して助産師を育成することとした。

その後、平成23年5月に大学院デザイン研究科・看護学研究科の課程変更認可申請書（修士課程を博士課程に変更）を文部科学省に提出、同年10月に認可され、平成24年4月に大学院デザイン研



究科・看護学研究科に博士後期課程を開設するとともに、両研究科の修士課程を博士前期課程に改称した。

2) 理念

札幌市立大学では、造形の基盤となる芸術的要素に機能の基盤となる工学的要素を融合させたデザイン学と看護学を教育研究の対象とする。

また、札幌市立大学では、次の二つの理念を掲げて、デザイン学及び看護学に関する教育研究に取り組むとともに、社会における有為な人材の育成に取り組む。

① 「人間重視を根幹とした人材の育成」

デザイン学と看護学は、いずれも人間を対象とした学問領域であることから、両者に共通する「人間重視」の考え方を常に基本とし、一人の人間から社会全体までを対象に、安全で快適な暮らしを創造できる職業人を育成するとともに、知識・技術に加え、教養と人間性を涵養し、有為な人材を育成する。

② 「地域社会への積極的な貢献」

札幌市立大学が市民からの負託にこたえ、「市民に開かれた大学」、「市民の力になる大学」、「市民が誇れる大学」という三つの視点を掲げて、地域貢献という使命を果たし続けていくため、時代の要請に柔軟に対応しながら質の高い教育研究を追究する。

3) 特長

札幌市立大学では、教育研究上の理念のもと、「デザイン学部」及び「看護学部」の二つの学部を設けて教育研究を行うとともに、次の二つの特長を備え、開学後及び将来にわたっての大学の基本的な方向性とする。

① 「デザイン学部と看護学部の連携」

デザイン学部と看護学部を併せ持つという特長を生かし、両学部の教員が連携・共同して教育を行うとともに、保健・医療・福祉分野を対象とするデザインなどを共同研究し、両学部の連携を目指す。

② 「幅広いネットワーク」

行政施策や公的機関、市民、産業界などと連携することにより、幅広いネットワークを持った大学とし、地域課題等に対応した教育研究を積極的に展開することを目指す。

4) 目的

① 学術研究の高度化等に対応した職業人の育成

デザインと看護に共通する「人間重視」の考え方を常に基本とし、デザイン分野においては、幅広いデザイン能力を持った職業人の育成を目指し、看護分野においては、医療の高度化に対応する知識・技術に加え、問題解決能力を有し、他職種と連携できる職業人の育成を目指す。

② まちづくり全体により大きな価値を生み出す「知と創造の拠点」

デザイン学部の設置によって、産業や芸術・文化の振興、都市機能・都市景観の向上などへの貢献を果たすとともに、看護学部の設置によって、少子高齢社会における地域看護の充実、看護職への学習機会の提供などを通じた、市民の健康の保持増進への貢献を果たす。

また、札幌市の行政施策との緊密な連携によって、地域課題の解決に積極的に取り組み、その成果を広く市民に還元して地域貢献を実現する。



沿革

昭和40年4月	札幌市立高等看護学院 開校
平成3年4月	札幌市立高等専門学校 開校
平成8年4月	札幌市立高等専門学校専攻科 開設 札幌市立高等専門学校附属研究所 開設
平成13年11月	「市立高等専門学校・高等看護学院の大学化検討懇話会」設置
平成14年12月	同懇話会による「市立高等専門学校・高等看護学院の大学化に関する提言」
平成15年9月	「(仮称) 札幌市立大学基本構想」策定
平成15年11月	「(仮称) 札幌市立大学設置準備委員会」設置
平成16年7月	「(仮称) 札幌市立大学基本計画」策定
平成17年12月	大学設置認可
平成18年3月	公立大学法人札幌市立大学 設立認可
平成18年4月	札幌市立大学 開学
平成18年10月	サテライトキャンパス 開設
平成19年4月	地域連携研究センター 開設 アドミッションセンター 開設
平成20年3月	札幌市立高等看護学院 閉校
平成20年4月	キャリア支援センター 開設
平成20年8月	認定看護管理者制度サードレベル教育課程 開講
平成21年3月	札幌市立高等専門学校本科 閉科
平成21年10月	大学院（修士課程）設置認可
平成21年12月	助産学専攻科の助産師学校指定通知
平成22年4月	大学院（修士課程）デザイン研究科・看護学研究科・助産学専攻科 開設
平成23年3月	札幌市立高等専門学校専攻科 閉校
平成23年10月	大学院（博士課程）変更認可
平成24年4月	大学院（博士後期課程）開設 大学院（博士前期課程）に改称



2 デザイン学部の概要

1) 特色

デザイン学部では、大学の特色を踏まえ、幅広い職業人の育成を行うことを基盤とし、デザインという特定の専門分野の教育研究を通じて、社会に貢献することを特色としている。具体的には、優秀で創造的な人材を社会に輩出するほか、企業との共同研究や受託研究といった産学連携、個人の創造性・スキルに基盤を置き、知的資産によって価値を生み出す創造的な産業の振興などを通じて社会に貢献するものである。

また、平成17年1月中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」の「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」にある七つの機能のうち、「幅広い職業人養成」を主軸とするほか、デザインという「特定の専門的分野の教育・研究」及び「社会貢献機能」に比重を置いて教育研究に取り組むことを特色としている。

2) 教育目的

デザイン学部では、次のような人材の育成を目的とする。

① 幅広いデザイン能力を持った人材の育成

デザインの基礎的な理論や技術について幅広く教育を行い、高度な職業人に必要なデザイン能力を持った人材を育成する。

② 人間中心の視点に立ったデザインに取り組める人材の育成

造形の基盤となる芸術的要素に機能の基盤となる工学的要素を融合させ、人にやさしいデザインや使いやすいデザインなど、人間中心の視点に立ったデザインに取り組むことのできる人材を育成する。

③ 地域社会に貢献できる人材の育成

時代や社会の要請を的確に捉えた教育研究に取り組むとともに、地域産業や芸術・文化の振興をはじめ、都市機能や都市景観の向上など、まちづくり全体に幅広く貢献する人材を育成する。

3) 育成する人材像

札幌市においては、IT産業に代表される札幌の産業特性に対応したデザイン分野や、積雪寒冷という札幌の気候風土に着目したデザイン分野など、地域社会に密着した産業の振興への取組が特に重要視されており、こうした取組に対応できる幅広いデザイン能力を持った職業人が求められている。

デザイン学部では、そうした社会の人材需要にこたえとともに、教育目的を達成するため、次の能力を備えた人材を育成する。

① 多様なコミュニケーション能力

的確に意思疎通を図り、豊かな人間関係を形成することができる能力のほか、海外とのコミュニケーションに必要な実用的な英語能力、高度情報化社会に不可欠な情報処理能力を養う。

② 課題探求能力と問題解決能力

社会の課題やニーズを自ら探求する能力と、その問題をデザインによって解決することのできる能力を養う。

③ デザインの基礎となる表現力

豊かな感性を涵養するとともに、創造的な発想と豊かな表現力を養う。

④ 人間や環境に配慮したデザイン思考能力

人間にとって使いやすいデザインや環境への負荷に配慮したデザインを行う能力を養う。

⑤ 新たな価値を発見する柔軟な発想力

固定観念にとらわれず、さまざまな視点からデザインに取り組むことのできる柔軟な発想力を養う。

⑥ 企画力や管理・運営能力

デザインを実践的に活用することのできる企画力や管理・運営能力を養う。



3 看護学部の概要

1) 特色

看護学部では、幅広い職業人を育成することを基盤として、看護学という特定の専門的分野の教育研究を通じて、社会貢献を果たしていくことを特色としている。具体的には、確実な看護実践力を持ち、高い資質を有する看護職を輩出するとともに、保健・医療・福祉行政や関係機関などと連携し、地域看護の充実や市民の健康の保持増進につながる研究を通して社会に貢献するものである。

したがって、看護学部では、平成17年1月中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」の「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」にある7つの機能のうち、「幅広い職業人養成」を主軸とするほか、看護という「特定の専門的分野の教育・研究」及び「社会貢献機能」に比重を置いて教育研究に取り組むことを特色としている。

2) 教育目的

看護学部では、看護職として活躍する次のような人材の育成を目的とする。

① 的確な実践力を有する人材の育成

看護は、看護の理論や知識を基盤とした看護実践を通して研鑽を重ねつつ、専門性を深める学問である。

高度・専門化する医療、多様化する看護ニーズに対応するためには、緻密な観察に基づく的確な判断能力と技術力、さらにこれらを基盤とした問題解決能力が求められる。また、人々がより高い水準の健康を維持・獲得するためには、科学的根拠に基づいた専門的知識・技術を用いて、自律的にケアを推進する実践的な援助能力が求められる。

このため、あらゆる健康レベルや場において、人々が快適で安全に安心して生活できるよう、理論・知識・根拠に基づき的確に看護を実践できる技術と能力を有する看護職を育成する。

② 人間性を尊重した対人関係形成能力を備えた人材の育成

看護の援助過程は、看護職と看護を必要とする人との人間関係形成により進行するものである。看護職は、人間の尊厳を重視し、安心感を与える態度・態様が求められるとともに、看護行為を実施する上では、すべての人に対する人権の擁護と倫理的判断ができるように常に志向することが肝要である。

また、医療施設における看護はもとより、福祉施設や在宅における看護、地域における看護など、看護職に求められる能力、期待される役割が増大しているとともに、高度化する医療は、さまざまな職種の医療従事者を必要としており、看護職や他の従事者と連携・協働し、対象である人間を中心とする視点に立った医療・看護を提供することが重要である。

このため、対象あるいは医療従事者間との意思疎通を図り、対人関係の形成のために、身体的側面だけではなく、心理的、社会的側面から人間を理解し、幅広い教養を基盤とした豊かな人間性と倫理観を備えた看護職を育成する。

③ 地域社会に貢献できる人材の育成

市民の健康に対するニーズの増大や価値観の多様化などに伴い、看護職に対する需要は増大、複雑化してきており、本学では、このような地域の看護需要に対応することが必須になる。

このため、保健・医療・福祉などの学びに加えて、幅広い分野・職種と連携し、創造的、主体的に学習することで、積極的に地域社会における市民の健康の保持増進に貢献できる人材を育成する。また、看護職に対する需要は、それぞれの地域ごとに異なっており、札幌市はもとより、北海道内あるいは全国的な視点から、看護の発展に寄与できる看護職を育成する。

3) 育成する人材像

札幌市には、多くの高度・専門的医療機関が立地し、北海道における高度・先進的医療技術の中核的役割を担っている。少子高齢化が急速に進行し、さらに、独居老人世帯数、高齢夫婦世帯数も増加しており、このような社会情勢に的確に対応した看護職が求められている。

このため、看護学部では、医療機関における高度・専門的医療を担う看護職を育成することはもとより、在宅の高齢者等に対する看護、保健指導など地域の看護需要に対応できる看護職を育成す



ることとし、こうした社会の人材需要の充足と教育目的を達成するため、次の能力を備えた人材を育成する。

- ① 対人関係形成能力
豊かな人間性と倫理的判断力を備え、安心感を与える的確な意思疎通により対人関係を形成できる能力を養う。
- ② 権利擁護・安全なケア提供能力
さまざまな健康レベル、あらゆる発達段階、さまざまな場において、対象の権利を擁護し、安全なケアを提供できる能力を養う。
- ③ 的確な判断能力と問題解決能力に基づく看護実践技術力
緻密な観察と科学的知識に基づく的確な判断能力と問題解決能力を培い、これらを基盤とした看護実践技術力を養う。
- ④ 医療従事者間における調整・指導のための基礎的能力
看護対象者の視点から保健・医療・福祉を追究し、各分野における看護の専門性と役割を認識の上、医療従事者間の調整や指導的役割を担うための基礎的な能力を養う。
- ⑤ 課題解決力を高めるための自己研鑽能力
主体的・創造的に課題探求に取り組み、解決する力を高めるために継続的に自己研鑽できる能力を養う。

4 デザイン研究科の概要

1) 特色

デザインの役割が拡張し、従来のように造形や視覚表現にとどまらず、社会や地域、産業等の複雑な問題をデザイン課題として受け止め、人間や環境に配慮したデザイン提案によりその解決策を実現できる、高度なデザイン能力を有する人材が必要となっている中で、デザイン研究科では、よりよい地域社会の実現に貢献できる高度専門職業人及び研究者・教育者を育成するため、以下の能力を修得することを特色とする。

また、平成17年9月中央教育審議会答申「新時代の大学院教育－国際的に魅力ある大学院教育の構築に向けて－」の四つの「大学院に求められる人材養成機能」のうち「高度な専門的知識・能力を持つ高度専門職業人の養成」及び「創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者等の養成」に比重を置いて教育・研究に取り組む。

【博士前期課程】

- ① デザインに関連する複合的かつ複雑な課題・問題を解決する「課題解決能力」
- ② デザインを通じて新たな価値を生み出す「創造力」
- ③ 課題・問題の発見、分析から具体的事業化までを一貫したデザインプロセスとしてまとめる「企画調整能力」
- ④ 課題・問題をデザインの立場から調査、分析、判断、行動、評価、提案までを具体化する「実践能力」

【博士後期課程】

- ① 自身の専攻分野の専門的知識・技能を中心としつつ、関連近隣分野の基礎的素養をも涵養し、幅広い見識から事象の本質を捉える「課題発見・解析・解決能力」
- ② デザインの視点を通じて自主的・自立的に研究や調査、分析等を実践できる「研究遂行能力」
- ③ 新しいデザイン理論の構築や技術開発に独創的に取り組み、新たな社会価値を生み出す「創造力」
- ④ 他人とのコミュニケーションを図りながら、広く社会全体を俯瞰し、「リーダーシップ」を発揮できる確かな「調整力」及び「指導力」



2) 教育目的

【博士前期課程】

地域社会全体に内在する様々な課題に対してデザインによる解決策を教育・研究することにより、高度で専門的なデザイン能力を持った職業人の育成を目指し、産業、芸術・文化等の振興、地域再生・活性化などの貢献を果たすことを目的としている。

【博士後期課程】

自立した研究者として独創的な視点から社会課題を発見するとともに、深く研究に取り組み、デザイン分野における学術理論及び技能の高度化の追求を通じて、社会への貢献を果たすことを目的としている。

3) 育成する人材像

【博士前期課程】

- ① 屋内外の様々な空間を対象とする空間デザイン分野において、人間の生活や自然環境に配慮しつつ、建築デザインや環境デザインに関する高度なデザイン能力を有する人材。
- ② 人間生活に欠かせない多様な製品並びにそれを支えるインタフェース（操作性）について、人間中心の生活システムとしての製品やそのインタフェースをデザインできる高度なデザイン能力を有する人材。
- ③ 人々の豊かなコミュニケーション活動を支えるコンテンツの制作と、多様なコンテンツのメディア展開を企画・構築し、運営に至るプロセスをプロデュースできる高度なデザイン能力を有する人材。

【博士後期課程】

- ① デザインを通じた組織構築や質改善のためのシステム開発を実践し、組織において指導的立場となり得る人材。
- ② 自立して研究活動を行い、デザインの学問的体系を構築できる人材。

5 看護学研究科の概要

1) 特色

近年、看護分野は専門分化しており、これに対応する卓越した実践能力を有する看護職及び統合的な調整能力を有する看護管理者の育成が急務となっている。

また、これら卓越した臨床能力及び看護の専門性のさらなる向上には、看護の未来を見据えた洞察力・創造力を有し、学問的理念を基盤として研究を推進する自立した教育者・研究者の果たす役割が大きい。

看護学研究科は、このような社会の要請に応える人材を育成し、札幌を発信源に、21世紀の看護の一端を担い、これを保健・医療・福祉分野へ発信できる、看護のバランス感覚に優れた人材の育成を目指している。

なお、本研究科では、平成17年9月5日中央教育審議会答申「新時代の大学院教育－国際的に魅力ある大学院教育の構築に向けて－」の4つの「大学院に求められる人材養成機能」のうち「高度な専門的知識・能力を持つ高度専門職業人の養成」及び「創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者等の養成」に比重を置いて教育・研究に取り組むことを特色とし、以下の能力の修得を目指す。

【博士前期課程】

- ① 正確性・緻密性及び独創性を有する高度な臨床看護実践能力
- ② 高度な倫理観に基づき、専門看護分野において分析・判断・行動・評価ができる能力
- ③ 他職種と協働し、看護における将来展望に資する統合・調整ができる能力
- ④ 積雪寒冷地における健康づくり支援に取り組む能力

【博士後期課程】

- ① 看護に対する社会的課題を的確に認識し、将来を見据えた技術開発やシステムの検証・創出、組織での施策提言等を行う能力



- ② 豊かな人間性や広い視野に加え、高度な倫理観、専門知識や技能に裏打ちされる高い管理能力、指導能力
- ③ 高度な学識と臨床の両面から、看護学の基礎研究や応用研究に自立的に取り組み、実践科学としての看護学を追究する能力

2) 教育目的

【博士前期課程】

保健・医療・福祉分野における様々な課題に主体的に取り組む高度な看護実践能力を有する看護職及び総合的な調整能力を有する看護管理者の育成を目指し、市民の健康の保持増進に貢献を果たすことを目的としている。

【博士後期課程】

自立した研究者として、様々な看護現象に対して深く研究に取り組み、看護の枠組みの再構築やシステム開発、技術開発などを行い、看護分野における学術理論及び技能の高度化を追究し、社会に貢献することを目的としている。

3) 育成する人材像

【博士前期課程】

- ① 保健・医療の中核を担う高度臨床看護実践者の育成（専門看護師を含む）
- ② 総合的に看護ケアをマネジメントする看護管理者の育成
- ③ 地域や在宅においては健康な生活と福祉の向上に率先して貢献する看護職の育成
- ④ 看護の学問的基盤をもとに実践知、経験知を統合できる看護研究者の育成
- ⑤ 次世代の看護教育の中心的担い手としての教育者の育成
- ⑥ 看護技術の開発及び評価能力を備える人材の育成
- ⑦ 幅広い視野のもとで新しい看護システムや制度の開発に資する人材の育成

【博士後期課程】

- ① 看護学の基礎研究・応用研究に自立的に取り組み、人材育成システムの検証・提言ができる研究者・開発者
- ② 確かな知識や技術、倫理観を基盤として、看護職者を志す人々に質の高い教育を実現し、さらに新たな教育制度や方法、カリキュラム等の創出に寄与できる教育者
- ③ 看護現象の分析・評価を通じて、看護システムをグローバルに構築・変革し、自ら行動する高度専門職業人及び看護管理者を養成・指導できる教育者・管理者

6 助産学専攻科の概要

1) 特色

助産学専攻科では、学士課程4年間に於いて培った自己研鑽力が発揮できる教育課程を特色としている。

その1つとして、選択科目を設定せず、学生個々に助産学に広く関連した課題を発見し、自ら学びを深める機会を創っている。加えて、この学びの更なる発展に向け文献研究を行う。

また、1年間の学修では、助産師に必要な基本的知識・技術を土台に、ハイリスク事例に対応できるような高度な知識・技術を熟練した助産師と専門医のもとで修得する。この学修では、看護師資格が大いに役立っている。

2) 教育目的

札幌市立大学の理念である「人間重視を根幹とした人材の育成」と「地域社会への積極的な貢献」を基盤に、各種助産技術能力の正確な修得を目指し、次のような教育を目的とする。

- ① 助産師に必要な基本的かつ高度な知識が修得できる。
- ② 助産師に必要な基本的かつ正確な助産技術が修得できる。
- ③ 助産師に必要な知識と技術を統合し、助産ケアが実践できる。



3) 育成する人材像

北海道、札幌市においては、需給見通しで助産師の不足が見込まれる一方、産科医師の減少などにより、助産師の需要がさらに増加する可能性がある。また、少子高齢化が急速に進行する中で、より一層安全で安心な分娩介助が求められるとともに、思春期や更年期への相談など、助産師が担う役割は広範化・高度化する傾向にある。

このため、助産学専攻科においては、次のような人材を育成する。

- ① 助産に関する幅広く、高度な知識と正確な技術を有する助産師
- ② 地域社会における母子健康の向上に貢献できる助産師
- ③ 人間性豊かな助産師

7 平成28年度の特筆すべき事項

平成28年度、札幌市立大学では以下のような特筆すべき事項があった。

1) 開学10周年記念式典

本学は平成18年4月に創立され、平成27年度末をもって開学10周年を迎えた。

これを記念するとともに、学外の関係者の方々に感謝と祝意を表す為、平成28年9月11日に開学10周年記念式典・記念講演及び記念祝賀会を開催した。

芸術の森キャンパスアリーナにて開催した記念式典では、多くの支援をいただいた方々に感謝状を贈呈した。また、記念講演では、「D×Nの未来」と題して、札幌医科大学名誉教授／医学博士／湊仁会グループ名誉会長 秋野豊明様 にご講演をいただき、場所を変えて行われた記念祝賀会では、法人運営に尽力いただいた3名に感謝状を贈呈した。

2) 新カリキュラム開始

産業界や地域社会におけるデザインの役割が刻々と変化し、デザイン系人材の育成についても産業のグローバル化に対応したより専門性の高い人材やより広範な分野に貢献可能な人材に対するニーズが高まってきたことを受け、デザイン学部が輩出すべき人材像を、(1)デザインの専門性を先鋭化させた人材、(2)デザインの総合的能力を備えた人材、と明確化し平成18年の開学以来継続してきたデザイン学部デザイン学科のコース組織及びカリキュラムを平成28年度（編入学生は平成30年度）入学生から改編した。

コース組織の改編事項としては、それまでの4コース（空間デザイン・製品デザイン・コンテンツデザイン・メディアデザイン）を2コース（人間空間デザイン・人間情報デザイン）とし、各コースにそれぞれ3つの履修モデル（人間空間：建築・環境デザイン、地域コミュニケーションデザイン、人間空間総合デザイン、人間情報：ものづくりデザイン、情報コミュニケーションデザイン、人間情報総合デザイン）を用意した。

カリキュラムの改編事項としては、デザイン学部専門教育についての理解を深め、コース選択の自律性を保証することをねらいとし、第1学年において、両コースの基本的考え方やデザイン手法を学ぶ人間空間デザイン概論、人間情報デザイン概論という2つの必修科目を開講した。

また、コースごとの専門教育の開始時期をそれまでの第2学年後期から第2学年前期に変更するとともに、従来のデザイン総合実習Ⅰ～ⅢをⅠ～Ⅳに再構成し、デザイン総合実習Ⅲにおいては、コース間を横断して学ぶ機会を設けるほか、所属コース以外のコースの卒業要件単位数を増加させ、幅広いデザイン能力の学修を促している。



8 行事

行 事 名	月 日
前期開始	4月1日
入学式・後援会総会	4月3日
前期ガイダンス	4月4日
前期授業開始	4月5日
前期履修登録期間	4月5日～13日
健康診断	4月11日・13日
第1回オープンキャンパス	6月18日
デザイン学部3年次編入学試験	7月23日
大学院デザイン研究科博士前期課程推薦選抜入学試験	7月23日
前期定期試験期間	8月2日～12日
夏季休業	8月13日～9月2日
看護学部3年次編入学試験	9月3日
助産学専攻科入学試験	9月3日
開学10周年記念式典	9月11日
第2回オープンキャンパス	9月17日
大学祭	9月17日・18日・19日
後期ガイダンス	9月23日・29日・30日
大学院デザイン研究科博士前期課程一般・特別選抜入学試験	9月24日
大学院看護学研究科博士前期課程一般・特別選抜入学試験	9月24日
後期授業開始	9月26日・30日・ 10月1日・3日
前期終了	9月30日
後期開始	10月1日
後期履修登録期間	10月3日～11日
デザイン学部特別選抜入学試験（推薦入学・社会人）	11月26日
看護学部特別選抜入学試験（推薦入学・社会人）	11月26日
冬季休業	12月23日～1月3日
後期定期試験期間	1月4日～6日・ 2月8日～20日
大学院看護学研究科博士前期課程一般・特別選抜入学試験（2次募集）	2月4日
大学院看護学研究科博士後期課程入学試験	2月4日
デザイン学部一般選抜入学試験（前期日程）	2月25日
看護学部一般選抜入学試験（前期日程）	2月25日
デザイン学部特別選抜入学試験（私費外国人留学生）	2月25日
春季休業	3月1日～31日
大学院デザイン研究科博士前期課程一般・特別選抜入学試験（2次募集）	3月4日
大学院デザイン研究科博士後期課程入学試験	3月4日
デザイン学部一般選抜入学試験（後期日程）	3月12日
卒業式・修了式	3月17日
後期終了	3月31日



II 教育活動

1 教育活動概要

1) デザイン学部・看護学部

デザイン学部・看護学部共通の「共通教育科目」は、両学部に通ずる「人間重視」の考え方を基本に、両学部の学生が一緒に学習することにより、学部間の交流を深め、異なる分野を志す学生が互いの発想に触れ、広い視野を持つことができるよう体系化している。また、「共通教育科目」は、①大学における心構えや履修方法、あるいは基本的な学習の進め方や研究方法を学ぶ「導入科目」、②文化や人間、社会に対する理解を目的とする「教養科目」、③語学などのコミュニケーション・ツールの修得を目的とする「コミュニケーション科目」の3つの区分で構成している。

デザイン学部の「専門教育科目」は、デザインの基礎的な理論や技術から、より専門性の高い知識や技術、実践的・発展的な知識やデザインの方法までを体系的に理解できるよう、①「基本科目」、②「展開科目」、③「発展科目」の3つの科目群で構成している。また、学芸員の資格を取得するために必要となる科目を「自由科目」という区分で開講している。その他、専門教育科目を履修する上で必要となる技術や知識を補完する目的で「passive design for active life アクティブな生活のためのパッシブデザイン」、「医療機器を含む製品デザイン開発について」等といった特別講義を実施した。

看護学部の「専門教育科目」は、専門科目を学ぶ前提や基礎となる「専門基礎科目」と看護の専門的知識・技術を学ぶ「専門科目」で構成し、段階を踏んで学修できるよう体系化している。特に「専門科目」の各看護領域の授業カリキュラムは、まず「概論科目」により基本理念や考え方を理解した後、「演習科目」「実習科目」を学ぶことで、高度な実践的能力を修得できる構成としている。「実習科目」は、1年次から4年次まで開講し、各学年の講義・演習のレベルに応じた実習を行っている。また、平成24年度（編入学生は26年度）以降の入学生のうち、保健師国家試験受験資格の取得を希望する場合は、必要な単位を修得したうえで保健師コースを選択することとしている。保健師コースは3年次前期終了時に選択（編入学生を含む）することとしており、選択希望者が30名を上回る場合は、面接及び3年次前期までの成績等により総合的に判定し、選択者を決定している。

2) デザイン研究科

デザイン研究科博士前期課程の授業科目は、幅広い視野を身につけ、デザインと看護に共通する関連領域の基礎的素養を涵養するため、看護学研究科と合同で行う「研究科連携科目」とデザイン分野における高度専門職業人及び研究者・教育者に必要な専門知識・技術、研究方法を修得するための「専門教育科目」の2つに区分し、「専門教育科目」はさらに「基本科目」、「展開科目」、「実践科目」及び「修了研究」の4つの科目群で構成され、学生がデザインの高度かつ専門的な知識・技術を学ぶことができるよう体系化している。

デザイン研究科博士後期課程では、「基本科目」、「展開科目」、「研究指導科目」の3つの科目区分を設け、体系的なコースワークによる教育課程を編成し、研究指導を体系的・組織的に展開する教育・研究環境を整備している。それにより、専門分野に関する高度な専門知識及び能力を修得させるとともに、関連する分野の教育を行っている。

3) 看護学研究科

看護学研究科博士前期課程の授業科目は、課程制大学院の趣旨に従い、教育目標を達成するために体系化した構成としている。科目区分は、デザイン研究科と合同で授業を行う「研究科連携科目」と、看護学の各専攻分野に関する高度の専門的知識および能力を修得する「専門教育科目」に区分し、卓越した能力を発揮できる人材を育成する。また、専門看護師（CNS）教育課程の認定基準に沿った授業科目も配置し、広く保健・医療・福祉や看護学の発展に寄与することを目指して

いる。

看護学研究科博士後期課程は、課程制大学院としてコースワークを意識し、コースワークがリサーチワークの基礎となるよう学修できる教育課程を構成している。「連携科目」、「専門科目」、「研究指導科目」の1つの科目区分に基づき体系的な授業展開を行い、看護学開発の基盤形成をねらいとする「看護学特論（1年次前期）」の学修を通じて、社会を広く俯瞰し看護学のさらなる進化、発展に取り組む提案力を形成する。各特講科目では、高度な創造性を涵養して主体的に課題発見や新たな提案を行い、「特別研究」で独創的な研究を取りまとめる。

4) 助産学専攻科

助産学専攻科では、助産に関する幅広く、高度な知識と正確な技術を有し、地域社会における母子保健の向上に貢献できる人間性豊かな助産師の育成を目標として教育課程を編成している。また、助産師活動に不可欠な技術・能力を高い次元で身につけるため、学部教育と同様にOSCEを導入し、各種助産技術能力の修得度を適正に評価している。

2 共通教育・連携教育

1) 教育活動

授業科目	授業 形態・時数	年次	担当教員
スタートアップ演習	演習・60時間	1年次前期	◎原 俊彦 安齋 利典 町田 佳世子 武田 亘明 張 浦華 松井 美穂 大淵 一博 片山 めぐみ 松永 康佑 山本 勝則 大野 夏代 渡邊 由加利 神島 滋子 小坂 美智代 三上 智子 小田嶋 裕輝 柏倉 大作 近藤 圭子 坂東 奈穂美 藪谷 祐介
哲学と倫理	講義・30時間	1年次前期	★中島 孝一
体のしくみ	講義・30時間	1年次前期	小宮 加容子
人間関係を考える	講義・30時間	1年次前期	★椿 武愛子
自然科学を学ぶ	講義・30時間	1年次前期	★小野田 波里
札幌を学ぶ	講義・30時間	1年次前期	原 俊彦
英語 I A	演習・30時間	1年次前期	★赤間 荘太 ★佐川 萌東子 ★清水 香
英語 I B	演習・30時間	1年次前期	町田 佳世子 松井 美穂 ★一瀬 真平 ★白土 淳子
英語 I C	演習・30時間	1年次前期	★バマイ モクター ★山田 パトリシア
日本語表現法	演習・30時間	1年次前期	★斎木 正直 ★齊田 春菜 ★平野 葵 ★安永 立子
基礎カウンセリング	演習・30時間	1年次前期	★小坂 守孝
情報リテラシー I (デザイン学部)	演習・30時間	1年次前期	大淵 一博
情報リテラシー I (看護学部)	演習・30時間	1年次前期	★杉野 佑太
宗教と思想	講義・30時間	1年次後期	★堀 雅彦
芸術と文化	講義・30時間	1年次後期	★望月 由美子
心のしくみ	講義・30時間	1年次後期	★岸 靖亮
動物のくらし	講義・30時間	1年次後期	★桑原 禎知

授業科目	授業 形態・時数	年次	担当教員
現代社会と家族	講義・30時間	1年次後期	原 俊彦
現代社会と経済	講義・30時間	1年次後期	★近藤 公彦
統計の世界	講義・30時間	1年次後期	原 俊彦
英語ⅡA	演習・30時間	1年次後期	町田 佳世子 ★赤間 荘太 ★佐川 萌東子 ★清水 香
英語ⅡB	演習・30時間	1年次後期	松井 美穂 ★一瀬 真平 ★白土 淳子
英語ⅡC	演習・30時間	1年次後期	★バマイ モクター ★山田 パトリシア
プレゼンテーション	演習・30時間	1年次後期	◎武田 亘明 柿山 浩一郎
対人コミュニケーション	演習・30時間	1年次後期	町田 佳世子
手話	演習・30時間	1年次後期	★高橋 淨
情報リテラシーⅡ（デザイン学部）	演習・30時間	1年次後期	◎吉田 和夫 ★児玉 潤二郎
情報リテラシーⅡ（看護学部）	演習・30時間	1年次後期	★杉野 佑太
環境を考える	講義・30時間	2年次前期	矢部 和夫
ジェンダーと文化	講義・30時間	2年次前期	松井 美穂
健康とスポーツ（デザイン学部）	講義・30時間	2年次前期	★出町 道代
現代社会と国際関係	講義・30時間	2年次前期	★青木 隆直
ボランティア活動を考える	講義・30時間	2年次前期	★篠原 辰二
日本国憲法を学ぶ	講義・30時間	2年次前期	★岡田 信弘
中国語（デザイン学部）	演習・30時間	2年次前期	★照井 はるみ
ロシア語（デザイン学部）	演習・30時間	2年次前期	★ジダーノフ ウラジーミル
グループ・ダイナミックス	演習・30時間	2年次前期	★山口 司
実践英語A（デザイン学部）	演習・30時間	2年次前期・後期	町田 佳世子 松井 美穂
実践英語B（デザイン学部）	演習・30時間	2年次前期	★バマイ モクター ★山田 パトリシア
実践英語A（看護学部）	演習・30時間	2年次前期	町田 佳世子 松井 美穂
実践英語B（看護学部）	演習・30時間	2年次前期・後期	★バマイ モクター ★山田 パトリシア
健康とスポーツ（看護学部）	講義・30時間	2年次後期	★出町 道代
中国語（看護学部）	演習・30時間	2年次後期	★照井 はるみ
ロシア語（看護学部）	演習・30時間	2年次後期	★ジダーノフ ウラジーミル
教育を考える	講義・30時間	2年次後期	★光本 滋
生活と文化	講義・30時間	2年次後期	蓮見 孝
韓国語	演習・30時間	2年次後期	★松田 由紀

◎印：科目責任者（オムニバス形式等の場合）

★印：非常勤講師

3 デザイン学部

1) 平成28年度時間割

① 1年前期

		月	火		水	木	金
1	9:00 ～ 10:30	時間表現理論/演習Ⅰ	材料加工 理論/ 実習Ⅰ	表現基礎 (描画)	情報リテラシーⅠ	体のしくみ	人間関係を考える
2	10:40 ～ 12:10	時間表現理論/演習Ⅰ			情報リテラシーⅠ	英語ⅠA 英語ⅠB 日本語表現法	哲学と倫理
3	13:10 ～ 14:40	デザイン史	デザインと数学		英語ⅠA 英語ⅠC 日本語表現法	英語ⅠA 英語ⅠB 日本語表現法	札幌を学ぶ
4	14:50 ～ 16:20	人間空間デザイン論	材料加工 理論/ 実習Ⅰ	表現基礎 (描画)	英語ⅠA 英語ⅠC 日本語表現法	スタートアップ演習	英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅠC 基礎カウンセリング
5	16:30 ～ 18:00	人間情報デザイン論			自然科学を学ぶ		英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅠC 基礎カウンセリング

② 1年後期

		月	火	水	木	金
1	9:00 ～ 10:30	情報リテラシーⅡ	Webデザイン	芸術と文化	デザイン工学	手話
2	10:40 ～ 12:10	情報リテラシーⅡ	Webデザイン	宗教と思想 動物のくらし	現代社会と家族 心のしくみ	手話
3	13:10 ～ 14:40	表現基礎（製図） 表現基礎（構成）	材料加工理論/実習Ⅱ	英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅡC プレゼンテーション	英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅡC プレゼンテーション	現代社会と経済
4	14:50 ～ 16:20	表現基礎（製図） 表現基礎（構成）		英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅡC	英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅡC	英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅡC 対人コミュニケーション
5	16:30 ～ 18:00	視覚・色彩心理学			アイデア生成プロセス	英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅡC 対人コミュニケーション

③ 2年前期

		月		火	水	木		金	
1	9:00 ～ 10:30	デザイン 材料加工 実習Ⅰ	コンピ ュータ基礎 実習ⅡA (3D)	現代社会と国際関係	感性デザイン論	創造産業論		デザイン解析論	
	日本国憲法を学ぶ								
2	10:40 ～ 12:10			ロシア語	デザイン法規	設計製図基礎		健康とスポーツ	
	実践英語A			実践英語B					
3	13:10 ～ 14:40	ヒューマン ファクターズ入門	ロシア語	認知科学	デザイン 材料加工 実習Ⅰ	コンピ ュータ基礎 実習ⅡA (3D)	実践英語B		
	実践英語A								
4	14:50 ～ 16:20	プログラミングⅡ	環境を考える	中国語			ユニバーサル デザイン論		
	ジェンダーと文化								
5	16:30 ～ 18:00	近現代建築史	グループ・ ダイナミクス	中国語	現代芸術論				
	ボランティア活動 を考える								

④ 2年後期

		月	火	水	木	金
1	9:00 ～ 10:30	エコロジーデザイン論 情報社会論	生活と文化	コンピュータ グラフィクス		
2	10:40 ～ 12:10	空間デザイン史 製品デザイン論 コンテンツデザイン論 メディアデザイン論				
3	13:10 ～ 14:40	デザイン材料加工 実習Ⅱ	家具・インテリア デザイン ※前半7.5週で終了	コンピュータ基礎実 習ⅡB (ムービー)	空間デザイン論 製品造形論 広告デザイン	ダイナミックオブ ジェクトデザイン 広告デザイン
4	14:50 ～ 16:20				デザイン総合実習Ⅰ	デザイン材料加工 実習Ⅱ
5	16:30 ～ 18:00	キャリアガイダンス	実践英語A	教育を考える		

⑤ 3年前期

		月	火	水	木	金
1	9:00 ～ 10:30		生涯学習概論		一般構造 アニメーションⅠ	環境計画論 インタラクショナルデザイン 物語デザイン論
2	10:40 ～ 12:10	博物館資料論 ※1～8回目 博物館概論 ※9～15回目		メディア文化史	都市計画論 製品計画論	博物館資料論 ※9～15回目
3	13:10 ～ 14:40	コンテンツ制作 システム論	プロトタイプ シミュレーションⅠ 出版メディアデザイン	景観デザイン論	建築計画論 感性情報学	メディア芸術論
4	14:50 ～ 16:20	マルチメディア コンテンツデザイン	学外実習A インターンシップ 学外実習B フィールドスタディ	博物館概論 ※1～8回目	知的財産権論	デザイン総合実習Ⅱ
5	16:30 ～ 18:00		キャリアガイダンス	博物館教育論		

⑥ 3年後期

		月	火	水	木	金
1	9:00 ～ 10:30	寒冷地デザイン論	バーチャルリアリティ	建築構法	構造・材料実験 メカトロニクス インターネット メディアデザイン	観光とデザイン
2	10:40 ～ 12:10	博物館経営論	空間デザイン法規 製品デザイン史 アニメーションⅡ デジタルアーカイブ	博物館情報・ メディア論	構造・材料実験 感性インタラクショ ンデザイン アートマネジメント論	構造力学 デジタル映像 コンテンツデザイン
3	13:10 ～ 14:40	博物館展示論			建築生産 デジタル映像史	プロトタイプシミュ レーションⅡ ブランド構築
4	14:50 ～ 16:20	地場産業振興論		博物館資料保存論		デザイン総合実習Ⅲ
5	16:30 ～ 18:00	キャリアガイダンス	学部連携演習			

⑦ 4年前期

		月	火	水	木	金
1	9:00 ～ 10:30		デジタル音響デザイン	デザイン英語		
2	10:40 ～ 12:10		建築設備計画 放送メディアデザイン	起業論	コンテンツ流通技術	構造力学Ⅱ ヒューマンケア 機器デザイン
3	13:10 ～ 14:40	博物館実習	住宅論		デザインマネジメント	ロボティクス ネットワーク システムデザイン
4	14:50 ～ 16:20					
5	16:30 ～ 18:00		キャリアガイダンス			

⑧ 4年後期

		月	火	水	木	金
1	9:00 ～ 10:30					
2	10:40 ～ 12:10					
3	13:10 ～ 14:40					
4	14:50 ～ 16:20					
5	16:30 ～ 18:00	キャリアガイダンス				

2) カリキュラム

① 授業科目一覧

平成22～23年度（編入学生は平成24～25年度）入学生用

区分		授業科目	授業形態	単位数			配当年次								卒業要件 単位
				必修	選択	自由	1年次		2年次		3年次		4年次		
							前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
共通教育科目	導入科目	スタートアップ演習	演習	2			○								2単位
	文化に対する理解	哲学と倫理	講義		2		○								4単位以上
		宗教と思想	講義		2			○							
		芸術と文化	講義		2			○							
		環境を考える	講義		2				○						
		教育を考える	講義		2					○					
		生活と文化	講義			2				○					
	人間に対する理解	心のしくみ	講義		2			○							4単位以上
		体のしくみ	講義		2			○							
		ジェンダーを考える	講義		2				○						
		人間関係を考える	講義		2			○							
		健康とスポーツ	講義		2				○						
		自然科学を学ぶ	講義			2		○							
	社会に対する理解	動物のくらし	講義			2		○							6単位以上
		現代社会と家族	講義		2			○							
		現代社会と国際関係	講義		2				○						
		現代社会と経済	講義		2				○						
		札幌を学ぶ	講義		2			○							
		ボランティア活動を考える	講義		2					○					
	外国語	統計の世界	講義	2				○							8単位以上
		日本国憲法を学ぶ	講義			2			○						
		英語ⅠA	演習	1				○							
		英語ⅠB	演習	1				○							
		英語ⅠC	演習	1				○							
		英語ⅡA	演習	1					○						
		英語ⅡB	演習	1					○						
		英語ⅡC	演習	1					○						
		実践英語A	演習		1					○	○				
		実践英語B	演習		1						○				
		韓国語	演習		1							○			
		中国語	演習		1						○				
	コミュニケーション科目	ロシア語	演習		1						○				4単位以上
		日本語表現法	演習		1			○							
		プレゼンテーション	演習	1					○						
		基礎カウンセリング	演習		1			○							
		対人コミュニケーション	演習		1				○						
		グループ・ダイナミックス	演習		1					○					
		手話	演習		1					○					
		情報リテラシーⅠ	演習	1				○							
		情報リテラシーⅡ	演習	1				○							
専門教育科目	デザイン基礎	デザイン原論	講義	2			○								16単位以上
		デザイン史	講義	2			○								
		デザイン方法論	講義	2				○							
		色彩設計論	講義	2				○							
		感性科学	講義	2					○						
		工学基礎	講義		2				○						
		感性デザイン論	講義	2						○					
		ユニバーサルデザイン論	講義	2						○					
		創造産業論	講義	2						○					
		現代芸術論	講義		2					○					
		デザイン解析論	講義		2					○					
		ヒューマンファクターズ入門	講義		2					○					
		近現代建築史	講義		2					○					
		設計製図基礎	演習		2					○					
		認知科学	講義		2					○					
	造形基礎	デザイン法規	講義		2					○					6単位以上
		エコロジーデザイン論	講義		2						○				
		情報社会論	講義		2						○				
		造形基礎実習Ⅰ	実習	2				○							
		表現基礎実習	実習	2				○							
		造形基礎実習Ⅱ	実習	2					○						
	情報基礎	デザイン材料加工実習Ⅰ	実習		2				○						8単位以上
		デザイン材料加工実習Ⅱ	実習		2					○					
		コンピュータ基礎実習Ⅰ	実習	2					○						
		コンピュータ基礎実習ⅡA（3D）	実習		2					○					
		コンピュータ基礎実習ⅡB（ムービー）	実習		2						○				
		コンピュータ基礎実習ⅡC（CAD）	実習		2						○				
		プログラミングⅠ	演習	2					○						
		プログラミングⅡ	演習		2					○					

さらに基本科目から10単位以上

区分		授業科目	授業形態	単位数			配当年次								卒業要件単位		
				必修	選択	自由	1年次		2年次		3年次		4年次				
専門教育科目	展開科目	空間デザイン系	空間デザイン論	講義	2						○						
			空間デザイン史	講義	2						○						
			景観デザイン論	講義	2								○				
			都市計画論	講義	2								○				
			空間デザイン法規	講義	2									○			
			構造力学	講義+演習	2										○		
			建築構法	講義+演習	2										○		
			構造・材料実験	実習	2										○		
			建築設備計画	講義+演習	2											○	
			建築計画論	講義	2									○			
			環境計画論	講義	2									○			
			家具・インテリアデザイン	講義+演習	2						○						
			住宅論	講義	2											○	
			製品デザイン系	製品デザイン論	講義	2						○					
				製品デザイン史	講義	2									○		
		製品造形論		講義	2							○					
		製品計画論		講義	2								○				
		感性情報学		講義	2								○				
		ヒューマンファクターズ		講義+演習	2						○						
		インタラクションデザイン		講義+演習	2								○				
		メカトロニクス		講義+演習	2									○			
		ロボティクス		講義+演習	2										○		
		感性インタラクションデザイン		演習	2									○			
		プロトタイプシミュレーションⅠ		演習	2								○				
		プロトタイプシミュレーションⅡ		演習	2									○			
		ヒューマンケア機器デザイン		演習	2										○		
		コンテンツデザイン系		コンテンツデザイン論	講義	2						○					
				デジタル映像史	講義	2									○		
			コンテンツ制作システム論	講義	2									○			
			物語デザイン論	講義	2									○			
			バーチャルリアリティ	講義	2										○		
			コンピュータグラフィクス	講義+演習	2						○						
			アニメーションⅠ	講義+演習	2								○				
			アニメーションⅡ	講義+演習	2									○			
			デジタル音響デザイン	講義+演習	2										○		
			ダイナミックオブジェクトデザイン	演習	2							○					
			マルチメディアコンテンツデザイン	演習	2								○				
			デジタル映像コンテンツデザイン	演習	2									○			
			ネットワークシステムデザイン	演習	2										○		
			メディアデザイン系	メディアデザイン論	講義	2						○					
				メディア文化史	講義	2								○			
		知的財産権論		講義	2								○				
		メディア芸術論		講義	2									○			
		アートマネジメント論		講義	2										○		
		広告デザイン		講義+演習	2						○						
	ブランド構築	講義+演習		2									○				
	デジタルアーカイブ	講義+演習		2										○			
	コンテンツ流通技術	講義+演習		2											○		
	メディアビジネス	演習		2						○							
	出版メディアデザイン	演習		2							○						
	インターネットメディアデザイン	演習		2								○					
	放送メディアデザイン	演習		2										○			
	発展科目	デザイン応用		一般構造	講義+演習	2							○				
				寒冷地デザイン論	講義	2									○		
			観光とデザイン	演習	2									○			
			地場産業振興論	講義	2										○		
			建築生産	講義+演習	2										○		
			デザインマネジメント	演習	2											○	
			起業論	講義	2											○	
			デザイン英語	演習	2											○	
			構造力学Ⅱ	講義+演習	2											○	
			学外実習A（インターンシップ）	実習	2								◎				
			学外実習B（フィールドスタディ）	実習	2									◎			
学部連携			学部連携演習	演習	2									○		2単位	
		デザイン総合実習	デザイン総合実習Ⅰ	実習	2						○				6単位		
			デザイン総合実習Ⅱ	実習	2							○					
			デザイン総合実習Ⅲ	実習	2								○				
		卒業研究	卒業研究	6										○	6単位		
		自由科目	学芸員課程 関連科目 ※この他に共通 教育科目の「教育を 考える」の 単位修得が必要	生涯学習概論	講義			1				○					
博物館概論				講義			2					○					
博物館経営論	講義					1						○					
博物館資料論	講義					2						○					
博物館情報論	講義					1							○				
博物館実習	実習					3							◎				
視聴覚教育メディア論	講義					1					○						

注1) ◎は集中開講 注2) 展開科目（単位数の網掛け部分）：所属コース系内の各科目は卒業要件単位となるため、すべて履修する必要があります。
 注3) 平成24～25年度の編入学生の学芸員課程関連科目は、平成24年度以降入学生用の授業科目一覧を参照。

平成24～27年度（編入学生は平成26～29年度）入学生用

区分		授業科目	授業形態	単位数			配当年次								卒業要件 単位
				必修	選択	自由	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		
							前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
共通教育科目	導入科目	スタートアップ演習	演習	2			○								2 単位
	文化に対する理解	哲学と倫理	講義		2		○								4 単位以上
		宗教と思想	講義		2			○							
		芸術と文化	講義		2			○							
		教育を考える	講義		2					○					
		生活と文化	講義		2					○					
		ジェンダーと文化	講義		2				○						
	人間に対する理解	心のしくみ	講義		2			○							4 単位以上
		体のしくみ	講義		2		○								
		人間関係を考える	講義		2		○								
		健康とスポーツ	講義		2				○						
		環境を考える	講義		2				○						
		自然科学を学ぶ	講義		2		○								
	社会に対する理解	動物のくらし	講義		2			○							6 単位以上
		現代社会と家族	講義		2			○							
		現代社会と国際関係	講義		2				○						
		現代社会と経済	講義		2			○							
		札幌を学ぶ	講義		2		○								
		ボランティア活動を考える	講義		2				○						
	外国語	統計の世界	講義	2				○							8 単位以上
		日本国憲法を学ぶ	講義		2				○						
		英語 I A	演習	1			○								
		英語 I B	演習	1			○								
		英語 I C	演習	1			○								
		英語 II A	演習	1				○							
		英語 II B	演習	1				○							
		英語 II C	演習	1				○							
		実践英語A	演習		1				○	○					
		実践英語B	演習		1				○						
		韓国語	演習		1					○					
		中国語	演習		1				○						
		ロシア語	演習		1				○						
	コミュニケーション・情報技術	日本語表現法	演習		1		○								4 単位以上
		プレゼンテーション	演習	1				○							
		基礎カウンセリング	演習		1		○								
		対人コミュニケーション	演習		1			○							
		グループ・ダイナミックス	演習		1				○						
		手話	演習		1			○							
		情報リテラシー I	演習	1			○								
		情報リテラシー II	演習	1			○								
専門教育科目	デザイン基礎	デザイン原論	講義	2			○								16 単位以上
		デザイン史	講義	2			○								
		デザイン方法論	講義	2				○							
		色彩設計論	講義	2			○								
		感性科学	講義	2				○							
		工学基礎	講義		2			○							
		感性デザイン論	講義	2					○						
		ユニバーサルデザイン論	講義	2					○						
		創造産業論	講義	2					○						
		現代芸術論	講義		2				○						
		デザイン解析論	講義		2				○						
		ヒューマンファクターズ入門	講義		2				○						
		近現代建築史	講義		2				○						
		設計製図基礎	演習		2				○						
		認知科学	講義		2				○						
		デザイン法規	講義		2				○						
		エコロジーデザイン論	講義		2					○					
		情報社会論	講義		2					○					
	造形基礎	造形基礎実習 I	実習	2			○								6 単位以上
		表現基礎実習	実習	2			○								
		造形基礎実習 II	実習	2				○							
		デザイン材料加工実習 I	実習		2				○						
		デザイン材料加工実習 II	実習		2					○					
	情報基礎	コンピュータ基礎実習 I	実習	2				○							8 単位以上
		コンピュータ基礎実習 II A (3D)	実習		2				○						
		コンピュータ基礎実習 II B (ムービー)	実習		2					○					
		コンピュータ基礎実習 II C (CAD)	実習		2					○					
		プログラミング I	演習	2				○							
		プログラミング II	演習		2				○						

さらに基本科目から10単位以上

さらに基本科目から10単位以上

区分		授業科目	授業形態	単位数			配当年次								卒業要件単位		
				必修	選択	自由	1年次		2年次		3年次		4年次				
専門教育科目	展開科目	空間デザイン系	空間デザイン論	講義		2					○						
			空間デザイン史	講義		2					○						
			景観デザイン論	講義		2							○				
			都市計画論	講義		2							○				
			空間デザイン法規	講義		2								○			
			構造力学	講義+演習		2								○			
			建築構法	講義+演習		2								○			
			構造・材料実験	実習		2								○			
			建築設備計画	講義+演習		2									○		
			建築計画論	講義		2							○				
			環境計画論	講義		2							○				
			家具・インテリアデザイン	講義+演習		2						○					
		住宅論	講義		2									○			
		製品デザイン系	製品デザイン論	講義		2						○					
			製品デザイン史	講義		2								○			
			製品造形論	講義		2						○					
			製品計画論	講義		2							○				
			感性情報学	講義		2							○				
			ヒューマンファクターズ	講義+演習		2						○					
			インタラクションデザイン	講義+演習		2							○				
			メカトロニクス	講義+演習		2								○			
			ロボティクス	講義+演習		2									○		
			感性インタラクションデザイン	演習		2								○			
			プロトタイプシミュレーションⅠ	演習		2							○				
			プロトタイプシミュレーションⅡ	演習		2								○			
		ヒューマンケア機器デザイン	演習		2									○			
		コンテンツデザイン系	コンテンツデザイン論	講義		2						○					
			デジタル映像史	講義		2								○			
			コンテンツ制作システム論	講義		2								○			
			物語デザイン論	講義		2								○			
			バーチャルリアリティ	講義		2								○			
			コンピュータグラフィクス	講義+演習		2						○					
			アニメーションⅠ	講義+演習		2							○				
			アニメーションⅡ	講義+演習		2								○			
			デジタル音響デザイン	講義+演習		2									○		
			ダイナミックオブジェクトデザイン	演習		2						○					
	マルチメディアコンテンツデザイン		演習		2							○					
	デジタル映像コンテンツデザイン		演習		2								○				
	ネットワークシステムデザイン	演習		2									○				
	メディアデザイン系	メディアデザイン論	講義		2						○						
		メディア文化史	講義		2								○				
		知的財産権論	講義		2								○				
		メディア芸術論	講義		2								○				
		アートマネジメント論	講義		2									○			
		広告デザイン	講義+演習		2						○						
		ブランド構築	講義+演習		2								○				
		デジタルアーカイブ	講義+演習		2								○				
		コンテンツ流通技術	講義+演習		2									○			
		メディアビジネス	演習		2						○						
		出版メディアデザイン	演習		2							○					
		インターネットメディアデザイン	演習		2								○				
	放送メディアデザイン	演習		2									○				
発展科目	デザイン応用	一般構造	講義+演習		2							○				8単位以上	
		寒冷地デザイン論	講義		2								○				
		観光とデザイン	演習		2								○				
		地場産業振興論	講義		2								○				
		建築生産	講義+演習		2								○				
		デザインマネジメント	演習		2									○			
		起業論	講義		2									○			
		デザイン英語	演習		2									○			
		構造力学Ⅱ	講義+演習		2									○			
		学外実習A（インターンシップ）	実習		2							◎					
		学外実習B（フィールドスタディ）	実習		2							◎					
	学部連携	学部連携演習	演習	2								○			2単位		
デザイン総合実習	デザイン総合実習Ⅰ	実習	2							○					6単位		
	デザイン総合実習Ⅱ	実習	2								○						
	デザイン総合実習Ⅲ	実習	2									○					
卒業研究	卒業研究	演習	6										○	○	6単位		
自由科目	学芸員課程 関連科目	生涯学習概論	講義			2						○				19単位	
		博物館概論	講義			2							○				
		博物館経営論	講義			2								○			
		博物館資料論	講義			2							○				
		博物館資料保存論	講義			2								○			
		博物館展示論	講義			2								○			
		博物館博物館情報・メディア論	講義			2								○			
		博物館教育論	講義			2							○				
		博物館実習	実習			3								◎			

注1) ◎は集中開講 注2) 展開科目（単位数の網掛け部分）：所属コース系内の各科目は卒業要件単位となるため、すべて履修する必要があります。

平成28年度（編入学生は平成30年度）以降入学生用

区分		授業科目	授業形態	単位数			配当年次								卒業要件単位
				必修	選択	自由	1年次		2年次		3年次		4年次		
							前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
共通教育科目	導入科目	スタートアップ演習	演習	2			○								2単位
	文化に対する理解	哲学と倫理	講義		2		○								4単位以上
		宗教と思想	講義		2			○							
		芸術と文化	講義		2			○							
		教育を考える	講義		2						○				
		生活と文化	講義		2						○				
		ジェンダーと文化	講義		2					○					
	人間と自然に対する理解	心のしくみ	講義		2			○							4単位以上
		体のしくみ	講義		2			○							
		人間関係を考える	講義		2			○							
		健康とスポーツ	講義		2							○			
		環境を考える	講義		2						○				
		自然科学を学ぶ	講義		2			○							
	社会に対する理解	動物のくらし	講義		2			○							4単位以上
		現代社会と家族	講義		2			○							
		現代社会と国際関係	講義		2					○					
		現代社会と経済	講義		2			○							
		札幌を学ぶ	講義		2		○								
		ボランティア活動を考える	講義		2					○					
	外国語	統計の世界	講義		2								○		8単位以上
		日本国憲法を学ぶ	講義		2					○					
		英語ⅠA	演習	1				○							
		英語ⅠB	演習	1				○							
		英語ⅠC	演習	1				○							
		英語ⅡA	演習	1					○						
		英語ⅡB	演習	1					○						
		英語ⅡC	演習	1					○						
		実践英語A	演習		1					○	○				
		実践英語B	演習		1						○				
		韓国語	演習		1						○				
		中国語	演習		1							○			
		ロシア語	演習		1							○			
	コミュニケーション・情報技術	日本語表現法	演習		1			○							4単位以上
		プレゼンテーション	演習	1				○							
		基礎カウンセリング	演習		1			○							
		対人コミュニケーション	演習		1				○						
		グループ・ダイナミックス	演習		1					○					
		手話	演習		1				○						
		情報リテラシーⅠ	演習	1				○							
		情報リテラシーⅡ	演習	1					○						
専門教育科目	デザイン概論	人間空間デザイン論	講義	2			○							4単位	
	人間情報デザイン論	講義	2				○								
	デザイン理論	デザイン史	講義	2				○						20単位以上	
		近現代建築史	講義		2					○					
		情報社会論	講義	2							○				
		エコロジカルデザイン	講義		2						○				
		メディア社会論	講義+演習		2							○			
		知的財産権論	講義		2								○		
		デザインと数学	講義+演習		2		○								
		デザイン工学	講義+演習		2			○							
		コンピュータグラフィックス	講義+演習		2						○				
		アイデア生成プロセス	講義+演習	2				○							
		デザイン展開プロセス	講義+演習		2							○			
		視覚・色彩心理学	講義	2				○							
		環境心理学	講義		2					○					
		ユニバーサルデザイン論	講義	2							○				
		感性情報学	講義	2								○			
	デザイン基盤	デザイン研究法	講義+演習	2						○				20単位以上	
		デザイン英語	講義+演習		2								○		
		表現基礎（描画）	実習	2				○							
表現基礎（製図）		講義+演習		2				○							
表現基礎（構成）		講義+演習		2				○							
材料加工理論／実習Ⅰ		実習	2				○								
材料加工理論／実習Ⅱ		実習		2				○							
建築設計製図		演習		2					○						
情報製品製図		演習		2						○					
3DCG実習		実習		2						○					
建築系CAD実習		実習		2							○				
製品系CAD実習		実習		2							○				

区分			授業科目	授業形態	単位数			配当年次								卒業要件単位	
					必修	選択	自由	1年次		2年次		3年次		4年次			
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門教育科目	基本科目	デザイン基盤	時間表現理論／演習Ⅰ	講義+演習		2		○								所属するコースから22単位以上／他コースから10単位以上	
			時間表現理論／演習Ⅱ	講義+演習		2				○							
			Webデザイン	演習	2				○								
			Webプログラミング	講義+演習		2					○						
	展開科目	人間空間デザインコース	建築デザイン論	講義		2					○						
			空間デザイン史	講義		2					○						
			建築計画論	講義		2				○							
			都市計画論	講義		2						○					
			景観デザイン文化論	講義		2								○			
			住宅論	講義		2									○		
			環境計画論	講義+演習		2				○							
			建築設備計画	講義+演習		2						○					
			構造力学Ⅰ	講義+演習		2						○					
			構造力学Ⅱ	講義+演習		2								○			
			一般構造	講義+演習		2					○						
			建築構法	講義+演習		2								○			
			構造・材料実験	実習		2								○			
			建築生産	講義+演習		2								○			
			建築法規	講義		2								○			
			家具・インテリアデザイン	実習		2						○					
			ランドスケープアーキテクチャ	講義		2								○			
			コミュニティデザイン論	講義		2				○							
		メディア芸術論	講義		2					○							
		空間演出デザイン論	講義+演習		2							○					
		地域ブランド構築	講義+演習		2							○					
		観光デザイン論	講義+演習		2									○			
		環境芸術論	講義+演習		2				○								
		空間プロダクト	講義+演習		2						○						
		空間映像表現	演習		2							○					
		寒冷地デザイン論	講義+演習		2								○				
		起業・経営論	講義		2									○			
		人間情報デザインコース	プロダクトデザインⅠ	講義+演習		2					○						
			プロダクトデザインⅡ	講義+演習		2						○					
			ユーザーエクスペリエンスデザインⅠ	講義+演習		2							○				
			ユーザーエクスペリエンスデザインⅡ	講義+演習		2								○			
			ユーザーエクスペリエンスデザインⅢ	講義+演習		2									○		
	プログラミングⅠ		演習		2					○							
	プログラミングⅡ		講義+演習		2						○						
	プログラミングⅢ		演習		2							○					
	ヒューマンインタラクションⅠ		演習		2							○					
	ヒューマンインタラクションⅡ		演習		2								○				
	協同デザインⅠ		講義+演習		2					○							
	協同デザインⅡ		講義+演習		2						○						
	ビジュアライゼーションⅠ		講義+演習		2						○						
	ビジュアライゼーションⅡ		講義+演習		2							○					
	ビジュアライゼーションⅢ		講義+演習		2									○			
発展科目	連携		学部連携基礎論	講義	2					○						4単位以上	
			学部連携演習	演習	2								○				
			地域プロジェクト	演習		2	○	○	○	○	○	○	○	○			
	総合実習	デザイン総合実習Ⅰ	実習	2						○					8単位		
		デザイン総合実習Ⅱ	実習	2							○						
		デザイン総合実習Ⅲ	実習	2								○					
		デザイン総合実習Ⅳ	実習	2									○				
	卒業研究	卒業研究Ⅰ	演習	3									○		6単位		
		卒業研究Ⅱ	演習	3										○			
	キャリア教育	フィールドスタディ	実習		2					◎					4単位以上		
インターンシップ		実習		2							◎						
キャリアデザイン		講義		2								○					
自由科目	学芸員課程 関連科目	生涯学習概論	講義			2					○				19単位		
		博物館概論	講義			2						○					
		博物館経営論	講義			2							○				
		博物館資料論	講義			2						○					
		博物館資料保存論	講義			2							○				
		博物館展示論	講義			2							○				
		博物館情報・メディア論	講義			2							○				
		博物館教育論	講義			2						○					
		博物館実習	実習			3								◎			

② 卒業要件

平成27年度（編入学生は29年度）以前入学生

(単位)

区分	必修	選択	合計
共通教育科目	13	15	28
専門教育科目	40	56	96
(基本科目)	(26)	(14)	(40)
(展開科目)	—	(34)	(34)
(発展科目)	(14)	(8)	(22)
合 計	53	71	124

平成28年度（編入学生は30年度）以降入学生

(単位)

区分	必修	選択	合計
共通教育科目	11	15	26
専門教育科目	42	56	98
(基本科目)	(24)	(20)	(44)
(展開科目)	—	(32)	(32)
(発展科目)	(18)	(4)	(22)
合 計	53	71	124

3) 教育活動

授業科目	授業形態・時数	年次	担当教員
人間空間デザイン論	講義・30時間	1年次前期	◎中原 宏 上遠野 敏 羽深 久夫 矢部 和夫 斉藤 雅也 武田 亘明 山田 良 石田 勝也 片山 めぐみ 小宮 加容子 須之内 元洋 金子 晋也
人間情報デザイン論	講義・30時間	1年次前期	◎城間 祥之 安齋 利典 石井 雅博
デザイン史	講義・30時間	1年次前期	◎吉田 和夫 細谷 多聞 齋藤 利明 金子 晋也
デザインと数学	講義+演習・30時間	1年次前期	◎石井 雅博 大淵 一博 松永 康佑
表現基礎（描画）	実習・60時間	1年次前期	◎齋藤 利明 ★石崎 友紀
材料加工理論／実習Ⅰ	実習・60時間	1年次前期	◎上遠野 敏 細谷 多聞 ★川上 理恵
時間表現理論／演習Ⅰ	講義+演習・30時間	1年次前期	◎須之内 元洋 石田 勝也
デザイン工学	講義+演習・30時間	1年次前期	◎斉藤 雅也 細谷 多聞
アイデア生成プロセス	講義+演習・30時間	1年次後期	福田 大年
視覚・色彩心理学	講義・30時間	1年次後期	石井 雅博
表現基礎（製図）	講義+演習・30時間	1年次後期	◎金子 晋也 山田 信博
表現基礎（構成）	講義+演習・30時間	1年次後期	福田 大年
材料加工理論／実習Ⅱ	実習・60時間	1年次後期	◎安齋 利典 張 浦華 ★山田 祥子
Webデザイン	演習・30時間	1年次後期	大淵 一博
地域プロジェクト	演習・60時間	1年次～4年次通年	◎中原 宏 ◎定廣 和香子
感性デザイン論	講義・30時間	2年次前期	張 浦華
ユニバーサルデザイン論	講義・30時間	2年次前期	酒井 正幸
創造産業論	講義・30時間	2年次前期	★安田 光孝
現代芸術論	講義・30時間	2年次前期	上遠野 敏
デザイン解析論	講義・30時間	2年次前期	中原 宏
ヒューマンファクターズ入門	講義・30時間	2年次前期	小宮 加容子
近現代建築史	講義・30時間	2年次前期	◎羽深 久夫 山田 良 金子 晋也 ★池上 重康 ★小澤 丈夫 ★武田 明純 ★中渡 憲彦
設計製図基礎	演習・30時間	2年次前期	山田 良
認知科学	講義・30時間	2年次前期	片山 めぐみ
デザイン法規	講義・30時間	2年次前期	★津幡 笑
デザイン材料加工実習Ⅰ	実習・60時間	2年次前期	◎上遠野 敏 齋藤 利明 ★石崎 友紀
コンピュータ基礎実習ⅡA（3D）	実習・60時間	2年次前期	◎松永 康佑 ★増田 直也
プログラミングⅡ	演習・30時間	2年次前期	石井 雅博

授業科目	授業・時数 形態	年次	担当教員
エコロジーデザイン論	講義・30時間	2年次後期	矢部 和夫
情報社会論	講義・30時間	2年次後期	武田 亘明
デザイン材料加工実習Ⅱ	実習・60時間	2年次後期	◎上遠野 敏 ★石崎 友紀 ★川上 理恵
コンピュータ基礎実習ⅡB（ムービー）	実習・60時間	2年次後期	◎松永 康佑 ★河原 大 ★松崎 祐哉
コンピュータ基礎実習ⅡC（CAD）	実習・60時間	2年次後期	◎城間 祥之 金子 晋也
空間デザイン論	講義・30時間	2年次後期	◎山田 良 ★上田 裕文
空間デザイン史	講義・30時間	2年次後期	羽深 久夫
家具・インテリアデザイン	講義+演習・ 30時間	2年次後期	◎片山 めぐみ ★岸本 幸雄 ★中村 昇
製品デザイン論	講義・30時間	2年次後期	安齋 利典
製品造形論	講義・30時間	2年次後期	矢久保 空遥
ヒューマンファクターズ	講義+演習・ 30時間	2年次後期	小宮 加容子
コンテンツデザイン論	講義・30時間	2年次後期	◎細谷 多聞 城間 祥之 石井 雅博 齋藤 利明 大淵 一博 福田 大年 松永 康佑
コンピュータグラフィクス	講義+演習・ 30時間	2年次後期	松永 康佑
ダイナミックオブジェクトデザイン	演習・30時間	2年次後期	◎齋藤 利明 細谷 多聞
メディアデザイン論	講義・30時間	2年次後期	◎須之内 元洋 上遠野 敏 吉田 和夫 武田 亘明 石田 勝也
広告デザイン	講義+演習・ 30時間	2年次後期	吉田 和夫
メディアビジネス	演習・30時間	2年次後期	須之内 元洋
デザイン総合実習Ⅰ （空間デザインコース）	実習・60時間	2年次後期	◎片山 めぐみ 中原 宏 羽深 久夫 矢部 和夫 斉藤 雅也 山田 良 金子 晋也
デザイン総合実習Ⅰ （製品デザインコース）	実習・60時間	2年次後期	◎安齋 利典 張 浦華 柿山 浩一郎 金 秀敬 小宮 加容子 三谷 篤史 矢久保 空遥
デザイン総合実習Ⅰ （コンテンツデザインコース）	実習・60時間	2年次後期	◎細谷 多聞 大淵 一博
デザイン総合実習Ⅰ （メディアデザインコース）	実習・60時間	2年次後期	◎吉田 和夫 武田 亘明 石田 勝也
景観デザイン論	講義・30時間	3年次前期	★上田 裕文
都市計画論	講義・30時間	3年次前期	中原 宏
建築計画論	講義・30時間	3年次前期	片山 めぐみ
環境計画論	講義・30時間	3年次前期	◎斉藤 雅也 矢部 和夫
製品計画論	講義・30時間	3年次前期	柿山 浩一郎
感性情報学	講義・30時間	3年次前期	張 浦華
インタラクティブデザイン	講義+演習・ 30時間	3年次前期	◎柿山 浩一郎 矢久保 空遥
プロトタイプシミュレーションⅠ	演習・30時間	3年次前期	三谷 篤史

授業科目	授業・時数 形態	年次	担当教員
コンテンツ制作システム論	講義・30時間	3年次前期	福田 大年
物語デザイン論	講義・30時間	3年次前期	松永 康佑
アニメーションⅠ	講義+演習・30時間	3年次前期	福田 大年
マルチメディアコンテンツデザイン	演習・30時間	3年次前期	細谷 多聞
メディア文化史	講義・30時間	3年次前期	武田 亘明
知的財産権論	講義・30時間	3年次前期	◎★渡邊 泰帥 ★奥富 圭一 ★久保 雅一 ★濱口 英樹 ★安河内 正文 ★吉田 孝次
メディア芸術論	講義・30時間	3年次前期	須之内 元洋
出版メディアデザイン	演習・30時間	3年次前期	吉田 和夫
一般構造	講義+演習・30時間	3年次前期	羽深 久夫
学外実習A（インターンシップ）	実習・60時間	3年次前期 (学外での実習は集中)	◎柿山 浩一郎 山田 良 石田 勝也 福田 大年
学外実習B（フィールドスタディ）	実習・60時間	3年次前期 (学外での研修は集中)	◎安齋 利典 大淵 一博 金子 晋也 須之内 元洋
デザイン総合実習Ⅱ (空間デザインコース)	実習・60時間	3年次前期	◎金子 晋也 中原 宏 羽深 久夫 矢部 和夫 斉藤 雅也 山田 良 片山 めぐみ ★上田 裕文
デザイン総合実習Ⅱ (製品デザインコース)	実習・60時間	3年次前期	◎三谷 篤史 安齋 利典 柿山 浩一郎 張 浦華 金 秀敬 小宮 加容子 矢久保 空遥
デザイン総合実習Ⅱ (コンテンツデザインコース)	実習・60時間	3年次前期	◎城間 祥之 齋藤 利明 松永 康佑
デザイン総合実習Ⅱ (メディアデザインコース)	実習・60時間	3年次前期	◎上遠野 敏 吉田 和夫 須之内 元洋
空間デザイン法規	講義・30時間	3年次後期	★小林 宏
構造力学	講義+演習・30時間	3年次後期	★石丸 修二
建築構法	講義+演習・30時間	3年次後期	金子 晋也
構造・材料実験	実習・60時間	3年次後期	羽深 久夫
製品デザイン史	講義・30時間	3年次後期	安齋 利典
メカトロニクス	講義+演習・30時間	3年次後期	三谷 篤史
感性インタラクションデザイン	演習・30時間	3年次後期	◎三谷 篤史 張 浦華
プロトタイプシミュレーションⅡ	演習・30時間	3年次後期	柿山 浩一郎
デジタル映像史	講義・30時間	3年次後期	石田 勝也
バーチャルリアリティ	講義・30時間	3年次後期	石井 雅博
アニメーションⅡ	講義+演習・30時間	3年次後期	松永 康佑

授業科目	授業・時数 形態	年次	担当教員
デジタル映像コンテンツデザイン	演習・30時間	3年次後期	福田 大年
ブランド構築	講義+演習・30時間	3年次後期	◎高井 真希子 細谷 多聞
アートマネジメント論	講義・30時間	3年次後期	上遠野 敏
デジタルアーカイブ	講義+演習・30時間	3年次後期	須之内 元洋
インターネットメディアデザイン	演習・30時間	3年次後期	須之内 元洋
寒冷地デザイン論	講義・30時間	3年次後期	◎斉藤 雅也 山田 良
観光とデザイン	演習・30時間	3年次後期	★上田 裕文
地場産業振興論	講義・30時間	3年次後期	★内田 純一
建築生産	講義+演習・30時間	3年次後期	★佐野 天彦
学部連携演習	演習・60時間	3年次後期	◎石井 雅博 齋藤 利明 矢部 和夫 斉藤 雅也 山田 良 三谷 篤史 石田 勝也 小宮 加容子 須之内 元洋 福田 大年 ◎河原田 まり子 スーディ神崎和代 上村 浩太 清水 光子 菅原 美樹 工藤 京子 原井 美佳 藤井 瑞穂 矢野 祐美子 田仲 里江 檜山 明子 藪谷 祐介
デザイン総合実習Ⅲ (空間デザインコース)	実習・60時間	3年次後期	◎山田 良 中原 宏 羽深 久夫 矢部 和夫 斉藤 雅也 片山 めぐみ 金子 晋也
デザイン総合実習Ⅲ (製品デザインコース)	実習・60時間	3年次後期	◎張 浦華 安齋 利典 柿山 浩一郎 三谷 篤史 金 秀敬 小宮 加容子 矢久保 空遥
デザイン総合実習Ⅲ (コンテンツデザインコース)	実習・60時間	3年次後期	◎石井 雅博 福田 大年
デザイン総合実習Ⅲ (メディアデザインコース)	実習・60時間	3年次後期	◎上遠野 敏 吉田 和夫 武田 亘明 石田 勝也 須之内 元洋
建築設備計画	講義+演習・30時間	4年次前期	斉藤 雅也
住宅論	講義・30時間	4年次前期	山田 良
ロボティクス	講義+演習・30時間	4年次前期	三谷 篤史
ヒューマンケア機器デザイン	演習・30時間	4年次前期	◎小宮 加容子 安齋 利典 張 浦華
デジタル音響デザイン	講義+演習・30時間	4年次前期	◎★久保 壽光 ★伊藤 博之
ネットワークシステムデザイン	演習・30時間	4年次前期	大淵 一博
コンテンツ流通技術	講義+演習・30時間	4年次前期	石田 勝也
放送メディアデザイン	演習・30時間	4年次前期	石田 勝也
デザインマネジメント	演習・30時間	4年次前期	安齋 利典
起業論	講義・30時間	4年次前期	★小林 元

授業科目	授業・時数 形態	年次	担当教員
デザイン英語	演習・30時間	4年次前期	松井 美穂
構造力学Ⅱ	講義+演習・30時間	4年次前期	★石丸 修二
卒業研究（空間デザインコース）	演習・90時間	4年次通年	◎中原 宏 羽深 久夫 矢部 和夫 斉藤 雅也 山田 良 片山 めぐみ 金子 晋也
卒業研究（製品デザインコース）	演習・90時間	4年次通年	◎安齋 利典 柿山 浩一郎 張 浦華 三谷 篤史 金 秀敬 小宮 加容子 矢久保 空遥
卒業研究 （コンテンツデザインコース）	演習・90時間	4年次通年	◎細谷 多聞 城間 祥之 石井 雅博 齋藤 利明 大淵 一博 福田 大年 松永 康佑
卒業研究 （メディアデザインコース）	演習・90時間	4年次通年	◎上遠野 敏 吉田 和夫 武田 亘明 石田 勝也 須之内 元洋
生涯学習概論	講義・30時間	3年次前期	★木村 純
博物館概論	講義・30時間	3年次前期	◎矢部 和夫 ★岩崎 直人 ★山田 悟郎
博物館資料論	講義・30時間	3年次前期	◎★岩崎 直人 ★小野 裕子
博物館教育論	講義・30時間	3年次前期	★細川 健裕
博物館経営論	講義・30時間	3年次後期	★佐藤 幸宏
博物館資料保存論	講義・30時間	3年次後期	★福岡 孝
博物館展示論	講義・30時間	3年次後期	★亀谷 隆
博物館情報・メディア論	講義・30時間	3年次後期	武田 亘明
博物館実習	実習・90時間	4年次前期 (学外での実習は集中)	◎矢部 和夫 ★越前谷 宏紀 ★古澤 仁

◎印：科目責任者（オムニバス形式等の場合）

★印：非常勤講師

4 看護学部

1) 平成28年度時間割

① 1年前期

		月		火	水	木	金
		前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)				
1	9:00 ~ 10:30				情報リテラシー I	体のしくみ	人間関係を考える
2	10:40 ~ 12:10			看護観察技術論	情報リテラシー I	英語 I A 英語 I B 日本語表現法	哲学と倫理
3	13:10 ~ 14:40	形態機能学 I		形態機能学 II	英語 I A 英語 I C 日本語表現法	英語 I A 英語 I B 日本語表現法	札幌を学ぶ
4	14:50 ~ 16:20	形態機能学 I		形態機能学 II	英語 I A 英語 I C 日本語表現法	スタートアップ演習	基礎カウンセリング 英語 I A 英語 I B 英語 I C
5	16:30 ~ 18:00	看護学原論	地域保健 学概論	人間発達援助論	自然科学を学ぶ		基礎カウンセリング 英語 I A 英語 I B 英語 I C

② 1年後期

		月		火		水	木	金
		前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)	前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)			
1	9:00 ~ 10:30	病理病態学		看護過程論		芸術と文化		情報リテラシー II
								手話
2	10:40 ~ 12:10	病理病態学		看護理論	看護過程論	宗教と思想	現代社会と家族	情報リテラシー II
						動物のくらし	心のしくみ	手話
3	13:10 ~ 14:40	基礎看護技術論		薬理学		英語 II A 英語 II B 英語 II C プレゼンテーション	英語 II A 英語 II B 英語 II C プレゼンテーション	現代社会と経済
4	14:50 ~ 16:20	基礎看護技術論		感染予防論		英語 II A 英語 II B 英語 II C	英語 II A 英語 II B 英語 II C	英語 II A 英語 II B 英語 II C 対人コミュニケーション
5	16:30 ~ 18:00						統計の世界	英語 II A 英語 II B 英語 II C 対人コミュニケーション

③ 2年前期

		月		火	水		木		金	
		前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)		前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)	前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)	前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)
1	9:00 ～ 10:30	精神看護 学概論	人間工学	現代社会と国際関係 日本国憲法を学ぶ	老年看護 学概論		成人看護 学概論	家族社会学		環境保健
2	10:40 ～ 12:10	疾病治療学B		実践英語A 実践英語B	医療情報				臨床栄養学	
3	13:10 ～ 14:40	公衆衛生学	成人看護 援助論	実践英語A 実践英語B	生命科学	社会福祉学	疾病治療学概論		症状マネジメント論	
4	14:50 ～ 16:20	公衆衛生学	成人看護 援助論	環境を考える ジェンダーと文化	生命倫理	社会福祉学			症状マネジメント論	
5	16:30 ～ 18:00			グループ・ ダイナミックス ボランティア活動を 考える			疾病治療学A			

④ 2年後期

		月		火	水		木		金	
		前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)		前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)	前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)	前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)
1	9:00 ～ 10:30		精神看護 援助論	生活と文化	臨床薬理学		疾病治療学C			
2	10:40 ～ 12:10	母性看護 学概論	精神看護 援助論		臨床心理学		小児看護 学概論	看護倫理学		
3	13:10 ～ 14:40	感染管理論		中国語 ロシア語 実践英語B	健康とスポーツ		老年看護 援助論	がん看護学	援助的人 間関係論	在宅看護 援助論
4	14:50 ～ 16:20	在宅看護 学概論		中国語 ロシア語	韓国語		老年看護 援助論	がん看護学	援助的人 間関係論	在宅看護 援助論
5	16:30 ～ 18:00	教育を考える			公衆衛生看護 学概論			チーム医療論		

⑤ 3年前期

		月		火		水		木		金	
		前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)	前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)	前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)	前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)	前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)
1	9:00 ～ 10:30	認知症ケア		母性看護 援助論		成人看護 技術論		リハビリ テーショ ン看護学		保健統計	
2	10:40 ～ 12:10	認知症ケア		母性看護 援助論		成人看護 技術論		リハビリ テーショ ン看護学		保健統計	
3	13:10 ～ 14:40			在宅看護 技術論		疫学Ⅰ		保健医療 福祉行政 論Ⅰ		精神看護 技術論	
4	14:50 ～ 16:20	小児看護 援助論		在宅看護 技術論				保健医療 福祉行政 論Ⅰ		精神看護 技術論	
5	16:30 ～ 18:00	小児看護 援助論									

⑥ 3年後期

		月		火		水		木		金	
		前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)	前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)	前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)	前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)	前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)
1	9:00 ～ 10:30	研究方法論		健康教育 指導法		看護教育学		公衆衛生看護 援助論 (前半Ⅰ/後半Ⅱ)		老年看護 技術論	
2	10:40 ～ 12:10	研究方法論		健康教育 指導法		透析ケア		公衆衛生看護 援助論 (前半Ⅰ/後半Ⅱ)		老年看護 技術論	
3	13:10 ～ 14:40	公衆衛生看護 援助論 (前半Ⅰ/後半Ⅱ)						小児看護 技術論		重症集中ケア	
4	14:50 ～ 16:20	公衆衛生看護 援助論 (前半Ⅰ/後半Ⅱ)		学部連携演習				小児看護 技術論		母性看護 技術論	
5	16:30 ～ 18:00	救急看護学						放射線医 療管理論		母性看護 技術論	

⑦ 4年前期

		月		火		水		木		金	
		前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)	前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)	前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)	前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)	前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)
1	9:00 ～ 10:30	国際保健学		バリアテ ィブケア		看護管理学		卒業研究		ヘルスプロ モーション 活動論	
2	10:40 ～ 12:10	現代専門職論		災害看護学		看護管理学		卒業研究		ヘルスプロ モーション 活動論	
3	13:10 ～ 14:40	公衆衛生 看護技術論		医療経営学		看護情報学				医療安全 管理論	
4	14:50 ～ 16:20	公衆衛生 看護技術論		寒冷地医療						ペリネイ タルケア	
5	16:30 ～ 18:00			国際看護学							

⑧ 4年後期

		月		火		水		木		金	
		前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)	前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)	前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)	前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)	前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)
1	9:00 ～ 10:30	保健医療福祉行政論Ⅱ				公衆衛生看護管理論		卒業研究			
2	10:40 ～ 12:10	保健医療福祉行政論Ⅱ				公衆衛生看護管理論		卒業研究			
3	13:10 ～ 14:40					疫学Ⅱ					
4	14:50 ～ 16:20										
5	16:30 ～ 18:00										

2) カリキュラム

① 授業科目一覧

平成21～23年度（編入学生は23～25年度）入学生用

区分		授業科目	授業計画 (シラバス) 掲載頁	授業形態	単位数			配当年次（◎は集中で開講）								卒業 要件 単位		
					必修	選択	自由	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次				
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
共通教育科目	導入科目	スタートアップ演習	10	演習	2			○									2 単位	
		文化に 対する 理 解	哲学と倫理	11	講義	2			○									4 単位 以上
	宗教と思想		26	講義	2				○									
	芸術と文化		27	講義	2				○									
	環境を考える		34	講義	2					○								
	教育を考える		42	講義	2						○							
	生活と文化		55	講義			2			◎								
	人間に 対する 理 解	心のしくみ	28	講義	2				○								4 単位 以上	
		体のしくみ	12	講義	2				○									
		ジェンダーを考える	43	講義	2					○								
		人間関係を考える	13	講義	2				○									
		健康とスポーツ	44	講義	2						○							
		自然科学を学ぶ	14	講義			2		○									
	社会に 対する 理 解	動物のくらし	29	講義			2			○							6 単位 以上	
		現代社会と家族	30	講義		2			○									
		現代社会と国際関係	45	講義		2				○								
		現代社会と経済	31	講義		2				○								
		札幌を学ぶ	15	講義		2			○									
		ボランティア活動を考える	46	講義		2					○							
	外国語	統計の世界	32	講義	2					○							8 単位 以上	
		日本国憲法を学ぶ	47	講義			2					○						
		英語ⅠA	16	演習	1				○									
		英語ⅠB	17	演習	1				○									
		英語ⅠC	18	演習	1				○									
		英語ⅡA	34	演習	1					○								
		英語ⅡB	35	演習	1					○								
		英語ⅡC	36	演習	1					○								
		実践英語A	48	演習		1					○							
		実践英語B	49	演習		1					○	○						
		韓国語	56	演習		1						○						
		中国語	51	演習		1						○						
	コミュニ ケーション 科目	ロシア語	52	演習		1						○					4 単位 以上	
		日本語表現法	19～22	演習		1			○									
プレゼンテーション		37	演習		1				○									
基礎カウンセリング		23	演習		1			○										
対人コミュニケーション		38	演習		1				○									
グループ・ダイナミクス		53	演習		1					○								
手話		39	演習		1				○									
情報リテラシーⅠ		25	演習		1				○									
専門基礎科目	情報リテラシーⅡ	41	演習		1				○							5 単位 以上		
	人間と命	形態機能学Ⅰ	74	演習	2				○									
		形態機能学Ⅱ	75	演習	2					○								
		生命科学	88	講義		1					○							
		生命倫理	89	講義		1					○							
		環境保健	90	講義		1					○							
		人間工学	91	講義		1					○							
	健康と健康 障害と予防	薬理学	81	講義	1					○								10 単位
		臨床薬理学	106	演習	1							○						
		臨床栄養学	92	演習	1						○							
		病理病態学	82	演習	2					○								
		疾病治療学概論	93	演習	1						○							
		疾病治療学A	94	演習	1						○							
		疾病治療学B	95	演習	1						○							
		疾病治療学C	107	演習	1							○						
		感染予防論	83	講義	1					○								
	保健と医 療と福祉	公衆衛生学	96	演習	1						○							7 単位 以上
社会福祉学		97	講義	1						○								
家族社会学		98	講義		1					○								
チーム医療論		108	講義		1						○							
感染管理論		109	講義		1						○							
臨床心理学		110	講義		1						○							
地域保健学概論		76	講義	1				○										
保健医療福祉行政論		－	演習	1								○						
保健統計		123	演習	1								○						
医療情報		99	演習	1						○								

区分			授業科目	授業計画 (シラバス) 掲載頁	授業形態	単位数			配当年次 (◎は集中で開講)								卒業 要件 単位		
						必修	選択	自由	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次				
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
専門教育科目	看護の基礎となるもの	ヒューマンケアの基	看護学原論	77	講義	1				○							7単位		
			看護理論	84	講義	1				○									
			援助的人間関係論	111	演習	1													
			人間発達援助論	78	演習	1				○									
			看護初期実習	79	実習	1				◎									
			看護倫理学	112	講義	1						○							
		看護の基本的展開	健康教育指導法	136	演習	1								○				10単位	
			看護過程論	85	演習	1				○									
			看護観察技術論	80	演習	1				○									
			症状マネジメント論	100	演習	2						○							
			基礎看護技術論	86	演習	2					○								
			基礎看護学臨床実習Ⅰ	87	実習	1					◎								
		健康レベルに応じて生活を援助するもの	小児	基礎看護学臨床実習Ⅱ	101	実習	2					◎							5単位
				研究方法論	137	演習	1								○				
				小児看護学概論	113	講義	1							○					
				小児看護援助論	125	演習	1								○				
			母性	小児看護技術論	138	演習	1									○			5単位
				小児看護学臨床実習	139	実習	2									◎			
	母性看護学概論			114	講義	1						○							
	母性看護援助論			126	演習	1								○					
	成人		母性看護技術論	140	演習	1										○		8単位	
			母性看護学臨床実習	141	実習	2										◎			
			成人看護学概論	102	講義	1						○							
			成人看護援助論	103	演習	1						○							
	老年		成人看護技術論	127	演習	1								○				6単位	
			成人看護学臨床実習Ⅰ	115	実習	3							◎						
			成人看護学臨床実習Ⅱ	128	実習	2								◎					
			老年看護学概論	104	講義	1						○							
			老年看護援助論	116	演習	1							○						
			老年看護技術論	142	演習	1									○				
	精神	老年看護学臨床実習Ⅰ	129	実習	1									◎			5単位		
		老年看護学臨床実習Ⅱ	143	実習	2										◎				
		精神看護学概論	105	講義	1						○								
		精神看護援助論	117	演習	1							○							
		精神看護技術論	130	演習	1								○						
		精神看護学臨床実習	131	実習	2									◎					
	在宅	精神看護学臨床実習	131	実習	2									◎			5単位		
		在宅看護学概論	118	講義	1							○							
		在宅看護援助論	119	演習	1							○							
		在宅看護技術論	132	演習	1								○						
		在宅看護学臨床実習	133	実習	2									◎					
		健康問題への対応	リハビリテーション看護学	134	演習	1							○					5単位 以上	
	がん看護学	120	演習	1							○								
	認知症ケア	135	演習	1									○						
	透析ケア	144	講義	1										○					
	重症集中ケア	145	講義	1										○					
	救急看護学	146	講義	1										○					
	放射線医療管理論	147	講義	1										○					
	ペリネイタルケア	152	講義	1											○				
	パリアティブケア	153	講義	1												○			
	寒冷地医療	154	講義	1												○			
	コミュニティケアに関するもの	地域看護学概論	—	講義	1								○				9単位		
		地域看護援助論	—	演習	2									○					
		地域看護技術論	—	演習	1										○				
		ヘルスプロモーション活動論	156	演習	1										○				
		地域看護学臨床実習Ⅰ	—	実習	2										◎				
		地域看護学臨床実習Ⅱ	—	実習	2										◎				
	発展・統合に関するもの	看護管理学	159	演習	1										○		11単位 以上		
		看護教育学	150	講義	1									○					
		卒業研究	171	演習	4										○	○			
		ヘルスケアマネジメント実習	169	実習	3											◎			
		看護情報学	160	講義	1										○				
		災害看護学	161	講義	1										○				
		国際看護学	162	講義	1										○				
		国際保健学	163	講義	1										○				
		医療経営学	164	講義	1										○				
		医療安全管理論	165	講義	1										○				
		現代専門職論	166	講義	1										○				
学部連携		学部連携演習	151	演習	2								○						

注1) ◎は集中 注2) 自由科目は卒業要件単位に含まれません。

平成24～25年度（編入学生は26～27年度）入学生用

区分		授業科目	授業計画 (シラバス) 掲載頁	授業形態	単位数		保健師 コース 必修	配当年次 (◎は集中で開講)								卒業 要件 単位		
					必修	選択		1 年次		2 年次		3 年次		4 年次				
共通教育科目	導入科目	スタートアップ演習	10	演習	2		○		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	2単位	
	文化に 対する 理 解	哲学と倫理	11	講義		2		○										4単位 以上
		宗教と思想	26	講義		2			○									
		芸術と文化	27	講義		2			○									
		教育を考える	42	講義		2						○						
		生活と文化	55	講義		2						○						
		ジェンダーと文化	43	講義		2						○						
	人間と 自然に 対する 理 解	心のしくみ	28	講義		2			○									4単位 以上
		体のしくみ	12	講義		2		○										
		人間関係を考える	13	講義		2		○										
		健康とスポーツ	44	講義		2						○						
		環境を考える	34	講義		2						○						
		自然科学を学ぶ	14	講義		2		○										
	社会に 対する 理 解	動物のくらし	29	講義		2			○									6単位 以上
		現代社会と家族	30	講義		2			○									
		現代社会と国際関係	45	講義		2					○							
		現代社会と経済	31	講義		2			○									
		札幌を学ぶ	15	講義		2		○										
		ボランティア活動を考える	46	講義		2					○							
	外国語	統計の世界	32	講義	2				○									8単位 以上
		日本国憲法を学ぶ	47	講義		2						○						
		英語 I A	16	演習	1			○										
		英語 I B	17	演習	1			○										
		英語 I C	18	演習	1			○										
		英語 II A	34	演習	1				○									
		英語 II B	35	演習	1				○									
		英語 II C	36	演習	1				○									
		実践英語A	48	演習		1					○							
		実践英語B	49	演習		1					○							
		韓国語	56	演習		1						○						
		中国語	51	演習		1						○						
		ロシア語	52	演習		1						○						
	コミュニ ケーション ・ 情報技術	日本語表現法	19～22	演習	1			○										4単位 以上
		プレゼンテーション	37	演習	1				○									
		基礎カウンセリング	23	演習	1			○										
		対人コミュニケーション	38	演習	1				○									
		グループ・ダイナミックス	53	演習		1					○							
		手話	39	演習		1				○								
		情報リテラシー I	25	演習	1			○										
情報リテラシー II		41	演習	1				○										
人間と命	形態機能学 I	74	演習	2			○										5単位 以上	
	形態機能学 II	75	演習	2				○										
	生命科学	88	講義		1					○								
	生命倫理	89	講義		1					○								
	環境保健	90	講義		1					○								
	人間工学	91	講義		1					○								
健康と健康 障害と予防	薬理学	81	講義	2			○										12単位	
	臨床薬理学	106	演習	1							○							
	臨床栄養学	92	演習	1						○								
	病理病態学	82	演習	2				○										
	疾病治療学概論	93	演習	1						○								
	疾病治療学A	94	演習	1						○								
	疾病治療学B	95	演習	1						○								
	疾病治療学C	107	演習	1							○							
	感染予防論	83	講義	2			○											
保健と医 療と福祉	公衆衛生学	96	演習	1						○							9単位 以上 (保健師 コース 11単位 以上)	
	社会福祉学	97	講義	1						○								
	家族社会学	98	講義		1					○								
	チーム医療論	108	講義		1							○						
	感染管理論	109	講義		1							○						
	臨床心理学	110	講義		1							○						
	地域保健学概論	176	講義	1			○											
	保健医療福祉行政論 I	122	演習	1									○					
	保健医療福祉行政論 II	167	演習		1											○		
	保健統計	123	講義	2								○						
	疫学 I	124	講義	1								○						
	疫学 II	168	講義		1											○		
	医療情報	99	演習	1							○							

区分			授業科目	授業計画 (シラバス) 掲載頁	授業形態	単位数		配当年次 (◎は集中で開講)								卒業 要件 単位		
						必修	選択	保健師 コース 必修	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次			
専門教育科目	看護の基礎となるもの	ヒューマンケアの基本	看護学原論	77	講義	1				○							7単位	
			看護理論	84	講義	1				○								
			援助的人間関係論	111	演習	1						○						
			人間発達援助論	78	演習	1			○									
			看護初期実習	79	実習	1			◎									
			看護倫理学	112	講義	1						○						
			健康教育指導法	136	演習	1								○				
		看護の基本的展開	看護過程論	85	演習	1				○								10単位
			看護観察技術論	80	演習	1			○									
			症状マネジメント論	100	演習	2					○							
			基礎看護技術論	86	演習	2				○								
			基礎看護学臨床実習Ⅰ	87	実習	1				◎								
			基礎看護学臨床実習Ⅱ	101	実習	2					◎							
			研究方法論	137	演習	1									○			
	健康レベルに応じて生活を援助するもの	小児	小児看護学概論	113	講義	1						○					5単位	
			小児看護援助論	125	演習	1								○				
			小児看護技術論	138	演習	1									○			
			小児看護学臨床実習	139	実習	2									◎			
			母性看護学概論	114	講義	1							○					5単位
		母性	母性看護援助論	126	演習	1							○					
			母性看護技術論	140	演習	1									○			
			母性看護学臨床実習	141	実習	2									◎			
			成人	成人看護学概論	102	講義	1						○					
		成人看護援助論		103	演習	1						○						
		成人看護技術論		127	演習	1								○				
		成人看護学臨床実習Ⅰ		115	実習	3							◎					
		成人看護学臨床実習Ⅱ		128	実習	2								◎				
		健康問題への対応	老年	老年看護学概論	104	講義	1					○						6単位
	老年看護援助論			116	演習	1							○					
	老年看護技術論			142	演習	1									○			
	老年看護学臨床実習Ⅰ			129	実習	1								◎				
	老年看護学臨床実習Ⅱ			143	実習	2									◎			
	精神		精神看護学概論	105	講義	1						○					5単位	
			精神看護援助論	117	演習	1							○					
			精神看護技術論	130	演習	1								○				
			精神看護学臨床実習	131	実習	2								◎				
	在宅		在宅看護学概論	118	講義	1							○				5単位	
		在宅看護援助論	119	演習	1							○						
		在宅看護技術論	132	演習	1									○				
		在宅看護学臨床実習	133	実習	2									◎				
		健康問題への対応	リハビリテーション看護学	134	演習	1								○				5単位 以上
	がん看護学		120	演習	1								○					
	認知症ケア		135	演習	1									○				
	透析ケア		144	講義		1									○			
	重症集中ケア		145	講義		1									○			
	救急看護学		146	講義		1									○			
	放射線医療管理論		147	講義		1									○			
	ペリネイタルケア		152	講義		1									○			
	パリアティブケア		153	講義		1									○			
	寒冷地医療		154	講義		1									○			
	コミュニティーケアに関するもの	公衆衛生看護学概論	121	講義	1							○				2単位 以上 (保健師 コース 10単位)		
		公衆衛生看護援助論Ⅰ	148	演習	1									○				
		公衆衛生看護援助論Ⅱ	149	演習			1							○				
		公衆衛生看護技術論	155	演習			1								○			
		ヘルスプロモーション活動論	156	演習		1									○			
		公衆衛生看護学臨床実習Ⅰ	157	実習			2								◎			
		公衆衛生看護学臨床実習Ⅱ	158	実習			3								◎			
		発展・統合に関するもの	看護管理学	159	演習	1											○	
	看護教育学		150	講義	1										○			
	卒業研究		171	演習	4											○		
	ヘルスケアマネジメント実習		169	実習	3											◎		
	公衆衛生看護管理論		170	講義			1									○		
	看護情報学		160	講義		1									○			
	災害看護学		161	講義		1										○		
	国際看護学		162	講義		1										○		
	国際保健学		163	講義		1										○		
	医療経営学		164	講義		1										○		
	医療安全管理論		165	講義		1										○		
	現代専門職論		166	講義		1										○		
	学部連携		学部連携演習	151	演習	2									○		2単位	

注1) ◎は集中 注2) 単位数(選択)の網掛け部分と保健師コース必修部分は、保健師コース選択の学生の必修科目です。(保健師コース必修部分は看護師コースの学生は履修できません。)

平成26～27年度（編入学生は28～29年度）入学生用

区分		科目 ナンバリング	授業科目	授業計画 (シラバス) 掲載頁	授業 形態	単位数		配当年次（◎は集中で開講）								卒業 要件 単位				
						必修	選択	保健師 コース 必修	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次					
共通教育科目	導入科目	C1A000	スタートアップ演習	10	演習	2			○	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	2単位		
		C1A001	哲学と倫理	11	講義	2			○										4単位 以上	
	C1A002	宗教と思想	26	講義	2				○											
	C1A003	芸術と文化	27	講義	2				○											
	C2A004	教育を考える	42	講義	2							○								
	C2A005	生活と文化	55	講義	2						○									
	C2A006	ジェンダーと文化	43	講義	2						○									
	人間と 自然に 対する 理 解	C1A007	心のしくみ	28	講義	2				○									4単位 以上	
		C1A008	体のしくみ	12	講義	2			○											
		C1A009	人間関係を考える	13	講義	2			○											
		C2A010	健康とスポーツ	44	講義	2						○								
		C2A011	環境を考える	34	講義	2						○								
		C1A012	自然科学を学ぶ	14	講義	2			○											
	社会に 対する 理 解	C1A013	動物のくらし	29	講義	2				○									6単位 以上	
		C1A014	現代社会と家族	30	講義	2				○										
		C2A015	現代社会と国際関係	45	講義	2						○								
		C1A016	現代社会と経済	31	講義	2				○										
		C1A017	札幌を学ぶ	15	講義	2			○											
		C2A018	ボランティア活動を考える	46	講義	2						○								
	C1A019	統計の世界	32	講義	2					○									8単位 以上	
	C2A020	日本国憲法を学ぶ	47	講義		2						○								
	外国語	C1A101	英語 I A	16	演習	1				○										8単位 以上
		C1A102	英語 I B	17	演習	1				○										
		C1A103	英語 I C	18	演習	1				○										
		C1A104	英語 II A	34	演習	1					○									
C1A105		英語 II B	35	演習	1					○										
C1A106		英語 II C	36	演習	1					○										
C2A107		実践英語A	48	演習		1						○								
C2A108		実践英語B	49	演習		1						○								
C2A109		韓国語	56	演習		1							○							
C2A110		中国語	51	演習		1							○							
C2A111		ロシア語	52	演習		1							○							
コミュニ ケーション ・ 情 報 技 術	C1A112	日本語表現法	19～22	演習	1				○									4単位 以上		
	C1A113	プレゼンテーション	37	演習	1					○										
	C1A114	基礎カウンセリング	23	演習	1				○											
	C1A115	対人コミュニケーション	38	演習	1					○										
	C2A116	グループ・ダイナミックス	53	演習		1						○								
	C1A117	手話	39	演習		1					○									
	C1A118	情報リテラシー I	25	演習	1				○											
	C1A119	情報リテラシーⅡ	41	演習	1					○										
人間と命	N1A201	形態機能学Ⅰ	74	演習	2				○									5単位 以上		
	N1A202	形態機能学Ⅱ	75	演習	2				○											
	N2A203	生命科学	88	講義		1						○								
	N2A204	生命倫理	89	講義		1						○								
	N2A205	環境保健	90	講義		1						○								
	N2A206	人間工学	91	講義		1						○								
	N1A207	薬理学	81	講義	2					○										
	N2A208	臨床薬理学	106	演習	1								○							
健康と健康 障害と予防	N2A209	臨床栄養学	92	演習	1							○						12単位		
	N1A210	病理病態学	82	演習	2					○										
	N2A211	疾病治療学概論	93	演習	1						○									
	N2A212	疾病治療学A	94	演習	1						○									
	N2A213	疾病治療学B	95	演習	1						○									
	N2A214	疾病治療学C	107	演習	1								○							
	N1A215	感染予防論	83	講義	2					○										
	N2A216	公衆衛生学	96	演習	1						○									
保健と医 療と福祉	N2A217	社会福祉学	97	講義	1						○							9単位 以上 (保健師 コース 11単位 以上)		
	N2A218	家族社会学	98	講義		1					○									
	N2A219	チーム医療論	108	講義		1							○							
	N2A220	感染管理論	109	講義		1							○							
	N2A221	臨床心理学	110	講義		1							○							
	N1A222	地域保健学概論	176	講義	1				○											
	N3A223	保健医療福祉行政論Ⅰ	122	演習	1									○						
	N4A224	保健医療福祉行政論Ⅱ	167	演習		1											○			
	N3A225	保健統計	123	講義	2									○						
	N3A226	疫学Ⅰ	124	講義	1									○						
	N4A227	疫学Ⅱ	168	講義		1											○			
	N2A228	医療情報	99	演習	1							○								



区分		科目 ナンバリング	授業科目	授業計画 (シラバス) 掲載頁	授業 形態	単位数			配当年次 (◎は集中で開講)								卒業 要件 単位	
						必修	選択	保健師 コース 必修	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門教育科目	看護の基礎となるもの	ヒューマンケアの基本	N1A301	看護学原論	77	講義	1			○						7単位		
			N1A302	看護理論	84	講義	1			○								
			N2A303	援助の人間関係論	111	演習	1					○						
			N1A304	人間発達援助論	78	演習	1			○								
			N1A305	看護初期実習	79	実習	1			◎								
			N2A306	看護倫理学	112	講義	1					○						
		N3A307	健康教育指導法	136	演習	1							○					
		看護の基本的展開	N1A308	看護過程論	85	演習	1			○							10単位	
			N1A309	看護観察技術論	80	演習	1			○								
			N2A310	症状マネジメント論	100	演習	2					○						
			N1A311	基礎看護技術論	86	演習	2					○						
			N1A312	基礎看護学臨地実習Ⅰ	87	実習	1				◎							
			N2A313	基礎看護学臨地実習Ⅱ	101	実習	2					◎						
			N3A314	研究方法論	137	演習	1							○				
			N2A315	小児看護学概論	113	講義	1					○						5単位
			N3A316	小児看護援助論	125	演習	1						○					
		N3A317	小児看護技術論	138	演習	1							○					
		N3A318	小児看護学臨地実習	139	実習	2							◎					
		母性	N2A319	母性看護学概論	114	講義	1					○					5単位	
			N3A320	母性看護援助論	126	演習	1						○					
			N3A321	母性看護技術論	140	演習	1							○				
			N3A322	母性看護学臨地実習	141	実習	2							◎				
			N2A323	成人看護学概論	102	講義	1					○						8単位
		N2A324	成人看護援助論	103	演習	1					○							
		N3A325	成人看護技術論	127	演習	1							○					
		N2A326	成人看護学臨地実習Ⅰ	115	実習	3						◎						
		成人	N3A327	成人看護学臨地実習Ⅱ	128	実習	2							◎			6単位	
			N2A328	老年看護学概論	104	講義	1				○							
			N2A329	老年看護援助論	116	演習	1					○						
			N3A330	老年看護技術論	142	演習	1								○			
			N3A331	老年看護学臨地実習Ⅰ	129	実習	1							◎				
			N3A332	老年看護学臨地実習Ⅱ	143	実習	2							◎				
			N2A333	精神看護学概論	105	講義	1				○							5単位
			N2A334	精神看護援助論	117	演習	1					○						
			N3A335	精神看護技術論	130	演習	1							○				
	N3A336		精神看護学臨地実習	131	実習	2							◎					
	在宅	N2A337	在宅看護学概論	118	講義	1					○					5単位		
		N2A338	在宅看護援助論	119	演習	1					○							
		N3A339	在宅看護技術論	132	演習	1							○					
		N3A340	在宅看護学臨地実習	133	実習	2							◎					
	健康問題への対応	N3A341	リハビリテーション看護学	134	演習	1						○				5単位 以上		
		N2A342	がん看護学	120	演習	1					○							
		N3A343	認知症ケア	135	演習	1							○					
		N3A344	透析ケア	144	講義	1								○				
		N3A345	重症集中ケア	145	講義	1								○				
		N3A346	救急看護学	146	講義	1								○				
		N3A347	放射線医療管理論	147	講義	1								○				
		N4A348	ペリネイタルケア	152	講義	1									○			
		N4A349	パリアティブケア	153	講義	1									○			
		N4A350	寒冷地医療	154	講義	1									○			
	コミュニティーケアに関するもの	N2A401	公衆衛生看護学概論	121	講義	1					○					2単位 以上 (保健師 コース 10単位)		
		N3A402	公衆衛生看護援助論Ⅰ	148	演習	1							○					
		N3A403	公衆衛生看護援助論Ⅱ	149	演習								○					
		N4A404	公衆衛生看護技術論	155	演習									○				
		N4A405	ヘルスプロモーション活動論	156	演習	1								○				
		N4A406	公衆衛生看護学臨地実習Ⅰ	157	実習										◎			
		N4A407	公衆衛生看護学臨地実習Ⅱ	158	実習										◎			
	発展・統合に関するもの	N4A408	看護管理論	159	演習	1									○	12単位 以上		
		N3A409	看護教育学	150	講義	1								○				
		N4A410	卒業研究	171	演習	4									○			
		N4A411	ヘルスケアマネジメント実習	169	実習	3									◎			
		N4A412	公衆衛生看護管理論	170	講義										○			
		N4A413	看護情報学	160	講義	1									○			
		N4A414	災害看護学	161	講義	1									○			
		N4A415	国際看護学	162	講義	1									○			
		N4A416	国際保健学	163	講義	1									○			
		N4A417	医療経営学	164	講義	1									○			
		N4A418	医療安全管理論	165	講義	1									○			
		N4A419	現代専門職論	166	講義	1									○			
		学部連携	N3A420	学部連携演習	151	演習	2							○				2単位

注1) ◎は集中 注2) 単位数 (選択) の網掛け部分と保健師コース必修部分は、保健師コース選択の学生の必修科目です。(保健師コース必修部分は看護師コースの学生は履修できません。)

平成28年度（編入学生は30年度）以降入学生用

区分	科目 ナンバリング	授業科目	授業計画 (シラバス) 掲載頁	授業 形態	単位数				配当年次（◎は集中で開講）								卒業 要件 単位	
					必修	選択	保健師 コース 必修	自由	1年次		2年次		3年次		4年次			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
共通教育科目	導入科目	C1B000	スタートアップ演習	10	演習	2				○								2単位
	文化に 対する 理 解	C1B001	哲学と倫理	11	講義		2			○								4単位 以上
		C1B002	宗教と思想	26	講義		2				○							
		C1B003	芸術と文化	27	講義		2				○							
		C2B004	教育を考える	42	講義		2						○					
		C2B005	生活と文化	55	講義		2						○					
		C2B006	ジェンダーと文化	43	講義		2					○						
	人間と 自然に 対する 理 解	C1B007	心のしくみ	28	講義		2				○							4単位 以上
		C1B008	体のしくみ	12	講義		2			○								
		C1B009	人間関係を考える	13	講義		2			○								
		C2B010	健康とスポーツ	44	講義		2						○					
		C2B011	環境を考える	34	講義		2					○						
		C1B012	自然科学を学ぶ	14	講義		2			○								
	社会に 対する 理 解	C1B013	動物のくらし	29	講義		2				○							4単位 以上
		C1B014	現代社会と家族	30	講義		2				○							
		C2B015	現代社会と国際関係	45	講義		2					○						
		C1B016	現代社会と経済	31	講義		2				○							
		C1B017	札幌を学ぶ	15	講義		2			○								
		C2B018	ボランティア活動を考える	46	講義		2					○						
	外国語	C1B019	統計の世界	32	講義		2				○							8単位 以上
		C2B020	日本国憲法を学ぶ	47	講義		2					○						
		C1B101	英語Ⅰ A	16	演習	1				○								
		C1B102	英語Ⅰ B	17	演習	1				○								
		C1B103	英語Ⅰ C	18	演習	1				○								
		C1B104	英語Ⅱ A	34	演習	1					○							
		C1B105	英語Ⅱ B	35	演習	1					○							
		C1B106	英語Ⅱ C	36	演習	1					○							
		C2B107	実践英語A	48	演習		1					○						
		C2B108	実践英語B	49	演習		1					○						
		C2B109	韓国語	56	演習		1						○					
		C2B110	中国語	51	演習		1						○					
		C2B111	ロシア語	52	演習		1						○					
	コミュニ ケーション ・ 情報技術	C1B112	日本語表現法	19～22	演習		1			○								4単位 以上
		C1B113	プレゼンテーション	37	演習		1				○							
		C1B114	基礎カウンセリング	23	演習		1			○								
		C1B115	対人コミュニケーション	38	演習		1				○							
		C2B116	グループ・ダイナミックス	53	演習		1					○						
		C1B117	手話	39	演習		1				○							
		C1B118	情報リテラシーⅠ	25	演習		1			○								
		C1B119	情報リテラシーⅡ	41	演習		1				○							
専門基礎科目	人間と命	N1B201	形態機能学Ⅰ	74	演習	2			○								5単位 以上	
		N1B202	形態機能学Ⅱ	75	演習	2			○									
		N2B203	生命科学	88	講義		1					○						
		N2B204	生命倫理	89	講義		1					○						
		N2B205	環境保健	90	講義		1					○						
		N2B206	人間工学	91	講義		1					○						
	健康と健康 障害と予防	N1B207	薬理学	81	講義	2				○								12単位
		N2B208	臨床薬理学	106	演習	1							○					
		N2B209	臨床栄養学	92	演習	1						○						
		N1B210	病理病態学	82	演習	2				○								
		N2B211	疾病治療学概論	93	演習	1						○						
		N2B212	疾病治療学A	94	演習	1						○						
		N2B213	疾病治療学B	95	演習	1						○						
		N2B214	疾病治療学C	107	演習	1							○					
	保健と医療と福祉	N1B215	感染予防論	83	講義	2				○								9単位 以上 (保健師 コース 11単位 以上)
		N2B216	公衆衛生学	96	演習	1						○						
		N2B217	社会福祉学	97	講義	1						○						
		N2B218	家族社会学	98	講義		1					○						
		N2B219	チーム医療論	108	講義		1						○					
		N2B220	感染管理論	109	講義		1						○					
		N2B221	臨床心理学	110	講義		1						○					
		N1B222	地域保健学概論	176	講義	1			○									
		N3B223	保健医療福祉行政論Ⅰ	122	演習	1								○				
		N4B224	保健医療福祉行政論Ⅱ	167	演習		1									○		
		N3B225	保健統計	123	講義	2								○				
		N3B226	疫学Ⅰ	124	講義	1								○				
		N4B227	疫学Ⅱ	168	講義		1									○		
		N2B228	医療情報	99	演習	1						○						

区分		科目 ナンバリング	授業科目	授業計画 (シラバス) 掲載頁	授業 形態	単位数				配当年次 (◎は集中で開講)								卒業 要件 単位	
						必修	選択	保健師 コース 必修	自由	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次			
										前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門教育科目	専門科目	看護の基礎となるもの	ヒューマンケアの基本	N1B301	看護学原論	77	講義	1			○						7単位		
				N1B302	看護理論	84	講義	1			○								
				N2B303	援助の人間関係論	111	演習	1					○						
				N1B304	人間発達援助論	78	演習	1			○								
				N1B305	看護初期実習	79	実習	1		◎									
				N2B306	看護倫理学	112	講義	1					○						
				N3B307	健康教育指導法	136	演習	1						○					
			看護の基本的展開	N1B308	看護過程論	85	演習	1			○							10単位	
				N1B309	看護観察技術論	80	演習	1			○								
				N2B310	症状マネジメント論	100	演習	2				○							
				N1B311	基礎看護技術論	86	演習	2			○								
				N1B312	基礎看護学臨地実習Ⅰ	87	実習	1			◎								
				N2B313	基礎看護学臨地実習Ⅱ	101	実習	2				◎							
				N3B314	研究方法論	137	演習	1							○				
		小児	N2B315	小児看護学概論	113	講義	1					○					5単位		
			N3B316	小児看護援助論	125	演習	1						○						
			N3B317	小児看護技術論	138	演習	1							○					
			N3B318	小児看護学臨地実習	139	実習	2							◎					
		母性	N2B319	母性看護学概論	114	講義	1						○				5単位		
			N3B320	母性看護援助論	126	演習	1							○					
			N3B321	母性看護技術論	140	演習	1								○				
			N3B322	母性看護学臨地実習	141	実習	2							◎					
		成人	N2B323	成人看護学概論	102	講義	1					○					8単位		
			N2B324	成人看護援助論	103	演習	1					○							
			N3B325	成人看護技術論	127	演習	1							○					
			N2B326	成人看護学臨地実習Ⅰ	115	実習	3						◎						
			N3B327	成人看護学臨地実習Ⅱ	128	実習	2							◎					
			N2B328	老年看護学概論	104	講義	1					○							
		老年	N2B329	老年看護援助論	116	演習	1						○				6単位		
			N3B330	老年看護技術論	142	演習	1								○				
			N3B331	老年看護学臨地実習Ⅰ	129	実習	1							◎					
			N3B332	老年看護学臨地実習Ⅱ	143	実習	2								◎				
			N2B333	精神看護学概論	105	講義	1					○							
			N2B334	精神看護援助論	117	演習	1						○						
		精神	N3B335	精神看護技術論	130	演習	1							○			5単位		
			N3B336	精神看護学臨地実習	131	実習	2							◎					
			在宅	N2B337	在宅看護学概論	118	講義	1						○				5単位	
				N2B338	在宅看護援助論	119	演習	1						○					
		N3B339		在宅看護技術論	132	演習	1							○					
		N3B340		在宅看護学臨地実習	133	実習	2							◎					
		健康問題への対応	N3B341	リハビリテーション看護学	134	演習	1							○			5単位 以上		
			N2B342	がん看護学	120	演習	1							○					
			N3B343	認知症ケア	135	演習	1								○				
			N3B344	透析ケア	144	講義		1							○				
			N3B345	重症集中ケア	145	講義	1								○				
			N3B346	救急看護学	146	講義	1								○				
			N3B347	放射線医療管理論	147	講義	1								○				
			N4B348	ペリネイタルケア	152	講義	1									○			
			N4B349	バリアティブケア	153	講義	1									○			
			N4B350	寒冷地医療	154	講義		1								○			
		コミュニティに関するもの	N2B401	公衆衛生看護学概論	121	講義	1						○				2単位 以上 (保健師 コース 10単位)		
			N3B402	公衆衛生看護援助論Ⅰ	148	演習	1								○				
			N3B403	公衆衛生看護援助論Ⅱ	149	演習		1							○				
			N4B404	公衆衛生看護技術論	155	演習		1								○			
			N4B405	ヘルスプロモーション活動論	156	演習	1									○			
			N4B406	公衆衛生看護学臨地実習Ⅰ	157	実習			2						◎				
			N4B407	公衆衛生看護学臨地実習Ⅱ	158	実習			3						◎				
		発展・統合に関するもの	N4B408	看護管理学	159	演習	1									○	12単位 以上		
			N3B409	看護教育学	150	講義	1								○				
			N4B410	卒業研究	171	演習	4									○			
			N4B411	ヘルスケアマネジメント実習	169	実習	3									◎			
			N4B412	公衆衛生看護管理論	170	講義			1							○			
			N4B413	看護情報学	160	講義		1								○			
			N4B414	災害看護学	161	講義	1									○			
			N4B415	国際看護学	162	講義	1									○			
			N4B416	国際保健学	163	講義	1									○			
			N4B417	医療経営学	164	講義	1									○			
			N4B418	医療安全管理論	165	講義	1									○			
			N4B419	現代専門職論	166	講義	1									○			
			N5B421	地域プロジェクト	172	演習				2	○	○	○	○	○	○		○	
			学部連携	N2B422	学部連携基礎論	182	演習	2					○						4単位
				N3B420	学部連携演習	151	演習	2								○			

注1) ◎は集中 注2) 自由科目は卒業要件単位に含まれません。

注3) ※単位数 (選択) の網掛け部分と保健師コース必修部分は、保健師コース選択の学生の必修科目です。(保健師コース必修部分は看護師コースの学生は履修できません。)

② 卒業要件

平成21～23年度（編入学生は23～25年度）入学生

（単位）

区分	必修	選択	合計
共通教育科目	12	16	28
専門教育科目	94	6	100
(専門基礎科目)	(20)	(2)	(22)
(専門科目)	(74)	(4)	(78)
合 計	106	22	128

平成24年度（編入学生は26年度）以降入学生

（単位）

区分	必修	選択	合計
共通教育科目	12	16	28
専門教育科目	91	7	98
(専門基礎科目)	(24)	(2)	(26)
(専門科目)	(67)	(5)	(72)
合 計	103	23	126

平成28年度（編入学生は30年度）以降入学生

（単位）

区分	必修	選択	合計
共通教育科目	10	16	26
専門教育科目	93	7	100
(専門基礎科目)	(24)	(2)	(26)
(専門科目)	(69)	(5)	(74)
合 計	103	23	126

3) 教育活動

授業科目	授業 形態・時数	年次	担当教員
形態機能学Ⅰ	演習・60時間	1年次前期	★高野 廣子
形態機能学Ⅱ	演習・60時間	1年次前期	★高野 廣子
地域保健学概論	講義・15時間	1年次前期	◎清水 光子 河原田 まり子
看護学原論	講義・15時間	1年次前期	◎定廣 和香子 猪股 千代子
人間発達援助論	演習・30時間	1年次前期	◎山本 勝則 小田 和美 松浦 和代 宮崎 みち子 村松 真澄
看護初期実習	実習・45時間	1年次前期	◎菊地 ひろみ 上村 浩太 大野 夏代 貝谷 敏子 清水 光子 菅原 美樹 古都 昌子 村松 真澄 守村 洋 神島 滋子 工藤 京子 田中 広美 原井 美佳 藤井 瑞恵 矢野 祐美子
看護観察技術論	演習・30時間	1年次前期	◎檜山 明子 大野 夏代 田中 広美 小田嶋 裕輝 坂東 奈穂美
薬理学	講義・30時間	1年次後期	★松本 真知子
病理病態学	演習・60時間	1年次後期	◎★鳥越 俊彦 ★廣橋 良彦 ★塚原 智英 ★金関 貴幸 ★中津川 宗秀 ★久保 輝文
感染予防論	講義・30時間	1年次後期	★永坂 敦
看護理論	講義・15時間	1年次後期	◎定廣 和香子 檜山 明子
看護過程論	演習・30時間	1年次後期	◎古都 昌子 大野 夏代 田中 広美 小田嶋 裕輝 檜山 明子
基礎看護技術論	演習・60時間	1年次後期	◎田中 広美 樋之津 淳子 大野 夏代 古都 昌子 矢野 祐美子 小田嶋 裕輝 檜山 明子
基礎看護学臨地実習Ⅰ	実習・45時間	1年次後期	◎古都 昌子 定廣 和香子 樋之津 淳子 大野 夏代 田中 広美 石引 かずみ 小田嶋 裕輝 柏倉 大作 近藤 圭子 田仲 里江 坂東 奈穂美 檜山 明子 御厩 美登里 大友 舞 中田 亜由美 星 幸江 横川 亜希子
生命科学	講義・15時間	2年次前期	★山田 恵子
生命倫理	講義・15時間	2年次前期	★村上 友一
環境保健	講義・15時間	2年次前期	★齋藤 健
人間工学	講義・15時間	2年次前期	◎樋之津 淳子 檜山 明子 ★佐藤 秀一
臨床栄養学	演習・30時間	2年次前期	★高野 良子
疾病治療学概論	演習・30時間	2年次前期	◎★高野 廣子 ★伊東 義忠
疾病治療学A	演習・30時間	2年次前期	◎★甲谷 哲郎 ★秋江 研志 ★和田 典男
疾病治療学B	演習・30時間	2年次前期	★永坂 敦
公衆衛生学	演習・30時間	2年次前期	◎★高橋 恭子 ★築島 恵理
社会福祉学	講義・15時間	2年次前期	★大内 高雄
家族社会学	講義・15時間	2年次前期	◎原 俊彦 小田 和美 松浦 和代
医療情報	演習・30時間	2年次前期	◎★小笠原 克彦 ★遠藤 晃 ★谷 祐児

授業科目	授業・時数 形態	年次	担当教員
症状マネジメント論	演習・60時間	2年次前期	◎貝谷 敏子 菅原 美樹 村松 真澄 神島 滋子 工藤 京子 小坂 美智代 藤井 瑞恵 柏倉 大作
基礎看護学臨地実習Ⅱ	実習・90時間	2年次前期	◎大野 夏代 定廣 和香子 樋之津 淳子 古都 昌子 田中 広美 石引 かずみ 小田嶋 裕輝 柏倉 大作 近藤 圭子 坂東 奈穂美 檜山 明子 御厩 美登里 大友 舞 中田 亜由美 星 幸江 横川 亜希子
成人看護学概論	講義・15時間	2年次前期	◎川村 三希子 小田 和美
成人看護援助論	講義・30時間	2年次前期	◎藤井 瑞恵 小田 和美 貝谷 敏子 菅原 美樹 神島 滋子 工藤 京子 小坂 美智代 柏倉 大作
老年看護学概論	講義・15時間	2年次前期	村松 真澄
精神看護学概論	講義・15時間	2年次前期	山本 勝則
臨床薬理学	演習・30時間	2年次後期	◎★唯野 貢司 ★後藤 仁和
疾病治療学C	演習・30時間	2年次後期	★三澤 一仁
チーム医療論	講義・15時間	2年次後期	◎坂東 奈穂美 猪股 千代子 矢野 祐美子
感染管理論	講義・15時間	2年次後期	◎スーディ神崎和代 ★土佐 理恵子
臨床心理学	講義・15時間	2年次後期	◎山本 勝則 ★菊池 浩光
援助の人間関係論	演習・30時間	2年次後期	◎守村 洋 山本 勝則 古都 昌子 藤井 瑞恵
看護倫理学	講義・15時間	2年次後期	◎宮崎 みち子 古都 昌子
小児看護学概論	講義・15時間	2年次後期	松浦 和代
母性看護学概論	講義・15時間	2年次後期	宮崎 みち子
成人看護学臨地実習Ⅰ	実習・135時間	2年次後期	◎菅原 美樹 小田 和美 川村 三希子 貝谷 敏子 神島 滋子 工藤 京子 小坂 美智代 藤井 瑞恵 石引 かずみ 小田嶋 裕輝 柏倉 大作 近藤 圭子 坂東 奈穂美 檜山 明子 御厩 美登里 大友 舞 中田 亜由美 星 幸江 横川 亜希子
老年看護援助論	演習・30時間	2年次後期	◎村松 真澄 原井 美佳 ★前沢 政次
精神看護援助論	演習・30時間	2年次後期	◎守村 洋 山本 勝則 ★武村 史 ★松原 良次
在宅看護学概論	講義・15時間	2年次後期	スーディ神崎和代
在宅看護援助論	演習・30時間	2年次後期	◎菊地 ひろみ スーディ神崎和代 ★石崎 剛 ★松田 諭 ★石谷 夕子
がん看護学	演習・30時間	2年次後期	◎川村 三希子 上村 浩太 小坂 美智代
公衆衛生看護学概論	講義・15時間	2年次後期	◎河原田 まり子 清水 光子
保健医療福祉行政論Ⅰ	演習・30時間	3年次前期	◎田仲 里江 清水 光子 守村 洋 櫻井 蘭子
保健統計	講義・30時間	3年次前期	◎★片倉 洋子 ★榎 洋一

授業科目	授業・時数 形態	年次	担当教員
疫学Ⅰ	講義・15時間	3年次前期	★喜多 歳子
小児看護援助論	演習・30時間	3年次前期	◎上村 浩太 松浦 和代 三上 智子 ★川村 信明
母性看護援助論	演習・30時間	3年次前期	◎山本 真由美 渡邊 由加利 石引 かずみ ★菅原 照夫
成人看護技術論	演習・30時間	3年次前期	◎工藤 京子 小田 和美 川村 三希子 貝谷 敏子 菅原 美樹 神島 滋子 小坂 美智代 藤井 瑞恵 柏倉 大作
成人看護学臨地実習Ⅱ	実習・90時間	3年次前期	◎神島 滋子 小田 和美 川村 三希子 貝谷 敏子 菅原 美樹 工藤 京子 小坂 美智代 藤井 瑞恵 柏倉 大作
老年看護学臨地実習Ⅰ	実習・45時間	3年次前期	◎原井 美佳 村松 真澄 中田 亜由美
精神看護技術論	演習・30時間	3年次前期	◎守村 洋 山本 勝則
精神看護学臨地実習	実習・90時間	3年次前期	◎守村 洋 山本 勝則 星 幸江
在宅看護技術論	演習・30時間	3年次前期	◎御厩 美登里 スーディ神崎和代 菊地 ひろみ
在宅看護学臨地実習	実習・90時間	3年次前期	◎菊地 ひろみ スーディ神崎和代 御厩 美登里
リハビリテーション看護学	演習・30時間	3年次前期	◎神島 滋子 柏倉 大作 ★山中 康裕 ★石井 陽史
認知症ケア	演習・30時間	3年次前期	スーディ神崎和代
健康教育指導法	演習・30時間	3年次後期	◎田仲 里江 清水 光子 櫻井 繭子 近藤 圭子
研究方法論	演習・30時間	3年次後期	◎貝谷 敏子 松浦 和代 神島 滋子
小児看護技術論	演習・30時間	3年次後期	◎三上 智子 松浦 和代 上村 浩太
小児看護学臨地実習	実習・90時間	3年次後期	◎上村 浩太 松浦 和代 三上 智子
母性看護技術論	演習・30時間	3年次後期	◎石引 かずみ 渡邊 由加利 山本 真由美
母性看護学臨地実習	実習・90時間	3年次後期	◎山本 真由美 宮崎 みち子 渡邊 由加利 石引 かずみ 大友 舞
老年看護技術論	演習・30時間	3年次後期	◎原井 美佳 村松 真澄
老年看護学臨地実習Ⅱ	実習・90時間	3年次後期	◎村松 真澄 原井 美佳 中田 亜由美
透析ケア	講義・15時間	3年次後期	◎藤井 瑞恵 ★木村 剛
重症集中ケア	講義・15時間	3年次後期	◎菅原 美樹 ★高橋 正浩
救急看護学	講義・15時間	3年次後期	◎菅原 美樹 ★三上 剛人
放射線医療管理論	講義・15時間	3年次後期	◎★池田 光 ★神島 保
公衆衛生看護援助論Ⅰ	演習・30時間	3年次後期	◎清水 光子 櫻井 繭子 近藤 圭子 田仲 里江
公衆衛生看護援助論Ⅱ	演習・30時間	3年次後期	◎清水 光子 櫻井 繭子 近藤 圭子 田仲 里江
看護教育学	講義・15時間	3年次後期	◎定廣 和香子 田中 広美

授業科目	授業・時数 形態	年次	担当教員
学部連携演習	演習・60時間	3年次後期	◎河原田 まり子 スーディ神崎和代 上村 浩太 清水 光子 菅原 美樹 工藤 京子 原井 美佳 藤井 瑞恵 矢野 祐美子 田仲 里江 檜山 明子 ◎石井 正博 齋藤 利明 矢部 和夫 齊藤 雅也 山田 良 石田 勝也 須之内 元洋 小宮 加容子 福田 大年 三谷 篤史 藪谷 祐介
ペリネイタルケア	講義・15時間	4年次前期	◎三上 智子 渡邊 由加利 田仲 里江
パリアティブケア	講義・15時間	4年次前期	◎川村 三希子 菊地 ひろみ ★石垣 靖子
寒冷地医療	講義・15時間	4年次前期	◎原井 美佳 ★前沢 政次
公衆衛生看護技術論	演習・30時間	4年次前期	◎近藤 圭子 櫻井 繭子 田仲 里江
ヘルスプロモーション活動論	演習・30時間	4年次前期	◎清水 光子 小田 和美 山本 勝則 渡邊 由加利 菊地 ひろみ 櫻井 繭子 近藤 圭子 田仲 里江
公衆衛生看護学臨地実習Ⅰ	実習・90時間	4年次前期	◎清水 光子 河原田 まり子 櫻井 繭子 近藤 圭子 田仲 里江
公衆衛生看護学臨地実習Ⅱ	実習・135時間	4年次前期	◎田仲 里江 河原田 まり子 清水 光子 櫻井 繭子 近藤 圭子
看護管理学	演習・30時間	4年次前期	◎猪股 千代子 矢野 祐美子 坂東 奈穂美
看護情報学	講義・15時間	4年次前期	★佐藤 ひとみ
災害看護学	講義・15時間	4年次前期	◎矢野 祐美子 ★浅井 康文 ★太田 晴美
国際看護学	講義・15時間	4年次前期	◎大野 夏代 スーディ神崎和代
国際保健学	講義・15時間	4年次前期	★玉城 英彦
医療経営学	講義・15時間	4年次前期	◎猪股 千代子 スーディ神崎和代 坂東 奈穂美
医療安全管理論	講義・15時間	4年次前期	◎猪股 千代子 古都 昌子 檜山 明子 矢野 祐美子
現代専門職論	講義・15時間	4年次前期	樋之津 淳子
保健医療福祉行政論Ⅱ	演習・30時間	4年次後期	◎近藤 圭子 清水 光子 櫻井 繭子 田仲 里江
疫学Ⅱ	講義・15時間	4年次後期	★喜多 歳子
ヘルスケアマネジメント実習	実習・135時間	4年次後期	◎矢野 祐美子 猪股 千代子 上村 浩太 大野 夏代 貝谷 敏子 菊地 ひろみ 菅原 美樹 古都 昌子 村松 真澄 守村 洋 神島 滋子 工藤 京子 小坂 美智代 田中 広美 原井 美佳 藤井 瑞恵 三上 智子 坂東 奈穂美
公衆衛生看護管理論	講義・15時間	4年次後期	◎河原田 まり子 清水 光子



授業科目	授業・時数 形態	年次	担当教員
卒業研究	演習・120時間	4年次全期	◎大野 夏代 猪股 千代子 小田 和美 河原田 まり子 川村 三希子 定廣 和香子 スーディ神崎和代 松浦 和代 山本 勝則 上村 浩太 貝谷 敏子 菊地 ひろみ 清水 光子 菅原 美樹 古都 昌子 村松 真澄 守村 洋 渡邊 由加利 神島 滋子 工藤 京子 小坂 美智代 櫻井 繭子 田中 広美 原井 美佳 藤井 瑞恵 三上 智子 矢野 祐美子 山本 真由美 石引 かずみ 小田嶋 裕輝 柏倉 大作 近藤 圭子 田仲 里江 坂東 奈穂美 檜山 明子 御厩 美登里
地域プロジェクト	演習・60時間	1～4年次 通年	◎定廣 和香子 ◎中原 宏

◎印：科目責任者（オムニバス形式等の場合）

★印：非常勤講師

4) 実習概要

※機関種別

科目名	実習期間	実習機関	延べ人数
看護初期実習	平成28年6月7日～9日	医療機関	261名
		老人福祉センター	255名
		健診センター、その他	149名
基礎看護学臨地実習Ⅰ	平成28年10月24日～27日	医療機関	340名
基礎看護学臨地実習Ⅱ	平成28年5月23日～6月3日	医療機関	810名
成人看護学臨地実習Ⅰ	平成28年10月31日～11月17日	医療機関	1,053名
老年看護学臨地実習Ⅰ	平成28年5月10日～12日	老人福祉センター	246名
成人看護学臨地実習Ⅱ	平成28年6月20日～7月29日	医療機関	802名
精神看護学臨地実習	平成28年6月20日～7月28日	医療機関	471名
		社会福祉施設	166名
在宅看護学臨地実習	平成28年6月20日～7月29日	訪問看護ステーション	314名
		地域包括支援センター・居宅介護支援事業所	314名
母性看護学臨地実習	平成28年11月21日 ～平成29年2月2日	医療機関	702名
小児看護学臨地実習	平成28年11月21日 ～平成29年2月3日	医療機関	476名
		保育所	229名
老年看護学臨地実習Ⅱ	平成28年11月22日 ～平成29年2月2日	医療機関	287名
		介護老人保健施設	280名
公衆衛生看護学臨地実習Ⅰ・Ⅱ	平成28年年6月13日～7月28日	保健所・保健センター	671名
		事業所	70名
		教育機関	35名
ヘルスケアマネジメント実習	平成28年9月26日～10月13日	医療機関	1,144名
		介護老人保健施設	52名

5 デザイン研究科

1) 平成28年度時間割

① 前期

		月		火	水	木		金	土
		芸森キャンパス		芸森キャンパス	芸森キャンパス	芸森キャンパス		芸森キャンパス	桑園キャンパス
		博士前期1年生	博士後期課程	博士前期1年生	博士前期1年生	博士前期1年生	博士前期2年生	博士前期1年生	博士前期1年生
1	9:00 ～ 10:30								国際関係特論
2	10:40 ～ 12:10	環境マネジメント特論				製品造形特論			コミュニケーション特論
3	13:10 ～ 14:40			景観デザイン特論		形状情報処理特論			少子高齢社会特論
4	14:50 ～ 16:20	環境共生デザイン特論		インターンシップⅠ (事前講義)		インタラクティブデザイン特論			連携プロジェクト演習
				インターンシップⅡ (事前講義)					
5	16:30 ～ 18:00			ビジュアルデザイン特論	建築構造デザイン特論	地域創成デザイン特別セミナーA			
6	18:10 ～ 19:40	デザイン特論	人間空間デザイン研究法		メディアプロデュース特論		地域プロジェクト演習	デザイン研究法	
			人間情報デザイン研究法						
7	19:50 ～ 21:20								

※建築計画特論は集中開講。

※デザイン特別演習、特別研究、横断型連携特別演習、博士デザイン特別演習および博士特別研究Ⅰ～Ⅲの開講時期は担当教員により異なる。

② 後期

		月		火	水	木		金	土
		芸森キャンパス		芸森キャンパス	芸森キャンパス	芸森キャンパス		芸森キャンパス	桑園キャンパス
		博士前期1年生	博士後期課程	博士前期1年生	博士前期1年生	博士前期1年生		博士前期1年生	博士前期1年生
1	9:00 ～ 10:30			建築環境学特論					健康福祉政策特論
2	10:40 ～ 12:10			製品評価特論		造形表現特論		デザインマネジメント特論	地域経済政策特論
3	13:10 ～ 14:40	地域ブランド構築特論		認知・感性科学特論		インタフェースデザイン特論	映像デザイン特論	製品デザイン特論	ヒューマニティ特論
4	14:50 ～ 16:20	日本建築史特論				メカトロニクス特論		地域創成デザイン特別セミナーB	連携プロジェクト演習
5	16:30 ～ 18:00	地域環境評価特論							
6	18:10 ～ 19:40	現代芸術特論	人間空間デザイン特講						
			人間情報デザイン特講						
7	19:50 ～ 21:20								

2) カリキュラム

① 授業科目一覧

<博士前期課程>

平成24～26年度入学生用

科目区分		授業科目の名称	配当年次 (時期)	単位数			空間デザイン分野		製品デザイン分野		コンテンツ・メディア デザイン分野		備考	
				必修	選択	自由	建築デザイン	環境デザイン	プロダクト デザイン	インタフェ ースデザイン	コンテンツ 制作	メディア展開		
研究科連携科目		国際関係特論	1・2 前		2					△		△		
		少子高齢社会特論	1・2 前		2			△						
		健康福祉政策特論	1・2 後		2		△							
		地域経済政策特論	1・2 後		2			△	△			△		
		ヒューマニティ特論	1・2 後		2						△			
		コミュニケーション特論	1・2 前		2					△	△			
		連携プロジェクト演習	1 通		2		△		△					
		小計 (7科目)	—	—	14	—	4	4	4	4	4	4	4単位以上	
専門教育科目	基本科目	デザイン特論	1 前	2			◎	◎	◎	◎	◎	◎		
		デザイン研究法	1 前	2				△		△	△			
		デザインマネジメント特論	1 後	2			△		△			△		
		小計 (3科目)	—	2	4	—	4	4	4	4	4	4	4単位以上	
	展開科目	建築計画特論	1・2 前	2			△■							
		建築環境学特論	1・2 後	2			△■							
		建築構造デザイン特論	1・2 前	2			△■							
		構法デザイン特論 ※H27年度以降開講なし	1・2 前	2			△■							
		日本建築史特論	1・2 後	2			△							
		景観デザイン特論	1・2 前	2				△						
		地域環境評価特論	1・2 後	2				△						
		環境共生デザイン特論	1・2 前	2				△						
		環境マネジメント特論	1・2 前	2				△	△					
		製品造形特論	1・2 前	2					△					
		ソシオデザイン特論	1・2 前	2					△	△				
		製品評価特論	1・2 後	2					△	△				
		メカトロニクス特論	1・2 後	2					△	△				
		インタフェースデザイン特論	1・2 後	2						△				
		認知・感性科学特論	1・2 後	2						△	△			
		インタラクションデザイン特論	1・2 前	2							△			
		形状情報処理特論	1・2 前	2							△			
		造形表現特論	1・2 後	2							△			
		映像デザイン特論	1・2 後	2							△	△		
		ビジュアルデザイン特論	1・2 前	2								△		
		現代芸術特論	1・2 後	2									△	
		メディアプロデュース特論	1・2 前	2									△	
		地域ブランド構築特論	1・2 後	2					△				△	
		デザイン特別演習	1 前・後	2				◎■	◎	◎	◎	◎	◎	
			小計 (24科目)	—	2	46	—	12	12	12	12	12	12	12単位以上
	実践科目	地域プロジェクト演習	2 前	2				◎■	◎	◎	◎	◎	◎	
		地域創成デザイン特別セミナーA	1・2 前	2									△	
		地域創成デザイン特別セミナーB	1・2 後	2							△	△		
		インターンシップⅠ	1・2 集中	2				△■	△	△				
		インターンシップⅡ	1・2 集中			4		△■						
				小計 (5科目)	—	2	6	4	8	4	4	4	4	4
	研修了	特別研究	1～2 通	6	—	—		◎	◎	◎	◎	◎	◎	
		小計 (1科目)		—	6	—	—	6	6	6	6	6	6	6単位
合計 (40科目)			—	12	70	4	34	30	30	30	30	30		

◎: 必修科目 △: 選択科目
 ■は一級建築士受験の実務経験1年とみなすための認定科目(8科目・18単位からインターンシップⅡを含む16単位以上の履修が必要となります)
 ※「建築デザイン」履修モデルは一級建築士受験の実務経験1年とみなすために必要な科目の取得を想定しているため、合計単位数が34単位となっています。

平成27年度入学生用

科目区分	授業科目の名称	配当年次 (時期)	単位数			空間デザイン分野		製品デザイン分野		コンテンツ・メディア デザイン分野		
			必修	選択	自由	建築デザイン	環境デザイン	プロダクト デザイン	インタフェース デザイン	コンテンツ 制作	メディア展開	
研究科連携科目	国際関係特論	1・2 前期		2					△		△	
	少子高齢社会特論	1・2 前期		2			△					
	健康福祉政策特論	1・2 後期		2		△						
	地域経済政策特論	1・2 後期		2			△	△			△	
	ヒューマニティ特論	1・2 後期		2						△		
	コミュニケーション特論	1・2 前期		2					△	△		
	連携プロジェクト演習	1 通年		2		△		△				
小計 (7科目)		—	—	14	—	4	4	4	4	4	4	
専門教育科目	基本科目	デザイン特論	1 前期	2		◎	◎	◎	◎	◎	◎	
		デザイン研究法	1 前期	2			△		△	△		
		デザインマネジメント特論	1 後期	2		△		△			△	
		小計 (3科目)	—	2	4	—	4	4	4	4	4	4
	展開科目	建築計画特論	1・2 前期		2		△■					
		建築環境学特論	1・2 後期		2		△■					
		建築構造デザイン特論	1・2 前期		2		△■					
		日本建築史特論	1・2 後期		2		△					
		景観デザイン特論	1・2 前期		2			△				
		地域環境評価特論	1・2 後期		2			△				
		環境共生デザイン特論	1・2 前期		2		△■	△				
		環境マネジメント特論	1・2 前期		2			△	△			
		製品造形特論	1・2 前期		2				△			
		製品評価特論	1・2 後期		2				△	△		
		メカトロニクス特論	1・2 後期		2				△	△		
		インタフェースデザイン特論	1・2 後期		2				△	△		
		認知・感性科学特論	1・2 後期		2					△	△	
		インタラクションデザイン特論	1・2 前期		2					△	△	
		形状情報処理特論	1・2 前期		2						△	
		造形表現特論	1・2 後期		2						△	
		映像デザイン特論	1・2 後期		2						△	△
		ビジュアルデザイン特論	1・2 前期		2							△
		現代芸術特論	1・2 後期		2							△
		メディアプロデュース特論	1・2 前期		2							△
		地域ブランド構築特論	1・2 後期		2			△				△
		デザイン特別演習	1 前・後	2			◎■	◎	◎	◎	◎	◎
	小計 (22科目)	—	2	42	—	12	12	12	12	12	12	
	実践科目	地域プロジェクト演習	2 前期	2			◎■	◎	◎	◎	◎	◎
		地域創成デザイン特別セミナーA	1・2 前期		2							△
		地域創成デザイン特別セミナーB	1・2 後期		2					△	△	
		インターンシップⅠ	1・2 集中		2		△■	△	△			
		インターンシップⅡ	1・2 集中			4	△■					
		小計 (5科目)	—	2	6	4	8	4	4	4	4	4
	研究了	特別研究	1～2 通年	6	—	—	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		小計 (1科目)	—	6	—	—	6	6	6	6	6	6
合計 (38科目)			12	66	4	34	30	30	30	30	30	

◎：必修科目 △：選択科目

■は一級建築士受験の実務経験1年とみなすために必要な指定科目（8科目・18単位からインターンシップⅡを含む16単位以上の履修が必要）

※「建築デザイン」履修モデルは一級建築士受験の実務経験1年とみなすために必要な科目の取得を想定しているため、合計単位数が34単位となっています。

平成28年度入学生用

科目区分	授業科目の名称	科目ナンバリング	配当年次(時期)	単位数			空間デザイン分野		製品デザイン分野		コンテンツ・メディアデザイン分野		備考
				必修	選択	自由	建築デザイン	環境デザイン	プロダクトデザイン	インタフェースデザイン	コンテンツ制作	メディア展開	
研究科連携科目	国際関係特論	C5A701	1・2 前期		2					△		△	
	少子高齢社会特論	C5A702	1・2 前期		2			△					
	健康福祉政策特論	C5A703	1・2 後期		2		△						
	地域経済政策特論	C5A704	1・2 後期		2			△	△			△	
	ヒューマニティ特論	C5A705	1・2 後期		2						△		
	コミュニケーション特論	C5A706	1・2 前期		2					△	△		
	連携プロジェクト演習	C1A701	1 通年		2		△		△				
	小計 (7科目)		—	—	14	—	4	4	4	4	4	4	4単位以上
基本科目	デザイン特論	D1A801	1 前期	2			◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	デザイン研究法	D1A802	1 前期		2			△		△	△		
	デザインマネジメント特論	D1A803	1 前期		2		△		△			△	4単位以上
	小計 (3科目)		—	2	4	—	4	4	4	4	4	4	
専門教育科目	建築計画特論	D5A801	1・2 前期		2		△■						
	建築環境学特論	D5A802	1・2 後期		2		△■						
	建築構造デザイン特論	D5A803	1・2 前期		2		△■						
	日本建築史特論	D5A804	1・2 後期		2		△						
	景観デザイン特論	D5A805	1・2 前期		2			△					
	地域環境評価特論	D5A806	1・2 後期		2			△					
	環境共生デザイン特論	D5A807	1・2 前期		2		△■	△					
	環境マネジメント特論	D5A808	1・2 前期		2			△	△				
	製品造形特論	D5A831	1・2 前期		2				△				
	製品評価特論	D5A832	1・2 後期		2				△	△			
	メカトロニクス特論	D5A833	1・2 後期		2				△	△			
	インタフェースデザイン特論	D5A834	1・2 後期		2					△			
	製品デザイン特論	D5A835	1・2 後期		2				△				
	認知・感性科学特論	D5A861	1・2 後期		2					△	△		
	インタラクションデザイン特論	D5A862	1・2 前期		2					△	△		
	形状情報処理特論	D5A863	1・2 前期		2						△		
	造形表現特論※H29年度以降開講なし	D5A864	1・2 後期		2						△		
	映像デザイン特論	D5A865	1・2 後期		2						△	△	
	ビジュアルデザイン特論	D5A866	1・2 前期		2							△	
	現代芸術特論	D5A867	1・2 後期		2							△	
	メディアプロデュース特論	D5A868	1・2 前期		2							△	
	地域ブランド構築特論	D5A869	1・2 後期		2			△				△	
	デザイン特別演習	D1A804	1 前・後	2			◎■	◎	◎	◎	◎	◎	
	小計 (23科目)		—	2	44	—	12	12	12	12	12	12	12単位以上
実践科目	地域プロジェクト演習	D2A801	2 前期	2			◎■	◎	◎	◎	◎	◎	
	地域創成デザイン特別セミナーA	D5A891	1・2 前期		2							△	
	地域創成デザイン特別セミナーB	D5A892	1・2 後期		2					△	△		
	インターンシップⅠ	D5A893	1・2 集中		2		△■	△	△				
	インターンシップⅡ	D5A894	1・2 集中			4	△■						
	小計 (5科目)		—	2	6	4	8	4	4	4	4	4	4単位以上
研究修了	特別研究	D5A899	1～2 通年	6	—	—	◎	◎	◎	◎	◎	◎	6単位
	小計 (1科目)		—	6	—	—	6	6	6	6	6	6	
	合計 (39科目)		—	12	68	4	34	30	30	30	30	30	

◎: 必修科目 △: 選択科目

■は一級建築士受験の実務経験1年とみなすために必要な認定科目 (8科目・18単位)

※「建築デザイン」履修モデルは一級建築士受験の実務経験1年とみなすために必要な科目の取得を想定しているため、合計単位数が34単位となっています。

< 博士後期課程 >

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習
基本科目	横断型連携特別演習	1通年	2				○	
	人間空間デザイン研究法	1前期		2		○		
	人間情報デザイン研究法	1前期		2		○		
	小計 (3科目)	—	2	4	0		—	
展開科目	人間空間デザイン特講	1後期		2		○		
	人間情報デザイン特講	1後期		2		○		
	博士デザイン特別演習	2前期	2				○	
	小計 (3科目)	—	2	4	0		—	
研究指導科目	博士特別研究Ⅰ	1通年	2				○	
	博士特別研究Ⅱ	2通年	2				○	
	博士特別研究Ⅲ	3通年	4				○	
	小計 (3科目)	—	8	0	0		—	
	合計 (9科目)	—	12	8	0			

② 修了要件
＜博士前期課程＞

科目区分			修了要件
研究科連携科目			4単位以上
専門教育科目	基本科目		4単位以上
	展開科目	空間デザイン分野	12単位以上
		製品デザイン分野	
		コンテンツ・メディアデザイン分野	
	実践科目		4単位以上
修了研究		6単位	
合計			30単位以上

「研究科連携科目」から4単位以上、「基本科目」から4単位以上（必修2単位を含む）、「展開科目」から12単位以上（必修2単位を含む）、「実践科目」から4単位以上（必修2単位を含む）、「特別研究」を6単位、合計30単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、修士論文等の審査及び最終試験に合格したものに学位を授与する。

＜博士後期課程＞

科目区分	修了要件
基本科目	4単位以上
展開科目	4単位以上
研究指導科目	8単位以上
合計	16単位以上

「基本科目」から4単位以上（必修2単位を含む）、「展開科目」から4単位以上（必修2単位を含む）、「研究指導科目」から8単位、合計16単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査及び最終試験に合格したものに学位を授与する。

3) 教育活動
＜博士前期課程＞

研究科連携科目

授業科目	授業形態・時数	年次	担当教員
国際関係特論	講義・30時間	1・2年次前期	◎スーディ神崎和代 城間 祥之 石井 雅博 大野 夏代 ★玉城 英彦
少子高齢社会論	講義・30時間	1・2年次前期	原 俊彦
コミュニケーション特論	講義・30時間	1・2年次前期	町田 佳世子
健康福祉政策特論	講義・30時間	1・2年次後期	◎山本 勝則 守村 洋 ★大久保 一郎
地域経済政策特論	講義・30時間	1・2年次後期	★佐藤 孝一
ヒューマニティ特論	講義・30時間	1・2年次後期	松井 美穂
連携プロジェクト演習	演習・30時間	1年次通年	◎城間 祥之 安齋 利典 山田 良 片山 めぐみ ◎猪股 千代子 小田 和美 古都 昌子

◎印：科目責任者（オムニバス形式等の場合）

★印：非常勤講師

専門教育科目

授業科目	授業 形態	年次	担当教員
デザイン特論	講義・30時間	1年次前期	蓮見 孝
デザイン研究法	講義・30時間	1年次前期	◎中原 宏 矢部 和夫 柿山 浩一郎
デザインマネジメント特論	講義・30時間	1年次後期	★近藤 公彦
建築計画特論	講義・30時間	1・2年次前期	★那須 聖
建築環境学特論	講義・30時間	1・2年次後期	斉藤 雅也
建築構造デザイン特論	講義・30時間	1・2年次前期	★渡邊 和之
日本建築史特論	講義・30時間	1・2年次後期	羽深 久夫
景観デザイン特論	講義・30時間	1・2年次前期	★吉田 恵介
地域環境評価特論	講義・30時間	1・2年次後期	◎中原 宏 矢部 和夫
環境共生デザイン特論	講義・30時間	1・2年次前期	◎山田 良 ★上田 裕文
環境マネジメント特論	講義・30時間	1・2年次前期	◎片山 めぐみ ★上田 裕文
製品造形特論	講義・30時間	1・2年次前期	★石崎 友紀
製品評価特論	講義・30時間	1・2年次後期	柿山 浩一郎
メカトロニクス特論	講義・30時間	1・2年次後期	三谷 篤史
インタフェースデザイン特論	講義・30時間	1・2年次後期	酒井 正幸
製品デザイン特論	講義・30時間	1・2年次後期	安齋 利典
認知・感性科学特論	講義・30時間	1・2年次後期	石井 雅博
インタラクションデザイン特論	講義・30時間	1・2年次前期	細谷 多聞
形状情報処理特論	講義・30時間	1・2年次前期	城間 祥之
造形表現特論	講義・30時間	1・2年次後期	齋藤 利明
映像デザイン特論	講義・30時間	1・2年次後期	松永 康佑
ビジュアルデザイン特論	講義・30時間	1・2年次前期	吉田 和夫
現代芸術特論	講義・30時間	1・2年次後期	上遠野 敏
メディアプロデュース特論	講義・30時間	1・2年次前期	★久保 俊哉
地域ブランド構築特論	講義・30時間	1・2年次後期	★内田 純一
デザイン特別演習	演習・30時間	1年次 前期・後期	◎城間 祥之 蓮見 孝 安齋 利典 石井 雅博 上遠野 敏 齋藤 利明 酒井 正幸 中原 宏 羽深 久夫 細谷 多聞 矢部 和夫 吉田 和夫 柿山 浩一郎 斉藤 雅也 山田 良 片山 めぐみ 松永 康佑 三谷 篤史
地域プロジェクト演習	演習・30時間	2年次前期	◎城間 祥之 石井 雅博 羽深 久夫 柿山 浩一郎 松永 康佑 三谷 篤史
地域創成デザイン特別セミナーA	演習・30時間	1・2年次前期	◎羽深 久夫 中原 宏 斉藤 雅也 山田 良
地域創成デザイン特別セミナーB	演習・30時間	1・2年次後期	安齋 利典
インターンシップ I	実習・60時間	1・2年次集中	◎中原 宏 羽深 久夫 矢部 和夫 斉藤 雅也 山田 良 片山 めぐみ

授業科目	授業・時数 形態	年次	担当教員
インターンシップⅡ	実習・120時間	1・2年次集中	◎羽深 久夫 中原 宏 齊藤 雅也 山田 良 片山 めぐみ
特別研究	演習・90時間	1～2年次通年	◎城間 祥之 蓮見 孝 安齋 利典 石井 雅博 上遠野 敏 齋藤 利明 酒井 正幸 中原 宏 羽深 久夫 細谷 多聞 矢部 和夫 柿山 浩一郎 齊藤 雅也 三谷 篤史 山田 良

◎印：科目責任者（オムニバス形式等の場合）

★印：非常勤講師

< 博士後期課程 >

授業科目	授業・時数 形態	年次	担当教員
人間空間デザイン研究法	講義・30時間	1年次前期	◎中原 宏 羽深 久夫 矢部 和夫
人間情報デザイン研究法	講義・30時間	1年次前期	◎城間 祥之 石井 雅博 細谷 多聞
横断型連携特別演習	演習・30時間	1年次通年	◎齊藤 雅也 石井 雅博 町田 佳世子 矢部 和夫 柿山 浩一郎 山田 良 スーディ神崎 和代
人間空間デザイン特講	講義・30時間	1年次後期	◎羽深 久夫 中原 宏 矢部 和夫 齊藤 雅也 山田 良
人間情報デザイン特講	講義・30時間	1年次後期	◎城間 祥之 石井 雅博 酒井 正幸 細谷 多聞
博士デザイン特別演習	演習・30時間	2年次前期	城間 祥之 安齋 利典 石井 雅博 中原 宏 羽深 久夫 細谷 多聞 矢部 和夫 柿山 浩一郎 齊藤 雅也 山田 良
博士特別研究Ⅰ	演習・30時間	1年次通年	城間 祥之 安齋 利典 石井 雅博 中原 宏 羽深 久夫 細谷 多聞 矢部 和夫 柿山 浩一郎 齊藤 雅也 山田 良
博士特別研究Ⅱ	演習・30時間	2年次通年	城間 祥之 安齋 利典 石井 雅博 中原 宏 羽深 久夫 細谷 多聞 矢部 和夫 柿山 浩一郎 齊藤 雅也 山田 良
博士特別研究Ⅲ	演習・30時間	3年次通年	城間 祥之 安齋 利典 石井 雅博 酒井 正幸 中原 宏 羽深 久夫 細谷 多聞 矢部 和夫 柿山 浩一郎 齊藤 雅也 山田 良

◎印：科目責任者（オムニバス形式等の場合）

6 看護学研究科

1) 平成28年度時間割

< 博士前期課程 >

		月		火		水	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期
1	9:00 ～ 10:30						
2	10:40 ～ 12:10						
3	13:10 ～ 14:40						
4	14:50 ～ 16:20	看護理論特論	看護コンサル テーション特論	看護研究法特論	寒冷地生活支援 看護学特論	看護専門職教育 特論 クリティカルケ ア看護学特論 小児看護学特論D がん看護学・緩 和ケア特論 精神看護学特論IV	がん看護学・緩 和ケア援助特論 クリティカル精 神看護学演習
5	16:30 ～ 18:00	地域生活看護学特論 母子看護学特論 成人看護学特論 精神看護学特論Ⅰ 看護技術学特論Ⅰ 看護教育・看護 マネジメント学特論	老年看護学特論 在宅看護学特論 地域看護学特論 母性看護学特論 小児看護学特論B 急性期看護学特論 慢性期看護学特論 がん看護学特論 精神看護学特論Ⅱ 看護技術学特論Ⅱ 看護教育学特論 看護マネジメント学特論	看護管理学特論	家族看護学特論	看護倫理学特論	継続教育特論
6	18:10 ～ 19:40	地域生活看護学特論 母子看護学特論 成人看護学特論 精神看護学特論Ⅰ 看護技術学特論Ⅰ 看護教育・看護 マネジメント学特論	老年看護学特論 在宅看護学特論 地域看護学特論 母性看護学特論 小児看護学特論B 急性期看護学特論 慢性期看護学特論 がん看護学特論 精神看護学特論Ⅱ 看護技術学特論Ⅱ 看護教育学特論 看護マネジメント学特論	看護研究法特論	寒冷地生活支援 看護学特論	看護専門職教育特論 クリティカルケ ア看護学特論 小児看護学特論D がん看護学・緩 和ケア特論 精神看護学特論IV	がん看護学・緩 和ケア援助特論 クリティカル精 神看護学演習
7	19:50 ～ 21:20	看護理論特論	看護コンサル テーション特論	看護管理学特論	家族看護学特論	看護倫理学特論	継続教育特論

木		金		土	
前期	後期	前期	後期	前期	後期
				国際関係特論	健康福祉政策特論
				コミュニケーション特論	地域経済政策特論
				少子高齢社会特論	ヒューマニティ特論
地域生活看護学演習 母子看護学演習 成人看護学演習 精神看護学演習Ⅰ 看護技術学演習Ⅰ 看護教育・看護マネジメント学演習		特別研究 課題研究		連携プロジェクト演習	
		臨床哲学特論 小児看護学特論A アドバンスト・フィジカルアセスメント 看護学演習 腫瘍学特論 精神看護学特論Ⅵ	小児看護学特論C 急性期病態管理学特論 病態治療特論 精神看護学特論Ⅴ	リハビリテーション 精神看護学演習	小児看護学演習B クリティカルケア看護学演習 がん看護学演習Ⅱ
地域生活看護学演習 母子看護学演習 成人看護学演習 精神看護学演習Ⅰ 看護技術学演習Ⅰ 看護教育・看護マネジメント学演習		臨床哲学特論 小児看護学特論A アドバンスト・フィジカルアセスメント 看護学演習 腫瘍学特論 精神看護学特論Ⅵ	小児看護学特論C 急性期病態管理学特論 病態治療特論 精神看護学特論Ⅴ		
		特別研究 課題研究			

< 博士後期課程 >

		月		火		水	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期
1	9:00 } 10:30						
2	10:40 } 12:10						
3	13:10 } 14:40						
4	14:50 } 16:20			後期特別研究 I ・ II ・ III			
5	16:30 } 18:00			(横断型連携特別演習)			
6	18:10 } 19:40			後期特別研究 I ・ II ・ III			
7	19:50 } 21:20			(横断型連携特別演習)			

木		金		土	
前期	後期	前期	後期	前期	後期
看護学特講				横断型連携特別演習	
看護技術学特別演習 実践看護学特別演習 機能看護学特別演習					
看護学特講					
看護技術学特別演習 実践看護学特別演習 機能看護学特別演習					

2) カリキュラム

① 授業科目一覧 ＜博士前期課程＞

科目区分	科目ナンバリング	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			修了要件
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
研究科連携科目		C5A701 国際関係特論	1・2 前		2		○			4単位以上
		C5A702 少子高齢社会特論	1・2 前		2		○			
		C5A703 健康福祉政策特論	1・2 後		2		○			
		C5A704 地域経済政策特論	1・2 後		2		○			
		C5A705 ヒューマニティ特論	1・2 後		2		○			
		C5A706 コミュニケーション特論	1・2 前		2		○			
		C1A701 連携プロジェクト演習	1 通		2			○		
専 門 基 礎 科 目		N1A801 看護理論特論	1 前	2			○			8単位以上
		N1A802 看護研究法特論	1 前	2			○			
		N1A803 看護倫理特論	1 前		2		○			
		N1A804 看護管理学特論	1 前		2		○			
		N1A805 臨床哲学特論	1 後		2		○			
		N1A806 看護コンサルテーション特論	1 後		2		○			
		N1A807 看護専門職教育特論	1 前		2		○			
		N1A808 継続教育特論	1 後		2		○			
		N1A809 寒冷地生活支援看護学特論	1 後		2		○			
		N1A810 家族看護学特論	1 後		2		○			
専 門 実 践 科 目	地域生活看護学領域	N1A821 地域生活看護学特論	1 前		2		○			1つの領域から8単位以上（専門看護師認定希望者16単位以上）
		N5A821 老年看護学特論	1・2 後		2		○			
		N5A822 在宅看護学特論	1・2 後		2		○			
		N5A823 地域看護学特論	1・2 後		2		○			
		N1A822 地域生活看護学演習	1 通		2			○		
		N5A824 老年看護学演習	1・2 通		2			○		
		N5A825 在宅看護学演習	1・2 通		2			○		
	母子看護学領域	N5A826 地域看護学演習	1・2 通		2			○		
		N1A831 母子看護学特論	1 前		2		○			
		N5A831 母性看護学特論	1・2 後		2		○			
		N1A832 小児看護学特論A	1 前		2		○			
		N1A833 小児看護学特論B	1 後		2		○			
		N1A834 小児看護学特論C	1 後		1		○			
		N2A831 小児看護学特論D	2 前		1		○			
	成人看護学領域	N1A835 母子看護学演習	1 通		2			○		
		N5A832 母性看護学演習	1・2 通		2			○		
		N1A836 小児看護学演習A	1 通		2			○		
		N5A833 小児看護学演習B	1・2 通		2			○		
		N5A834 小児看護学実習Ⅰ	1・2 通		4				○	
		N5A835 小児看護学実習Ⅱ	1・2 通		2				○	
		N1A841 成人看護学特論	1 前		2		○			
専 門 科 学 分 野	急性看護学領域	N5A841 急性期看護学特論	1・2 後		2		○			
		N5A842 慢性期看護学特論	1・2 後		2		○			
		N5A843 がん看護学特論	1・2 後		2		○			
		N5A844 急性期病態管理学特論	1・2 後		2		○			
		N1A842 クリティカルケア看護学特論	1 前		1		○			
		N1A843 がん看護学・緩和ケア特論	1 前		1		○			
		N1A844 がん看護学・緩和ケア援助特論	1 後		1		○			
	慢性看護学領域	N1A845 腫瘍学特論	1 前		2		○			
		N1A846 病態治療特論	1 後		2		○			
		N1A847 成人看護学演習	1 通		2			○		
		N5A845 急性期看護学演習	1・2 通		2			○		
		N1A848 アドバンス・フィジカルアセスメント演習	1 前		1			○		
		N1A849 クリティカルケア看護学演習	1 通		2			○		
		N5A846 慢性期看護学演習	1・2 通		2			○		
	精神看護学領域	N5A847 がん看護学演習Ⅰ	1・2 通		2			○		
		N2A841 がん看護学演習Ⅱ	2 通		2			○		
		N5A848 急性期看護学実習	1・2 通		6				○	
		N1A850 がん看護学実習Ⅰ	1 後		2				○	
		N2A842 がん看護学実習Ⅱ	2 通		4				○	
		N1A861 精神看護学特論Ⅰ	1 前		2		○			
		N5A861 精神看護学特論Ⅱ	1・2 後		2		○			
専 門 教 育 科 目	看護技術学領域	N5A862 精神看護学特論Ⅲ	1・2 前		2		○			
		N5A863 精神看護学特論Ⅳ	1・2 前		1		○			
		N1A862 精神看護学特論Ⅴ	1 後		2		○			
		N2A861 精神看護学特論Ⅵ	2 前		2		○			
		N1A863 精神看護学演習Ⅰ	1 通		2			○		
		N5A864 精神看護学演習Ⅱ	1・2 通		2			○		
		N5A865 精神看護学演習Ⅲ	1・2 通		2			○		
	看護教育・看護マネジメント学領域	N1A864 クリティカル精神看護学演習	1 後		1			○		
		N2A862 リハビリテーション精神看護学演習	2 前		1			○		
		N1A865 精神看護学実習Ⅰ	1 後		2				○	
		N2A863 精神看護学実習Ⅱ	2 通		4				○	
		N1A871 看護技術学特論Ⅰ	1 前		2		○			
		N5A871 看護技術学特論Ⅱ	1・2 後		2		○			
		N1A872 看護技術学演習Ⅰ	1 通		2			○		
		N5A872 看護技術学演習Ⅱ	1・2 通		2			○		
	看護教育・看護マネジメント学演習	N1A881 看護教育・看護マネジメント学特論	1 前		2		○			
		N5A881 看護教育学特論	1・2 後		2		○			
		N5A882 看護マネジメント学特論	1・2 後		2		○			
		N1A882 看護教育・看護マネジメント学演習	1 通		2			○		
		N5A883 看護教育演習	1・2 通		2			○		
		N5A884 看護マネジメント学演習	1・2 通		2			○		
		N5A891 特別研究	1～2 通		8			○		
		N5A892 課題研究	1～2 通		4			○		

< 博士後期課程 >

科目区分	科目ナンバリング	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			修了要件
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
博士後期 連携科目	N1A901	横断型連携特別演習	1 通	2				○		2 単位
博士後期専門科目	N1A911	看護学特講	1 前	2			○			4 単位以上
	N1A912	看護技術学特別演習	1 通		2			○		
	N1A913	実践看護学特別演習	1 通		2			○		
	N1A914	機能看護学特別演習	1 通		2			○		
博士後期 研究指導科目	N1A921	後期特別研究Ⅰ	1 通	2				○		8 単位
	N2A921	後期特別研究Ⅱ	2 通	2				○		
	N3A921	後期特別研究Ⅲ	3 通	4				○		

② 修了要件

< 博士前期課程 >

※修士論文コース

(単位)

区分	必修科目	選択科目	自由科目	合 計
研究科連携科目	—	4	—	4
専門教育科目	4	20	—	24
専門基礎科目	4	4	—	8
専門科目	—	16	—	16
選択する領域・分野から	—	8	—	8
研究	—	8	—	8
合 計	4	26	—	30

※専門看護師コース

(単位)

区分	必修科目	選択科目	自由科目	合 計
研究科連携科目	—	4	—	4
専門教育科目	4	24	—	28
専門基礎科目	4	4	—	8
専門科目	—	20	—	20
選択する領域・分野から	—	16	—	16
研究	—	4	—	4
合 計	4	30	—	34

< 博士後期課程 >

(単位)

区分	必修科目	選択科目	自由科目	合計
博士後期連携科目	2	—	—	2
博士後期専門科目	2	2	—	4
博士後期研究指導科目	8	—	—	8
合計	12	2	—	14

3) 教育活動

< 博士前期課程 >

授業科目	授業形態・時数	年次	担当教員
国際関係特論	講義・30時間	1・2年次前期	◎スーディ神崎和代 城間 祥之 石井 雅博 大野 夏代 ★玉城 英彦
少子高齢社会特論	講義・30時間	1・2年次前期	原 俊彦
健康福祉政策特論	講義・30時間	1・2年次後期	◎山本 勝則 守村 洋 ★大久 保一郎
地域経済政策特論	講義・30時間	1・2年次後期	★佐藤 孝一
ヒューマニティ特論	講義・30時間	1・2年次後期	松井 美穂
コミュニケーション特論	講義・30時間	1・2年次前期	町田 佳世子
連携プロジェクト演習	演習・30時間	1年次通年	◎猪股 千代子 小田 和美 古都 昌子 ◎城間 祥之 安齋 利典 山田 良 片山 めぐみ
看護理論特論	講義・30時間	1年次前期	◎中村 恵子 菅原 美樹 ★黒田 裕子
看護研究法特論	講義・30時間	1年次前期	◎松浦 和代 貝谷 敏子 菊地 ひろみ
看護倫理学特論	講義・30時間	1年次前期	◎宮崎 みち子 川村三希子 古都 昌子
看護管理学特論	講義・30時間	1年次前期	◎猪股 千代子 中村 恵子
臨床哲学特論	講義・30時間	1年次後期	★尾形 敬次
看護コンサルテーション特論	講義・30時間	1年次後期	◎猪股 千代子 古都 昌子 ★藤野 智子
看護専門職教育特論	講義・30時間	1年次前期	定廣 和香子
継続教育特論	講義・30時間	1年次後期	◎古都 昌子 ★佐藤 紀子 ★舟島 なをみ ★中山 登志子
寒冷地生活支援看護学特論	講義・30時間	1年次後期	◎村松 真澄 ★池田 貴夫 ★前沢 政次 ★鈴木 英樹
家族看護学特論	講義・30時間	1年次後期	◎菊地 ひろみ 河原田 まり子 ★柳原 清子 ★吉川 由希子
地域生活看護学特論	講義・30時間	1年次前期	◎河原田 まり子 スーディ神崎和代 中村 恵子
老年看護学特論	講義・30時間	1・2年次後期	
在宅看護学特論	講義・30時間	1・2年次後期	スーディ神崎和代
地域看護学特論	講義・30時間	1・2年次後期	河原田 まり子
地域生活看護学演習	演習・60時間	1年次通年	◎スーディ神崎和代 河原田 まり子 清水 光子 菊地 ひろみ 村松 真澄

授業科目	授業 形態・時数	年次	担当教員
老年看護学演習	演習・60時間	1・2年次通年	村松 真澄
在宅看護学演習	演習・60時間	1・2年次通年	◎菊地 ひろみ スーディ神崎 和代
地域看護学演習	演習・60時間	1・2年次通年	◎河原田 まり子 清水 光子
母子看護学特論	講義・30時間	1年次前期	◎宮崎 みち子 松浦 和代
母性看護学特論	講義・30時間	1・2年次後期	宮崎 みち子
小児看護学特論A	講義・30時間	1年次前期	松浦 和代
小児看護学特論B	講義・30時間	1年次後期	松浦 和代
小児看護学特論C	講義・15時間	1年次後期	松浦 和代
小児看護学特論D	講義・15時間	2年次前期	松浦 和代
母子看護学演習	演習・60時間	1年次通年	◎宮崎 みち子 松浦 和代 上村 浩太 渡邊 由加利 山内 まゆみ
母性看護学演習	演習・60時間	1・2年次通年	◎宮崎 みち子 渡邊 由加利 山内 まゆみ
小児看護学演習A	演習・60時間	1年次通年	◎松浦 和代 上村 浩太
小児看護学演習B	演習・60時間	1・2年次通年	◎松浦 和代 上村 浩太
小児看護学実習Ⅰ	実習・180時間	1・2年次通年	◎松浦 和代 上村 浩太
小児看護学実習Ⅱ	実習・90時間	1・2年次通年	◎松浦 和代 上村 浩太
成人看護学特論	講義・30時間	1年次前期	◎小田 和美 川村 三希子
急性期看護学特論	講義・30時間	1・2年次後期	◎中村 恵子 菅原 美樹
慢性期看護学特論	講義・30時間	1・2年次後期	小田 和美
がん看護特論	講義・30時間	1・2年次後期	川村 三希子
急性期病態管理学特論	講義・30時間	1・2年次後期	◎★田中 秀治 ★浅井 康文 ★山口 芳裕
クリティカルケア看護学特論	講義・15時間	1年次前期	◎中村 恵子 菅原 美樹
がん看護学・緩和ケア特論	講義・15時間	1年次前期	川村 三希子
がん看護学・緩和ケア援助特論	講義・15時間	1年次後期	◎川村 三希子 ★荒尾 晴恵
腫瘍学特論	講義・30時間	1年次前期	★小林 正伸
病態治療学特論	講義・30時間	1年次後期	◎★小林 正伸 ★福原 敬 ★鈴木 恵士郎
成人看護学演習	演習・60時間	1年次通年	◎小田 和美 川村 三希子 貝谷 敏子 菅原 美樹 神島 滋子 小坂 美智代 藤井 瑞恵
急性期看護学演習	演習・60時間	1・2年次通年	◎菅原 美樹 中村 恵子 ★平尾 明美 ★藤野 智子 ★伊藤 伸子
アドバンスト・フィジカルアセスメント演習	演習・30時間	1年次前期	◎菅原 美樹 中村 恵子 神島 滋子
クリティカルケア看護学演習	演習・60時間	1年次通年	◎菅原 美樹 中村 恵子
慢性期看護学演習	演習・60時間	1・2年次通年	◎小田 和美 貝谷 敏子 藤井 瑞恵
がん看護学演習Ⅰ	演習・60時間	1・2年次通年	◎川村 三希子 小坂美智代
がん看護学演習Ⅱ	演習・60時間	2年次通年	◎川村 三希子 菊地 ひろみ 小坂 美智代 ★持田 直子 ★田村 恵子 ★石岡 明子 ★田中 いずみ
急性期看護学実習	実習・270時間	1・2年次通年	◎菅原 美樹 中村 恵子 ★藤野 智子

授業科目	授業 形態・時数	年次	担当教員
がん看護学実習Ⅰ	実習・90時間	1年次後期	◎川村 三希子 小坂 美智代 ★持田 直子 ★石岡 明子 ★田中 いずみ
がん看護学実習Ⅱ	実習・180時間	2年次通年	◎川村 三希子 小坂 美智代 ★持田 直子 ★石岡 明子 ★田中 いずみ
精神看護学特論Ⅰ	講義・30時間	1年次前期	◎山本 勝則 ★阿保 順子
精神看護学特論Ⅱ	講義・30時間	1・2年次後期	◎山本 勝則 ★藤井 博英
精神看護学特論Ⅲ	講義・30時間	1・2年次前期	山本 勝則
精神看護学特論Ⅳ	講義・15時間	1・2年次前期	◎山本 勝則 守村 洋
精神看護学特論Ⅴ	講義・30時間	1年次後期	◎山本 勝則 ★藤井 博英
精神看護学特論Ⅵ	講義・30時間	2年次前期	◎山本 勝則 守村 洋
精神看護学演習Ⅰ	演習・60時間	1年次通年	◎守村 洋 山本 勝則
精神看護学演習Ⅱ	演習・60時間	1・2年次通年	◎山本 勝則 守村 洋
精神看護学演習Ⅲ	演習・60時間	1・2年次通年	◎守村 洋 山本 勝則
クリティカル精神看護学演習	演習・30時間	1年次後期	◎山本 勝則 守村 洋
リハビリテーション精神看護学演習	演習・30時間	2年次前期	◎山本 勝則 守村 洋
精神看護学実習Ⅰ	実習・90時間	1年次後期	◎山本 勝則 守村 洋
精神看護学実習Ⅱ	実習・180時間	2年次通年	◎守村 洋 山本 勝則
看護技術学特論Ⅰ	講義・30時間	1年次前期	樋之津 淳子
看護技術学特論Ⅱ	講義・30時間	1・2年次後期	◎樋之津 淳子 大野 夏代
看護技術学演習Ⅰ	演習・60時間	1年次通年	◎樋之津 淳子 大野 夏代 ★山内 豊明
看護技術学演習Ⅱ	演習・60時間	1・2年次通年	◎大野 夏代 樋之津 淳子
看護教育・マネジメント学特論	講義・30時間	1年次前期	◎定廣 和香子 猪股 千代子
看護教育学特論	講義・30時間	1・2年次後期	定廣 和香子
看護マネジメント学特論	講義・30時間	1・2年次後期	猪股 千代子
看護教育・看護マネジメント学演習	演習・60時間	1年次後期	◎定廣 和香子 猪股 千代子 古都 昌子
看護教育学演習	演習・60時間	1・2年次通年	◎定廣 和香子 古都 昌子
看護マネジメント学演習	演習・60時間	1・2年次通年	猪股 千代子
特別研究	演習・240時間	1・2年次通年	◎松浦 和代 猪股 千代子 小田 和美 河原田 まり子 川村 三希子 定廣 和香子 スーディ神崎和代 中村 恵子 樋之津 淳子 宮崎 みち子 山本 勝則 菊地 ひろみ 古都 昌子 菅原 美樹 村松 真澄 上村 浩太 大野 夏代 貝谷 敏子 守村 洋 渡邊 由加利 神島 滋子 藤井 瑞恵 山内 まゆみ
課題研究	演習・120時間	1・2年次通年	◎松浦 和代 川村 三希子 中村 恵子 山本 勝則 菅原 美樹 上村 浩太 守村 洋 小坂 美智代

◎印：科目責任者（オムニバス形式等の場合）

★印：非常勤講師

< 博士後期課程 >

授業科目	授業 形態	年次	担当教員
横断型連携特別演習	演習・30時間	1年次通年	◎松浦 和代 河原田 まり子 川村 三希子 定廣 和香子 スーディ神崎和代 樋之津 淳子 宮崎 みち子 山本 勝則
看護学特講	講義・30時間	1年次前期	◎松浦 和代 河原田 まり子 スーディ神崎和代 中村 恵子 ★真田 弘美 ★木村 純 ★松下 博宣
看護技術学特別演習	演習・60時間	1年次通年	◎樋之津 淳子 村松 真澄
実践看護学特別演習	演習・60時間	1年次通年	◎山本 勝則 中村 恵子 川村 三希子 スーディ神崎和代 松浦 和代 宮崎 みち子 菊地 ひろみ 村松 真澄 守村 洋
機能看護学特別演習	演習・60時間	1年次通年	◎定廣 和香子 河原田 まり子
後期特別研究Ⅰ	演習・60時間	1年次通年	◎松浦 和代 河原田 まり子 定廣 和香子 スーディ神崎和代 中村 恵子 樋之津 淳子 宮崎 みち子 山本 勝則 菊地 ひろみ 川村 三希子 村松 真澄 守村 洋
後期特別研究Ⅱ	演習・60時間	2年次通年	◎松浦 和代 河原田 まり子 定廣 和香子 スーディ神崎和代 中村 恵子 樋之津 淳子 宮崎 みち子 山本 勝則 菊地 ひろみ 川村 三希子 村松 真澄 守村 洋
後期特別研究Ⅲ	演習・120時間	3年次通年	◎松浦 和代 河原田 まり子 定廣 和香子 スーディ神崎和代 中村 恵子 樋之津 淳子 宮崎 みち子 山本 勝則 菊地 ひろみ 川村 三希子 村松 真澄 守村 洋

◎印：科目責任者（オムニバス形式等の場合）

★印：非常勤講師

7 助産学専攻科

1) 平成28年度時間割

① 前期

		月		火		水		木		金	
		前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)	前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)	前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)	前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)	前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)
1	9:00 ～ 10:30	妊娠期助産診断・技術学		分娩期助産診断・技術学		周産期ハイリスク援助論		分娩期助産診断・技術学		産褥期助産診断・技術学	
2	10:40 ～ 12:10	妊娠期助産診断・技術学		分娩期助産診断・技術学		周産期ハイリスク援助論		分娩期助産診断・技術学		産褥期助産診断・技術学	
3	13:10 ～ 14:40	助産学総論		助産学フィールド演習		周産期医学論		乳幼児支援論		助産管理論	
4	14:50 ～ 16:20	助産学総論		助産学フィールド演習		周産期医学論		乳幼児支援論			
5	16:30 ～ 18:00			地域母子保健論							

※開講曜日時間は週によって変更する場合がある。

② 後期

		月		火		水		木		金	
		前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)	前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)	前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)	前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)	前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)
1	9:00 ～ 10:30	助産学演習									
2	10:40 ～ 12:10	助産学演習									
3	13:10 ～ 14:40	助産学課題研究									
4	14:50 ～ 16:20	助産学課題研究									
5	16:30 ～ 18:00										

※開講曜日時間は週によって変更する場合がある。

2) カリキュラム

① 授業科目一覧

区分	授業科目の名称	授業形態	単位数 (全科目：必修)
基礎助産学	助産学総論	講義	2
	周産期医学論	講義	2
	乳幼児支援論	講義	2
	妊娠期助産診断・技術学	演習	1
	分娩期助産診断・技術学	演習	2
	産褥期助産診断・技術学	演習	1
実践助産学	助産学フィールド演習	演習	1
	周産期ハイリスク援助論	演習	1
	地域母子保健論	講義	1
	助産管理論	講義	1
	助産学実習Ⅰ	実習	3
	助産学実習Ⅱ	実習	3
	助産学実習Ⅲ	実習	3
	助産学実習Ⅳ	実習	2
	助産学実習Ⅴ	実習	1
統合助産学	助産学演習	演習	2
	助産学課題研究	演習	2
合計			30

② 修了要件

30単位（全科目必修）

3) 教育活動

授業科目	授業 形態・時数	年次	担当教員
助産学総論	講義・30時間	前期	◎宮崎 みち子 渡邊 由加利 山内 まゆみ 山本 真由美 森川 由紀
周産期医学論	講義・30時間	前期	◎山内 まゆみ 山本 真由美 森川 由紀 ★堀本 江美 ★小泉 基生 ★高野 良子 ★唯野 貢司 ★西 基
乳幼児支援論	講義・30時間	前期	◎渡邊 由加利 石引 かずみ ★小林 正樹 ★渡辺 大地
妊娠期助産診断・技術学	演習・30時間	前期	◎山内 まゆみ 石引 かずみ
分娩期助産診断・技術学	演習・60時間	前期	◎森川 由紀 渡邊 由加利 山内 まゆみ 山本 真由美 石引 かずみ ★小泉 基生
産褥期助産診断・技術学	演習・30時間	前期	◎山本 真由美 渡邊 由加利

授業科目	授業・時数 形態	年次	担当教員
助産学フィールド演習	演習・30時間	前期	◎山内 まゆみ 石引 かずみ
周産期ハイリスク援助論	演習・30時間	前期	◎★平山 恵美 ★荒木 英司 ★鈴木 伸和 ★紅粉 睦男 ★佐野 敬夫 ★中島 健夫 ★水島 正人 ★山田 俊 ★林 桐代 ★城戸 真紗美
地域母子保健論	講義・15時間	前期	◎渡邊 由加利 大野 夏代 ★山中 洋子
助産管理論	講義・15時間	前期	◎宮崎 みち子 ★山原 和恵 ★水野 栄子 ★宮下 美代子
助産学実習Ⅰ	実習・135時間	通年	◎山内 まゆみ 渡邊 由加利 山本 真由美 森川 由紀 石引 かずみ 大友 舞
助産学実習Ⅱ	実習・135時間	通年	◎森川 由紀 渡邊 由加利 山内 まゆみ 山本 真由美 石引 かずみ 大友 舞
助産学実習Ⅲ	実習・135時間	通年	◎山内 まゆみ 渡邊 由加利 山本 真由美 森川 由紀 石引 かずみ 大友 舞
助産学実習Ⅳ	実習・90時間	後期	◎渡邊 由加利 宮崎 みち子 山内 まゆみ 山本 真由美 森川 由紀 石引 かずみ 大友 舞
助産学実習Ⅴ	実習・45時間	後期	◎山本 真由美 宮崎 みち子 渡邊 由加利 山内 まゆみ 森川 由紀 石引 かずみ 大友 舞
助産学演習	演習・60時間	通年	◎渡邊 由加利 宮崎 みち子 山内 まゆみ 山本 真由美 森川 由紀 石引 かずみ 羽深 久夫 金子 晋也
助産学課題研究	演習・60時間	通年	◎宮崎 みち子 山内 まゆみ 森川 由紀

◎印：科目責任者（オムニバス形式等の場合）

★印：非常勤講師

4) 実習概要

（単位：名）

科目名	実習期間	実習機関	延べ人数
助産学実習	平成28年5月25日～平成29年2月24日	医療機関	595
	平成28年6月27日～12月16日	母子健康センター	16

8 デザインと看護の連携教育

「デザイン」・「看護」という、異なる学部の学生たちが、共に学ぶことが札幌市立大学の特色である。常識にとらわれない多彩なカリキュラムと自由な雰囲気での授業で、地域社会に根ざした豊かな人間性と柔軟な感性を育む。

1年次前期「スタートアップ演習」（共通教育科目）では、「デザインと看護の連携」をテーマに、大講義室での合同講義や少人数編成によるグループ活動、地域調査を通じ、主体的に勉学・研究を進めるための基礎的な学習方法や課題解決の手法などを学ぶ。また、調査・分析プロジェクトを通じ、地域社会に対する関心や貢献の姿勢を育てる。

平成28年度（2016年度）「スタートアップ演習」

テーマ	チーム名
新しい学食、はじまります。	ハラ'ズ チルドレン
移動式カフェ「faminity」	E.I.F
SCUツアー	DeN三郎
脱ストレス社会 ～働く世代へ自然と遊具を用いたストレス解消法と空間の提案～	とうもろ一ず
おいでよ石山緑地 ～地域活性を目指した石山緑地の再利用～	chan yu-ki
Cafe Sante ～カラダいきいきシニアカフェ～	Minamiku Active Club
理想の真駒内公園 ～まこまない大好き♡～	ヒューマンノット
藻南公園のリノベーション ～NEW藻南公園～	藻南フレンドパーク
足湯祭 ～まこまるwater festival～	どさゆさ
おいでよムクドリホーム	youは何しにむくどりへ？

3年次後期「学部連携演習」（専門教育科目）では、スタートアップ演習から2年を経て、基本的な専門教育の上に、相互の専門性を尊重し合い、それぞれがデザイン・看護の専門家として積極的に取り組む姿勢を身に付ける。両学部生を少人数グループに編成し、デザイン・看護相互に関わりのあるテーマや課題を、札幌市南区の地域に見出し、相互の学生が共同・協力しながら、課題発見・解決に取り組む。

平成28年度（2016年度）「学部連携演習」

地区	テーマ	チーム名
真駒内	真駒内地区QOL向上のためのMASACAシステムと、それをより効果的にするアイデアの提案	おやきだいすき
芸術の森	扉を開ければそこは森～touch the Art～	森のcan・bus
		森でcan・art
澄川	澄川deあったかごはん ～食を通じた世代間交流～	わくわくキッチン
	SUMI×nomi	澄川美味しいもの探検隊



地区	テーマ	チーム名
藻岩下	土砂災害対策本部 もいわした	藻岩下レスキュー1号
		藻岩下レスキュー2号
藻岩	MOI・CAM	もいわのなかまたち
	もいわどうし ～空き家を利用したゲストハウス群の提案～	尋常でわない
南沢	地域内交流で南沢を盛り上げよう！	M-ER
	市民に拓かれた市民の森づくり	MHM
石山	ICT を用いた高齢者の生活支援 ～あなたの生活守りたいしやま～	イシヤマックス
	石山コレクション	nonagon
藤野	ふじのわたり～ふじ館～	ふじのわたりーふじ館
	ふじのわたり～るび婚～	ふじのわたりーふじ婚
簾舞	発光する滑り止め用砂利「ぴりかる」と収集イベント「星集め」の提案	ピーナッツと僕
	道の駅を媒体とした通行屋の復活	あの子のらしんばん
定山溪	かっぱで活発♪定山溪！	かっぱで活発！

Ⅲ 研究活動

1 個人研究費による研究一覧

デザイン学部

教員名	研究課題
蓮見 孝	ウェルネスに着目したアート&デザインによるヘルスケアの支援と地域創生デザインに関する研究
細谷 多聞	視覚的環境情報の電子化とその活用に関する研究
城間 祥之	テキストマイニング分析手法による潜在知識抽出に関する研究
上遠野 敏	現代美術創作研究 同時代の美術研究 日本の美意識の研究
酒井 正幸	生態展示施設を活用した地域創生デザイン研究
安齋 利典	製品デザインとデザインマネジメントに関する研究（継続） 発想法（含、スケッチ、ブレインストーミング等）に関する研究
石井 雅博	知覚認知・感性の解明とその応用に関する研究
齋藤 利明	オールビスクによる創作人形制作研究と人形を主体とした空間演出
中原 宏	真駒内住宅団地の形成過程と今日的課題
羽深 久夫	北海道における歴史的建造物の保存・再生・活用 米国・東欧・北欧及び東アジア（中国・韓国・台湾）における木造建築の保存・再生・活用 日本および世界における医療施設・福祉施設の調査 世界の高等教育機関における建築教育調査と相互交流
原 俊彦	ドイツと日本における無子の増加に関する研究（継続） 超少子高齢化・人口減少社会に対応した社会保障システムのデザイン（継続） 地域社会の人口減少・少子高齢化に対する施策の研究（継続）
町田 佳世子	複数の分析手法を適用した質的データの読解
矢部 和夫	地域の湿原やその他の生態系における生物多様性の保全・再生と創出に関する研究
吉田 和夫	組織活性化におけるVI（ビジュアル・アイデンティティ）の役割とその生成について
柿山 浩一郎	学生のインタラクションに関する学びを誘発するシミュレータをもちいた教育プログラムの開発と実践
斉藤 雅也	外断熱建築のクリマデザイン
高井 真希子	地域デザインの運営組織に関する研究
武田 亘明	クリエイティブ人材育成のための実践的学びのデザイン
張 浦華	高齢化社会に対応した生活道具の提案
松井 美穂	アメリカ南部文学研究
三谷 篤史	能動アート型コミュニケーションツールの改良と効果検証
山田 信博	公営住宅の処分にに関する研究
山田 良	北欧諸国のランドスケープデザイン
石田 勝也	サウンドアンドビジュアルを使用した空間的創造性の構築
大淵 一博	タブレット型端末を活用した看護OSCE 運営・評価支援システムの運用と検証
片山 めぐみ	まちづくりの新たな担い手としての高齢者福祉施設の可能性と課題
金 秀敬	視覚情報と触覚情報の「知覚干渉効果」に関する研究
小宮 加容子	誰もが同じように参加できる、ユニバーサルな遊び場、道具のデザインに関する研究

教員名	研究課題
須之内 元洋	個人や小規模団体による文化活動のための、持続的デジタルアーカイヴプラットフォームの開発
福田 大年	多人数の知恵を多層的に蓄積し発想を促す協創型スケッチ法「クルクルスケッチ」の研究
松永 康佑	身体データに基づく模型表現
金子 晋也	住宅建築とその周辺環境における空間のポテンシャルに関する研究
矢久保 空遥	感覚質をもたらす聴触覚刺激の傾向に関する研究

看護学部

教員名	研究課題
樋之津 淳子	針刺し切創による感染を防止するための教育プログラムの開発
松浦 和代	モンゴル国における先天性股関節脱臼ハイリスク群への育児指導とその評価
山本 勝則	精神看護学におけるシミュレーション教育 患者体験の理解
宮崎 みち子	性暴力被害と女性の健康保護
中村 恵子	大学院における高度実践看護に関する研究（継続）
猪股 千代子	自然治癒力を惹起させる時空間・コミュニティの設計に関する研究
小田 和美	慢性期看護に携わる熟練看護師の療養支援の実践知の可視化に関する研究
河原田 まり子	ソーシャル・キャピタルを活用した地域保健活動の推進
川村 三希子	高齢がん患者が主体的に疼痛コントロールに取り組むための多職種による患者教育プログラムの開発
定廣 和香子	実習安全に向けたFDプログラムの開発
スーディ神崎 和代	在宅終末期ケアに関する国際比較研究 E-KURASHIに関する研究 認知症に関する研究
上村 浩太	小児看護OSCEに対する研修会ニーズ
大野 夏代	マッサージなど看護技術や統合医療に関する研究 国際的活動の計画や評価に関する研究
貝谷 敏子	皮膚・排泄ケア認定看護師による地域連携に関連する診療報酬算定の実態調査
神島 滋子	病棟看護師の看護記録の実態と認識
菊地 ひろみ	新卒看護師の進路選択としての在宅看護に関する研究 ICT遠隔看護の利用状況と効果検証
清水 光子	都市に暮らす高齢者のソーシャル・キャピタルの実態と今後の地域保健福祉活動
菅原 美樹	わが国の専門看護師のコンピテンシーに関する文献検討
古都 昌子	看護学生のキャリア発達支援および看護師の就業継続支援に関連した研究 看護学生の臨地実習における環境の実態と改善策の検討に関連した研究
村松 真澄	地域包括ケアの中で先駆的に実施されている質のよい高齢者・障害者支援に関する基礎調査
守村 洋	メンタルヘルスに関する研究（主として精神障害セルフヘルプ・グループへの地域生活支援および自殺予防に関する研究）
渡邊 由加利	妊娠期・育児期にある女性のwell-beingの状態と関連する要因の検討
工藤 京子	呼吸器疾患患者の吸入デバイス使用状況
小坂 美智代	経口抗がん剤治療を受けるがん患者のセルフマネジメントを支える看護システム
櫻井 繭子	産業保健活動のシステムに関する研究

教員名	研究課題
田中 広美	看護実践における学習に関する研究
原井 美佳	中年期女性の尿失禁リスク要因解明と尿失禁への対処行動促進に関する研究
藤井 瑞恵	維持透析患者の地域格差と精神的健康との関係
三上 智子	小学校児童へのいのちの教育実践と自己効力感の関連
森川 由紀	生殖補助医療によって出産した女性の育児期の体験
矢野 祐美子	看護師のエンパワーメント経験の分析
山内 まゆみ	助産師の業務能力の実態調査－助産実践能力習熟段階レベルⅢ認証制度開始後の助産師の現状－
山本 真由美	小児混合病棟の看護に関する管理的視点からの検討－20年間の文献検討から－
石引 かずみ	わが国の正常出産におけるマタニティケアシステムの違いによる経済効率の比較－助産師主導の院内助産と医師主導の医療施設に焦点をあてて－
小田嶋 裕輝	2型糖尿病患者の首尾一貫感を高める患者教育プログラムの開発と検証
柏倉 大作	術後回復強化プロトコルを活用した看護ケアガイドラインの構築 動画を活用した自己学習支援型のシミュレーション教育に関する研究
近藤 圭子	都市部に居住する高齢者のうつ状態に関連する要因
田仲 里江	地域保健分野におけるソーシャル・キャピタルに関する研究
坂東 奈穂美	多様な人材で構成されたチームの協働
檜山 明子	入院患者に対する転倒予防対策に関する研究
御厩 美登里	在宅死を可能にする在宅ケア基盤づくりの方略 北海道内での訪問看護業務中の交通事故の実態
大友 舞	妊婦の冷えに関する文献検討
中田 亜由美	札幌市南区における高齢者の外出困難要因の明確化
星 幸江	札幌市の精神科長期入院患者の地域移行支援に向けた看護師の連携のあり方～東京都井の頭病院視察・地域移行/地域定着支援に係る懇談会参加から～
横川 亜希子	看護学生のコミュニケーションに対する意識の変化－学年ごとの意識の変化とその契機に着目して－ 大学に初めて就職した助手・助教が就職後に直面する問題と問題への自己対処に関する研究 医療事故当事者に対する支援方法

2 学内公募研究課題一覧

学術奨励研究

教員名	研究課題
金 秀敬	文字カタチの「情報範囲」に着目した「文字デザイン指標」検討に関する実証研究
近藤 圭子	農村地域在住高齢者における特定健康診査結果および自己効力感とQOLに関する研究
矢久保 空遥	共通した印象をもたらす聴触覚刺激にみる刺激変化パターンの共通性

共同研究

教員名	研究課題
◎松浦 和代・安齋 利典 上村 浩太・三上 智子 矢久保 空遥	モンゴル国におけるICT活用による保護者向け自己学習教材「先天性股関節脱臼の予防ケア」の試作とその評価
◎山田 良	北方圏寒冷地における冬の風景美を利用したランドスケープデザインに関する研究ーフィンランド・ラップランド市におけるデザイン実践と市民ワークショップを通じてー
◎小宮 加容子	ユニバーサルな参加・蓄積型の遊びにおける遊び場およびツールのデザイン提案
◎藤井 瑞恵・樋之津 淳子 山本 勝則・中村 恵子 古都 昌子・矢野 祐美子 坂東 奈穂美	大学と医療施設の協働による中堅看護師研修の企画・実施と効果検証
◎金子 晋也・村松 真澄 中田 亜由美	北海道過疎地域における地域包括ケアからみたまちづくりのあり方に関する基礎研究

◎印：代表者

田村ICT基金

教員名	研究課題
◎福田 大年	身近な資源を活かしたコンテンツ制作を促すアプリケーションを地域観光へ応用展開するための基礎的研究
◎松永 康佑	雪像の三次元データを用いたデジタルアーカイブの構築 ～VR 技術を利用した仮想札幌雪まつりの制作～（継続）

◎印：代表者

採択状況

学術奨励研究		共同研究		田村ICT基金		合計	
応募件数	採択件数	応募件数	採択件数	応募件数	採択件数	応募件数	採択件数
8	3	8	5	1	1	17	9

3 学外からの研究費、研究補助金などの受入状況

科学研究費助成事業（科研費）

研究代表者	研究課題	研究種目	金額（円）
工藤 京子	北海道における患者を主体とした自助行動としてのHOT患者災害時避難システム	基盤研究（C）	598,098
菅原 美樹	高度実践看護師の臨床推論・判断能力を強化するシミュレーション教育プログラムの開発	基盤研究（C）	967,935
石井 雅博	視対象への能動的関与による視聴覚の変調	基盤研究（C）	650,000
湯川 崇	積雪寒冷地における住宅地の雪処理に配慮した住宅設計システムの開発	基盤研究（C）	780,000
原井 美佳	中年期女性の尿失禁リスク要因解明と尿失禁への対処行動促進に関する研究	基盤研究（C）	1,300,000
定廣 和香子	学生による医療事故防止に向けた実習安全FD展開モデルの開発	基盤研究（C）	1,040,000
菊地 ひろみ	多発性硬化症患者に対する認知行動療法の導入およびアウトカム評価	基盤研究（C）	1,300,000
川村 三希子	認知症高齢がん患者の疼痛マネジメントの質の向上を目指した疼痛アセスメント指標の開発	基盤研究（C）	1,430,000
スーディ神崎 和代	在宅死を可能にするための在宅ケア基盤づくりの方略－フィンランドと日本の比較	基盤研究（C）	780,000
斉藤 雅也	小学児童の想像温度に基づく地域住育プログラムの開発研究	挑戦的萌芽	1,040,000
片山 めぐみ	高揚感記録モバイルアプリ開発による新しい景観資源収集と観光客誘致の仕掛けづくり	若手研究（A）	520,000
小田嶋 裕輝	2型糖尿病患者の首尾一貫感を高めるための患者教育プログラムの作成と検証	若手研究（B）	390,000
望月 由美子	ヴェスパシアーノ・ゴンザーガの肖像研究：16世紀スペイン統治下のイタリア美術政策	研究活動 スタート支援	1,300,000
石田 勝也	地域の精密な環境情報を使用したデータビジュアライズの公共空間への応用	基盤研究（C）	1,300,000
田中 広美	看護職者の職務遂行困難状況に対するレジリエンス向上支援の研究	基盤研究（C）	390,000
原 俊彦	北海道・札幌市の人口減少、その未来への対応－地域人口分析システムの構築	基盤研究（C）	650,000
三上 智子	小児看護OSCEにおける課題のピアレビューとネットワークの構築	基盤研究（C）	1,820,000
平尾 明美	コーパス分析に基づく救急看護教育支援のためのデータベースの構築及び解析	基盤研究（C）	910,000
村松 真澄	口腔ケアシミュレーションモデルの開発	挑戦的萌芽	650,000
檜山 明子	患者の活動を妨げない転倒予防看護－転倒リスク行動アセスメントツールの有用性検証－	若手研究（B）	910,000
柏倉 大作	術後回復強化プロトコルを活用した看護ケアガイドラインの構築	若手研究（B）	780,000
田仲 里江	市町村保健師との協働によるタブレット型保健指導教材システムのプロトタイプ開発	若手研究（B）	910,000

研究代表者	研究課題	研究種目	金額（円）
福田 大年	スケッチを活用した協創型グループディスカッションの手法の構築	若手研究（B）	1,040,000
金 秀敬	知覚情報間「干渉構造」に着目した「マルチモーダル評価モデル」提案に関する実証研究	研究活動 スタート支援	1,560,000
城間 祥之	テキストマイニング分析手法による「地域創生デザイン」志向潜在知識抽出に関する研究	基盤研究（C）	1,820,000
町田 佳世子	専門家による知の伝達－双方向的な解説手法の確立と検証	基盤研究（C）	910,000
矢部 和夫	農地からの養分・塩類負荷がボックのミズゴケ類の生育に及ぼす影響の解析	基盤研究（C）	1,690,000
山本 真由美	看護実績能力を向上させるための教材開発と評価－装着型産褥子宮モデル	基盤研究（C）	2,730,000
貝谷 敏子	介護保険施設における効率性の高い褥瘡管理体制の構築と評価	基盤研究（C）	1,300,000
菅原 美樹	クリティカルケア看護における専門看護師の直接的ケアコンピテンシーと到達度	基盤研究（C）	1,040,000
松浦 和代	モンゴル国における先天性股関節脱臼ハイリスク群への育児指導とその評価	基盤研究（C）	2,080,000
金子 晋也	寒冷地の住宅建築の活用実態と変容過程に関する研究	若手研究（B）	1,560,000

※課題番号順

科学研究費助成事業基盤研究A（科研A）

研究代表者	研究課題	研究種目	金額（円）
蓮見 孝	「拡張キャンパス型地域連携」による過疎市町村の自律的創生デザイン研究	基盤研究（A）	13,130,000

①概要

本研究は大都市の有するリソースのうち大学の機能と効用に着目し、このリソースを少子高齢化の著しい周辺過疎市町村へ拡大適用する「拡張キャンパス型地域連携プログラム（以下ACPと略記）」の創出を目的とするものです。ACPの適用により、周辺過疎市町村の自律的な活性化を促し、同時に当該大学における教育効果を高めるためには、どのような課題を解決し、どのようなプロセスを経て実現していくべきかを実証実験により解明します。

具体的には、研究対象フィールドを北海道地域とし、大都市として札幌市、また周辺過疎市町村として有珠郡壮瞥町を取り上げます。札幌市内に立地する札幌市立大学と壮瞥町の住民・産業界の連携によるACPを通じて、若年層を中心とした連携地域間の人的交流促進、地域産業の活性化、住民のQOL向上を図り、本研究で得られた成果を「自律的創生支援デザイン」の主要な方法論のひとつとして位置づけ、同学門分野の体系化に活用します。

平成28年度は、教育プログラムの設計を行い、実践、評価しました。具体的には「授業型学び」「PBL（Project Based Learning）型学び」「WS（Workshop）型学び」「FW（Field Work）型学び」の4つの学びを検証の対象とし、地域創生のためのデザイン学に対する受講生の意識変化を探りました。

まず、講師1名がスライド等を用いて口頭で講義を行い受講生複数名が個々に聴講した【授業型学び】を全3回実施しました。参加者は全3回の総数で、札幌市立大学学生が24名、壮瞥町商工会青年部員が30名でした。

つづいて、講師2名が運営役となり、受講生が4名程度×3グループとなり提案を行った【PBL型学び】を3日間の集中講義的に実施しました。参加者は、札幌市立大学学生10名、壮瞥町商工会青年部5名でした。

さらに、講師1名と補助教員が運営役となり、受講生が5名程度×2グループとなり提案を行った【WS型学び】を3日間の合宿形式で実施しました。参加者は、札幌市立大学学生10名、壮瞥町商工会青年部8名でした。

最後に、教員3名と補助職員が引率役となり、受講生が5名程度×3グループとなり調査を行った【FW型学び】を3日間の宿泊を伴うフィールド調査形式で実施しました。参加者は、札幌市立大学学生8名、壮瞥町商工会青年部3名でした。

以上4種類の「教育効果の質」を明らかにすることをめざし、各参加者の意識変化を定量的に捉えることを目的としたアンケート（【デザイン】に対する考え方がどのように変化するか）を実施しました。結果、ACPパッケージ型教育体験プログラムの参加が進むにつれ、学生および青年部ともに「表現力」に関する評価が低下していく傾向に加え、壮瞥町商工会青年部が捉える“デザイン”が【表現などに関連する仕事】から【問題解決要件と関連する仕事】という認識に変化していった可能性が示されました。以上から、各教育の型がデザイン学のどのような要素の向上に寄与するものなのかを明らかにすることができました。 また、地域の魅力調査手法としてGPSロガーを開発し【FW型学び】で試用を行いました。いくつかの課題が明らかになり次年度以降の改善の必要性が明らかとなりました。	
②実施体制 研究代表者：蓮見 孝 研究分担者：城間 祥之、酒井 正幸、原 俊彦、柿山浩一郎、斉藤 雅也、山田 良、片山めぐみ、金 秀敬、矢久保空遥、上田 裕文 研究補助員：南部 麻子、塚田 愛可	
③研究組織 統括、教育体系、地域貢献体系、基礎研究体系、事務局	
④主な事業実績	
年月日	事業実績
平成28年10月7日	【授業型学び】第1回 「拡張キャンパス型地域連携」（酒井 正幸 特任教授） @芸術の森キャンパス（受講生：壮瞥町商工会青年部4名、札幌市立大学学生4名）
平成28年10月14日・21日	【授業型学び】第2回 「いわゆるデザインの基本」（柿山浩一郎 准教授） @壮瞥町商工会 会議室（受講生：壮瞥町商工会青年部18名） @芸術の森キャンパス（受講生：札幌市立大学学生6名）
平成28年10月21日	【授業型学び】第3回 「地域創生デザイン概論」（蓮見 孝教授） @サテライトキャンパス（受講生：壮瞥町商工会青年部8名、札幌市立大学学生14名）
平成28年11月16日～18日	【PBL型学び】 ＜「サービスデザイン」を用いたお土産のデザイン＞（上田 裕文 准教授（北海道大学）、片山めぐみ 講師） @サテライトキャンパス（受講生：壮瞥町商工会青年部5名、札幌市立大学学生10名）
平成28年12月2日～4日	【WS型学び】＜壮瞥町を訪れる観光客に提供する「体験型ツーリズム（WS）」の提案＞（矢久保空遥 助教） @壮瞥町（受講生：壮瞥町商工会青年部8名、札幌市立大学学生10名）
平成29年2月27日～3月1日	【FW型学び】 ＜「環津軽海峡パートナーシップ」フィールドワーク＞（酒井 正幸 特任教授、金 秀敬 講師、矢久保空遥 助教） @北海道道南～青森県（受講生：壮瞥町商工会青年部3名、札幌市立大学学生8名）

受託研究費

研究代表者	研究課題	委託者	金額（円）
松浦 和代	北海道産針葉樹材を活用した新規木質部材開発	(株)ハルキ	700,000
酒井 正幸	「円山動物園の森」ビオトープの一般公開に向けた基礎研究	札幌市（環境局）	500,000
矢部 和夫	キウシト湿原植生調査研究	登別市	500,000
矢部 和夫	平岡公園人工湿地・池に係る植物生育等環境調査研究	(財)札幌市公園緑化協会	792,720
斉藤 雅也	建設作業所における作業員の空調服着用による作業環境の改善効果評価と熱ストレス評価ツールの基礎的検討	(株)竹中工務店技術研究所	350,000
斉藤 雅也	新類人猿館の基本デザイン研究	札幌市（環境局）	800,000
三谷 篤史	防水性を活用したクッションに関する研究	フィールド・クラブ(株)	730,000
小宮 加容子	多世代交流を促す遊びに関する基礎的研究業務	札幌市（子ども未来局）	2,454,526
福田 大年	ホッキョクグマ・アザラシ館（仮称）およびゾウ舎（仮称）のサイン計画研究	札幌市（環境局）	700,000
松永 康佑	移住を促進する映像プロモーション手法に関する調査・研究	札幌市（まちづくり政策局）	2,880,900
藪谷 祐介	真駒内地域におけるリノベーションまちづくりの手法検討に関する研究業務	札幌市（まちづくり政策局）	2,091,512

共同研究費

研究代表者	研究課題	委託者	金額（円）
安齋 利典	非開示	三菱電機(株)	非開示

4 寄附金の受入状況

教員名	寄附目的	寄附元	金額（円）
酒井 正幸	パラリンピックへの理解を深め、障害者スポーツについて多角的に考究するため、市民・学生向け講座を実施する	北海道オリパラの会	50,000
矢部 和夫	「ウトナイ湖北岸における湿生草原の再生手法検討ー現地での堰上げ実験を想定した事前調査ー」に対する研究助成	(公財)リバーフロント研究所	800,000
村松 真澄	看護・福祉などにおけるボランティア活動を含む御校の教育研究および地域連携活動に賛同し、教員および学生のさらなる活躍、地域の発展のため	フィールド・クラブ(株)	200,000
KANAえる基金(看護学部看護学研究科)	札幌市立大学の看護学に関わる教育研究活動の充実や人材育成を通じた社会貢献等を図るため	JA北海道厚生連札幌厚生病院	210,000

KANAえる基金(看護学部看護学研究科)	札幌市立大学の看護学に関わる教育研究活動の充実や人材育成を通じた社会貢献等を図るため	(公財)北海道勤労者医療協会	100,000
KANAえる基金(看護学部看護学研究科)	札幌市立大学の看護学に関わる教育研究活動の充実や人材育成を通じた社会貢献等を図るため	加藤 登紀子	100,000
KANAえる基金(看護学部看護学研究科)	札幌市立大学の看護学に関わる教育研究活動の充実や人材育成を通じた社会貢献等を図るため	中村 恵子	742,007

5 海外出張記録

期間	教員名	目的国	目的
平成28年4月19日 ～24日	スーディ神崎 和代	ハンガリー	第31回国際アルツハイマー病学会議(31st International Conference of Alzheimer's Disease International) 参加および発表
平成28年5月10日 ～15日	河原田 まり子	スペイン	第18回国際女性心理医学会(ISPOG 2016) 参加
平成28年5月12日 ～20日	石井 雅博	アメリカ合衆国	視覚科学学会年次大会(Vision Sciences Society) 参加および発表、情報収集
平成28年5月30日 ～6月5日	三谷 篤史	フランス	第9回パン・ヌーメリックに参加し、作品展示を行う
平成28年6月8日 ～14日	川村 三希子	アイルランド	第9回 ヨーロッパ緩和医療学会 発表参加
平成28年7月9日 ～16日	原 俊彦	オーストリア	学会参加報告(第3回国際社会学会 社会学フォーラム Third ISA Forum of Sociology)
平成28年8月6日 ～12日	宮崎 みち子	アメリカ合衆国	第22回世界医事法学会参加
平成28年8月10日 ～12日	村松 真澄	イギリス	高齢者の口腔ケアの情報交換
平成28年8月14日 ～18日	矢久保 空遥	モンゴル	現地ブロードバンド環境の確認と撮影、インタビュー
平成28年8月14日 ～20日	安齋 利典	モンゴル	共同研究「モンゴル国におけるICT活用による保護者向け自己学習教材『先天性股関節脱臼の予防ケア』の施策とその評価」の調査等
平成28年8月14日 ～20日	上村 浩太	モンゴル	モンゴル国における先天性股関節脱臼ハイリスク郡への育児指導とその評価
平成28年8月14日 ～20日	松浦 和代	モンゴル	専門技術研修会の開催
平成28年8月15日 ～29日	山田 良	イタリア	広場の造形研究における基礎調査
平成28年8月28日 ～9月3日	松井 美穂	アメリカ合衆国	テキサス大学オースティン校図書館 Harry Ransom CenterでCarson McCullersの資料調査
平成28年8月30日 ～9月5日	須之内 元洋	ラオス	定点映像撮影・録音・サウンドマップ作成によるサウンドスケープ調査
平成28年9月7日 ～16日	羽深 久夫	フィンランド、エストニア	歴史的建造物と建築学部専門教育の実態調査(フィンランド)、歴史的建造物の保存活用の実態調査(エストニア)

期間	教員名	目的国	目的
平成28年9月20日 ～24日	檜山 明子	アメリカ合衆国	International Association of Risk Management in Medicine参加
平成28年10月5日 ～9日	張 浦華	台湾	ANBD（アジアネットワークビヨンドデザイン組織）ANBD理事会、展覧会準備、作品見学及びオープニングセレモニー参加、ANBD事務局と事前打ち合せ
平成28年10月8日 ～12日	斉藤 雅也	ドイツ、チェコ	オランウータン舎デザインのための事例視察
平成28年10月8日 ～19日	金 秀敬	フィンランド	文字カタチの「情報範囲」に着目した「文字デザイン指標」検討に関する実験
平成28年10月30日 ～11月2日	蓮見 孝	中国	清華大学美術学院設立60周年式典・歓迎会・見学
平成28年10月30日 ～11月2日	上遠野 敏	中国	清華大学美術学院60周年式典参加（式典、フォーラム、大学美術館見学など）
平成28年10月30日 ～11月6日	張 浦華	中国	清華大学美術学院設立60周年式典参加及びデザイン教育と共同研究に関する意見交換
平成28年11月1日 ～7日	スーディ神崎 和代	ニュージーランド	Alzheimers New Zealand Conference 2016 口頭発表と学術集会参加
平成28年11月25日 ～12月5日	三谷 篤史	スリランカ	口腔ケアシミュレータ用センサに関する打ち合わせおよび試作
平成29年1月24日 ～30日	スーディ神崎 和代	フィンランド	北欧都市部の学生と市民の「在宅死に対する考え」を調査
平成29年3月6日 ～16日	山田 良	ノルウェー	北方圏の空間デザインに関する共同研究（共同研究者との打ち合わせ並びに仮設空間作品の制作、建築視察）
平成29年3月8日 ～11日	檜山 明子	香港	20th East Asian Forum of Nursing Scholars参加
平成29年3月21日 ～29日	羽深 久夫	イタリア	ローマ市における世界遺産の保存活用の現地調査
平成29年3月23日 ～31日	村松 真澄	アメリカ合衆国	高齢者口腔ケア、口腔ケアシミュレータ、口腔ケア教育についての視察及び意見交換
平成29年3月23日 ～31日	三谷 篤史	アメリカ合衆国	高齢者口腔ケア、口腔ケアシミュレータ、口腔ケア教育についての視察及び意見交換



IV 社会活動

1 地域貢献諸活動

1) 受託研究一覧

研究課題	期間	概要	委託者
建設作業所における作業員の空調服着用による作業環境の改善効果評価と熱ストレス評価ツールの基礎的検討	平成28年6月27日 ～9月30日	夏季の建設作業所で働く作業員を対象とした空調服による暑熱環境の緩和効果を把握するために、温熱環境実測と人体エクセルギー収支モデルによる熱ストレス評価ツールの検討を行なった。	(株)竹中工務店 技術研究所
キウシト湿原植生調査研究	平成28年6月30日 ～平成29年3月10日	希少な動植物の生息地である「キウシト湿原」の植生状況等の調査を行い、当湿原を適正に保全するための方法を検討することを目的とした。	登別市
真駒内地域におけるリノベーションまちづくりの手法検討に関する研究業務	平成28年6月30日 ～平成29年3月24日	「真駒内リノベーションまちづくり構想（案）」の立案を通じて、空間資源を活用した公民連携型まちづくり手法の真駒内における可能性を検討することを目的とした。	札幌市 (まちづくり 政策局)
北海道産針葉樹材を活用した新規木質部材開発	平成28年7月8日 ～平成29年2月28日	木質病室ユニットのサンプル評価を行い、医療従事者側からみた様々な課題を踏まえて製品の改良を行なった。木質ユニットが患者の健康面及び働き手に与える影響などさらに踏み込んだ研究を実施した。	(株)ハルキ
移住を促進する映像プロモーション手法に関する調査・研究	平成28年7月14日 ～平成29年3月20日	全国の移住PR映像について調査を行い、観光PRビデオに終わらず、移住へとつながることをコンセプトとした、札幌市の特色を生かした移住PR映像を制作した。全国の移住を考えている層や、新たな移住のニーズ層を掘り起こすことで、札幌市の人口減少の緩和並びに活性化を目的とした。	札幌市 (まちづくり 政策局)
多世代交流を促す遊びに関する基礎的研究業務	平成28年7月14日 ～平成29年3月24日	多世代交流を促す遊びの基礎的研究として、伝承遊びの中からお手玉、あやとり、けん玉、ヨーヨーの調査を行ない、伝承遊びに音情報を付加することで、遊びの発展と交流を促すプロトタイプモデル「オトボン」を制作した。	札幌市 (子ども未来 局)
ホッキョクグマ・アザラシ館（仮称）およびゾウ舎（仮称）のサイン計画研究	平成28年8月3日 ～平成29年2月28日	札幌市円山動物園の新施設ホッキョクグマ・アザラシ館（仮称）、ゾウ舎（仮称）の飼育展示・サイン計画のデザイン監修を目的に飼育展示・サイン計画のグランドデザインを計画した。	札幌市 (環境局)
「円山動物園の森」ビオトープの一般公開に向けた基礎研究	平成28年8月3日 ～平成29年2月28日	円山動物園の森で計画する一般公開に向け、準備活動を行なった。 ・他類似施設調査に基づくユニバーサルデザイン視点からの改善提案 ・森内昆虫、植物の現状調査 ・主要植物の種名版デザイン案作成 ・森のガイドマップデザイン案作成 ・子供向け昆虫イベントの支援 ・動物園の森協議会再構築に向けての提言	札幌市 (環境局)



研究課題	期間	概要	委託者
新類人猿館の基本デザイン研究	平成28年8月3日 ～平成29年2月28日	積雪寒冷気候下で、熱帯に生息するオランウータン及びシロテナガザルの生態に配慮した屋内施設デザインに関する提案及び、施設全体のユニバーサルデザインに関する提案を行った。	札幌市 (環境局)
平岡公園人工湿地・池に係る植物生育等環境調査研究	平成28年8月19日 ～平成29年2月24日	人工湿地・池の生態系について、これまで5年ごとに行われてきたモニタリングを継続し、順応的な植生管理のための基礎的な情報を得た。	(財)札幌市公園緑化協会
防水性を活用したクッションに関する研究	平成28年12月16日 ～平成29年3月24日	ウレタンの加工成形技術と、撥水性・防水塗料のコーティング技術を用いた車椅子等に使用するクッションの開発を目指し、その第一段階として、撥水性・防汚性およびデザイン性の効果を検証した。	フィールド・クラブ(株)

2) 共同研究（学外との連携）一覧

事業名	期間	概要	担当教員	共同研究者
該当なし				

3) 受託事業一覧

事業名	期間	概要	担当教員	委託者
該当なし				



4) 地域連携研究センターへの協力依頼一覧

事業名	依頼元	担当教員
敬老優待乗車証ICカード券面デザイン作成事業	札幌市（保健福祉局）	吉田 和夫
南区まちナカアート（自動販売機ラッピング）	札幌市（南区）	吉田 和夫 大淵 一博
市立札幌病院 ホスピタルアート	札幌市（病院局）	小宮 加容子
手造通（てあるとおり）プロジェクト	発寒商店街振興組合	山田 良
三吉神社例大祭	札幌大通まちづくり(株)	上遠野 敏
南区の魅力をPRするオリジナル商品開発事業	札幌市（南区）	大淵 一博
きょうされんイベントのデザイン制作	きょうされん北海道支部	福田 大年
南区オリジナルうちわの制作事業	札幌市（南区）	吉田 和夫 大淵 一博
Connekid！inそらのガーデン「たいようキラキラ花さかキッズ」	札幌駅総合開発(株)	小宮 加容子
「No Maps」インタラクティブクリエイターセミナー	クリプトン・フューチャー・メディア(株)	須之内 元洋
理容所・美容所衛生管理講習会の受講証デザイン	札幌市（保健福祉局）	小宮 加容子
南区の魅力をPRする啓発品製作事業	札幌市（南区）	大淵 一博
もりの仲間のさわやかクラブハツラツ介護予防	芸術の森地区社会福祉協議会	村松 真澄
もりの仲間のさわやかクラブハツラツ介護予防	芸術の森地区社会福祉協議会	坂東 奈穂美 小田 和美
札幌国際芸術祭2017NMAライブ・ビデオアーカイブ	札幌国際芸術祭実行委員会	須之内 元洋
札幌市えほん図書館開館100日前イベント	札幌市（教育委員会）	小宮 加容子
イラストデザイン制作業務	(一財)さっぽろ健康スポーツ財団	福田 大年
テニスパークへのシンボルとなるPR用水飲み場（平岸配水池）	札幌市（水道局）	山田 良
札幌市グリーンティングカード作成事業	札幌市（総務局）	大淵 一博
第7回ミニ大通お散歩まつり	ミニ大通お散歩まつり実行委員会	村松 真澄
障害者差別解消法に係る周知用ポスターのデザイン作成について	札幌市（保健福祉局）	松永 康佑
子どもの外遊びに関わるスタッフ育成講座③ファーストエイド講座	NPO法人さっぽろAMスポーツクラブ	原井 美佳 坂東 奈穂美
「浮世絵師 歌川国芳展」ポスター制作に関わる宣伝事業	札幌芸術の森美術館	羽深 久夫
第22回 芸術の森地区文化祭	芸術の森地区連合会	羽深 久夫
琴似地区におけるSNRサービス検証WS	AVCテクノロジー(株)	柿山 浩一郎
積雪地域における遊び場のデザインプロジェクト	NPO法人さっぽろAMスポーツクラブ	山田 良 藪谷 祐介
藻岩下元気ハツラツ健康まつり	札幌市南区藻岩下地区連合会	近藤 圭子 坂東 奈穂美
北海道医療福祉産業研究会ロゴマークデザイン作成	北海道医療福祉産業研究会	吉田 和夫



事業名	依頼元	担当教員
楽しく遊ぼう！札幌市立大学lab！オヘソ ハロウィン	(株)大丸松坂屋百貨店	小宮 加容子
ペロタクシーツアーMAPづくり	NPO法人さっぽろAMスポーツクラブ	福田 大年
北海道アール・ブリュット2016 in 岩見沢	北海道アール・ブリュットネットワーク協議会	小宮 加容子
清田区誕生20周年記念ロゴマークデザインデータ化業務	札幌市（清田区）	吉田 和夫
札幌市 移住促進リーフレットのデザイン制作	札幌市（まちづくり政策局）	吉田 和夫
藻岩地区健康づくりふれあい交流会	藻岩地区社会福祉協議会	菊地 ひろみ
チ・カ・ホ北2条広場子ども向けプログラミング体験ワークショップ	特定非営利活動法人 札幌市IT振興普及推進協議会	石田 勝也
特殊詐欺防止啓発ポスター制作事業	北海道コカ・コーラボトリング(株)	大淵 一博
小規模事業者地域力活用新事業全国展開支援事業「アイヌ文化を基軸としたインバウンド向け滞在型観光の新規開発事業」	白老町	片山 めぐみ
平成28年度 町内会加入促進啓発事業	札幌市（市民文化局）	上遠野 敏
議会図書室特別展示	北海道議会事務局	小宮 加容子
東急百貨店札幌店 さっぽろ駅前保育園事業	(株)東急百貨店	山田 良



5) 高大連携

① デザイン学部 第10回高大連携公開講座

開催日	高校名	受講生徒数	テーマ・科目名	担当教員
平成28年9月18日	北海道札幌旭丘高等学校 北海道札幌開成高等学校 北海道札幌清田高等学校 北海道札幌新川高等学校 北海道札幌平岸高等学校 北海道札幌藻岩高等学校 市立札幌開成中等教育学校	40名	様々なインターフェースを使ったサウンドアンドビジュアル空間の構築	石田 勝也

② 看護学部 高大連携講座

開催日・期間	高校名	受講生徒数	テーマ・科目名	担当教員
平成28年4月5日 ～平成29年2月2日	北海道札幌旭丘高等学校 北海道札幌清田高等学校 北海道札幌新川高等学校 北海道札幌藻岩高等学校 北海道札幌平岸高等学校 北海道札幌開成高等学校	33名	7名 看護学原論 (講義・15時間)	◎定廣 和香子 猪股 千代子
			5名 地域保健学概論 (講義・15時間)	◎清水 光子 河原田 まり子
			7名 人間発達援助論 (演習・30時間)	◎山本 勝則 松浦 和代 小田 和美 宮崎 みち子 村松 真澄
			7名 チーム医療論 (講義・15時間)	◎坂東 奈穂美 猪股 千代子 矢野 祐美子
			7名 国際看護学 (講義・15時間)	◎大野 夏代 スーディ神崎和代

◎印：科目責任者（オムニバス形式などの場合）

③ 看護学部 模擬授業

開催日・期間	高校名	受講生徒数	テーマ・科目名	担当教員
平成28年9月19日	北海道札幌旭丘高等学校 市立札幌大通高等学校 北海道札幌新川高等学校 北海道札幌開成高等学校 北海道札幌平岸高等学校 北海道札幌清田高等学校 北海道札幌啓北商業高等学校 北海道札幌藻岩高等学校	132名	問う、聞く、確認する一心 の健康を支援するために	山本 勝則
			症状からみる脳の不思議	神島 滋子



6) 高校出前講義

デザイン学部

開催日	高校名	テーマ	担当教員
平成28年6月27日	北海道札幌厚別高等学校	3DCGにおけるキャラクター表現	松永 康佑
平成28年7月22日	北海道帯広緑陽高等学校	五感に響くデザイン環境とその効果	矢久保 空遥
平成28年8月30日	北海道旭川北高等学校	数学・色彩・感性～デザインと関わるアレコレ～	大淵 一博
平成28年11月2日	北海道札幌新川高等学校	北海道の建築	金子 晋也
平成28年11月8日	北海道札幌旭丘高等学校	身近なグラフィックデザイン	吉田 和夫
平成28年11月9日	北海道札幌清田高等学校	五感に響くデザイン表現とその効果	矢久保 空遥
平成28年12月8日、15日、平成29年1月19日、26日	北海道札幌手稲高等学校	人々に優しい生活道具のデザインを考えよう	張 浦華
平成28年12月9日	北海道苫小牧東高等学校	これのどこがデザインと言える？	金 秀敬

看護学部

開催日	高校名	テーマ	担当教員
平成28年6月27日	北海道札幌厚別高等学校	妊産婦死亡	宮崎 みち子
平成28年7月14日	北海道室蘭清水丘高等学校	母性看護学	宮崎 みち子
平成28年9月2日	北海道札幌新川高等学校	健康科学エリア	スーディ神崎 和代
平成28年10月28日	北海道札幌藻岩高等学校	小児看護とプレパレーション	上村 浩太
平成28年11月2日	北海道札幌新川高等学校	人間にとっての排泄および排泄援助を考えるー看護職として大切にしたいことー	古都 昌子



7) その他の地域貢献諸活動

デザイン学部

教員名	内容	主催者	参加学生数	参加日・期間
蓮見 孝	デザイン委員	東海旅客鉄道(株)		平成28年4月 ～平成29年3月
城間 祥之	理事として、IT事業の普及事業等の選定・決定	NPO法人「札幌ITフロント」		平成28年6月25日
	講演会参加／運営	札幌なにかかができる経済人ネットワーク	4名	平成28年12月5日
上遠野 敏	炭鉱の記憶推進事業団運営委員	NPO炭鉱の記憶推進事業団		
酒井 正幸	(編)北海道共同募金会広報企画委員会委員長	(編)北海道共同募金		平成28年4月 ～平成29年3月
	理事長	(緋)北のユニバーサルデザイン協議会		平成28年4月 ～平成29年3月
石井 雅博	幹事	視覚科学技術コンソーシアム		平成23年～
羽深 久夫	札幌市南区「こまおか夏祭り」実行委員会 委員	札幌市南区「こまおか夏祭り」実行委員会		平成28年4月～9月
	南区花マップの作成（10,000部印刷し、10連合町内会の回覧板に回覧した）平成28年7月発行	札幌市南区花のよるまちづくり連絡会		平成28年4月～9月
	札幌市南区定山溪地区まちづくり協議会委員	札幌市南区定山溪地区まちづくり協議会		平成28年4月 ～平成29年3月
	札幌市南区芸術の森地区まちづくり推進会議 特別委員	札幌市南区芸術の森地区まちづくり推進会議		平成28年4月 ～平成29年3月
	札幌市南区芸術の森地区「雪明かりの祭典」実行委員会 委員	札幌市南区芸術の森地区「雪明かりの祭典」実行委員会		平成28年4月 ～平成29年2月
	札幌市南区石山地区まちづくり協議会委員（石山商店街振興組合理事として）	札幌市南区石山地区まちづくり協議会		平成28年4月 ～平成29年3月
	芸術の森フラワーロードに花を咲かせる会 会員	芸術の森フラワーロードに花を咲かせる会		平成28年4月 ～平成29年3月
	北海道中小企業家同友会札幌支部南地区会 会員	北海道中小企業家同友会		平成28年4月 ～平成29年3月
	札幌市南区商店街連絡協議会 会員	札幌市南区商店街連絡協議会		平成28年4月 ～平成29年3月
	芸術の森地区文化祭実行委員会 委員	芸術の森地区連合会		
町田佳世子	北海道・東北ブロック研究会ヤングスピーチコンテスト運営	BPW苫小牧アソシエーツ		平成28年11月5日
	ファシリテーターの基本スキルに関する講演会企画・実施	BPW札幌クラブ		平成28年11月15日
	内閣府共催事業 国・地方連携会議ネットワークを活用した男女共同参画推進事業企画・運営	BPW札幌クラブ・特定非営利活動法人日本BPW連合会		平成28年11月19日
矢部 和夫	湿原再生のアドバイザーとしての役割	(緋)フラット南幌		平成28年4月 ～平成29年3月



教員名	内容	主催者	参加学生数	参加日・期間
矢部 和夫	道内の自然を守る活動（常務理事）	(一社)北海道自然保護協会		平成28年4月 ～平成29年3月
	湿原植生のアドバイザーとしての役割	(俳)キウシト湿原の会	1名	平成28年4月 ～平成29年3月
	湿原を守る活動（副理事長）	(一社)湿原研究所	2名	平成28年4月 ～平成29年3月
	陶芸を中心とする物づくり体験、自然体験や食育に関する事業を行う（理事）	(俳)風の村学舎	1名	平成28年4月 ～平成29年3月
吉田 和夫	自動販売機ラッピングデザインに関わる地域住民とのワークショップ及びデザイン制作（参加学生7名）	札幌市（南区）	7名	～平成28年6月
	敬老優待乗車証ICカードデザイン	札幌市（保健福祉局）	7名	平成28年5月～8月
	南区オリジナルうちわの制作事業	札幌市（南区）		平成28年6月
	シンボルマークデザイン作成	北海道医療福祉産業研究会	10名	平成28年6月～11月
	「ペレットストーブ」ブランディング活動産学連携開発協力事業	(株)ふじ研究所	8名	平成28年11月 ～平成29年3月
	札幌市移住促進リーフレットのデザイン制作	札幌市（まちづくり政策局）	1名	平成28年12月 ～平成29年1月
	清田区誕生20周年記念ロゴマークデザインデータ化業務	札幌市（清田区）	1名	平成28年12月 ～平成29年3月
斉藤 雅也	建築環境分野 専門委員	北海道トップランナーネットワーク構築会議 (HTNC)		平成28年4月 ～平成29年3月
	[トークショー]さっぽろ垂氷まつり in summer つららと住まう北の建築	SIAFラボ (Sapporo International Art Festival)	1名	平成28年8月27日
	[レクチャー・講評・関連パネル展示]さっぽろ垂氷まつり つらら建築ハッカソン	SIAFラボ (Sapporo International Art Festival)		平成29年2月5日
武田 亘明	web・ドメイン・サーバ管理、運営・外部対応などに関する活動	情報と教育フォーラム「オンコの木」		平成28年4月 ～平成29年3月
	web・ドメイン・サーバ管理、運営・外部対応などに関する活動	ハイパー風土記札幌 InterCityOroppas運営委員会		平成28年4月 ～平成29年3月
	web・ドメイン・サーバ管理、運営・外部対応などに関する活動	ネットワークコミュニティフォーラム事務局		平成28年4月 ～平成29年3月
	理事。会運営に関する活動	北海道高齢者ハートフル共同住宅・地域ケア協議会		平成28年4月 ～平成29年3月
	副会長、北海道支部長。web・ドメイン管理およびメディア教育に関する情報交流	教育とコンピュータ利用研究会		平成28年4月 ～平成29年3月
	代表。障害者就労支援、人材育成支援およびメディア戦略検討プロジェクト等の主催	北海道企画デザイン研究会	6名	平成28年4月 ～平成29年3月
三谷 篤史	メカトロ積み木等の展示活動	青少年のための科学の祭典in北海道	2名	平成28年7月17日
	道内の学生を対象としたロボコンの実施・運営	ロボット・トライアスロン運営委員会	7名	平成28年9月25日



教員名	内容	主催者	参加学生数	参加日・期間
三谷 篤史	大学生による科学教室の実施	札幌市青少年科学館	3名	平成29年2月11日
山田 良	クラフト通り企画・運営・ディレクション	発寒地区商店街	5名	平成28年4月～10月
	ゆきあかりイベント・ディレクション	関口雄輝美術館	5名	平成29年1月
石田 勝也	広報活動支援（ウェブ）	簾舞まちづくりセンター		平成28年4月 ～平成29年3月
大淵 一博	自動販売機ラッピングデザイン制作指導等	北海道コカ・コーラボトリング	7名	平成28年4月～10月
	オリジナル商品（ストラップ・熊ベル）制作指導等	滝野すずらん公園	1名	平成28年5月～6月
	南区PRグッズ（うちわ・エコバッグ・手ぬぐい）のデザイン制作指導等	札幌市（南区）	7/1/3名	平成28年6月、7月、平成29年3月
	特殊詐欺防止啓発ポスターデザイン制作指導等	北海道警察	5名	平成28年12月 ～平成29年3月
片山めぐみ	あいの里地域のまちづくりワークショップ開催	(編)悠生会		平成28年4月～6月
	住民参加による地域交流拠点の企画と改修デザイン	(株)グロリアホーム		平成28年4月～8月
	アイヌ文化を基軸としたインバウンド向け滞在型観光の新規開発事業	白老町		平成28年10月 ～平成29年3月
小宮加容子	市立札幌病院ホスピタルアートの提案	札幌市立病院	7名	平成28年5月6日 ～平成29年3月31日
	子ども向け遊びイベント「コネキッド2016 in そらのガーデン「たいようキラキラ花さかキッズ」」の実施	札幌駅前総合(株)	28名	平成28年6月17日 ～8月6日
	札幌市えほん図書館開館100日イベントの実施	札幌市教育委員会中央図書館	4名	平成28年7月26日 ～30日
	アートワークショップの実施	北海道アール・ブリュットネットワーク協議会	8名	平成28年10月8日 ～13日
	子ども向け遊びイベント「楽しく遊ぼう！札幌市立大学あそびlab!オヘソ ハロウィンイベント」の実施	(株)大丸松坂屋百貨店大丸札幌店	12名	平成28年10月12日 ～31日
金子 晋也	羽幌町地域おこし協力隊の活動支援	羽幌町地域おこし協力隊		平成28年8月6日 ～7日
	地域包括ケアシステムに関する支援	京極町		平成28年9月13日
	赤レンガ庁舎の活用を考えるワークショップ	乃村工藝社		平成28年10月9日
	ふれあいの家での高齢者イベント参加、交流	台町高齢者を支援するボランティアの会	4名	平成29年2月17日
	ストリートファニチャーに関する支援	札幌市（建設局）		平成29年2月22日



看護学部

教員名	内容	主催者	参加学生数	参加日・期間
松浦 和代	メカトロ積み木等の展示活動	青少年科学館		平成28年7月1日
宮崎みち子	外部顧問として運営に従事	ゆいネット北海道		平成28年4月 ～平成29年3月
	運営委員	性暴力被害者支援センター北海道		平成28年4月 ～平成29年3月
猪股千代子	難病患者と家族のための統合医療ケア	ハマナス音楽&看護療法研究会		平成28年5月20日、 7月8日、10月7日、 11月11日、平成29 年2月3日
	全人的健康と統合医療ケアの理論と実践法の学習	北海道統合医療研究会		平成28年6月12日、 8月28日、11月13 日、平成29年2月26 日
	「病院で働く看護職員の心の健康セルフケア研修のアウトカム」研究	病院で働く看護職員の心の健康セルフケア研修のアウトカム」研究代表者		平成28年6月14日、 22日、7月6日、21 日、8月3日、19 日、9月9日、29日
小田 和美	もりの仲間さわやかクラブ ハツラツ介護予防 健康チェック等	芸術の森地区社会福祉協議会・福祉のまち推進センター		平成28年8月26日
	南区健康まつり企画、運営（実行委員）	札幌市南区		平成28年9月29日
	まこまち2016 健康チェック等	札幌市南区		平成28年11月12日
川村三希子	がん患者と家族に対する緩和ケア病棟見学会	(株)市民と共に創るホスピスケアの会		平成28年6月2日、 10月26日
	がん患者に対して地下歩行空間でがん相談を実施	(株)市民と共に創るホスピスケアの会		平成28年7月10日
	がん患者に対してリンパ浮腫予防の講義と演習を実施	(株)市民と共に創るホスピスケアの会		平成28年9月10日
	札幌市内のホスピスに従事する医療者の研修会企画運営	札幌ホスピス緩和ケアネットワーク		平成28年12月2日
大野 夏代	看護師によるマッサージボランティア活動	手稲溪仁会病院ボランティア		平成28年5月20日、 6月24日、7月22 日、29日、9月16 日、10月7日、21 日、11月25日、12 月2日、平成29年1 月13日、2月10日、 3月10日
	医療通訳	(株)エスニコ		平成28年10月15 日、平成29年2月11 日
神島 滋子	アンケート調査などに関する相談など	高次脳機能障害友の会コロポックル		平成28年6月 ～平成29年3月
菊地ひろみ	幹事	札幌ホスピス緩和ケアネットワーク		平成28年5月



教員名	内容	主催者	参加学生数	参加日・期間
村松 真澄	口腔ケア及び健口体操の体験コーナー	芸術の森地区社会福祉協議会ふくしの町推進センター委員会	4名	平成28年8月26日
	こころとからだの健康のお話に耳を傾けてみませんか?、と子ども達への歯の健康のクイズや人形劇	ミニ大通りお散歩まつり実行委員会	19名	平成28年9月11日
	オレンジカフェのお手伝い	(編)愛全会特別養護老人ホームサン・グレイス	5名	平成28年9月14日
	健康セミナー、3つのブースを設け、生協の宅配食展示や栄養補助食品・介護食の展示、健口体操の指導	南区区役所	13名	平成28年9月29日
	セミナー歯輝歯輝	(俳)炭鉱の記憶推進事業団	4名	平成28年10月29日
	食支援、最期まで食べられる口づくりを目指してのボランティア	日本口腔看護研究会	4名	平成28年11月5日
	食支援アートー看護技術(アート)としてのスプーンテクニックの可視化ができるかの野ボランティア	アートミーツケア学会	3名	平成28年11月6日
渡邊由加利	性暴力被害者支援センター北海道 運営委員	(俳)ゆいねっと北海道		平成28年4月 ～平成29年3月
	「おしゃべりサロン」夫婦会議で夫婦の強みを発見!	渡邊主催		平成28年9月4日
	健康フェスタ	札幌市中央区保健センター		平成28年10月8日
工藤 京子	役員会出席、医療講演会の企画と運営、会報誌発行の補助、総会の司会、関係者への挨拶まわり	北海道低肺の会(患者団体)		平成28年4月 ～平成29年3月
原井 美佳	ボランティア(受付業務)	アートミーツケア学会 2016年度総会		平成28年11月6日
藤井 瑞恵	医療講座「糖尿病の基礎知識と糖尿病予防」の企画・実施支援	札幌中央図書館	3名	平成28年9月4日
	食育ネットワーク委員	札幌市(保健福祉局)		平成29年2月21日
近藤 圭子	桑園地区の地域行事への学生ボランティア協力の引率・支援(大運動会)	桑園地区連合町内会	10名	平成28年9月4日
	桑園地区の地域行事への学生ボランティア協力の引率・支援(文化祭)	桑園地区連合町内会	11名	平成28年10月16日
田仲 里江	桑園地区のまちづくりセンターでの行事に学生と参加	桑園児童会館、 青少年育成委員会共催	11名	平成29年1月28日
御厩美登里	事務局担当	北海道ホームヘルスケア研究会		平成28年4月 ～平成29年3月

教育支援プロジェクトセンター

教員名	内容	主催者	参加学生数	参加日・期間
簀谷 祐介	積雪地域における遊び場のデザインプロジェクト	NPO法人さっぽろAMスポーツクラブ	14名	平成28年10月8日、9日



8) マスメディアへの掲載

デザイン学部

教 員 名	内 容	掲載媒体	掲載日
上 遠 野 敏	私に好きなこの一本「ストリート・オブ・クロコダイル」	O.tone	平成28年8月5日
	地域の誇りアートで伝承 旧奔別で野外展 あすから写真、動物パネル展示	北海道新聞	平成28年9月30日
	芸術で再生 炭鉱の記憶 三笠 旧住友奔別炭鉱などで野外展	北海道新聞	平成28年10月3日
	炭鉱遺産 アートで光る 旧住友奔別炭鉱「保存につなげる機会に」 札幌市立大学生の作品7点展示	毎日新聞	平成28年10月13日
中 原 宏	区新聞103号（南区新聞）真駒内駅直結の文化ホールを	北海道新聞	平成28年9月27日
	冬季五輪・パラ誘致 魅力、影響 大学の視点で	北海道新聞	平成29年2月18日
羽 深 久 夫	ハイブリッドな貴婦人 豊平館	JR北海道車内誌 (The JR Hokkaido No.343,pp.5-10)	平成28年9月1日
	築108年 旧山口邸調査	苫小牧民報	平成28年10月15日
	古民家再生2例目 山口家住宅	北海道新聞	平成28年10月18日
	豊平館 よく見れば非対称	北海道新聞	平成29年1月18日
原 俊 彦	65歳以上の割合最速で増	北海道新聞	平成28年4月18日
	札幌の人口まもなく減るの？	北海道新聞	平成28年9月8日
	就労機会の拡充や敬老パスの見直しも	北海道新聞	平成28年12月8日
	基本方針方向性まとめる	介護新聞	平成28年12月15日
	月曜討論 高齢者の定義「75歳以上に」	北海道新聞	平成29年2月20日
吉 田 和 夫	南区～自販機ラッピング～（4分程度）	JCOM	平成28年10月4日
	南区～自販機ラッピング～	北海道新聞	平成28年10月4日
	敬老パス来春にICカード化	北海道新聞	平成28年12月15日
柿 山 浩 一 郎	コトニ元気プロジェクト始動	北海道新聞 西区新聞	平成28年5月31日
	札幌市立大など、健康データのクラウド管理を実験	日本経済新聞	平成28年7月15日
	「地域創生」研究地に 札幌市立大と商工会が連携	室蘭民報社	平成28年10月26日
	雪上走行対応のパーソナルモビリティ開発へ	日刊工業新聞全国版	平成28年11月24日
	冬の炎 ポスターも熱く 市民ギャラリー 12日まで作品展	北海道新聞	平成29年2月9日
斉 藤 雅 也	夏でも冬でも快適生活 北海道で過ごす毎日	北海道新聞	平成28年5月28日
	冬の室内での乾きをどのように防ぐか	AIR-G' FM北海道 80.4 brilliant days	平成28年12月1日
張 浦 華	冬の炎 ポスターも熱く 市民ギャラリー 12日まで作品展	北海道新聞	平成29年2月9日
三 谷 篤 史	札幌ふるさと再発見～札幌市立大学の取り組み	STV	平成28年9月24日
	デイリーニュース	JCOM	平成29年2月17日



教 員 名	内 容	掲載媒体	掲載日
山 田 良	北海道立近代美術館／海拔ゼロメートル／石狩低地帯	ARCHIDAILY	平成28年6月
	北海道立近代美術館／海拔ゼロメートル／石狩低地帯	北海道新聞	平成28年6月
大 淵 一 博	滝野すずらん公園ストラップ	北海道新聞	平成28年6月2日
	自販機ラッピング	北海道新聞	平成28年10月4日
	2017 冬季アジア札幌大会 参加記念メダル制作	北海道新聞	平成28年11月17日
	札幌市長グリーティングカード制作	札幌市Webサイト	平成28年12月19日
	南区まちなかアート（南区をイメージした手ぬぐい展）	北海道新聞	平成29年2月21日
片 山 め ぐ み	有休施設を交流場所に一日高 活用考える講演会	北海道新聞	平成28年5月19日
	まちづくりの拠点に地域交流室活用を一札幌・特養白ゆりあいの里が「お茶の間会議」一町内会、住民、大学生らが意見交換	北海道新聞	平成28年6月16日
	地域活性化の拠点に一日高・富川グロリアホーム有休施設で催し続々	北海道新聞	平成28年8月10日
小 宮 加 容 子	感性育みキッズデザイン賞 札幌市大「とうめいおえかき」	北海道新聞	平成28年10月22日
	アール・ブリュットフォーラム障がい者の力を活かそう	プレス空知	平成28年11月16日
	アールブリュット2016 障がい者の個性豊かな作品	北海道新聞	平成28年11月18日
	市立大生考案 心に残る木のおもちや	北海道新聞	平成29年2月7日
	木のおもちや 札幌市立大生考案	北海道新聞（旭川版）	平成29年2月17日
須之内元洋	インターネット空間からアートプロジェクトのアーカイブを見る	アーツカウンシル東京・広報媒体	平成29年3月
福 田 大 年	広告時評（全4回）	アド道新	平成28年5月～
松 永 康 佑	リズムに乗って手話ゲーム-札幌市大が開発、ジェスチャー認識デバイスで採点	日刊工業新聞	平成29年3月31日

看護学部

教 員 名	内 容	掲載媒体	掲載日
松 浦 和 代	森町の製材会社、札幌市立大などと連携 病室の壁に木を使って	北海道新聞	平成29年1月18日
	木の香りで安らぎを 道産木材使った病室好評 森町の業者と札幌市大が連携	毎日新聞	平成29年1月30日
	病室内装に動産木材を「プロジェクト」が成果発表	北海道新聞	平成29年1月31日
	病院に木のぬくもりを 道南杉活用 病室ユニット考案	北海道医療新聞	平成29年2月3日
	ハルキ 道南スギ有効利用へ 大型家具の病室ユニット開発	北海道建設新聞	平成29年2月9日
	道産材 ぬくもり病室でも 森の業者 札幌市立大などと内装材開発	朝日新聞	平成29年3月4日
川 村 三 希 子	がんを防ごう 「街なかカフェ」市民に情報提供	北海道新聞	平成28年7月17日



教 員 名	内 容	掲載媒体	掲載日
上村 浩太	ACU まなびシェアキッズワークショップ2016	北海道テレビHTBイチオン	平成28年11月23日
	森町の製材会社、札幌市立大などと連携「病室の壁に木を使って」	北海道新聞	平成29年1月18日
	道産木材 木の香りで安らぎを 道産木材使った病室好評 森町の業者と札幌市大が連携	毎日新聞	平成29年1月30日
	病室内装に道産木材を 「プロジェクト」が成果発表	北海道新聞	平成29年1月31日
	病院に木のぬくもりを 道南杉活用 病室ユニット考案	北海道医療新聞	平成29年2月3日
	ハルキ 道南スギ有効利用へ 大型家具の病室ユニット開発	北海道建設新聞	平成29年2月9日
	道産材 ぬくもり病室でも 森の業者 札幌市立大などと内装材開発	朝日新聞	平成29年3月4日
村松 真澄	もりの時間で札幌市立大学看護学部地域交流ボランティア同好会actの活動紹介学生と一緒に出演（ミニ大通りお散歩まつり）	ラジオカロスサッポロ	平成28年8月29日
	日本歯科産業学会会報No.54	日本歯科産業学会会報No.54	平成28年9月
三上 智子	森町の製材会社、札幌市立大などと連携 病室の壁に木を使って	北海道新聞	平成29年1月18日
	木の香りで安らぎを 道産木材使った病室好評 森町の業者と札幌市大が連携	毎日新聞	平成29年1月30日
	病室内装に道産木材を「プロジェクト」が成果発表	北海道新聞	平成29年1月31日
	病院に木のぬくもりを 道南杉活用 病室ユニット考案	北海道医療新聞	平成29年2月3日
	ハルキ 道南スギ有効利用へ 大型家具の病室ユニット開発	北海道建設新聞	平成29年2月9日
	道産材 ぬくもり病室でも 森の業者 札幌市立大などと内装材開発	朝日新聞	平成29年3月4日
田仲 里江	<がんを防ごう 子宮頸がん どう身を守る> 中*若者の検診*抵抗感薄め受診促す	北海道新聞	平成28年4月13日
	<学びing>受診率向上へ「未来を守ろうプロジェクト」3年目*子宮頸がん検診 学生が啓発に力*冊子作製、ツイッター活用…*日ハム戦で自作映像も	北海道新聞	平成28年6月28日
	<がんを防ごう>昼食ついでに子宮頸がん検診を*札幌の学生グループがマップ作成	北海道新聞	平成28年7月20日
	札幌市がん対策推進プランのキックオフイベント	北海道新聞	平成29年3月15日
御厩美 登里	「受きたい医療 事前指示書で」	北海道新聞	平成28年5月11日

教育支援プロジェクトセンター

教 員 名	内 容	掲載媒体	掲載日
鯨谷 祐介	主役も客も結城紬 結城で結婚披露宴	茨城新聞	平成28年5月22日
	やぐら覆う大風呂敷製作	北海道新聞	平成28年8月3日
	芸術の森地区社協シンボルマーク	北海道新聞	平成28年12月27日



2 公開講座開催実績

1) 札幌市立大学主催

開催日	タイトル	講師／企画	受講者数(名)
平成28年4月10日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 ロボット競技会講習会①	三谷 篤史 (デザイン学部)	11
平成28年4月24日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 ロボット競技会講習会②	三谷 篤史 (デザイン学部)	19
平成28年5月15日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 ロボット競技会講習会③	三谷 篤史 (デザイン学部)	23
平成28年5月29日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 ロボット競技会講習会④	三谷 篤史 (デザイン学部)	10
平成28年6月4日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 エドウィン・ダンと真駒内のまち①	園家 廣子 (エドウィン・ダン記念館 説明員)	31
平成28年6月11日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 エドウィン・ダンと真駒内のまち②	中原 宏 (デザイン学部)	26
平成28年6月11日	訪問看護スキルアップ講座 2016①	村松 真澄 (看護学部) 菊地 ひろみ (看護学部)	37
平成28年6月19日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 ロボット競技会講習会⑤	三谷 篤史 (デザイン学部)	25
平成28年6月25日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 エドウィン・ダンと真駒内のまち③	中原 宏 (デザイン学部)	9
平成28年6月25日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 親子メカトロ教室「走れ！ロボットカー」	三谷 篤史 (デザイン学部) 花島 直彦・梶原 秀一 (室蘭工業大 学) 江丸 貴紀 (北海道大学)	30
平成28年7月1日	ナースだって癒されたいー自分を大切にする 心のケア体験研修	猪股 千代子 (看護学部) 大野 夏代 (看護学部) 大瀧 真美 (ヨガ療法士)	12
平成28年7月3日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 立体お面工作スタジオ①	石井 雅博 (デザイン学部) 松永 康佑 (デザイン学部)	6
平成28年7月3日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 立体お面工作スタジオ②	石井 雅博 (デザイン学部) 松永 康佑 (デザイン学部)	6
平成28年7月17日 ・18日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 ロボット競技会講習会⑥	三谷 篤史 (デザイン学部)	10
平成28年7月23日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 昆虫のデザイン	酒井 正幸 (デザイン学部)	15
平成28年7月26日	「気持ち良い体験」をしよう～呼吸法・マッ サージによる医療者のセルフケアのススメ～	大野 夏代 (看護学部) 山本 勝則 (看護学部) 鶴木 恭子 (天使大学) 山本 礼美子 (看護師)	38
平成28年7月28日	伝えよう「気持ち良い体験」をしよう～他者 に行う呼吸法・マッサージ～	大野 夏代 (看護学部) 山本 勝則 (看護学部) 鶴木 恭子 (天使大学) 山本 礼美子 (看護師)	19
平成28年7月30日	事前指示書の意味と書き方	スーディ神崎和代 (看護学部) ／御厩 美登里 (看護学部)	21



開催日	タイトル	講師／企画	受講者数(名)
平成28年8月2日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 まちの健康応援ミニ出張講座① ～助産学専攻科教員によるミニ講座～	山本 真由美 (看護学部)	7
平成28年8月21日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 ロボット競技会講習会⑦	三谷 篤史 (デザイン学部)	10
平成28年8月27日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 デザイン・アートと数学①	大渕 一博 (デザイン学部) 松永 康佑 (デザイン学部)	8
平成28年9月3日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 デザイン・アートと数学②	大渕 一博 (デザイン学部) 松永 康佑 (デザイン学部)	6
平成28年9月22日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 ロボット競技会講習会⑧	三谷 篤史 (デザイン学部)	11
平成28年10月1日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 オリンピック・パラリンピックと都市計画	中原 宏 (デザイン学部)	26
平成28年10月2日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 ロボット競技会講習会⑨	三谷 篤史 (デザイン学部)	13
平成28年10月21日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 健康づくりを市民と共に	近藤 圭子 (デザイン学部)	9
平成28年10月23日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 ロボット競技会講習会⑩	三谷 篤史 (デザイン学部)	20
平成28年10月30日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 「在宅医療」知っていますか？ 家で最期まで療養したい人に①	中田 亜由美 (看護学部) 市原 美穂 (全国ホームホスピス協会)	27
平成28年11月4日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 札幌オリンピック・パラリンピック招致に向けて	酒井 正幸 (デザイン学部)	17
平成28年11月6日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 ロボット競技会講習会⑪	三谷 篤史 (デザイン学部)	17
平成28年11月12日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 団地再生の最前線	山田 信博 (デザイン学部)	17
平成28年11月12日	訪問看護スキルアップ講座 2016②	スーディ神崎和代 (看護学部) ／菊地 ひろみ (看護学部)	62
平成28年11月12日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 私の脳は大丈夫？	神島 滋子 (看護学部)	16
平成28年11月13日	パフェ評論家 斧屋が語る 「札幌シメパフェ学」	斧屋 (パフェ評論家) 福田 大年 (デザイン学部)	62
平成28年11月19日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 認知症～みんなで一緒に考えよう～①	近藤 圭子 (デザイン学部)	10
平成28年11月20日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 ロボット競技会講習会⑫	三谷 篤史 (デザイン学部)	15
平成28年12月4日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 「在宅医療」知っていますか？ 家で最期まで療養したい人に②	中田 亜由美 (看護学部) 秋山 正子 (東京都暮らしの保健室)	19
平成28年12月10日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 丈夫な骨を作ろう！	原井 美佳 (デザイン学部)	4
平成28年12月17日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 パリの街とデザイン	安齋 利典 (デザイン学部)	14
平成28年12月17日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 初心者のための中国語講座	酒井 正幸 (デザイン学部) 張 浦華 (デザイン学部)	14



開催日	タイトル	講師／企画	受講者数(名)
平成28年12月21日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 まちの健康応援室ミニ出張講座② ～助産学専攻科教員によるミニ講座～	森川 由紀（看護学部）	5
平成29年1月7日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 冬のメカトロ講座	三谷 篤史（デザイン学部）	10
平成29年1月28日	クリエイティブ・コーディング・スクールin さっぽろ2017①	田所 淳（東京芸術大学）	17
平成29年2月5日	クリエイティブ・コーディング・スクールin さっぽろ2017②	石田 勝也（デザイン学部）	8
平成29年2月12日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 「在宅医療」知っていますか？ 家で最期まで療養したい人に③	中田 亜由美（看護学部）	25
平成29年2月14日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 まちの健康応援室ミニ出張講座③ ～助産学専攻科教員によるミニ講座～	石引 かずみ（看護学部）	10
平成29年2月26日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 真駒内のエリアリノベーションを考える	簗谷 祐介（教育支援プロジェクトセンター）	83
平成29年2月26日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 ロボット競技会講習会⑬	三谷 篤史（デザイン学部）	10
平成29年3月11日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 こころの健康講座	守村 洋（看護学部）	5
平成29年3月19日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 ロボット競技会講習会⑭	三谷 篤史（デザイン学部）	10
平成29年3月19日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 ロボット競技会講習会⑮	三谷 篤史（デザイン学部）	10
平成29年3月19日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 ロボット競技会講習会⑯	三谷 篤史（デザイン学部）	23
平成29年3月23日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 ウェルネス・ハピネスを高める 地域医療×まちづくり	斉藤 雅也（デザイン学部） 紅谷 浩之（福井市オレンジホームケアクリニック）	46

2) 共催講座：「さっぽろ市民カレッジ」連携講座

開催日	タイトル	講師／企画	受講者数(名)
平成28年7月19日	札幌市の文化財建造物をたどる＜夏＞ ～豊平館～	羽深 久夫（デザイン学部） 松岡 洋一（札幌市市民文化局文化部 文化財課文化財 保護指導員）	18
平成28年7月26日	札幌市の文化財建造物をたどる＜夏＞ ～豊平館～	羽深 久夫（デザイン学部） 松岡 洋一（札幌市市民文化局文化部 文化財課文化財 保護指導員）	18
平成28年10月18日	札幌の文化財建造物をたどる＜秋＞ ～創成川イースト協会～	羽深 久夫（デザイン学部） 松岡 洋一（札幌市市民文化局文化部 文化財課文化財 保護指導員）	32
平成28年10月25日	札幌の文化財建造物をたどる＜秋＞ ～千歳鶴、二条市場周辺～	羽深 久夫（デザイン学部） 松岡 洋一（札幌市市民文化局文化部 文化財課文化財 保護指導員）	32
平成29年2月28日	札幌の文化財建造物探訪＜冬＞ ～赤レンガ～	羽深 久夫（デザイン学部） 松岡 洋一（札幌市市民文化局文化部 文化財課文化財 保護指導員）	18



開催日	タイトル	講師／企画	受講者数(名)
平成29年3月7日	札幌の文化財建造物探訪〈冬〉 ～時計台～	羽深 久夫（デザイン学部） 松岡 洋一（札幌市市民文化局文化部 文化財課文化財 保護指導員）	21

3) 共催講座：「知活（ちいき）ゼミナール」

開催日	タイトル	講師／企画	受講者数(名)
平成28年10月15日	心と体の健康「樹木の香りを利用する」「認知症について、予防の観点から」	近藤 圭子（看護学部） 脇田 陽一（道総研林業試験場） コーディネーター：小田 和美（看護学部）	50



3 国・自治体審議会等への就任状況

デザイン学部

教員名	名称／役職	自治体名・主催団体名
蓮見 孝	SAPPOROショートフェスト実行委員会／顧問	SAPPOROショートフェスト実行委員会
	茨城県総合計画審議会／副会長	茨城県
	冬季アジア札幌大会+AND特別コラボレーション展／委員	ANBD協会
	No Maps実行委員会／顧問	No Maps準備委員会
	札幌国際芸術祭実行委員会／委員（副会長）	札幌市（観光文化局）
	第85回土浦全国花火競技大会／審査委員	土浦全国花火競技大会実行委員会
	「いばらきデザインセレクション2016」審査委員会／委員長	茨城県
	茨城県まち・ひと・しごと創生会議／委員長	茨城県
	アイヌ文化を発信する空間 基本設計業務及び展示計画案作成業務実行委員会／委員長	札幌市（市民文化局）
	アイヌ文化を発信する空間検討会議／委員長	札幌市（市民文化局）
	羽鳥駅東口拠点整備検討委員会／委員長	茨城県小美玉市
	いばらぎイメージアップ大賞実行委員会／委員	いばらぎイメージアップ大賞実行委員会
	HOKKAIDO DESIEN AWARD 2016審査／審査員	㈱北海道日建設計
	地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COCプラス）「茨城と向き合い茨城に根ざし、未来を育む地域協創人材養成事業」アドバイザーボード／委員	茨城大学
	茨城県地方創生事業効果検証委員会／委員長	茨城県
	南北線コンコース整備委員会／委員長	札幌市
細谷 多聞	冬季アジア札幌大会+ANBD特別コラボレーション展／委員	ANBD協会
	札幌スタイルブランドマネジメント委員会／委員	札幌市（経済観光局）
	札幌スタイル認証審査委員会／委員長	札幌市
城間 祥之	アスベスト台帳整備に向けた建築行政業務支援システム再構築業務／委員	札幌市（都市局）
	札幌市公共交通情報提供システム再構築業務の発注に係る総合評価審査委員会／委員	札幌市（市民まちづくり局）
	IT産業海外展開支援事業ローカライズ支援補助金審査会／委員	札幌市（経済観光局）
	札幌市校務支援システムサービス提供業務受託者選定委員会／委員	札幌市教育委員会
	札幌市難病情報システム開発業務の業者選定／委員	札幌市（保健福祉局）
上遠野 敏	札幌国際芸術祭2017企画チーム参加／メンバー	創造都市さっぽろ・国際芸術祭実行委員会
	冬季アジア札幌大会+ANBD特別コラボレーション展／委員	ANBD協会
	札幌市屋外広告物審議会／委員	札幌市（建設局）
	そらち『炭鉱（やま）の記憶』で地域づくり推進会議／委員	北海道



教員名	名称／役職	自治体名・主催団体名
上 遠 野 敏	慰霊施設を象徴するモニュメント検討会／委員	北海道
酒 井 正 幸	第7回ものづくり日本大賞北海道地域選考分科会／委員	経済産業省
	札幌市円山動物園動物園の森協議会／委員	札幌市（環境局）
石 井 雅 博	科学研究費委員会／委員	(独)日本学術振興会
齋 藤 利 明	「2017アートボックス」審査／委員	札幌駅総合開発株
中 原 宏	北海道住宅対策審議会／会長	北海道
	北海道版「生涯活躍のまち」構想研究会／委員	(一社)北海道総合研究調査会
羽 深 久 夫	全国建築審査会協議会／世話人	国土交通省
	北海道建築審査会／会長	北海道
	全道建築審査会連絡会議／会長	北海道
	北海道地域づくり／アドバイザー	北海道
	札幌シーニックバイウエイ藻岩山麓定山溪ルート運営 代表者会議／副会長	札幌市（南区）
	札幌市定山溪温泉魅力アップ構想検討委員会／委員	札幌市
	豊平館アドバイザー会議／委員	札幌市
	札幌市芸術文化財団芸術の森事業部美術館専門委員会 ／委員	(公財)札幌市芸術文化財団
	札幌芸術の森運営協議会／委員	(公財)札幌市芸術文化財団
	札幌この実会盤溪の森里山推進プロジェクト2013推進 ／委員	(協)札幌この実会
	(協)藻岩この実会／理事	(協)藻岩この実会
	喜茂別町民間賃貸住宅建設促進事業公募型プロポーザ ル選定委員会／委員	喜茂別町
	喜茂別町水の郷喜茂別まちづくり振興基金事業選定審 査会／委員	喜茂別町
	喜茂別町地域防災委員会／委員	喜茂別町
	厚真町古民家再生推進協議会／委員長	厚真町
	厚真町空き家対策協議会／委員	厚真町
	栗山町歴史的建造物保存・活用検討会議／委員	栗山町
原 俊 彦	国立社会保障・人口問題研究所研究評価委員会／委員長	国立社会保障・人口問題研究所
	札幌市高齢者の社会参加支援の在り方検討委員会／委 員長	札幌市（保健福祉局）
	さっぽろ未来創生プラン推進有識者会議／委員	札幌市（まちづくり政策局）
	石狩市総合戦略推進懇話会／委員	石狩市
	厚真町まちづくり委員会／委員	厚真町
	弟子屈町総合計画審議会／委員長	弟子屈町
町 田 佳 世 子	北海道立近代美術館協議会／委員	北海道立近代美術館
	(一財)札幌市水道サービス協会／評議員	(一財)札幌市水道サービス協会
	札幌家庭裁判所／参与員	札幌家庭裁判所



教員名	名称／役職	自治体名・主催団体名
矢部 和夫	植生凡例検討委員会／委員	環境省
	石狩川下流幌向地区自然再生ワークショップ／委員長	北海道
	美々川自然再生技術検討委員会アクションプログラムワーキンググループ／委員	北海道
	平岡公園原っぱ会議／委員	札幌市（緑化推進部）
	円山動物園の森協議会／委員	札幌市（円山動物園）
	札幌芸術の森運営協議会／委員	(公財) 札幌市芸術文化財団
	美唄市宮島沼の水環境の保全と再生に関する検討議会／委員	美唄市
	平成28年度自然環境保全基礎調査植生調査に係る北海道ブロック調査会議／委員	(株)地域環境計画
	成東・東金食虫植物群落保護検討委員会作業部会／委員	成東・東金食虫植物群落保護検討委員会
	設立予定の(株)風の村学舎／理事	(株)風の村学舎
吉田 和夫	札幌この実会盤溪の森里山推進プロジェクト2013推進／委員	(編)札幌この実会
	新たな市政情報提供システム構築等業務 企画競争委員会／委員	札幌市（総務局）
	とくとく健診PRポスター図案選考委員会／委員長	札幌市（保健福祉局）
	冬季オリンピック・パラリンピック開催概要計画案市民周知等企画運営業務に係る企画競争実行委員会／委員	札幌市（スポーツ局）
	第3回生物多様性さっぽろ絵本コンテスト選考委員会／委員	札幌市（環境局）
柿山 浩一郎	札幌市広告アドバイザ会議／委員	札幌市
	冬季アジア札幌大会+ANBD特別コラボレーション展／委員	ANBD協会
高井 真希子	札幌市土地利用審査会／委員	札幌市（まちづくり政策局）
斉藤 雅也	札幌市中高層建築物紛争調整委員会／委員	札幌市（都市局）
	第10次札幌市環境保全協議会／副会長	札幌市（環境局）
	札幌市資料館保存活用検討委員会／委員	札幌市（観光文化局）
武田 亘明	平成28年度「地域学校協働活動」推進に係る文部科学大臣表彰推薦活動の選考／委員	北海道
	北海道地域の教育力向上推進会議／委員長	北海道
	第13期北海道生涯学習審議会委員会／副会長	北海道教育委員会
	第1回北海道社会教育委員会／委員	北海道教育委員会
	北海道立生涯学習推進センター業務委託契約に係る総合評価審査会／委員	北海道教育委員会
	平成28年度 北海道生涯学習審議会センター部会／委員長	北海道生涯学習審議会センター部会
	北海道札幌藻岩高等学校学校評議員会／委員	札幌市
	札幌市立西岡小学校学校評議員会／委員	札幌市
張 浦華	冬季アジア札幌大会+ANBD特別コラボレーション展／委員	ANBD協会
	最高裁判所家事調停／委員	札幌家庭裁判所



教員名	名称／役職	自治体名・主催団体名
三 谷 篤 史	北海道ロボット教育推進会／委員	北海道ロボット教育推進会
山 田 良	あけぼのアート&コミュニティセンター管理運営団体選定委員会／委員	札幌市（市民文化局）
	札幌南シーニックバイウェイ協議会／委員	札幌市
	定山溪地区まちづくり協議会／委員	札幌市
石 田 勝 也	ARTSAT×SIAFラボ／プロジェクトメンバー	札幌国際芸術祭実行委員会
片 山 めぐみ	札幌市資料館保存活用検討委員会／委員	札幌市（観光文化局）
	札幌市動物愛護管理推進協議会／委員	札幌市（保健福祉局）
	平成28年度地域活動の場整備支援事業審査委員会／委員	札幌市（市民まちづくり局）
	札幌市都市景観審議会／委員	札幌市（まちづくり政策局）
	石狩市空家等対策協議会／副座長	石狩市
	冬季アジア札幌大会+ANBD特別コラボレーション展／委員	ANBD協会
	「シニア層が活躍する地域づくりに関する調査研究」企画書審査委員会／副座長	(公財)北海道市町村振興協会
福 田 大 年	札幌スタイルブランドマネジメント委員会／委員	札幌市（経済観光局）
	(仮称) 食のまち・さっぽろフェストinチ・カ・ホ2017企画運営業務に係る企画競争実施委員会／委員	札幌市（保健福祉局）

看護学部

教員名	名称／役職	自治体名・主催団体名
樋之津 淳子	継続教育のあり方検討委員会／委員	(公社)北海道看護協会
	科学研究費委員会／専門委員	(独)日本学術振興会
松 浦 和 代	科学研究費委員会／専門委員	(独)日本学術振興会
	都市計画審議委員会／委員	札幌市（まちづくり政策局）
宮 崎 みち子	科学研究費委員会／専門委員	(独)日本学術振興会
中 村 恵 子	医道審議会 保健師助産師看護師分科会／委員	厚生労働省
	救急業務検討委員会／委員	札幌市（消防局）
	プロトコール専門委員会／委員	札幌市（保健福祉局）
	専門看護師認定委員会／委員	(公社)日本看護協会
	専門看護師認定実行委員会／委員長	(公社)日本看護協会
	研修教育事業委員会／委員	(一社)日本救急医療財団
小 田 和 美	みんなでみに区る健康まつり実行委員会／委員	札幌市（南区）
河原田 まり子	科学研究費委員会／専門委員	(独)日本学術振興会
	建築審査会／委員	北海道
	産業保健相談員	北海道産業保健総合支援センター



教員名	名称／役職	自治体名・主催団体名
川村 三希子	科学研究費委員会／専門委員	(独)日本学術振興会
	北海道がん対策推進委員会／委員	北海道
	高等教育推進機構高等教育研修センター共同利用運営委員会／委員	北海道大学
	理事	(財)日本ホスピス緩和ケア協会
	看護師教育支援委員会／委員	
	看護師教育支援委員会SPACE-Nワーキンググループ／メンバー	
スーディ神崎 和代	(仮称)札幌市ICT活用戦略策定検討有識者会議／委員	札幌市（まちづくり政策局）
	ヒトゲノム・遺伝子解析研究審査委員会／委員	札幌医科大学
	第18回日本認知症グループホーム大会／シンポジウム座長	(公社)日本認知症グループホーム協会
貝谷 敏子	ヒトゲノム・遺伝子解析研究審査委員会／委員	札幌医科大学
清水 光子	保健師機能委員会／委員	(公社)北海道看護協会
	評議員	(福)札幌市中央区社会福祉協議会
古都 昌子	役員	北海道看護教育施設協議会
村松 真澄	旭川口腔ケア普及研究会／幹事	上川中部地域歯科保健推進協議会
	みんなでみに区る健康まつり実行委員会／委員	札幌市（南区）
守村 洋	精神医療審査会／委員	北海道
	札幌市自殺対策実務担当者意見交換会／委員	札幌市（保健福祉局）
	権利擁護審査会／委員長	(福)札幌市社会福祉協議会
	札幌市社会福祉総合センター管理運営委員会／委員長	(福)札幌市社会福祉協議会
藤井 瑞恵	平成28年度中央区食育ネットワーク会議／委員	札幌市（中央区）
	医療講座／実行委員	札幌市（中央図書館）
森川 由紀	推薦委員会／委員	(公社)北海道看護協会
山内 まゆみ	保健師助産師看護師試験委員	厚生労働省
田仲 里江	子宮頸がん普及啓発プロジェクト実行委員会／委員	札幌市

教育支援プロジェクトセンター

教員名	名称／役職	自治体名・主催団体名
藪谷 祐介	芸術の森地区社会福祉協議会「シンボルマーク」選考審査会／審査委員長	芸術の森地区社会福祉協議会



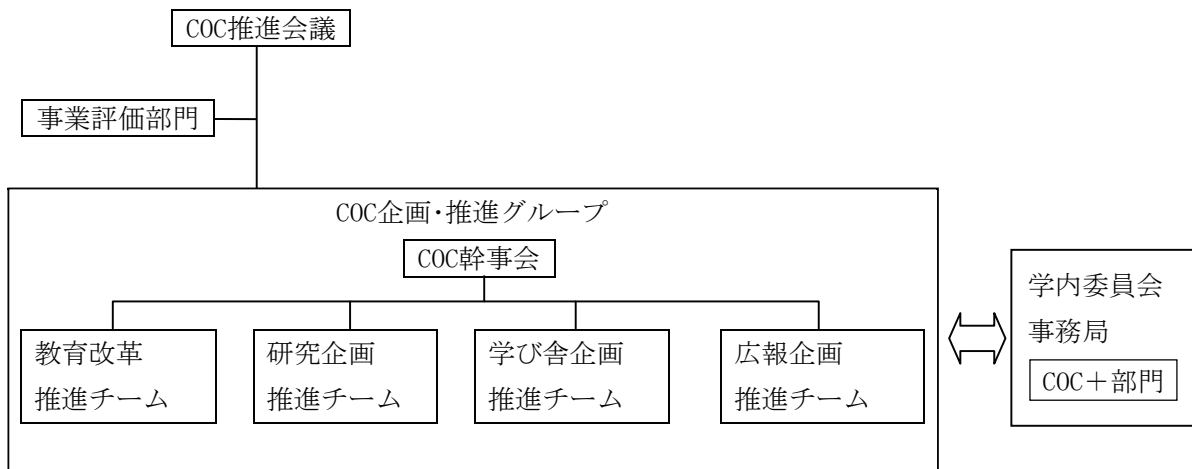
4 ウェルネス×協奏型地域社会の担い手育成「学び舎」事業（COC事業）

1) 概要

平成25年度に採択された文部科学省の「地（知）の拠点整備事業（COC）」（平成27年度から「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」）であり、本学における事業名が「ウェルネス×協奏型地域社会の担い手育成『学び舎』事業」である（事業期間：平成25～29年度）。

本事業は、地域住民や札幌市などと連携して地域を「学び舎」とした「地域志向のカリキュラム」を展開し、デザインと看護の専門性を活かした協奏型地域社会のウェルネス支援、地域の活性に貢献する人材の育成を行う。各取組は、廃校となった旧真駒内緑小学校の跡施設「まこまる」内に設置した「COCキャンパス」を中心に行う。

2) 実施体制



3) 平成28年度の主な事業実績

【教育】

- ・全学年対象の「地域プロジェクト」を自由科目として開設した。年間を通して11件のプロジェクトを教員から提示し、受講する学生に適切な指導を行った。
- ・平成28年度より再編した新カリキュラムの新科目として「学部連携基礎論」を設定した。2年次前期開講の必修科目であり、平成28年度入学生が2年次となる平成29年度に初開講となる。
- ・1年次前期に「スタートアップ演習」を開講し、「D×N（デザインと看護の連携）」をテーマに3コースに分かれ、南区各地に学生・教員チームを派遣し、プロジェクト活動を企画・実施した。
- ・3年次後期に「学部連携演習」を開講し、南区の10地区を対象とした演習授業を行い、「デザインと看護の連携」及び「地域課題の発見と提案」を目指したプロジェクト活動を企画・実施した。

【研究】

- ・COC共同研究の公募を実施し、応募があった2件について審査した結果、2件を採択した。
- ・教員が実施している「地域志向」の研究動向を実態調査した。

【地域貢献】

- ・COCキャンパスを中心に公開講座（21企画、44回）・授業公開（2科目、13回）を実施した。
- ・COCキャンパス「まちの談話室」において、図書室・談話室の運営、ばくりっこ掲示板の運営、展示企画、地域住民の交流を促す企画などを実施した。
- ・市民が講師となる「まちの先生」について、連続講座を含め全13回を開講した。
- ・COCキャンパス「まちの健康応援室」において、登録している有資格ボランティア（看護師、保健師、薬剤師、管理栄養士、健康運動指導士）のうち、11名が看護学部教員とともに血圧・



骨密度・体組成測定などの健康チェックと健康相談を週3日程度、継続的に実施した。また、各地区の町内会や地域包括支援センターなどと連携し、地域の健康イベント等に赴くアウトリーチ活動を14回（出張活動6回、公開講座3回、ちあふる・みなみミニ出張活動5回）実施した。

【その他】

- ・まこまる入居者による合同イベント「まこ×まち2016 vol.2～きて！みて！まこまる～」に併せて、COCキャンパスにおいて展示、講座、学生企画などを実施し、本学関連イベントとして588名（イベント全体で758名の来場があった。）
- ・外部委員を含むCOC評価部門会議を開催し、平成27年度の本事業について評価を受けた。
- ・本事業の活動を広くPRするため、COCウェブサイトを活用したほか、「まちの学校新聞」の発行（10月）やメールマガジンの配信などを行った。



5 専門職支援・セミナー講師等

1) 専門職支援

①認定看護管理者教育課程サードレベル

平成28年度受講者29名（修了者29名）

開催期間	教科目/時間	単元	授業形態・時数	講師
第Ⅰ期（12日間） 平成28年8月22日 ～9月6日 第Ⅱ期（14日間） 平成28年10月31日 ～11月18日 第Ⅲ期（12日間） 平成29年1月10日 ～1月25日	保健医療福祉政策論/36時間	1.社会保障の概念	講義(3)	★天田 孝
		2.諸外国の保健医療福祉	講義(3)	スーディ神崎和代
		3.保健医療福祉政策	講義(6)	★鈴木 欣哉
		4.看護制度・政策	講義(6)	★齋藤 訓子
		5.制度・政策に影響を及ぼす看護管理者	講義(3)	★齋藤 訓子
		6.保健医療福祉政策演習	演習(9)	★工藤 昭子 ★佐藤 美貴子 ★須田 倫子 ★立花 枝美子 ★辻崎 ゆり子 ★仁木 恵美子 猪股 千代子 古都 昌子
		7.小論文プレゼンテーション	演習(6)	中村 恵子 猪股 千代子 古都 昌子
	保健医療福祉組織論/30時間	1.保健医療福祉サービスのマーケティング	講義(6)	★松下 博宣
		2.組織デザイン論	講義(6)	★永池 京子
		3.ヘルスケアサービスの創造	講義(6)	★砂山 圭子 スーディ神崎和代
		4.保健医療福祉組織論統括演習	演習(12)	★勝見 真澄 ★小澄 悦子 ★佐々木 純子 ★執賀 愛子 ★土井 正子 ★中村 敦子 猪股 千代子 古都 昌子
	経営管理論/60時間	1.医療福祉と経済論	講義(6)	★高橋 泰
		2.医療福祉経営	講義(6)	★工藤 高
		3.財務管理	講義(6)	★玉川 真弓
		4.経営分析	講義(6)	★富永 誠
		5.ヘルスケアサービスの経営と質管理・経済性	講義(9)	★児玉 真利子 ★須田 倫子 ★宮城 領子
		6.看護経営の今後のあり方	講義(6)	★齋竹 一子 ★深澤 優子



開催期間	教科目/時間	単元	授業形態・時数	講師
第Ⅰ期（12日間） 平成28年8月22日 ～9月6日 第Ⅱ期（14日間） 平成28年10月31日 ～11月18日 第Ⅲ期（12日間） 平成29年1月10日 ～1月25日	経営管理論/60時間	7.労務管理	講義(6)	★櫛引 久丸 ★和田 昌代
		8.人材フローのマネジメント	講義(3)	★樋口 春美
		9.危機管理	講義(3)	★加藤 久美子
		10.経営管理論演習	演習(9)	★生江 裕子 ★佐藤 ひとみ ★中野 りか ★萩原 直美 ★樋渡 ひとみ ★本庄 睦子 猪股 千代子 古都 昌子
	看護経営者論/51時間	1.経営者論	講義(6)	中村 恵子
		2.管理者の倫理的意思決定	講義(6)	★近藤ときえ 中村 恵子
		3.看護事業の開発と起業	講義(6)	★鈴木 英樹 ★原田 典子
		4.実習	実習(27)	猪股 千代子 古都 昌子
		5.特別講義	演習(6)	★服部 紀美子
	統合演習/15時間	1.統合演習	演習(15)	★伊藤 リカ ★加藤 久美子 ★近藤 ときえ ★齋藤 香奈恵 ★佐々木 衿子 ★渋谷 洋子 ★中山 日登美 ★的場 由紀子 猪股 千代子 古都 昌子

★印：非常勤講師



2) セミナー講師等

① デザイン学部

教 員 名	開催日・期間	内容・タイトル	主催者
蓮見 孝	平成28年7月10日 ～15日	インダストリアルデザイン学科国際コース／講師	華梵大學
酒井 正幸	平成28年5月19日	同友会大学「ビジネスとデザイン戦略」／講師	(一社)北海道中小企業家同友会
安齋 利典	平成29年2月17日	厚真町職員情報発信スキル向上研修会／講師	厚真町
	平成29年2月18日	2016年度日本小児看護学会地方会／講師	2016年度日本小児看護学会地方会
羽深 久夫	平成28年7月19日、 26日	「さっぽろ市民カレッジ2016春・夏期講座」／講師	札幌市生涯学習センター
	平成28年10月7日	「公共建築の日」施設見学会／講師	公共建築協会北海道地区事務局
	平成28年10月11日～	歴史的建造物保存・活用検討会議／アドバイザー	栗山町教育委員会
	平成28年10月18日、 25日	「さっぽろ市民カレッジ2016秋期講座」／講師	札幌市生涯学習センター
	平成28年11月1日 ～2日、平成29年 1月17日、24日	豊平館に関する歴史・建築文化講座／講師	(株)NTTファシリティーズ北海道
	平成29年2月28日、 3月7日	さっぽろ市民カレッジ2017冬期講座／講師	札幌市生涯学習センター
原 俊彦	平成28年8月1日～	厚真町まちづくり委員会／アドバイザー	厚真町
	平成28年8月27日	アカデミー・フォーラム「北海道の人口減少と地方創生」／講師	アカデミー・フォーラム懇談会
	平成29年3月10日	市民公開シンポジウム基調講演／講師	北海道大学大学院保健科学院
	平成29年3月14日	21世紀ビジョンの会における講演／講師	(一社)平和政策研究所
矢部 和夫	平成28年4月28日 ～平成29年3月9日	石狩川下流幌向地区自然再生調査検討業務／アドバイザー	(株)ドーコン
	平成28年6月19日	観察会「ひらおか春の湿性植物観察ツアー」／講師	(公財)札幌市公園緑化協会
	平成28年6月30日 ～平成29年3月31日	河川・湖沼等の自然環境に関する助言及び学習会／講師	北海道
	平成28年11月3日	ウトナイ湖サンクチュアリ開設25周年記念シンポジウム／パネリスト	(公財)日本野鳥の会
	平成28年11月11日 ～平成29年3月31日	美々川環境整備事業にかかる美々川及びウトナイ湖周辺の環境変化要因とその対策についての助言／アドバイザー	北海道
	平成28年11月19日	2016年度「自然保護大学」／講師	北海道自然保護協会
吉田 和夫	平成28年4月1日～	札幌市広告／アドバイザー	札幌市（建設局）
斉藤 雅也	平成28年11月11日、 平成29年1月12日、 19日、20日、24日	BIS認定事業に係る養成講習会、更新講習会（仙台市）／講師	(一社)北海道建築技術協会



教 員 名	開催日・期間	内容・タイトル	主催者
高井 真希子	平成28年9月30日	水郷筑波サイクリング環境整備事業に係る勉強会／講師	茨城県
武田 亘明	平成28年10月1日	平成28年度「高校生と語るつどい」事業／講師	北海道高等学校PTA連合会 空知支部
三谷 篤史	平成28年5月7日 ～8日	エンドオブライフ・ケア援助者養成基礎講座 ／ファシリテーター	(一社)エンドオブライフ・ケア 協会
	平成28年7月16日 ～17日	「青少年のための科学の祭典 in 北海道 2016」／講師	「科学の祭典in 北海道」実 行委員会
	平成29年2月11日	「大学生による科学教室」／講師	札幌市青少年科学館
山田 良	～平成28年9月30日	新病院への建築計画及びインテリアデザイン ／アドバイザー	(医)溪仁会
	平成28年6月4日、 11日	特別展「ともにいること ともにあること」 に係る関連事業／講師	北海道立近代美術館
	平成28年10月29日	景観まちづくり塾／講師	(一社)北海道建築士会
石田 勝也	平成29年1月18日 ～3月31日	ARTSAT×SIAFラボプロジェクト／制作協力	(株)アートフル
	平成29年1月22日、 2月17日	「ICTを活用した南北海道版DEO広域観光推 進事業」における『人材育成アドバイザー招 聘業務』／講師	(株)北海道宝島旅行社
片山 めぐみ	平成28年7月15日	小樽市生活支援体制整備事業研修会／講師	小樽市
	平成28年10月7日	平成28年度管内市町村・保健環境部地域保健 関係職員研修会／講師	北海道
	平成28年10月24日	空き家・空き地対策シンポジウム／パネリスト	(特)TOMネット
福田 大年	平成28年11月30日	職員教育研修開催／講師	(一社)さっぽろ健康スポーツ財 団
	平成29年2月24日	厚真町職員情報発信スキル向上研修会／講師	厚真町

② 看護学部

教 員 名	開催日・期間	内容・タイトル	主催者
樋之津 淳子	平成28年7月	平成28年度北海道専任教員養成講習会の講師	北海道
	平成28年7月9日	日本看護研究学会第26回北海道地方会学術集 会シンポジウム「実践と教育が循環する看護 人材育成」のシンポジスト	(一社)日本看護研究学会第26回 北海道地方会学術集会
	平成28年11月12日	平成28年度日本看護管理学会例会in青森の演者	平成28年度日本看護管理学 会例会in青森
松浦 和代	平成28年6月7日、 10日	平成28年度新人看護職員研修制度における実地 指導者研修の講師「新人看護職員の学習支援」	(大)札幌医科大学附属病院
	平成28年9月26日、 10月24日、11月28日	小児看護研修の講師	手稲溪仁会病院
中村 恵子	平成28年7月9日	日本看護研究学会第26回北海道地方会学術集 会基調講演の演者	(一社)日本看護研究学会第26回 北海道地方会学術集会
小田 和美	平成28年11月7日	平成28年度第2期えるのす連続講座～女性大 学～の講師	(公財)北海道女性協会



教 員 名	開催日・期間	内容・タイトル	主催者
川村 三希子	平成28年7月2日 ～3日	平成28年度研修「質の高い在宅看取りケア実践のためのELNEC-J2016」の講師及びファシリテーター	(公社) 日本訪問看護財団
	平成28年8月6日 ～7日	「看護管理者のためのELNEC-J高齢者プログラム研修会」のファシリテーター	(公社) 北海道看護協会
	平成28年8月23日 ～24日	エンド・オブ・ライフ・ケア (ELNEC-J) 研修会の講師及びファシリテーター	(公社) 北海道看護協会
	平成28年9月30日 ～10月2日	第16回ELNEC-J (End-of-Life Nursing Education Consortium Japan) コアカリキュラム指導者養成プログラムの講師	(特非) 日本緩和医療学会
	平成28年10月9日	第40回日本死の臨床研究会年次大会ワークショップ3「Safe Community of Inquiryと死の臨床」の司会及びファシリテーター	第40回日本死の臨床研究会年次大会
	平成28年10月22日 ～23日	2016年北海道がんセンターELNEC-Jコアカリキュラム看護師教育プログラムの講師	(独) 国立病院機構北海道がんセンター
	平成28年11月12日	第11回北海道がん化学療法看護研究会学術講演会における特別講演の演者	中外製薬(株)株式会社札幌支店
	平成29年1月28日 ～29日	ELNEC-J看護師教育プログラムの講師	山形県訪問看護連絡協議会
定廣 和香子	平成28年7月	平成28年度北海道専任教員養成講習会の講師	北海道
スーディ神崎 和代	平成28年4月13日	(一社) 北海道中小企業家同友会産学官連携研究会HoPE4月例会の講師	(公社) 北海道看護協会
	平成28年5月19日 ～20日	平成28年度訪問看護師養成講習会（北海道委託事業）の講師	(公社) 北海道看護協会
	平成28年5月25日	院内研修会の講師「認知症に関する各論：コミュニケーション」	(医) 延山会北成病院
	平成28年5月28日	日本支援工学理学療法学会企画セッションの講師	第51回日本理学療法学会大会
	平成28年6月4日	北郷親栄第5町内会特別会議での講演の講師	北郷親栄第5町内会
	平成28年6月8日	新陽パソコン倶楽部研修会の講師	新陽パソコン倶楽部
	平成28年6月25日	平成28年度北海道訪問看護ステーション連絡協議会特別講演会の講師	北海道訪問看護ステーション連絡協議会
	平成28年7月27日	院内研修会の講師「認知症に関する各論：人権擁護と安全確保」	(医) 延山会北成病院
	平成28年8月26日	北海道医療福祉産業研究会勉強会の講師「障害の疑似体験を通じて学ぶ」	北海道医療福祉産業研究会
	平成28年9月10日	北海道社会福祉士会道央地区支部研修会の講師「意思決定を尊重した人生の最終段階への支援～医療事前指示書を実際に作成してみよう～」	(公社) 北海道社会福祉士会道央地区支部
	平成28年9月16日	院内研修会の講師「認知症に関する各論：環境整備」	(医) 延山会北成病院
	平成28年9月30日	北海道医療福祉産業研究会勉強会の講師「障害の疑似体験を通じて学ぶ」	北海道医療福祉産業研究会
	平成28年10月7日	日向市地域包括ケアシステム講演会の講師「最新の知見に基づく認知症対応：認知症ケア・認知症遅延・地域包括ケアシステム」	日向市



教 員 名	開催日・期間	内容・タイトル	主催者
スーディ神崎 和代	平成28年10月16日	第21回北海道糖尿病看護研究会特別講演の演者	北海道糖尿病看護研究会
	平成28年11月9日	職員研修会の講師「認知症の利用者の尊厳と安全性確保ケアの理解」	(福)溪仁会
	平成28年11月29日	由仁町多職種連携研修会の講師「つながる方策―地域包括ケアシステムの意図と背景の理解のもとに」	エーザイ(株)
	平成28年12月2日	院内研修会の講師「認知症に関する各論：栄養面」	(医)延山会北成病院
	平成28年12月10日	平成28年度北海道訪問看護ステーション連絡協議会道南地区研修会の講師「地域包括ケアにおける医療事前指示書のアプローチの仕方」	北海道訪問看護ステーション連絡協議会
	平成28年12月14日	平成28年度「第2回全体研修会」の講師「医療事前指示書―良く生きるを支援する」	札幌市介護保険サービス事業所連絡協議会
	平成29年1月21日	平成28年度北海道訪問看護ステーション連絡協議会道北地区研修会の講師「看護の原点は倫理原則に沿った療養者理解」	北海道訪問看護ステーション連絡協議会
	平成29年3月4日	平成28年度北海道訪問看護ステーション連絡協議会地域別研修会の講師	北海道訪問看護ステーション連絡協議会
	平成29年3月11日	第20回宝塚在宅緩和医療連絡協議会の講師「医療事前指示」	宝塚在宅緩和医療連携協議会
上村 浩太	平成28年6月22日	おたるファミリーサポートセンター提供会員養成講習会の講師	(特非)北海道子育て支援ワーカーズ
	平成28年7月26日	江別市緊急サポートネットワーク事業提供会員研修の講師	(特非)北海道子育て支援ワーカーズ
神島 滋子	平成28年4月1日～平成29年3月31日	看護部における看護指導の講師	(福)恩賜財団済生会支部北海道済生会小樽病院
	平成28年5月～平成29年3月(6回)	北海道中央労災病院せき損センター「看護研究」における講師	北海道中央労災病院せき損センター
	平成28年6月24日	平成28年度看護職員研修の講師「看護研究基調講義」	札幌市(病院局)
清水 光子	平成28年12月17日	平成28年度北海道保健師関係団体連絡会議研修会の講師「保健師の基礎教育と現任教育の現状と課題」	全国保健師長会北海道ブロック
菅原 美樹	平成29年3月24日	講演「OSCE実施に向けての取り組みと運営の実際」の講師	日本赤十字九州国際看護大学
古都 昌子	平成28年5月6日	平成28年度看護職員研修の講師「臨床指導者研修Ⅰ」	札幌市(病院局)
	平成28年6月、8月、平成29年2月	帯広病院研修の講師「①リーダーⅠ研修、②卒2年研修と看護職へ講演、③プリセプター研修」	(福)北海道社会事業協会帯広病院
	平成28年7～8月	平成28年度北海道専任教員養成講習会の講師	北海道
	平成28年10月6日	中堅看護師育成研修の講師	苫小牧市立病院
村松 真澄	平成28年6月26日	日本口腔看護研究会第3回北海道地区セミナーの講師	日本口腔看護研究会
	平成28年8月27日	(一社)日本歯科審美学会第27回学術大会教育講演の講師	(一社)日本歯科審美学会第27回学術大会



教 員 名	開催日・期間	内容・タイトル	主催者
村松 真澄	平成28年10月16日	第20回「口から食べたい」講演会の講師	伊予歯科医師会
	平成28年11月12日	第14回北海道医療大学歯学部口腔機能修復・再建学系クラウンブリッジ・インプラント補綴学分野同門会学術講演会の講師	北海道医療大学歯学部口腔機能修復・再建学系クラウンブリッジ・インプラント補綴学分野
	平成28年11月20日	日本老年看護学会平成28年度認知症看護対応力向上研修の講師	(社)日本老年看護学会
	平成28年11月27日	学術講演の講師	第61回公益社団法人日本口腔外科学会総会・学術大会
	平成29年3月4日	講演会の講師「口腔ケアの必要性を理解する」	(医)徳洲会成田富里徳洲会病院
守村 洋	平成28年6月22日、8月26日、11月17日、平成29年3月21日	生活支援員登録に向けた研修・説明会の講師	(福)札幌市社会福祉協議会
	平成28年9月9日	平成28年度網走保健所自殺対策予防対策研修の講師	北海道
	平成28年9月23日	第29回日本サイコオンコロジー学会総会北海道2016シンポジウムの演者「がん患者の院内の自殺予防と自殺後の取り組み～希死念慮の強い患者の支援や自殺後の遺族と医療者へのケアに向き合う～」	第29回日本サイコオンコロジー学会総会北海道2016
	平成28年10月18日	清田区障がい者支援関係者研修会の講師「清田区障がい者支援関係者研究会～いのちの問題を考える～」	自立支援協議会清田区地域部会
	平成28年10月22日	平成28年度自殺未遂者支援連携体制構築研修会の講師	北海道
	平成28年11月2日、平成29年1月26日	平成28年度日常生活自立支援事業「生活支援員現任者研修会」の講師	(福)札幌市社会福祉協議会
	平成28年11月12日	看護係長研修（ストレスマネジメント）の講師	名寄市立総合病院
	平成28年11月29日	平成28年度東胆振自殺予防対策推進連絡会議及び自殺未遂者支援連携体制研修会の講師	北海道
三上 智子	平成28年7月19日	北海道札幌平岸高等学校健康講話の講師「高校生としての性への対応について」	北海道札幌平岸高等学校
	平成28年8月25日、11月18日	小樽市立最上小学校 生・性教育の講師「生命・性に関する健康講話」	小樽市立最上小学校
矢野 祐美子	平成28年7月7日、平成29年3月7日	臨地実習指導者研修の講師	(医)母恋天使病院
山本 真由美	平成28年4月22日	(独)国立病院機構北海道がんセンターの研修会講師「研究計画書の作成について」	(独)国立病院機構北海道がんセンター
	平成29年3月13日	(独)国立病院機構北海道がんセンターの研修会講師「看護研究論文指導および看護研究発表会の講評」	(独)国立病院機構北海道がんセンター
御厩 美登里	平成28年9月30日	北海道医療福祉産業研究会勉強会の講師「障害の疑似体験を通じて学ぶ」	北海道医療福祉産業研究会

6 国際交流実績

年月日	内容	
平成28年7月1日	受入	タイ王国ラジャマンガラ工科大学ラタナコシン校関係者22名が視察のため来学
平成28年7月10日 ～15日	派遣	華梵大学へ非常勤講師として、学長を派遣
平成28年8月22日 ～29日	派遣	華梵大学で実施されたデザイン合同ワークショップに、デザイン学部の学生9名、教員2名を派遣
平成28年8月24日 ～31日	派遣	マレーシアのKPJ大学に、看護学部学生6名、教員1名を派遣し海外研修を実施
平成28年9月18日 ～24日	派遣	バンドン工科大学にデザイン学部学生2名、教員1名を派遣し共同デザインワークショップの実施
平成28年10月1日～	受入	華梵大学（台湾）から1年間特別聴講留学生受入（学生1名）
平成28年10月16日 ～21日	受入	承德医学院副学長、引率教員、看護学部学生4名が本学を訪問し、講義受講、病院視察、学生交流を実施。また、本学看護学部長及び研究科長と承德医学院副学長との学術に係る意見交換を実施
平成28年10月30日 ～11月2日	派遣	清華大学美術学院設立60周年式典美術学院設立60周年式典開会学長、教員2名を派遣
平成28年11月24日	受入	日豪若手研究員派遣事業研究者が1名研究交流のため訪問
平成29年2月9日	受入	PNCA関係者（教員1名、学生2名）及び（ポータランド札幌姉妹都市協会・理事）が来学し交流



7 サテライトキャンパスの利用状況

利用目的	学内利用件数
セ ミ ナ ー	16
会 議	79 ※内訳 会議（学内者のみ）35 産学連携・会議（学外者を含む）44
学 会	141
そ の 他	0
合 計	236

V キャリア支援活動

1 デザイン学部

1) 概要

デザイン学部キャリア支援委員会は、デザイン学部の学生を対象としたキャリア支援の取り組みを図る目的で平成20年4月に設立された。本委員会は、定例会議（毎月1回程度）において学生の支援方法及び企業へのPR・求人開拓活動などを協議し、コース毎の独自企画と連携しながら運営を行った。

平成20年4月には、キャリア支援室を開設し、教職員による就職相談体制を開始した。また、キャリア支援室は、後援会からの支援により、就職関連図書や什器などの備品・設備を整備した。平成21年5月には就職相談員1名を配置し、きめ細かく個別指導できる体制を整備した。活動実績の詳細については、下記のとおりである。

学部4年生への支援	・個別指導（就職相談、面接・履歴書・ES対策など）（平成28年4月～） ・学内企業説明会（随時） ・求人情報の提供（随時）
学部3年生への支援 大学院1年生への支援	・キャリアガイダンス（平成28年4月～平成29年2月） ・進路希望調査（平成28年10月） ・学内業界セミナー（平成28年11月～平成29年3月） ・求人情報の提供（随時） ・インターンシップ・企業実習情報の提供（随時）
学部2・3年生への支援	・ワークショップ型インターンシップ体験（平成28年11月）
後援会からの支援	・模擬面接（平成28年5月） ・エントリーシート個別相談会（平成28年11月） ・履歴書用証明写真撮影補助（平成28年11月～） ・デザイン系スケッチ講習会（平成28年12月）

2) 支援体制

デザイン学部のキャリア支援は、本委員会の委員、4コースのゼミ担当教員及び事務局（学生課 学生支援担当、就職相談員）が行っている。主な役割分担として、事業の企画・運営は本委員会の委員が、就職先の開拓は全教員及び学生支援担当が、学生相談のうち就職活動に関わることはキャリア支援室の就職相談員及び学生支援担当がそれぞれ行っている。

3) 就職・進学結果

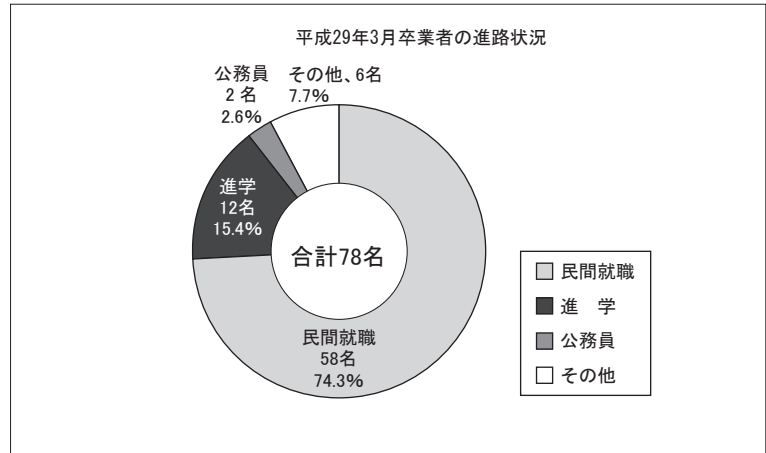
(8期生) 平成29年3月卒業生

就職先	■農業 岩手県農業共済組合
	■建設業 (株)nAナカヤマアーキテクツ/(株)NTTファシリティーズ北海道/(株)ジョンソンホームズ/大和ハウス工業(株)/(株)土屋ホーム/(株)東洋ハウジング/北海道セキスイハイム(株)/ミサワホーム北海道(株)/ロゴスホーム(株)
	■製造業 アイリスオーヤマ(株)/クリナップ(株)/(株)サクラ印刷/(株)SUBARU (旧:富士重工業(株)) /総合商研(株)/日本たばこ産業(株)/パナソニック(株)/(株)ブリ・プレスセンター/(株)フレンズ/(株)ゆほびか/起業
	■情報通信業（放送・ゲームソフト・インターネット関連・映像制作等） アイエイ・コーポレーション(株)/(有)インビジブル・デザインズ・ラボ/(株) Essentials/グラフィニカ(株)/(有)3KG/(株)デジック/トランスコスモス(株)/(株)北海道総合技術研究所/(株)ホープス/(株)MAPPA
	■運輸業 ANA新千歳空港(株)
	■卸売業・小売業 エムデジ(株)/(株)コックス/(株)しまむら/大丸(株)/(株)トゥモローランド/日本ニューホランド(株)/ニンジニアネットワーク(株)/(株)ベイクルーズ/(株)ホクレン商事/(株)ボーネルンド/(株)ユナイテッドアローズ/(株)リリアブル
	■金融業 北海道銀行(株)
	■専門・技術サービス業（デザイン業・広告業等） アド・バリュー(株)/(株)AISプランニング/(株)エイチ・アイ・ディ/(株)KITABA/(有)三景スタジオ
	■飲食サービス業 (株)風月
	■生活・娯楽業 (株)太陽グループ
進学先	■公務 札幌市役所（技術職：建築）/苫小牧市役所
	札幌市立大学大学院/東京工業大学大学院/北海道大学大学院

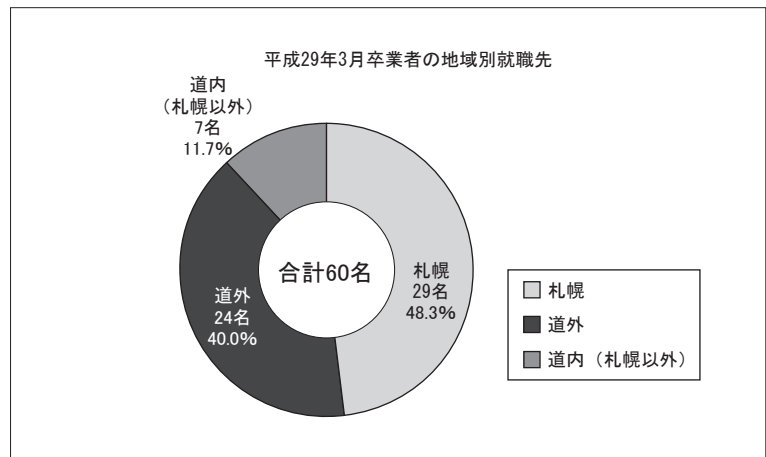
(8期生)

札幌市立大学デザイン学部 平成29年3月卒業者 就職状況（平成29年5月1日現在）

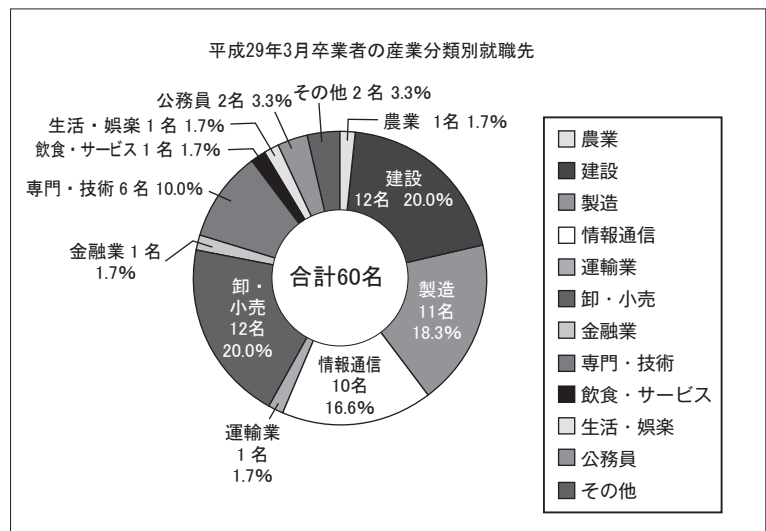
進路状況	人数(名)	割合(%)
民間就職	58	74.3
進学	12	15.4
公務員	2	2.6
その他	6	7.7
合 計	78	—



地域別就職先	人数(名)	割合(%)
札幌	29	48.3
道外	24	40.0
道内（札幌以外）	7	11.7
合 計	60	—



産業分類	人数(名)	割合(%)
農業	1	1.7
建設	12	20.0
製造	11	18.3
情報通信	10	16.6
運輸業	1	1.7
卸・小売	12	20.0
金融業	1	1.7
専門・技術	6	10.0
飲食サービス	1	1.7
生活・娯楽	1	1.7
公務員	2	3.3
その他	2	3.3
合 計	60	—





4) コース別概要

(8期生) 平成29年3月卒業生

1. コース別進路状況

(単位: 名)

コース	卒業生数①	1. 就職希望者		就職者 (起業含)		2. 進学希望者		3. その他
		②	内公務員志望	③	内公務員	④	進学先決定者⑤	
空間	25	17	1	16	1	8	8	0
製品	12	12	0	11	0	0	0	0
コンテンツ	18	15	0	14	0	3	3	0
メディア	24	20	1	19	1	1	1	3
合計	79	64	2	60	2	12	12	3
割合		81.0%	3.1%	93.8%(※1)	3.3%(※1)	15.2%	100.0%(※3)	3.8%
		②÷①		③÷②		④÷①	⑤÷④	⑥÷①

(備考)

※1: 就職希望者に対する就職者の割合

※2: 就職希望・進学希望以外の者 (アルバイト・公務員浪人等、将来的な就職に関する進路選択をしたもの)

※3: 進学希望者に対する進学先決定者の割合

2. 内定先の内訳 (市内27社29名、道内6社7名、道外21社24名)

コース	道内企業 (札幌市内含む)		道外企業
空間	市内	(株)NTTファシリティーズ北海道 [建設: FP職] (株)NTTファシリティーズ北海道 [建設: 設計職] (株)ホープス [情報通信: SE職] ミサワホーム北海道(株) [建設: 設計] (株)土屋ホーム [建設: 設計] (株)ジョンソンホームズ [建設: 設計] 北海道セキスイハイム(株) [建設: 設計] 札幌市 [公務: 建築職] (株)nAナカヤマアーキテクト [建設: 設計職] (株)KITABA [専門・技術: 企画職]	(株)東洋ハウジング [建設: インテリアコーディネーター] 大和ハウス工業(株) [建設: 設計職] 岩手県農業共済組合 [農業: 総合職]
	道内	(株)ロゴスホーム [建設: 設計職]	
製品	市内	(-社) AISプランニング [専門・技術] (有)3KG [情報通信: デザイナー職]	(株)SUBARU (旧: 富士重工業(株)) [製造: カラーデザイナー] (株)トゥモローランド [卸・小売: 販売職] アイリスオーヤマ(株) [製造: デザイナー職] クリナップ(株) [製造: デザイナー職] ニンジニアネットワーク(株) [卸・小売: デザイナー職]
	道内	(株)リリアブル [卸・小売: 販売職]	パナソニック(株) [製造: デザイナー職] (株)ボーネルンド [卸・小売: 総合職] (有)インビジブル・デザインズ・ラボ [情報通信: デザイナー職]



コース	道内企業（札幌市内含む）		道外企業
コンテンツ	市内	(株)エイチ・アイ・ディ〔情報通信：SE職〕 総合商研(株)〔製造：デザイナー職〕 (株)Essentials〔情報通信：Webデザイナー職〕 (株)ホクレン商事〔卸・小売：総合職〕 日本ニューホランド(株)〔卸・小売：総合職〕 (株)ゆほびか〔製造：3Dモデリング職〕	(株)サクラ印刷〔製造：デザイナー職〕 アイエイ・コーポレーション(株)〔情報通信：SE職〕 グラフィニカ(株)〔情報通信：3DCGアニメーター〕 トランスコスモス(株)〔情報通信：総合職〕 (株)MAPPA〔情報通信：撮影職〕
	道内	エムデジ(株)〔卸・小売：販売職〕 ANA新千歳空港(株)〔運輸業：総合職〕	
メディア	市内	(株)デジック〔情報通信：SE職〕 大丸(株)〔卸・小売：総合職〕 北海道銀行(株)〔金融業：特定職〕 (株)風月〔飲食サービス：企画職〕 (株)フレンズ〔製造：デザイナー職〕 起業〔製造〕 (株)プリ・プレスセンター〔製造：デザイナー職〕 (株)太陽グループ〔生活・娯楽：一般職〕 (株)北海道総合技術研究所〔情報通信：SE職〕 アド・バリュー(株)〔専門・技術：デザイナー職〕	(株)ベイクルーズ〔卸・小売：販売職〕 日本たばこ産業(株)〔製造：総合職〕 (株)ユニテッドアローズ〔卸・小売：販売職〕 (株)しまむら〔卸・小売：総合職〕 (株)コックス〔卸・小売：販売職〕
	道内	苫小牧市役所〔公務：一般事務職〕 (有)三景スタジオ〔専門・技術：総合職〕	
小 計	33社 36名		21社 24名
合 計	54社 60名		

3. 進学状況（大学院12名）

コース	進学先	
空間	大学院	札幌市立大学大学院 6名、東京工業大学大学院 2名
	研究生	
	その他	
製品	大学院	
	研究生	
	その他	
コンテンツ	大学院	札幌市立大学大学院 3名
	研究生	
	その他	
メディア	大学院	北海道大学大学院 1名
	研究生	
	その他	
合計	大学院 12名 研究生 0名 その他 0名	

2 看護学部（助産学専攻科含む）

1) 概要

看護学部キャリア支援委員会は、学生の進路相談や就職活動、国家試験への支援だけでなく、就職後の支援も視野に入れ、学生を支援する体制を整えている。

看護学部における支援体制には、①進路相談、②就職活動支援、③国家資格試験対策、④卒業後のキャリア支援の4つの取組を軸に、次のような活動の企画・運営を行っている。①看護学部キャリア支援相談室の管理・運営、②進路希望調査の実施、③看護学部キャリア支援・進路活動ガイダンスの実施、④各種就職・進学説明会の開催、⑤国家試験自主ゼミの組織化、⑥国家試験受験に向けたガイダンスの実施。

学生のニーズ調査に基づき、経験豊富な看護管理者を模擬面接官として招聘した「模擬面接プログラム」を追加実施し、参加学生から好評価を得ている。

また、卒業生を対象としたシャトル研修を実施し、卒後のキャリア支援を行った。

これらの活動が学生のニーズに合う内容であること及び学生の将来に有用な指針を示すものであることを念頭に、進路希望調査の結果など学生の声を重視し、計画立案に反映させながら支援を行っている。

2) 支援体制

看護学部キャリア支援委員9名により、次の表のとおり年間活動計画及び進路相談などを行った。また、学生による国家試験対策自主ゼミグループを組織し、自主ゼミリーダー会議を定期的に開催した。

月	4年次生、助産学専攻科生	3年次生
4月	前期ガイダンス	
	キャリアハンドブック配布（専攻科生） 進路希望調査	キャリアハンドブック配布（編入生）
5月		
6月	模試①（看護師） 模擬面接①	
7月	模擬面接②③④⑤	
8月	再学修セミナー（5回）	
9月	後期ガイダンス	
	模試②（保健師）	進路活動ガイダンス
10月	模試③（看護師） 模試④（助産師）	国家試験対策自主ゼミ結成
11月	模試⑤（保健師） 国家試験説明会 シャトル研修（札幌）	
12月		
1月	模試⑥（看護師） 模試⑦（助産師） 模試⑧（保健師）	進路希望調査
2月	国家試験受験事前説明会 スキルアップトレーニング	特別講義（就職活動準備） 学内キャリア説明会 低学年用国家試験模試
3月	特別講義（労務支援） 卒業・修了前ガイダンス	

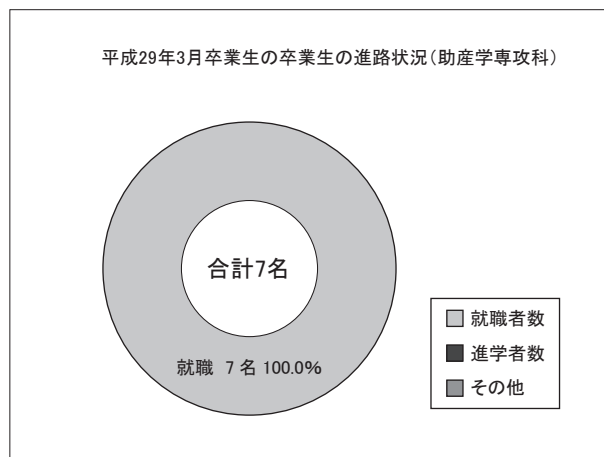
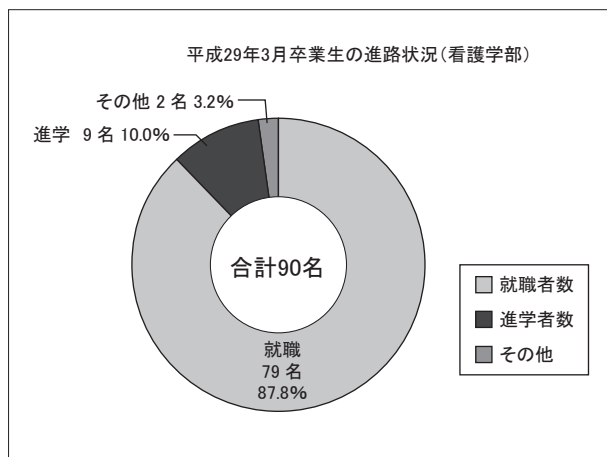
3) 就職・進学結果

① 進路状況

(単位：名)

	卒業生数	就職希望者			進学希望者	
		就職希望者	就職者	就職率 (%)※	進学希望者	決定者
学生数	90	81	79	97.5	9	9
助産学専攻科	7	7	7	100	0	0

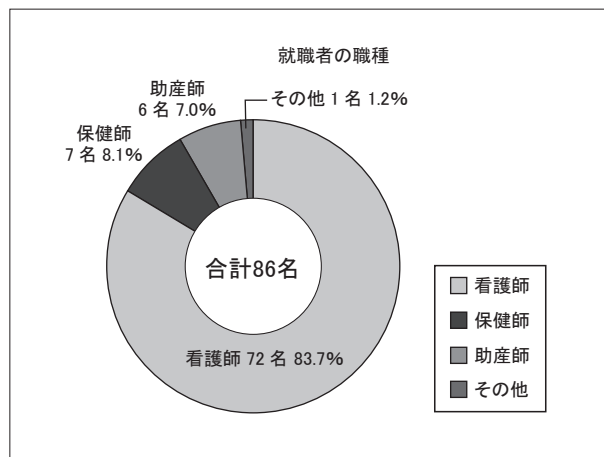
※就職希望者に対する就職者の割合



② 就職者の職種

(単位：名)

看護師	72
保健師	7
助産師	6
その他	1
合計	86



4) 国家試験の結果

(単位：名)

	出願者数	受験者数	合格者数	合格率 (%)
看護師	80	80	78	97.5
保健師	35	35	35	100.0
助産師	7	7	6	85.7

3 デザイン研究科

1) 就職・進学結果

(6期生) 博士前期課程 平成29年3月修了生

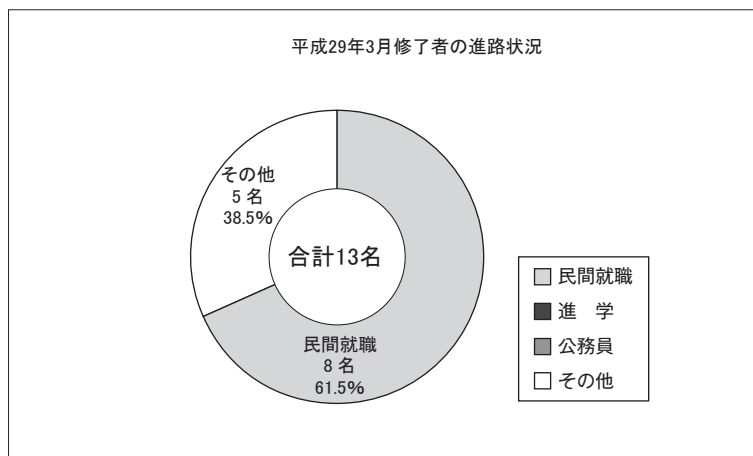
就職先	■建設業 戸田建設(株)/(株)北海道日建設計
	■情報通信業（放送・ゲームソフト・インターネット関連・映像制作等） (株)アクアリング/(株)アルトナー/(株)カプコン/(株)デジック/トランスコスモス(株)

(3期生) 博士後期課程 平成29年3月修了生

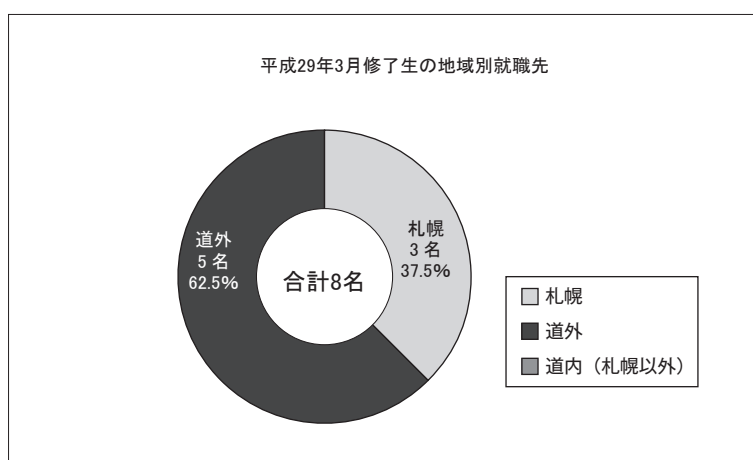
就職先	■専門・技術サービス業（デザイン業・広告業等） (株)アーティック21
-----	--

(6期生) 博士前期課程 平成29年3月修了生

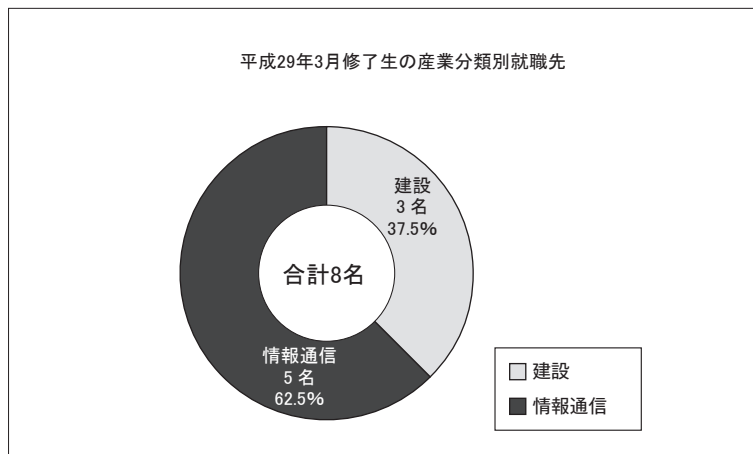
進路状況	人数(名)	割合(%)
民間就職	8	61.5
進 学	0	0.0
公務員	0	0.0
その他	5	38.5
合 計	13	—



地域別就職先	人数(名)	割合(%)
札 幌	3	37.5
道 外	5	62.5
道内 (札幌以外)	0	0.0
合 計	8	—



産業分類	人数(名)	割合(%)
建 設	3	37.5
情報通信	5	62.5
合 計	8	—



2) 進路決定状況概要

1.進路状況

(6期生) 博士前期課程 平成29年3月修了生

(単位:名)

	修了生数①	1. 就職希望		就職者(起業含)※1		2. 進学希望		3. その他 ⑥※2
		②	内公務員志望	③	内公務員	④	進学先決定者⑤※3	
博士前期課程	13	9	0	8	0	0	0	5
合 計	13	9	0	8	0	0	0	5
割 合	100.0%	69.2%	0	88.9%	0	0%	0%	38.5%
	①÷①	②÷①		③÷②		④÷①	⑤÷④	⑥÷①

(3期生) 博士後期課程 平成29年3月修了生

(単位:名)

	修了生数①	1. 就職希望		就職者(起業含)※1		2. 進学希望		3. その他 ⑥※2
		②	内公務員志望	③	内公務員	④	進学先決定者⑤※3	
博士後期課程	1	1	0	1	0	0	0	0
合 計	1	1	0	1	0	0	0	0
割 合	100%	100%	0	100%	0	0%	0%	0%
	①÷①	②÷①		③÷②		④÷①	⑤÷④	⑥÷①

(備考)

※1: 就職希望者に対する就職者の割合

※2: 就職希望・進学希望以外の者(アルバイト・公務員浪人等、将来的な就職に関する進路選択をしたもの。また、社会人学生も含む。)

※3: 進学希望者に対する進学先決定者の割合

2.内定先の内訳(市内3社4名、道外5社5名)

専攻	道内企業(札幌市内含む)		道外企業
デザイン専攻	市内	(株)北海道日建設計〔建設:設計職〕 (株)北海道日建設計 〔建設:ランドスケープデザイナー〕 (株)デジック〔情報通信:SE職〕 (株)アーティック21 〔専門・技術:デザイナー職〕	戸田建設(株)〔建設:設計職〕 (株)アクアリング〔情報通信:Webデザイナー〕 トランスコスモス(株)〔情報通信:総合職〕 (株)カプコン〔情報通信:デザイナー職〕 (株)アルトナー〔情報通信:総合職〕
	道内		
小 計	3社 4名		5社 5名
合 計	8社 9名		

3. 進学状況

課 程	進学先(名)			小計(名)
博士前期課程	大学院			
	研究生			
	その他			
合計	大学院博士後期課程 0名 研究生 0名 その他 0名			0



VI 平成29年度入学者選抜結果

1 デザイン学部・看護学部

1) 入学者選抜要項

① アドミッション・ポリシー

<教育研究の理念>

本学は、デザイン学と看護学を教育研究の対象とします。デザイン学と看護学は、いずれも人間を対象とした学問領域であることから、両者に共通する「人間重視」の考え方を常に基本とし、一人の人間から社会全体までを対象に、安全で快適な暮らしを創造できる幅広い教養と豊かな人間性を有する職業人を育成します。市民の負託にこたえ、「市民に開かれた大学」「市民の力になる大学」「市民が誇れる大学」という三つの視点を掲げて、地域貢献という使命を果たしていくため、時代の要請に柔軟に対応しながら質の高い教育研究を追求します。

<教育研究の特長>

デザイン学と看護学それぞれの専門性を極める教育を行うとともに、幅広くデザインと看護の連携を目指します。また、市民、産業界、公的機関などと連携することにより、幅広いネットワークを持った大学とし、地域課題等に対応した教育研究を積極的に展開します。

<デザイン学部の求める学生像>

- 1 人間尊重・人間重視の姿勢を持ち、デザインを通して社会に貢献しようとする姿勢を持った人
- 2 豊かな感性と見識を持って、主体的かつ協同して未来のデザインを創造することに意欲のある人
- 3 デザインを通じ、地域活性化のリーダーとして文化・産業の発展に寄与する意志を持った人

このため、入学者には、日ごろから、人間及びその生活を豊かにするデザインに興味・関心を持ち、地域社会が抱える課題の発見や解決に向けて、日々の学習の中で幅広い基礎学力・思考力・発想力を身につけるとともに、多くの人々と協働するためのコミュニケーション能力を備え、新しい分野に挑戦し、学ぶ意欲があることが求められます。

また、高等学校における次のような学習が必要になります。「国語」・「英語」で基本的な読解力とコミュニケーション力を身につけること。「数学」・「理科」で理論的な思考力や、自然科学に対する教養を身につけること。「社会」で人間と社会の諸問題に関心を持つこと。「芸術（美術・音楽等）」や課外活動等で、美や文化を理解する感性を育むこと。

入学試験では、高等学校の主要科目をバランスよく学修しているか、読解力、表現力、感性、実社会への興味関心などを有しているかを基準に選抜します。

<看護学部の求める学生像>

- 1 人々の健康・心・暮らしに関心を持ち、生命の尊厳を理解しようとする姿勢を持った人
- 2 豊かな感性と探究心を持って、柔軟に物事を考え、自主的に学修できる人
- 3 他者と協調し、信頼関係を築くことができ、積極的に地域に貢献する意志を備えた人

そのためには、高等学校における国語、英語、数学、理科などの基礎的な学力、及び課外活動等によって培われた協調性や責任感のある人を求めています。



② 平成29年度入学者選抜概要

入学定員・募集人員

(単位：名)

学部・学科名	入学定員	募集人員				
		一般選抜		特別選抜		
		前期日程	後期日程	推薦入学	社会人	私費外国人留学生
デザイン学部 デザイン学科	85	59	14	12	若干名	若干名
看護学部 看護学科	80	48	—	32	若干名	—

選抜日程

選抜区分		出願期間	試験日	合格発表等
特別選抜	推薦入学 社会人	平成28年11月1日 ～11月4日	平成28年11月26日	平成28年12月12日 【入学手続期間】 平成28年12月12日～12月19日
	私費外国人留学生 (※)	平成29年1月23日 ～2月1日	平成29年2月25日	平成29年3月8日 【入学手続期間】 平成29年3月8日～3月15日
一般選抜	前期日程	平成29年1月23日 ～2月1日	平成29年2月25日	平成29年3月8日 【入学手続期間】 平成29年3月8日～3月15日
	後期日程 (※)	平成29年1月23日 ～2月1日	平成29年3月12日	平成29年3月21日 【入学手続期間】 平成29年3月21日～3月27日

(※) は、デザイン学部のみ実施

試験会場

学部・学科名	試験会場
デザイン学部デザイン学科	芸術の森キャンパス
看護学部看護学科	桑園キャンパス



選抜方法

選抜区分		学部・学科名	選抜方法
特別選抜	推薦入学	デザイン学部 デザイン学科	「小論文（課題解決型の論述問題）」又は「実技（鉛筆デッサン）」（いずれかを選択）、面接及び調査書等の提出書類の内容を総合的に判定して行う。
		看護学部 看護学科	小論文（看護を学ぶ上で必要な読解力、論理的思考力、文章表現力を見る。）、面接及び調査書等の提出書類の内容を総合的に判定して行う。
	社会人	デザイン学部 デザイン学科	「小論文（課題解決型の論述問題）」又は「実技（鉛筆デッサン）」（いずれかを選択）、面接及び提出書類の内容を総合的に判定して行う。
		看護学部 看護学科	総合問題（国語、英語、自然科学、論述）、面接及び提出書類の内容を総合的に判定して行う。
	私費外国人留学生	デザイン学部 デザイン学科	「小論文（課題解決型の論述問題）」又は「実技（鉛筆デッサン）」（いずれかを選択）、面接、日本留学試験及び提出書類の内容を総合的に判定して行う。
一般選抜		デザイン学部 デザイン学科	大学入試センター試験及び本学が実施する個別学力検査等の成績並びに調査書等の提出書類の内容を総合的に判定して行う。
		看護学部 看護学科	

一般選抜試験の大学入試センター試験及び個別学力検査等の教科・科目

学部・学科名	学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等
		教科	科目名等	科目名等
デザイン学部 デザイン学科	前期日程	国 語	「国」（古文・漢文を含む。）	「小論文（課題解決型の論述問題）」又は「実技（鉛筆デッサン）」のいずれかを選択
		地 歴 公 民 ※1	「世A」「世B」「日A」「日B」「地理A」「地理B」「現社」「倫理」「政・経」「倫理、政・経」から1科目	
		数 学	「数Ⅰ・数A」と「数Ⅱ・数B」の2科目	
		理 科 ※2	「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」から2科目	
	後期日程	外国語 ※4	「英」（筆記及びリスニング）	
		国 語	「国」（古文・漢文を含む。）	
		数 学	「数Ⅰ・数A」と「数Ⅱ・数B」の2科目	
看護学部 看護学科	前期日程	外国語 ※4	「英」（筆記及びリスニング）	面 接
		国 語	「国」（古文・漢文を含む。）	
		数 学	「数Ⅰ・数A」	
		理 科 ※3	「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」から2科目	
		外国語 ※4	「英」（筆記及びリスニング）	



注1) 【デザイン学部（前期日程）】

※1 地歴・公民について、2科目選択した場合は、第1解答科目を合否判定に利用します。

※2 理科について、「基礎を付した科目」（「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」）と「基礎を付していない科目」（「物理」「化学」「生物」「地学」）を選択した場合は、「基礎を付した科目」の得点を利用します。

「基礎を付していない科目」のみを選択した場合は、1科目の得点（100点満点）（2科目選択した場合は第1解答科目の得点）を利用します。

注2) 【看護学部（前期日程）】

※3 理科について、「基礎を付した科目」（「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」）2科目を選択せずに、「基礎を付していない科目」（「物理」「化学」「生物」「地学」）2科目を選択した場合には、「基礎を付した科目」2科目のかわりに「基礎を付していない科目」2科目の合計得点（200点満点）を利用します。

注3) 【全試験区分共通】

※4 外国語について、『英語』の筆記及びリスニングの合計得点を利用します。いずれか一方を受験しなかった場合は、出願資格はありません。ただし、大学入試センター試験の受験上の配慮において、リスニングを免除された者を除きます。



③平成29年度3年次編入学者選抜概要

募集人員

(単位：名)

学部・学科名等	募集人員
デザイン学部デザイン学科	10
看護学部看護学科	10

選抜日程・試験会場

学部・学科名	出願期間	試験日	試験会場	合格発表
デザイン学部 デザイン学科	平成28年6月24日 ～7月1日	平成28年7月23日	芸術の森キャンパス	平成28年8月4日
看護学部 看護学科	平成28年8月3日 ～8月9日	平成28年9月3日	桑園キャンパス	平成28年9月20日

選抜方法

学部・学科名	選抜方法
デザイン学部 デザイン学科	本学が実施する小論文（課題解決型の論述問題）、英語、面接・試問及び提出書類の内容を総合的に判定して行う。
看護学部 看護学科	本学が実施する論述試験、面接及び提出書類の内容を総合的に判定して行う。

2) 選抜状況

① 入学者選抜状況

a. 選抜・入学状況

デザイン学部

(単位：名)

選抜区分		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
一般選抜	前期日程	59	138	138	59	57
	後期日程	14	146	79	16	13
特別選抜	推薦入学	12	50	50	13	13
	社会人	若干名	2	2	0	0
	私費外国人留学生	若干名	9	7	2	2



看護学部

(単位：名)

選抜区分		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
一般選抜	前期日程	48	158	150	48	46
特別選抜	推薦入学	32	89	89	35	35
	社会人	若干名	14	14	3	3

b. 入学者の内訳

(単位：名)

学部	入学者数	道内外の内訳			男女の内訳	
		道内		道外	男	女
		札幌市内	札幌市外			
デザイン学部	85	45	30	10	23	62
看護学部	84	35	43	6	3	81
合計	169	80	73	16	26	143

② 編入学選抜状況

a. 選抜・入学状況

(単位：名)

学部		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
デザイン学部	空間	10	5	4	3	1
	製品		3	3	1	1
	コンテンツ		3	3	2	1
	メディア		2	2	2	2
	計	10	13	12	8	5
看護学部		10	25	24	10	9

b. 入学者の内訳

(単位：名)

学部	入学者数	道内外の内訳			男女の内訳	
		道内		道外	男	女
		札幌市内	札幌市外			
デザイン学部	5	2	0	3	3	2
看護学部	9	3	3	3	1	8
合計	14	5	3	6	4	10



2 デザイン研究科・看護学研究科

1) 博士前期課程

i 入学者選抜要項

① アドミッション・ポリシー

【デザイン研究科博士前期課程】

本課程は、地域社会全体に内在する様々な課題に対してデザインによる解決策を教育・研究することにより、高度で専門的なデザイン能力を持った職業人の育成を目指し、産業・芸術・文化等の振興、地域再生・活性化などの貢献を果たすことを目的としています。この目的を達成するために、本課程が求める学生像は次のとおりです。

＜デザイン研究科博士前期課程の求める学生像＞

- 1 デザインに関する基礎的知識を備え、豊かな感性と深い見識を持ち、人間重視の視点からデザインの発展に寄与できる人
- 2 各種のデザインを統合し、先導的なプロジェクトを主体的・戦略的に展開することに意欲のある人
- 3 デザインを通じ、地域を創成していくリーダーとして文化・産業の発展に貢献する意思を持った人

【看護学研究科博士前期課程】

本課程では、広い視野に立って看護学の基盤を学修した個々人の専門性及び学識を深めつつ、看護学の発展、様々な形態での看護の実践及び幅広く地域社会に貢献できる高度で専門的な人材を育成することを目的としています。この目的を達成するために、本課程が求める学生像は次のとおりです。

＜看護学研究科博士前期課程が求める学生像＞

- 1 看護学の基礎知識と総合的な学力を有し、豊かな人間性と高い探究心を持って、自主的・意欲的に看護実践の向上に寄与できる人
- 2 柔軟で論理的な思考を持って保健・医療・福祉の諸問題に積極的に取り組み、問題解決に向けた研究を遂行できる人
- 3 高い倫理観を有し、地域社会や国際社会に貢献する意志と責任感を持った人

② 平成29年度入学者選抜概要

募集人員

(単位：名)

研究科・専攻名	推薦選抜	一般選抜	特別選抜 (社会人)	特別選抜 (私費外国人留学生)
デザイン研究科 デザイン専攻	9	9	若干名	若干名
看護学研究科 看護学専攻		18 (一般選抜、特別選抜を含む)		

※デザイン研究科の特別選抜(社会人・私費外国人留学生)の若干名は推薦選抜及び一般選抜の合計18名を含む。



選抜日程

研究科・専攻名	選抜区分	出願期間	試験日	合格発表等
デザイン研究科 デザイン専攻	推薦選抜	平成28年6月24日 ～7月1日	平成28年7月23日	平成28年8月4日 【入学手続期間】 平成28年8月4日～8月10日
	一般選抜	平成28年8月26日 ～9月2日	平成28年9月24日	平成28年10月11日 【入学手続期間】 平成28年10月11日～10月18日
	特別選抜（社会人・私費外国人留学生）			
	一般選抜 【第2次募集】	平成29年2月3日 ～2月10日	平成29年3月4日	平成29年3月14日 【入学手続期間】 平成29年3月14日～3月21日
	特別選抜（社会人・私費外国人留学生） 【第2次募集】			
看護学研究科 看護学専攻	一般選抜	平成28年8月18日 ～8月24日	平成28年9月24日	平成28年10月11日 【入学手続期間】 平成28年10月11日～10月18日
	特別選抜（社会人・私費外国人留学生）			
	一般選抜 【第2次募集】	平成29年1月5日 ～1月11日	平成29年2月4日	平成29年2月21日 【入学手続期間】 平成29年2月21日～2月28日
	特別選抜（社会人・私費外国人留学生） 【第2次募集】			

試験会場

研究科名	試験会場
デザイン研究科	芸術の森キャンパス
看護学研究科	桑園キャンパス

選抜方法

研究科・専攻名	選抜区分	選抜方法
デザイン研究科 デザイン専攻	推薦選抜	本学大学院が実施する面接・試問の評価及び研究計画書等の提出書類の内容を総合的に判定して行う。
	一般選抜	本学大学院が実施する学力検査（専門科目の筆記試験）、面接・試問の評価及び研究計画書等の提出書類の内容を総合的に判定して行う。 ※英語はTOEICのスコアにより評価する。
	特別選抜（社会人・私費外国人留学生）	本学大学院が実施する学力検査（専門科目の筆記試験）、面接・試問の評価及び研究計画書等の提出書類の内容を総合的に判定して行う。
看護学研究科 看護学専攻	一般選抜	本学大学院が実施する筆記試験（英語、専門科目）、面接（口頭試問含む）及び提出書類の内容を総合的に判定して行う。
	特別選抜（社会人・私費外国人留学生）	



ii 選抜状況

① 入学者選抜状況

a. 選抜・入学状況

デザイン研究科【第1次・第2次募集合計】

(単位：名)

選抜区分	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
推薦選抜	9	4	4	4	4
一般選抜	9	10	10	9	8
特別選抜（社会人）	若干名	2	2	2	2
特別選抜 （私費外国人留学生）	若干名	6	6	3	2

看護学研究科【第1次・第2次募集合計】

(単位：名)

選抜区分	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
一般選抜	18	5	5	3	3
特別選抜（社会人）		15	15	9	9

b. 入学者の内訳

(単位：名)

研究科	入学者数	道内外の内訳			男女の内訳	
		道内		道外	男	女
		札幌市内	札幌市外			
デザイン研究科	16	15	1	0	6	10
看護学研究科	12	7	4	1	5	7
合計	28	22	5	1	11	17

2) 博士後期課程

i 入学者選抜要項

① アドミッション・ポリシー

【デザイン研究科博士後期課程】

＜教育研究の理念＞

本課程は、人間重視を根幹とした高度な教育・研究を実践し、「知と創造の拠点」として地域からの負託に応え、高度の専門知識・技術を基盤に地域社会の発展に寄与します。さらに、高度で先進的な教育・研究の中核機関として機能し、新たな理論構築や技術開発に独創的に取り組み、新たな社会価値の創造を図ることが教育研究の理念です。

＜教育研究の目的＞

本課程は、地域社会に内在する様々な課題をデザインの視点から幅広く発見するとともに、高度な教育・研究の成果を通じて、その解決策を見い出し、より豊かな人間生活や地域社会の実現に貢献できる人材を育成することを目的としています。この目的を達成するために、本課程が求める学生像は次のとおりです。

＜デザイン研究科博士後期課程の求める学生像＞

- 1 柔軟な思考と独創的な視点に立って地域課題を発見・明確化し、その課題解決に向けて



- 旺盛な探究心を持って自立した研究を遂行できる人
- 2 豊かな感性と深い見識を持ち、高度な教育・研究による成果をもとにデザインの発展に貢献しようとする意識を有する人
 - 3 既成の概念にとらわれず、自立して独自のデザイン理論構築や技術開発に取り組み、新たな社会価値の創造を目指す意欲と実行力を有する人

【看護学研究科博士後期課程】

本課程では、高度な学識と豊かな実践経験を基礎に様々な看護現象の分析や評価を行い、その研究成果をもとに将来を見据えた看護の枠組みを再構築し、システム開発などを行うことができる人材を育成することを目的としています。この目的を達成するために、本課程が求める学生像は次のとおりです。

＜看護学研究科博士後期課程が求める学生像＞

- 1 柔軟な思考と独創的な視点に立って、看護を軸とした諸課題を発見・明確化し、その課題解決に向けて旺盛な探究心を持って自立した教育・研究を遂行できる人
- 2 保健医療福祉分野における新たな理論構築や技術開発等を通じて、より質の高い看護サービスのあり方を探求する意欲を有する人
- 3 卓越した看護知識と高い倫理観に基づく実践能力を有し、教育・管理能力の研鑽に励み、将来を見据えた保健医療福祉分野の指導者となりうる人

② 平成29年度入学者選抜概要

募集人員

(単位：名)

研究科・専攻名	一般選抜
デザイン研究科 デザイン専攻	3
看護学研究科 看護学専攻	3

選抜日程

研究科・専攻名	選抜区分	出願期間	試験日	合格発表等
デザイン研究科 デザイン専攻	一般選抜	平成29年2月3日 ～2月10日	平成29年3月4日	平成29年3月14日 【入学手続期間】 平成29年3月14日～3月21日
看護学研究科 看護学専攻	一般選抜	平成29年1月5日 ～1月11日	平成29年2月4日	平成29年2月21日 【入学手続期間】 平成29年2月21日～2月28日

試験会場

研究科名	試験会場
デザイン研究科	芸術の森キャンパス
看護学研究科	桑園キャンパス



選抜方法

研究科・専攻名	選抜区分	選抜方法
デザイン研究科 デザイン専攻	一般選抜	本学大学院が実施する面接（研究計画書に基づくプレゼンテーション、口頭試問を含む）の評価及び研究計画書等の提出書類の内容を総合的に判定して行う。
看護学研究科 看護学専攻	一般選抜	本学大学院が実施する筆記試験（英語）、面接（研究計画書に基づくプレゼンテーション、口頭試問を含む）及び提出書類の内容を総合的に判定して行う。

ii 選抜状況

① 入学者選抜状況

a. 選抜・入学状況

デザイン研究科

(単位：名)

選抜区分	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
一般選抜	3	2	2	2	2

看護学研究科

(単位：名)

選抜区分	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
一般選抜	3	4	4	1	1

b. 入学者の内訳

(単位：名)

研究科	入学者数	道内外の内訳			男女の内訳	
		道内		道外	男	女
		札幌市内	札幌市外			
デザイン研究科	2	1	0	1	1	1
看護学研究科	1	1	0	0	0	1
合計	3	2	0	1	1	2

3 助産学専攻科

1) 入学者選抜要項

① アドミッション・ポリシー

本専攻科は、看護学を基盤に、助産に関する幅広く高度な知識と正確な技術を育み、地域社会における母子保健の向上に貢献できる人間性豊かな助産師の育成を目的としています。

これらの目的を達成するために、本専攻科が求める学生像は次のとおりです。

<助産学専攻科が求める学生像>

- 1 「生命の誕生」に、責任を持って真摯に向き合える誠実で優しい人
- 2 看護学を基盤に、倫理観を持ち、主体的に「助産学」を積み重ねることができる人
- 3 広い視野で現代社会をとらえ、母子保健を取り巻くさまざまな課題の解決を追求できる人



② 平成28年度入学者選抜概要

募集人員

(単位：名)

専攻科名	募集人員
助産学専攻科	10

選抜日程

出願期間	試験日	合格発表等
平成28年8月3日 ～8月9日	平成28年9月3日	平成28年9月20日 【入学手続期間】 平成28年9月20日～9月27日

試験会場

専攻科名	試験会場
助産学専攻科	桑園キャンパス

選抜方法

専攻科名	選抜方法
助産学専攻科	入学者の選抜は、本学専攻科が実施する筆記試験（専門科目（看護学一般）、小論文）、面接及び提出書類の内容を総合的に判定して行う。

2) 選抜状況

a. 選抜・入学状況

(単位：名)

募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
10	35	34	15	10

b. 入学者の内訳

(単位：名)

入学者数	道内外の内訳			男女の内訳	
	道内		道外	男	女
	札幌市内	札幌市外			
10	6	0	4	—	10



VII 附属図書館

1 概要

1) 施設規模

芸術の森キャンパス図書館 延べ床面積／1,500m²

桑園キャンパス図書館 延べ床面積／500m²

2) 図書・雑誌・視聴覚資料・電子ジャーナル所蔵数

(平成29年3月31日現在)

図書館の名称	図書の冊数				雑誌の種数		
	和書	洋書	視聴覚資料	計	和雑誌	洋雑誌	電子 ジャーナル
芸術の森 キャンパス図書館	70,022	9,355	3,545	82,922	385	57	550
桑園 キャンパス図書館	38,394	1,723	1,289	41,406	416	9	2,077
合計	108,416	11,078	4,834	124,328	801	66	2,627

3) 平成28年度年間受入状況

区分			和	洋	計
芸術の森 キャンパス 図書館	図書 (冊)	購入	1,614	136	1,750
		寄贈	203	20	223
		計	1,817	156	1,973
	雑誌 (種)	購入	28	7	35
		寄贈	41	0	41
		計	69	7	76
桑園 キャンパス 図書館	図書 (冊)	購入	1,317	23	1,340
		寄贈	86	5	91
		計	1,403	28	1,431
	雑誌 (種)	購入	83	5	88
		寄贈	103	1	104
		計	186	6	192



2 利用状況

1) 開館時間・休館日

開館時間	平 日：午前9時～午後10時 土曜日：午前10時～午後4時 大学の長期休業期間中：午前9時～午後5時（平日）
休 館 日	日曜・祝日・年末年始

2) 利用資格

18歳以上の方

3) 貸出冊数・期間

利用者	貸出冊数	貸出期間
学部生 (科目等履修生を含む)	10冊	図書：2週間 雑誌：2週間（芸森館の一部のみ貸出可） 視聴覚資料：1週間
教職員	無制限	図書：2ヶ月間 雑誌：2週間（芸森館の一部のみ貸出可） 視聴覚資料：1週間
市民等学外者	3冊	図書：2週間 雑誌：2週間（芸森館の一部のみ貸出可）

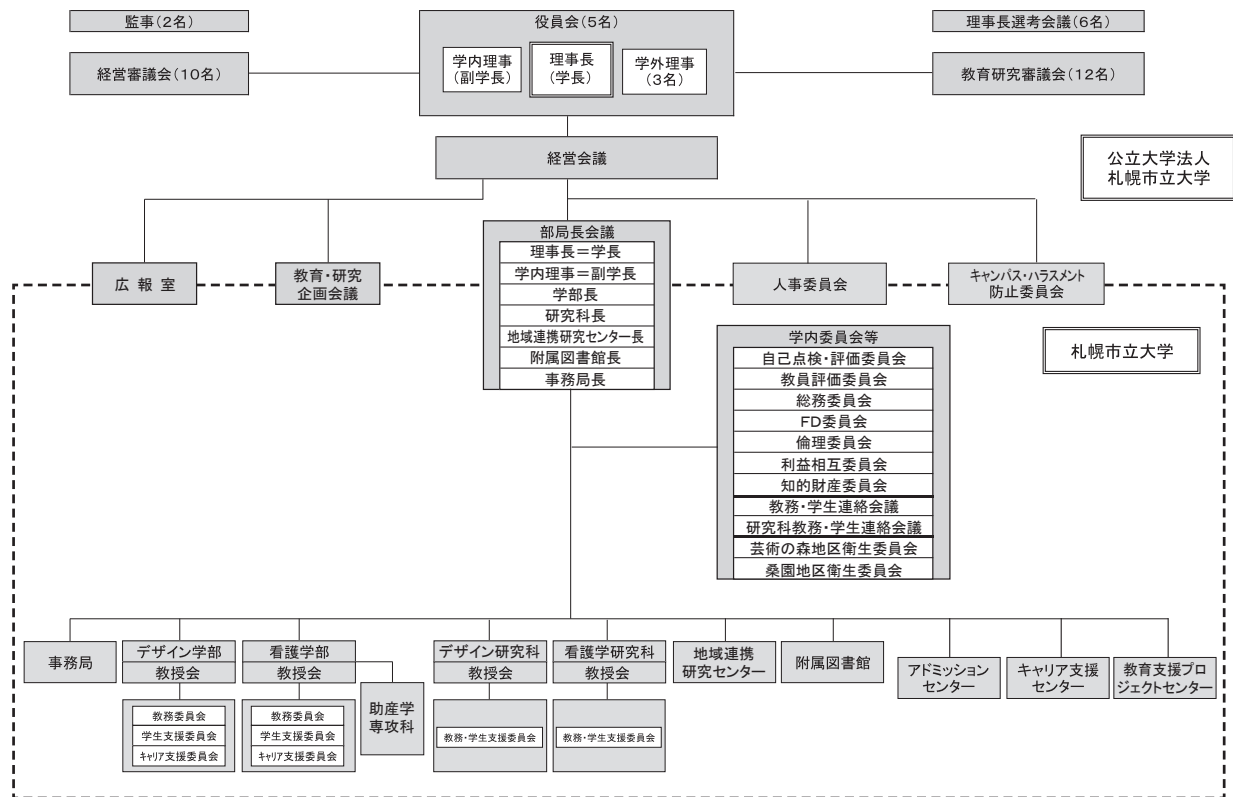
4) 年間利用者数・貸出冊数等

図書館の 名称	利用者	開館 日数	入館 者数	貸出 人数	貸出 冊数	ILL件数	
						受付	依頼
芸術の森 キャンパス図書館	学生・ 教職員	271	12,292	3,472	7,835	13	60
	市民等 学外者	271	1,367	341	691	—	—
桑 園 キャンパス図書館	学生・ 教職員	271	25,859	6,124	13,734	232	1,071
	市民等 学外者	271	1,959	508	1,163	—	—
合計		—	41,477	10,445	23,423	245	1,131

ILL：Inter-Library Loan（相互貸借）

VII 法人・学内運営の概要

1 平成28（2016）年度公立大学法人札幌市立大学 組織図



2 役員会及び審議会の審議状況

回数	経営審議会	教育研究審議会	役員会
第1回	(1)平成27年度事業報告及び決算について (2)平成27事業年度業務の実績に関する報告について (3)自己点検・評価実施方針について (4)公立大学法人札幌市立大学名誉教授称号授与について	(1)平成27年度事業報告及び決算について (2)平成27事業年度業務の実績に関する報告について (3)自己点検・評価実施方針について (4)公立大学法人札幌市立大学名誉教授称号授与について	(1)平成27年度事業報告及び決算について (2)平成27事業年度業務の実績に関する報告について
第2回	(1)平成29年度予算編成方針について (2)教員の再任について	(1)平成29年度予算編成方針について (2)教員の再任について	(1)平成29年度予算編成方針について
第3回	(1)平成29年度年度計画及び予算について (2)学則等の改正について (3)大学評価（認証評価）の申請について	(1)平成29年度年度計画及び予算について (2)学則等の改正について (3)大学評価（認証評価）の申請について	(1)平成29年度年度計画及び予算について



3 役員及び審議会委員名簿（平成28年4月1日現在）

1) 役員

役職	氏名	現職
理 事 長	蓮見 孝	札幌市立大学 学長
理 事（常勤）	樋之津 淳子	札幌市立大学 副学長 兼 看護学部長
理事（非常勤）	恩村 裕之	北海道電力株式会社 代表取締役副社長執行役員
理事（非常勤）	山岸 正美	株式会社マーケティング・コミュニケーション・エルグ 代表取締役
理事（非常勤）	橋本 道政	公益財団法人札幌市芸術文化財団 副理事長
監事（非常勤）	橋場 弘之	田村・橋場法律事務所（札幌市任命）
監事（非常勤）	高松 謹也	公認会計士 高松謹也事務所（札幌市任命）

2) 経営審議会委員

役職	氏名	現職
理 事 長	蓮見 孝	
理 事	樋之津 淳子	
理 事	恩村 裕之	北海道電力株式会社 代表取締役副社長執行役員
理 事	橋本 道政	公益財団法人札幌市芸術文化財団 副理事長
事務局長	大古 聡	
学外委員	菊嶋 明廣	札幌商工会議所 常務理事
学外委員	福井 知克	一般財団法人さっぽろ産業振興財団 専務理事
学外委員	秋野 豊明	溪仁会グループ 会長
学外委員	花井 秀勝	フュージョン株式会社 代表取締役会長
学外委員	町野 和夫	北海道大学大学院経済学研究科 教授

3) 教育研究審議会委員

役職	氏名	現職
学 長	蓮見 孝	
理 事	樋之津 淳子	
理 事	山岸 正美	株式会社マーケティング・コミュニケーション・エルグ 代表取締役
デザイン学部長	細谷 多聞	
デザイン研究科長	城間 祥之	
看護学研究科長	松浦 和代	
附属研究所長	上遠野 敏	
附属図書館長	山本 勝則	
事務局 長	大古 聡	
学 外 委 員	山中 善夫	札幌市教育委員会委員

任期：平成30年3月31日まで



4 経営会議

平成28年度は13回の会議を開催した。

会議では、法人の経営及び札幌市立大学の教育研究に関する重要事項について協議を行った。

5 部局長会議

回数	開催日	議題
第1回	4月6日	(1)感染症（集団）発生の対応（案）について
第2回	5月11日	(1)感染症（集団）発生の対応（案）について (2)大学基準協会の認証評価の受審について
第3回	6月1日	(1)平成28年度前期 授業料減額免除について (2)平成27年度年度計画の実績報告に係る点検結果について (3)平成27年度決算について (4)認証評価の受審に向けた自己点検・評価実施方針について
第4回	7月6日	なし
第5回	7月19日	(1)札幌市地方独立行政法人評価委員会によるヒアリングの概要について (2)平成27事業年度実績報告に係るヒアリング回答（案）について (3)第二期中期計画中間評価に係るヒアリング回答（案）について
第6回	8月12日	(1)札幌市法人評価委員会の評価結果（案）について (2)研究倫理規程および倫理委員会規程の改定について
第7回	9月7日	(1)研究倫理教育の実施について (2)「（仮称）北海道創生・海外留学支援協議会」への参加について
第8回	10月5日	なし
第9回	11月2日	(1)次期中期計画の策定について
第10回	12月7日	(1)福祉避難場所等への学生等ボランティアの派遣協力に関する協定の締結について (2)学生用大地震対応マニュアルの制作・配布について (3)平成29年度入学式及び卒・修了式の日程について (4)平成28年度後期授業料減額免除について
第11回	1月4日	(1)キャンパスの活用等に関するプラン案について (2)協議会設置の覚書について (3)自己点検・評価結果について
第12回	2月1日	なし
第13回	2月9日	(1)第三期中期計画 計画予算見積調書（新規・レベ）について
第14回	2月13日	(1)平成29年度年度計画（案）について
第15回	3月1日	(1)デザイン研究科博士前期課程の再編について (2)自己点検・評価結果について (3)学則・規則改正について (4)平成29年度主要会議予定表について (5)平成29年度学内委員会等について (6)共同研究費について



6 企画室会議

企画室会議は、全学ポリシーの策定に関する事、教育改革に関する事について企画・立案し、経営会議へ提案する組織として平成28年5月に設置した。また、「全学ポリシー策定部門」及び「教育改革部門」を設置し、両部門会議を10回同時開催した。

平成28年度の主な活動として、両学部共通ポリシーの策定を行ったほか、障害者差別解消法に伴う教職員の対応要領の策定に向け協議を行った。

7 広報室

広報室は、主に広報戦略の推進に関する事項等を所管しており、平成28年度は大学の広報全般を所管する「広報企画部門」、制作物に関する事を所管する「広報制作部門」を設置した。平成28年度の会議の開催数は、広報室が1回、広報企画部門が7回、広報制作部門が11回であった。

主な活動として、2017年度版大学パンフレットを発行し、2018年度版大学パンフレットの検討・制作を行った。また、大学公式ウェブサイトの管理・更新を行ったほか、平成29年度大学広報委託業者を選定する企画審査会（プロポーザル）を実施した。

8 教授会

1) デザイン学部教授会

デザイン学部教授会は、平成28年度に13回開催し、教育課程の編成、学生の入学・在籍、学生支援、その他学部の教育等に関する事項などについて、幅広く審議を行った。

また、教授会終了後には、毎回、各学内委員会及び学部委員会からの報告を行う教員会議を開催した。

2) 看護学部教授会

看護学部教授会は、平成28年度に臨時教授会2回を含む14回開催し、教育課程の編成、学生の入学・在籍、学生支援、進級卒業判定及びその他学部の教育研究等に関する事項などについて、幅広く審議を行った。また、助産学専攻科における教育課程の編成、修了判定及びその他専攻科の教育研究に関する事項などについても本教授会において、幅広く審議を行った。

教授会終了後には、各学内委員会及び学部委員会からの報告を行う教員会議を開催した。

3) デザイン研究科教授会

デザイン研究科教授会は、平成28年度に14回開催し、教育課程の編成、学生の入学・在籍、学生支援、その他研究科の教育等に関する事項などについて、幅広く審議を行った。

また、デザイン研究科博士後期課程に関する事項について審議するため、博士後期課程会議（研究科教授会代議員会）を13回開催した。

4) 看護学研究科教授会

看護学研究科教授会は、平成28年度に臨時教授会2回を含む14回開催し、教育課程の編成、学生の入学・在籍、学生支援、修了判定及びその他研究科の教育研究等に関する事項などについて、幅広く審議を行った。また、各学内委員会等からの報告も行い、必要に応じて看護学研究科科目担当専任教員を構成員とする拡大会議として開催した。

9 地域連携研究センター

地域・産学連携部門、国際交流部門、紀要編集委員会の3セクションに構成員を配置して、公開講



座、研究活動、地域貢献および国内外ネットワーク形成の推進を担い、活動を行った。また、運営会議（計11回開催）で課題や情報を集約したほか、主な活動内容は以下のとおりである。

＜公開講座＞

大学が持つ知的資源をデザイン・看護の視点に基づき地域に還元し、地域の産業、まちづくり、保健・医療・福祉等への貢献をすることを目的として、公開講座を開催した。専門職業人や市民を対象とした32コース（61コマ）【うちCOC関連21コース（44コマ）】の講座を、延べ1014名が受講した。また、ちえりあとの連携講座として6コマ139名の受講、今年度も北海道立総合研究機構との共催講座「知活ゼミナール」を開催し2コマ50名が受講した。

平成27年度から公開講座を、体系的に整理することにより、全体の傾向を把握し、且つ、今後の公開講座の企画運営において、大学が保有する知的資源を有効に活用することを目的として、受講希望者及び企画運営における2つの視点から、公開講座の体系を大項目として「一般市民向け」「専門職向け」を、中項目として「デザイン分野」「看護分野」「学際分野」を設けている。大項目・中項目に加え、小項目に「4コース9領域」と「共通教育」を加えることにより、分野別に講座の実施状況を把握し、企画運営を行った。

＜地域・産学連携＞

地域からの協力要請に対して、本学教員・学生が本来の活動の延長上で教育・研究の成果を地域に還元するため、地域連携活動の協力を行った。また、教員の研究成果を学外に周知し産官学連携のきっかけを探るために、「ビジネスEXPO」等の展示会へ出展したほか、産官学連携を目的とした学外向けの産官学研究交流会の開催や、北海道立総合研究機構との視察研究交流会を開催し、更なるネットワークづくりを図った。

＜国際交流＞

国際化に関する基本方針および行動計画に基づき、4つの戦略を下記の通り、引き続き推進した。

・「学生の国際化」

本学、学生交流については、デザイン学部生が華梵大学でのデザイン合同ワークショップに参加した。承德医学院関係者の来学時の学生交流については、学生が主体的に企画し積極的な交流を図り受入を行った。また、提携校ではないが、マレーシアのKPJ Healthcare University College (KPJ) との海外研修やインドネシアのバンドン工科大学に共同デザインワークショップ参加のため学生を派遣した。

華梵大学からの特別聴講学生の受入も継続して行っている。

・「教職員の国際化」

学術奨励研究において、教員の国際学会・国際展示会への発表を促すための補助制度を継続し、国際学会誌に発表した際の補助制度を推奨している。

・「提携校との交流の活性化」

華梵大学へ非常勤講師として、学長を派遣した。また、清華大学美術学院設立60周年開学式典に学長と教員を派遣した。

台中科技大学との交流促進のため、受入の検討を行った。

・「海外とのネットワーク化」

ポートランドのPacific Northwest Collage of Art (PNCA) から関係者が来学し、今後の交流の可能性を検討した。

また、日豪若手研究員派遣事業研究者が研究交流のため来学し本学を視察、教員と交流した。

＜紀要編集＞

前年度に発行準備をしていた研究論文集「SCU Journal of Design & Nursing 第10巻」を平成28年6月末に発行した。また、第11巻を平成29年7月に発行することとし、投稿論文について査読を行い、発行の準備をした。



＜研究推進＞

地域や産業界から依頼された受託研究11件、共同研究1件、寄附金12件の受入れを行い、次年度の学内競争的研究費（学術奨励研究費・共同研究費・田村ICT基金）の公募と審査に係わる制度設計を行い、学術論文掲載料等補助の制度を改善した。また、両学部の教員の交流を図るため研究交流会を、産学官連携のシーズ創出を図るため産学官連携研究交流会を企画・実施した。

10 附属図書館

平成28年度は全11回運営会議を開催し、附属図書館の運営に係る事項について協議を行った。主な協議内容は、図書館利用の活性化、図書館予算の考え方、データベース・電子ジャーナルの契約方針、購読雑誌の契約検討、図書館システムリプレイス、研究室蔵書点検の実施頻度、学外利用者資格、研究室資料の貸出返却、長期休業期間の長期貸出、等であった。

芸術の森図書館の利用活性化に向け、芸術の森キャンパスライブラリ部会を立ち上げ、新着図書案内（立体的な展示、メールマガジンの配信）や芸術の森図書館情報誌「ほんわか」の発行、春期休業期間の長期貸出に向けての検討、デジタルサイネージの設置準備を行った。

図書館システムは、9月12日から新システムの稼働を始めた。

この他、北海道地区大学図書館協議会相互利用促進事業運営委員会の委員長館をつとめた。

芸術の森図書館では、札幌芸術の森美術館との連動企画展を開催（7月11日～8月19日）、アートブックフェアへ参加（11月7日～12月3日）した。

11 アドミッションセンター

入学者選抜試験及びそれに伴う入試広報、入学者選抜方法の調査研究及び統計等に関する事業の計画的な推進を行った。

平成28年度は計10回の会議を開催し、前年度の入試結果の分析、入学者選抜方法の検討、高校訪問・進学相談会の実施計画の策定、入試区分ごとの学生募集要項・選抜試験実施要領に関する審議、入学者選抜試験に係る現状分析を行った。

また、学生募集に係る具体的な取組として、オープンキャンパス、大学・大学院等説明会、高校訪問及び中学生向け広報活動等を企画・実施した。

さらに、アドミッションセンターメンバーに学長を加えた大学入試センター試験実施委員会においては、幹事大学として平成29年度大学入試センター試験を実施するために必要な事項を審議した。

12 キャリア支援センター

キャリア支援センターは、両学部に関係するキャリア支援に係る改善・充実を目的として、平成20年4月に設置され、両学部のキャリア支援委員会においては、各学部の特性や特長及び社会情勢に応じたキャリア支援を行った。

13 教育支援プロジェクトセンター

教育支援プロジェクトセンターは、文部科学省の補助事業や公的機関が実施する事業に係わるプロジェクト等を所管しており、「COC+部門」「サードレベル部門」「看護コンソーシアム部門」を設け、各部門において活動を行った。



14 学内委員会

1) 自己点検・評価委員会

自己点検・評価委員会は、主に認証評価や年度計画の進捗管理に関する事項等を所管しており、平成28年度は24回開催した。

平成28年度の主な活動として、認証評価に係る点検・評価報告書（案）や平成27年度年度計画の実績報告書（案）の作成を行ったほか、平成28年度年度計画について半期（一部の項目は四半期）ごとに取組状況の進捗管理を行った。

2) 教員評価委員会

平成28年度は2回の委員会のほか、ワーキングや専門部会を開催し、各教員から提出された教員活動実績申告書の確認作業や教員評価書の作成作業を行うとともに、次年度に向けた、記入要領及び申告書様式等の検証を行った。

評価結果については、平成28年度末に任期満了を迎える教員の再任審査に活用した。

3) 総務委員会

平成28年度は9回の委員会を開催した。

委員会では、キャンパス活用等に関するプラン案を策定し、全教職員へ周知を行った。また、情報セキュリティポリシー対策基準の見直しを検討した。

なお、昨年に引き続き、夏季及び冬季の節電対策について検討を行い実施した。

4) FD委員会

FD委員会は、教員の資質向上、FDに関する情報の共有化・情報収集のため、学内研修会の開催及び学外研修会への教員派遣等を積極的に行った。委員会を10回開催し、FD活動の方針について議論するとともに、具体的な取り組みについて、内容を検討し、実施した。

平成28年度の具体的な活動として、FD委員会が主催・共催の全学FD研修会（2回延べ134名）、FD委員会以外の部署が主催の全学FD研修会（3回延べ123名）、学部・研究科ごとのFD研修会（9回延べ285名）、学外研修会への教職員派遣（A区分：4件延べ6名、B区分：8件延べ13名）、授業参観（9件延べ11名）、授業評価アンケート集計結果に対する所見の公開を実施した。

なお、学内で実施されたFD研修会の実施状況については、FDマップを作成することで整理している。また、「北海道地区FD・SD推進協議会」に幹事校として参加した。

5) 倫理委員会

倫理委員会は研究を遂行する際に、被験者（研究協力者）等の人権擁護の観点から、研究倫理に則った十分な配慮をした研究計画になっているか否かを審査している。

平成28年度は、毎月末日を研究倫理審査申請の締切りとし、原則、毎月第4水曜日に委員会を開催した（計13回開催 ※特別審査部門を臨時開催1回）。

平成24年度から始めた審査方法として、倫理委員会における審査に先立ち倫理委員が審査資料の事前確認をした上で、申請者へコメントを送付し、加筆修正・説明を求めている。この方法をとることにより、審査時間の短縮と審査申請から研究開始までの迅速化を図っている。

年間の審査申請総数は60件であり、1回当たり平均4.6件の審査を実施した。審査結果は「承認」、「条件付承認」、「変更の勧告」、「非該当」のいずれかとし、「条件付承認」となった申請については、修正箇所を確認し承認する「迅速審査」を行った。

また、審査の社会的透明性及び客観性を担保すると同時に申請者や委員に係るリスク管理の保全のため、平成23年度から継続して、法律家1名に外部委員を委嘱している。平成28年度は前年度に引き続き、吉岡直樹弁護士（札幌星空法律事務所）が委員として審査に加わった。

また、平成26年12月告示の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」（文部科学省・厚生労働省）においては、倫理審査委員会の成立要件として、構成員に「倫理審査委員会の設置者の所属機関に所属しない者が複数含まれていること」とされていることから、平成27年度から人を対象に介入・侵襲を伴う医学系研究の倫理審査を扱う特別審査部門を設置し、もう1名の外部委員



として今井富裕氏（札幌医科大学保健医療学部教授）が加わり審査を行った。平成28年度には、特別審査部門を2回開催した。

6) 利益相反委員会

利益相反委員会は、産学官連携活動大学と職員等が利益相反の疑いを持たれることを防ぐことにより、大学と職員等を保護しつつ、大学の社会的信頼を維持することを目的としている。平成28年度に新設され、当年度において1回開催し、利益相反自己申告書1件について審議を行った。

7) 知的財産委員会

知的財産委員会は、平成28年度に4回開催し、学内の知的財産に係わる管理・運営を行った。また、「産学連携知的財産アドバイザー派遣プログラム（工業所有権情報・研修館主催）」へ「北東北ものづくりプロジェクト形成ネットワーク」として参加した。当該事業から派遣される知的財産アドバイザーの支援を受け、外部企業と専用実施権契約を締結している案件の製品化に向けた検討を開始した他、特許申請を1件行った。

8) 教務・学生連絡会議

教務・学生連絡会議は、平成28年度に11回開催し、共通教育、デザイン・看護両学部の連携教育に関する事項及び学生生活、課外活動支援に関する事項等について、年度計画を見据え、かつ実際の授業運営等に即した事項について審議した。

具体的には、学事暦、時間割、シラバス、定期試験及び授業評価アンケートに関すること、また、奨学金、大学祭、チューター制度に関すること等について審議したほか、年度計画に対応した取り組みとしては、共通教育科目の効果検証、授業評価アンケートの見直し、成績評価状況の確認等を行った。また、毎回、両学部の教務委員会及び学生支援委員会から教務及び学生支援に関する課題を報告し、両学部の情報を共有した。

9) 研究科教務・学生連絡会議

研究科教務・学生連絡会議は、平成28年度に8回開催し、デザイン・看護学両研究科の連携教育に関する事項、研究科連携科目に関する事項及び学生生活に関する事項等について、年度計画を見据え、かつ実際の授業運営等に即した事項について審議した。

具体的には、研究科連携科目である連携プロジェクト演習の効果検証、院生研究支援費、シラバスや履修の手引き等に関する事項について審議した。



15 構成員名簿

区分		委員会等	委員・構成員	
			教職員名	所属・職位等
		経営会議	◎蓮見 孝 樋之津 淳子 大古 聡	理事長 学内理事 事務局長
		部局長会議	◎蓮見 孝 樋之津 淳子 細谷 多聞 城間 祥之 松浦 和代 上遠野 敏 山本 勝則 大古 聡	理事長 理事 兼 副学長 兼 看護学部長 デザイン学部長 デザイン研究科長 看護学研究科長 地域連携研究センター長 附属図書館長 事務局長
		企画室	◎蓮見 孝 樋之津 淳子 細谷 多聞 城間 祥之 松浦 和代 大古 聡	理事長 兼 学長 副学長 兼 看護学部長 デザイン学部長 デザイン研究科長 看護学研究科長 事務局長
		広報室	◎蓮見 孝 細谷 多聞 上遠野 敏 宮崎 みち子 安齋 利典 スーディ神崎 和代 清水 光子 菅原 美樹 石田 勝也 福田 大年 大古 聡 飯塚 和恵	理事長 デザイン学部長 地域連携研究センター長 助産学専攻科長 デザイン学部教授 看護学部教授 看護学部准教授 看護学部准教授 デザイン学部講師 デザイン学部講師 事務局長 事務局次長 兼 経営企画課長
		人事委員会	◎蓮見 孝 樋之津 淳子 細谷 多聞 城間 祥之 松浦 和代 大古 聡	学長 副学長 兼 看護学部長 デザイン学部長 デザイン研究科長 看護学研究科長 事務局長 兼 調整担当部長
		キャンパス・ハラスメント 防止委員会	◎蓮見 孝 樋之津 淳子 細谷 多聞 城間 祥之 松浦 和代 大古 聡	学長 副学長 兼 看護学部長 デザイン学部長 デザイン研究科長 看護学研究科長 事務局長
		地域連携研究センター	◎上遠野 敏 原 俊彦	地域連携研究センター長 デザイン学部教授



区分		委員会等	委員・構成員	
			教職員名	所属・職位等
		地域連携研究センター	小田 和美 張 浦華 山田 信博 山田 良 大野 夏代 古都 昌子 渡邊 由加利 小宮 加容子 金 秀敬 小坂 美智代 三上 智子 柏倉 大作 飯塚 和恵 上田 理子	看護学部教授 デザイン学部准教授 デザイン学部准教授 デザイン学部准教授 看護学部准教授 看護学部准教授 看護学部准教授 デザイン学部講師 デザイン学部講師 看護学部講師 看護学部講師 看護学部助教 事務局次長 事務局地域連携課長
		図書館	◎山本 勝則 町田 佳世子 武田 亘明 松井 美穂 神島 滋子 菊地 ひろみ 松永 康佑 小田嶋 裕輝 上田 理子	附属図書館長 デザイン学部教授 デザイン学部准教授 デザイン学部准教授 看護学部准教授 看護学部准教授 デザイン学部講師 看護学部助教 事務局地域連携課長
		教育支援プロジェクト センター	◎蓮見 孝 樋之津 淳子 中原 宏 猪股 千代子 大古 聡	理事長 副学長 兼 看護学部長 デザイン学部教授 看護学部教授 事務局長
		アドミッションセンター	◎樋之津 淳子 細谷 多聞 宮崎 みち子 羽深 久夫 斉藤 雅也 上村 浩太 大淵 一博 須之内 元洋 工藤 京子 矢野 祐美子 烝野 直樹 布廣 成規	副学長 兼 看護学部長 デザイン学部長 助産学専攻科長 デザイン学部教授 デザイン学部准教授 看護学部准教授 デザイン学部講師 デザイン学部講師 看護学部講師 看護学部講師 事務局学生課長 事務局桑園担当課長
		キャリア支援センター	樋之津 淳子 ◎細谷 多聞 安齋 利典 スーディ神崎 和代 大古 聡	副学長 兼 看護学部長 デザイン学部長 デザイン学部教授 看護学部教授 調整担当部長



区分	委員会等	委員・構成員	
		教職員名	所属・職位等
学内委員会	常置委員会	樋之津 淳子 細谷 多聞 ◎松浦 和代 城間 祥之 宮崎 みち子 斉藤 雅也 飯塚 和恵	看護学部長 デザイン学部長 看護学研究科長 デザイン研究科長 助産学専攻科長 デザイン学部准教授 経営企画課長
		◎蓮見 孝 樋之津 淳子 細谷 多聞 城間 祥之 松浦 和代 石井 雅博 定廣 和香子 大古 聡	学長 副学長 兼 看護学部長 デザイン学部長 デザイン研究科長 看護学研究科長 デザイン学部教授 看護学部教授 事務局長
		齊藤 利明 河原田 まり子 山田 良 高井 真希子 菅原 美樹 金子 晋也 檜山 明子 ◎大古 聡	デザイン学部教授 看護学部教授 デザイン学部准教授 デザイン学部准教授 看護学部准教授 デザイン学部助教 看護学部助教 事務局長
		◎上遠野 敏 羽深 久夫 川村 三希子 張 浦華 山田 信博 渡邊 由加利 原井 美佳 坂東 奈穂美 烝野 直樹 布廣 成規	地域連携研究センター長 デザイン学部教授 看護学部教授 デザイン学部准教授 デザイン学部准教授 看護学部准教授 看護学部講師 看護学部助教 事務局学生課長 事務局桑園担当課長
		◎山本 勝則 宮崎 みち子 原 俊彦 武田 亘明 三谷 篤史 藤井 瑞恵 田中 広美 上田 理子	附属図書館長 助産学専攻科長 デザイン学部教授 デザイン学部准教授 デザイン学部准教授 看護学部講師 看護学部講師 事務局地域連携課長
		◎蓮見 孝 樋之津 淳子 大古 聡	理事長 理事 事務局長



区分		委員会等	委員・構成員	
			教職員名	所属・職位等
学内委員会	常置委員会	知的財産委員会	◎上 遠 野 敏 原 俊 彦 小 田 和 美 山 田 良 古 都 昌 子 飯 塚 和 恵 上 田 理 子	地域連携研究センター長 デザイン学部教授 看護学部教授 デザイン学部准教授 看護学部准教授 事務局次長 事務局地域連携課長
	学部間 連絡調整会議	教務・学生連絡会議	樋之津 淳子 ◎細谷 多聞 中原 宏 原 俊彦 吉田 和夫 河原田 まり子 川村 三希子 烝野 直樹 布廣 成規	看護学部長 デザイン学部長 デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部教授 看護学部教授 看護学部教授 事務局学生課長 事務局桑園担当課長
	研究科間	研究科教務・学生連絡会議	◎城間 祥之 松浦 和代 石井 雅博 猪股 千代子 烝野 直樹 布廣 成規	デザイン研究科長 看護学研究科長 デザイン学部教授 看護学部教授 事務局学生課長 事務局桑園担当課長
衛生委員会		芸術の森地区衛生委員会	齊藤 利明 金 秀敬 ◎大古 聡	デザイン学部教授 デザイン学部講師 調整担当部長
		桑園地区衛生委員会	清水 光子 近藤 圭子 田仲 里江 ◎飯塚 和恵	看護学部准教授 看護学部助教 看護学部助教 桑園事務室長
学部委員会	デザイン学部	教務委員会	◎中原 宏 柿山 浩一郎 松井 美穂 山田 良 石田 勝也 福田 大年 松永 康佑 矢久保 空遥	デザイン学部教授 デザイン学部准教授 デザイン学部准教授 デザイン学部准教授 デザイン学部講師 デザイン学部講師 デザイン学部講師 デザイン学部助教
		学生支援委員会	◎吉田 和夫 高井 真希子 武田 亘明 三谷 篤史 山田 信博 片山 めぐみ 金子 晋也	デザイン学部教授 デザイン学部准教授 デザイン学部准教授 デザイン学部准教授 デザイン学部講師 デザイン学部助教
		キャリア支援委員会	◎安齋 利典 張 浦華	デザイン学部教授 デザイン学部准教授



区分		委員会等	委員・構成員	
			教職員名	所属・職位等
学部委員会	デザイン学部	キャリア支援委員会	山田 良 大 渕 一 博 金 秀 敬 小 宮 加 容 子 須之内 元洋	デザイン学部准教授 デザイン学部講師 デザイン学部講師 デザイン学部講師 デザイン学部講師
	看護学部	教務委員会	◎河原田 まり子 定 廣 和 香 子 上 村 浩 太 大 野 夏 代 神 島 滋 子 菊 地 ひろみ 矢 野 祐 美 子 山 内 ま ゆ み 石 引 か ず み 小 田 嶋 裕 輝 柏 倉 大 作 檜 山 明 子 中 田 亜 由 美 横 川 亜 希 子	看護学部教授 看護学部教授 看護学部准教授 看護学部准教授 看護学部准教授 看護学部准教授 看護学部講師 看護学部講師 看護学部助教 看護学部助教 看護学部助教 看護学部助教 看護学部助手 看護学部助手
		学生支援委員会	◎川 村 三 希 子 古 都 昌 子 村 松 真 澄 守 村 洋 工 藤 京 子 三 上 智 子 山 本 真 由 美 近 藤 圭 子 坂 東 奈 穂 美 御 厩 美 登 里	看護学部教授 看護学部准教授 看護学部准教授 看護学部准教授 看護学部講師 看護学部講師 看護学部講師 看護学部助教 看護学部助教 看護学部助教
		キャリア支援委員会	◎スーディ神崎 和代 小 田 和 美 貝 谷 敏 子 櫻 井 繭 子 田 中 広 美 原 井 美 佳 森 川 由 紀 田 仲 里 江 大 友 舞 星 幸 江	看護学部教授 看護学部教授 看護学部准教授 看護学部講師 看護学部講師 看護学部講師 看護学部講師 看護学部助教 看護学部助手 看護学部助手
	研究科委員会	デザイン研究科 教務・学生支援委員会	上 遠 野 敏 ◎石 井 雅 博 中 原 宏 安 齋 利 典 町 田 佳 世 子 三 谷 篤 史 片 山 め ぐ み	デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部准教授 デザイン学部講師



区分		委員会等	委員・構成員	
			教職員名	所属・職位等
研究科委員会	デザイン研究科	教務・学生支援委員会	松 永 康 佑	デザイン学部講師
		研究科倫理審査会	◎矢 部 和 夫 原 俊 彦 片 山 めぐみ 大 古 聡	デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部講師 調整担当部長
研究科委員会	看護学研究科	教務・学生支援委員会	◎猪 股 千 代 子 貝 谷 敏 子 村 松 真 澄 守 村 洋 小 坂 美 智 代	看護学部教授 看護学部准教授 看護学部准教授 看護学部准教授 看護学部講師
		研究科倫理審査会	◎定 廣 和 香 子 猪 股 千 代 子 藤 井 瑞 恵 飯 塚 和 恵	看護学部教授 看護学部教授 看護学部講師 桑園事務室長

◎印：所管部局長等



16 FD・SD活動

FD活動 年間活動概要

(単位：名)

全学FD・SD		研修会名	場所	参加者数
7月20日	FD/SD	「効果的なグループワークのためのファシリテーション入門」での研修成果の全体共有	芸森:大会議室 桑園:大会議室	74
7月26日・ 8月3日	FD	新任教員を対象とした本学COC事業概要に係る研修	COCキャンパスまこまる2階B室	6
7月27日	FD	ループリック試行科目の実施状況・検証・今後の課題	芸森:大講義室 桑園:講義室1 ※遠隔で芸森へ配信	34
8月30日	FD	2016年度札幌市立大学研究交流会	芸術の森キャンパス	83
2月27日	FD/SD	札幌市立大学の学生支援はどうあるべきか～学生のメンタルヘルス支援体制を考える	桑園:講義室1 芸森:大講義室	60

(単位：名)

デザイン学部・研究科 FD・SD		研修会名（講師）	場所	参加者数
6月29日	FD	新コース、新カリキュラムにおける実習科目の在り方	COCキャンパスまこまる2階B室	10
10月19日	FD/SD	デザイン学部におけるカウンセリングの現状	芸森:大会議室	35
11月16日	FD/SD	南区の少子高齢化：現状と将来	芸森:大会議室	29
12月21日	FD/SD	SCUにおける商品化の課題と展望	芸森:大会議室	32
2月15日	FD/SD	南区におけるSCUの地域連携の問題点と展望	芸森:大会議室	36

(単位：名)

看護学部・研究科 FD・SD		研修会名（講師）	場所	参加者数
12月22日	FD	地域包括ケアシステムとキャリア支援	桑園:大会議室	38
2月15日	FD	南区の少子高齢化の現状と課題	桑園:大会議室	35
2月16日	FD	科目『卒業研究』を吟味する	桑園:講義室4	25
3月2日	FD	模擬患者と教員の活動を共有しよう～効果的な演技・演出、フィードバック・ファシリテートに向けて	桑園:講義室5	45



(単位：名)

SD	研修名	形態	受講者数
4月4日～4月5日	新採用職員研修	札幌市立大学 総務課	2
5月16日	札幌市政策企画部との勉強会～札幌市の現状と今後の取組～	外部	11
6月1日	契約事務研修（基礎編）	外部	3
6月8日	契約事務研修（物品編）	外部	3
6月17日	契約事務研修（役務編）	外部	3
6月22日 6月24日	旅費事務研修	外部	3
6月23日	仕事を楽しく進めるためのコミュニケーション力向上セミナー	外部	2
7月5日	クレーム対応基礎研修～クレームは期待のメッセージ～	外部	1
7月13日～15日	平成28年度 公立大学職員セミナー	外部	1
7月27日	職員研修 描くだけで頭の中が見えてくる！マインドアップ講座	外部	1
7月29日	施設管理研修	外部	2
8月1日～3日	地域にとって魅力ある公立大学づくり～地方創生に向けた雇用 創出・若者定着～	外部	2
9月7日～9日	公立大学法人会計セミナー	外部	1
10月25日	札幌市政策企画部との勉強会	外部	11
11月18日	財務会計責任者研修協議会	外部	1
12月7日～9日	国立大学法人等実務担当者向け財務会計研修	外部	1
3月22日	国立大学等セミナー～平成28年度決算における留意事項につい て～	外部	1



IX 資料

1 平成28年度年度計画

I 大学の教育研究の質の向上に関する目標を達成するための措置

1 教育に関する目標を達成するための措置

(1) 教育の内容及び成果に関する目標を達成するための措置

ア 特色ある教育の実施

- ・ 平成28年度に導入した新カリキュラムを旧カリキュラムとともに着実に実行する。
- ・ 平成27年度までの効果検証、授業実施状況から抽出された学部及び研究科ごとの課題を踏まえ、横断型連携教育を実施するとともに、公開発表会のアンケート等による効果検証を継続して行う。
- ・ 博士前期課程における研究科連携科目について、授業評価アンケート等を用いて検証を行う。
※指標：学部及び研究科における横断型連携教育の効果検証の実施 28年度
- ・ 博士後期課程について、設置認可申請に基づいた教育を引き続き展開する。
- ・ 博士前期課程を修了する学生に対するアンケートを実施し、博士前期課程教育の検証を引き続き行う。
- ・ 平成28年度からグローバルな人材育成教育に係る授業内容を含めることとした科目以外についても、異文化への理解と関心を高めるという本学のグローバル人材育成方針に基づき、授業内容について検討を行い、既存の科目の中から対象となる科目の拡充を目指す。

イ 時代に即した教育課程の編成

- ・ 全学共通のディプロマポリシー（学位授与の方針）、カリキュラムポリシー（教育課程の編成・実施方針）及びアドミッションポリシー（入学者受入の方針）の策定に向け、検討を行う。
- ・ 学部及び研究科のディプロマポリシー、カリキュラムポリシーについて、学生の理解を深めるためガイダンスで説明するとともに、引き続きシラバス及び本学ウェブサイトで周知する。
- ・ 卒業時の学生に対するアンケート等に基づき、学部生の卒業時の学習到達度の検証を継続して実施する。
- ・ 学部の科目ナンバリングに加え、専攻科・研究科の科目ナンバリングをシラバスに掲載する。

ウ 入学者選抜方法の検証と見直し

- ・ 各入学者選抜方法を検証するため、志願状況（小論文又は実技の科目選択状況を含む。）及び入学者アンケート結果について多角的な視点から分析を行うとともに、平成19～27年度入学者の入学後の成績等を基に、追跡調査を引き続き行う。
- ・ 高校生、保護者等へ本学の活動内容を周知するため、オープンキャンパスの開催、進学相談会、出前授業等への参加により多様な機会を設けるとともに、高等学校の教員を対象とする大学説明会を継続して実施する。
※指標：オープンキャンパス受入計画数 延べ960名
- ・ 本学に関心をもってもらうため、各学部において中学生を対象とした模擬授業や大学見学などの広報活動を継続して実施する。

エ 教育方法の改善等

- ・ 平成25年度に導入した、1年次における半期ごとの登録単位の上限の適切性について、学生の履修状況及び単位修得状況を継続して調査する。



- ・ 各学期で実施しているGPA¹制度を活用した履修指導について、継続して実施する。
 - ・ 公平かつ適切な成績評価を実施するため、各科目における成績評価基準や成績評価の状況を検証する。また、併せてルーブリックの導入に向け、適用試行科目を拡大するとともに、成績評価の妥当性について検討を継続する。
 - ・ 学部連携演習の評価基準及び評価方法について、継続して運用し、その運用状況を検証する。また、スタートアップ演習での活用も検討する。
- ※指標：成績評価の検証 28年度

(2) 教育の実施体制に関する目標を達成するための措置

- ・ 授業評価アンケートを継続して実施するとともに、卒業時の学生に対するアンケートを実施し、その結果を教員へフィードバックする。
- ※指標：授業評価アンケート 学期ごと実施
卒業時の学生に対するアンケート 年1回実施
- ・ 教育内容の充実や教員の資質向上を図るため、平成27年度までに開催したFD研修会及びFDマップを基に、平成28年度FD²研修会実施計画を策定し、成績評価・授業方法等の改善に資するFD研修会を計画的に実施し検証を行う。
- ※指標：FD研修会開催 10回以上

(3) 学生への支援に関する目標を達成するための措置

- ・ 「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」によるコンソーシアム構築を通じて培われた産業界とのつながりを活用し、適切に連携しながらインターンシップ推進を含めたキャリア支援を継続する。
- ・ 通年のキャリアガイダンスを継続し、各学部の特性・特徴や学生のニーズに合ったキャリア支援の取組を行う。
- ・ 平成27年度に本格導入したポータルシステムの学生への情報伝達状況について検証する。
- ・ 留学生を対象にしたチューター³制度を継続して実施するとともに、留学生及びチューターとなった学生からの意見聴取等によって得られた課題に基づき、支援内容の充実を図る。

2 研究に関する目標を達成するための措置

(1) 研究水準及び研究成果に関する目標を達成するための措置

- ・ ウェルネス等のデザイン分野と看護分野が連携した研究など、分野横断的な研究を推進する。
 - ・ ウェルネスに関わる研究について、更なる深化とネットワークの充実に取り組む。
- ※指標：デザイン分野と看護分野が連携した研究数 6件
- ・ 今後の分野横断型連携を視野に入れながら、科学研究費補助金申請率向上に向けた支援策を検討・実施する。
 - ・ 科学研究費補助金の新規応募及び継続申請を合わせた申請率77%を達成する。
- ※指標：科学研究費補助金の新規応募及び継続申請を合わせた申請率 77%
- ・ 分野横断型連携を進めながら質の高い研究を推進するため、利益相反や研究倫理について意識向上を図る。
 - ・ 学術奨励研究費の「国際学会・国際展示会等発表者補助」を継続し、教員の研究成果を、評価の高い学術誌や著書、国際学会・国際展示会等に積極的に発表することを促進する。

1 GPA (Grade Point Average)

授業科目ごとの成績評価に対して、GP (グレードポイント) を付し (例えば、5段階 (A、B、C、D、E) の成績評価に対し、4、3、2、1、0 の GP)、この単位当たりの平均を算定し、その一定水準を卒業などの要件とする制度。

2 FD (ファカルティディベロップメント)

教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組の総称。

3 チューター

入学後間もない外国人留学生に教育面、研究面、生活面の様々な助言を行う者。



- ・ 「学術論文掲載料等補助」の制度改正を検討するとともに制度を周知徹底し、国際学会誌への発表を促進する。

※指標：国際学会等における発表件数 8件以上

(2) 研究の実施体制等に関する目標を達成するための措置

ア 地域連携の強化

- ・ 産学官の出会いの場となる展示会や交流会への出展・発表を支援し、本学のPR活動、産学官連携活動を促進する。
- ・ 「研究・活動事例集」及び「教員研究紹介」を継続して発刊し、地域連携の強化へ向け活用する。

※指標：共同研究・受託研究の数（研究支援目的の寄附金を含む）14件／年

- ・ 産学連携・社会貢献の促進、研究・教育の実践を進めるための外部機関や他大学等との連携の場として、サテライトキャンパスを活用する。

※指標：地域連携研究センター等による、外部機関や他大学等との連携の場としての活用150件以上／年

II 地域貢献、国際化、大学間連携に関する目標を達成するための措置

1 地域貢献に関する目標を達成するための措置

(1) 札幌市等のまちづくりへの貢献に関する目標を達成するための措置

- ・ 学内の地域貢献に関わる情報の集約と発信に積極的に取り組む。その際、本学の地域貢献の事例を分かりやすく学外に発信する。
- ・ 産業界とのネットワークを活用し、産学連携等に関わる情報を入手し、学内に発信する。
- ・ 札幌市の地域課題の取組（オリンピック・パラリンピックや札幌国際芸術祭など）に協力する。また、周辺市町村と連携し、地域創生に向けた諸活動に取り組む。
- ・ 看護系大学教員や臨床看護師との研究を推進するとともに、看護コンソーシアム共同研究拠点の整備について検討を行う。
- ・ 学内のシーズ発掘に取り組むとともに、教員の研究成果の公表等、ネットワークづくりに向けた取組を進める。
- ・ 北海道立総合研究機構等と連携して研究に取り組むとともに、セミナーや講演会等を開催する。

※指標：まちづくりに貢献した事例数 100件以上／年

(2) 市民への学習機会の提供に関する目標を達成するための措置

- ・ 公開講座の充実を図り、受講者の満足度をアンケート等で確認する。
- ※指標：公開講座受講者満足度5段階評価 4.3以上
- ・ COC事業⁴として実施する公開講座と連携する。併せて、公開講座の対象者別の実施状況を検討し、地域連携研究センター主催企画の内容を充実させ、大学の知的資源の地域への還元に取り組む。
 - ・ COC事業と連携し、デザイン及び看護の専門職向けの公開講座の継続的な実施を行う。また、認定看護管理者教育課程サードレベル等の専門職業人を対象とした支援講座等を実施する。

※指標：専門職業人支援講座等開催 190時間以上／年

2 国際化に関する目標を達成するための措置

- ・ 国際化に関する方針で掲げた4つの戦略である「学生の国際化」、「教職員の国際化」、「提携校との交流の活性化」、「海外とのネットワーク化」を推進する。
- ・ 海外提携校との交流活動を引き続き推進する。

4 COC事業（地（知）の拠点整備事業。COC = Center of Community）

文部科学省が、自治体と連携し全学的に地域を志向した教育・研究・地域貢献を進める大学等を支援する事業。本学の「ウェルネス×協奏型地域社会の担い手育成「学び舎」事業」が平成25年度に採択された。



- ・ 留学生の派遣・受入れ及び学生の国際意識の醸成につながるよう、海外提携校を中心とした学生及び教員の海外への派遣と受入れを実施する。
- ・ 承德医学院（中国）との短期受入プログラムの実施、華梵大学（台湾）で開催される「SCU-HFUワークショップ」への派遣、清華大学（中国）主催の「ワークショップ」への派遣等、提携校との交流を推進する。
- ・ 平成27年度に学術交流協定を結んだラップランド大学（フィンランド）との具体的な交流プログラムを立ち上げる。
※指標：教員・学生派遣受入 20人以上
- ・ 共同研究費募集の際に、海外提携校及び提携の可能性ある機関との取組について積極的に募集する。

3 大学間連携に関する目標を達成するための措置

- ・ これまでの「地（知）の拠点整備事業」や「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」において連携した大学や、「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」により協定を締結した大学を中心に、連携した取組を引き続き検討し、大学間ネットワークの形成を進める。

Ⅲ 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置

1 運営体制・手法に関する目標を達成するための措置

(1) 組織運営の改善に関する目標を達成するための措置

- ・ 平成25年度に策定した実行プログラムを踏まえ、第二期経営戦略の計画的な推進に継続して取り組む。
- ・ 平成25年度に新設した経営会議、教育・研究企画会議、学外連携企画会議を機動的に開催・運営し、理事長（学長）のリーダーシップが適切に発揮できるように引き続き取り組む。

(2) 教職員の配置・定員の適正化に関する目標を達成するための措置

ア 教職員配置の適正化

- ・ 教員定員計画に基づき、計画的な採用及び適正な教員配置を行うとともに検証を行う。

イ 職員の育成

- ・ 平成28年度末に、市派遣職員を1名減員し、プロパー職員1名を採用する。
※指標：札幌市派遣職員の引揚げ 1名/年
- ・ 各職員の研修受講歴を考慮しつつ、人材育成基本方針に基づき、研修受講機会を適切に提供する。
- ・ プロパー職員が、直接、市所管部局職員との事務折衝や情報・意見交換を行う機会を増やしていくことなどを通して、市派遣職員の減員に応じたプロパー職員の育成に努める。

(3) 教員評価制度に関する目標を達成するための措置

- ・ 前年度における教員評価制度の見直し事項を踏まえ、適切に評価を実施する。
- ・ 次年度に向けて、必要に応じて制度や運用の見直し・改善を行う。

2 事務の効率化・合理化に関する目標を達成するための措置

- ・ 効率的な事務執行に向けて、機構や職員配置を見直す。
- ・ 時間外労働を削減するための取組を継続するとともに、ワーク・ライフ・バランスの推進を図る。

3 広報の充実にに関する目標を達成するための措置

- ・ リニューアル後の大学ウェブサイトを適切に管理・運営するとともに、よりよいサイトを目指し適宜更新・改良する。また、学内情報の共有促進や学内外への情報発信力を強化する



など、広報戦略の行動計画に基づき広報の充実に引き続き取り組む。

IV 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

1 自己収入の増加に関する目標を達成するための措置

- ・ 外部資金の募集情報について、e-Rad⁵などの情報提供サービスを用いて教員に周知する。
※指標：教員向け情報提供 年3回実施
- ・ 科学研究費補助金の申請支援の強化策として、引き続き、以下の支援策を展開する。
 - －科学研究費補助金採択者の了承を得た申請書の公開
 - －原則全教員が参加する教員会議の場等を活用した申請の促進
 - －事務局内の科学研究費補助金申請支援担当者による申請書の確認
 - －科学研究費補助金獲得に向けたセミナーの実施
- ・ 寄附金等を活用した修学支援基金（開学10周年記念基金）について、多くの賛同が得られるよう募集活動を展開する。
- ・ 設置された「KANAえる基金」について、適切かつ効果的な運用を図るため、実施要領等を検討のうえ、速やかに活用できるよう体制を整える。

2 経費の抑制に関する目標を達成するための措置

- ・ 予算シーリングへの対応や戦略的な経費の確保に向けて、非常勤職員等人件費、施設管理経費、印刷製本費等の削減を図る。
- ・ 決算見込みを基に、適正な予算の執行管理を行う。

V 自己点検・評価に関する目標を達成するための措置

- ・ マネジメントサイクルに基づく自己点検・評価を実施し、半期（中期計画大項目第4、第5、第7にかかる計画は四半期ごと）の年度計画の進捗管理を行うとともに、学内に適時適切なフィードバックを行う。
- ・ 札幌市地方独立行政法人評価委員会の評価結果を受け、改善が必要な事項については、適宜大学運営に反映させる。
- ・ 認証評価機関の評価項目及び評価基準に基づき、次回の認証評価の実施に向け必要な資料を作成、蓄積する。

VI その他業務運営に関する目標を達成するための措置

1 施設・設備の整備・維持管理に関する目標を達成するための措置

(1) 教育研究環境の充実にに関する目標

- ・ 施設整備費補助金による桑園キャンパス空調設備等更新工事を適正に実施する。
- ・ 芸術の森キャンパスG・H棟外壁ほか改修工事実施設計を適正に実施する。
- ・ 平成29年度施設整備費補助金の予算要求を行う。
- ・ 保全費用・内容の実施状況等を踏まえ適時フォローアップを図る。
- ・ 年間2,000冊程度の図書を整備し、図書館の蔵書の充実を図る。
- ・ 電子ジャーナル、データベースの購読契約に関わる方針に則り、引き続き契約内容を見直す。
- ・ 教育研究備品整備費（10,000千円）の活用について、検討・協議を行い、効果的に整備を進める。
- ・ 平成29年度の予算編成に向け、学内調整を行う。
- ・ 学内利用者に対する文献検索ガイダンス等を実施し、図書館利用に関する情報提供の機会を設ける。
- ・ 利用者サービス向上のための各種方策の実施及び検証を通して、図書館の利用を活性化する。

5 e-Rad（府省共通研究開発管理システム）

研究開発管理に係る一連のプロセス（応募受付→審査→採択→採択課題管理→成果報告等）をオンライン化し、適切な研究費の配分を支援する府省横断的なシステム。



- ・ 図書館業務システム入替えに伴い、札幌市立図書館との横断検索を実施し、機能の充実を図る。

(2) キャンパスの活用に関する目標を達成するための措置

- ・ 本学の財政状況の変化を踏まえ、キャンパス活用等に関するプラン骨子（H26年度策定）について財源確保の面から見直しを行う。

2 安全管理等に関する目標を達成するための措置

(1) 安全管理の徹底に関する目標を達成するための措置

- ・ 先に策定した危機管理基本マニュアル及び安全衛生管理に係る個別マニュアルについて、新任教職員等への周知を含め、適宜、教職員に対し情報発信を行うことにより、安全衛生リスク管理への意識向上を図る。
- ・ キャンパスハラスメントの防止に向けた周知、啓発等を行う。
- ・ キャンパスハラスメントに関する相談や申し出があった場合には適切に対応し、防止に向けた改善策を実施する。

(2) 災害時の対応に関する目標を達成するための措置

- ・ 先に策定した危機管理基本マニュアル及び災害等に係る個別マニュアルについて、新任教職員等への周知を含め、適宜、教職員に対し情報発信を行うことにより、災害等リスク管理への意識向上を図る。
- ・ 危機管理基本マニュアルを踏まえて、災害等に係る個別マニュアルの追加を検討する。

3 環境に関する目標を達成するための措置

- ・ 施設管理支援システム（CAFM）を活用し、施設でのエネルギー使用状況を把握するとともに、学生や教職員へ節電等の意識啓発を行うなど、省エネルギー対策の取組を継続する。
- ※指標：エネルギー消費量 前年度比減

VII 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画

別紙参照

VIII 短期借入金の限度額

1 短期借入金の限度額

2億円

2 想定される理由

運営費交付金の受入れ遅延及び事故の発生等により緊急に必要な対策費として借り入れることが想定される。

IX 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

なし。

X 剰余金の使途

決算において剰余金が発生した場合、教育研究の質の向上及び組織運営の改善に充てる。

XI 施設及び設備に関する計画

- ・ 経常的修繕 8,624千円
- ・ 芸術の森キャンパスG・H棟外壁ほか保全工事実施設計 1,998千円
- ・ 桑園キャンパス管理実習棟空調設備更新工事 104,002千円

（注）金額については見込みであり、上記のほか、業務の実施状況に応じた施設・設備の改善や、老



朽度合いに応じた改修等を追加することもあり得る。

XII 人事に関する計画

1 教職員配置の適正化

- ・ 教員定員計画に基づき、計画的な採用及び適正な教員配置を行うとともに検証を行う。（再掲）

2 職員の育成

- ・ 平成28年度末に、市派遣職員を1名減員し、プロパー職員1名を採用する。（再掲）

3 研修の充実

- ・ 各職員の研修受講歴を考慮しつつ、人材育成基本方針に基づき、研修受講機会を適切に提供する。（再掲）
- ・ プロパー職員が、直接、市所管部局職員との事務折衝や情報・意見交換を行う機会を増やしていくことなどを通して、市派遣職員の減員に応じたプロパー職員の育成に努める。（再掲）

別紙 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画

1. 予算

（単位：百万円）

区 分	金 額
収入	
運営費交付金	1,464
施設整備費補助金	106
授業料等収入	470
受託研究等収入及び寄附金収入	36
補助金収入	33
その他収入	25
目的積立金取崩	64
計	2,198
支出	
教育研究経費	434
受託研究等経費及び寄附金事業費等	36
人件費	1,238
一般管理費	351
施設整備費	106
補助金事業費	33
計	2,198



2. 収支計画

(単位：百万円)

区 分	金 額
費用の部	
経常費用	2,144
教育研究経費	415
受託研究等費	33
人件費	1,238
一般管理費	320
財務費用	4
減価償却費	134
収益の部	
経常収益	2,080
運営費交付金収益	1,441
授業料等収益	491
受託研究等収益	33
寄付金収益	3
補助金収益	33
資産見返運営費交付金戻入	43
資産見返寄附金戻入	3
資産見返物品受贈額戻入	7
資産見返補助金戻入	1
雑益	25
その他収益	25
純利益（純損失）	△64
目的積立金取崩益	64
総利益（総損失）	0

3. 資金計画

(単位：百万円)

区 分	金 額
資金支出	2,291
業務活動による支出	1,985
投資活動による支出	129
財務活動による支出	84
翌年度への繰越金	93
資金収入	2,291
業務活動による収入	2,028
運営費交付金による収入	1,464
授業料及び入学検定料による収入	470
受託研究等による収入	33
補助金等による収入	33
寄付金による収入	3
その他収入	25
投資活動による収入	106
施設費による収入	106
前年度よりの繰越金	157



2 平成28年度決算

(単位：百万円)

区 分	予算額	決算額	差額 (決算－予算)	備 考
収入				
運営費交付金	1,464	1,464	—	
施設整備費補助金	106	87	△ 19	(注1)
授業料等収入	470	467	△ 3	
受託研究等収入及び寄附金収入	36	19	△ 17	(注2)
補助金収入	33	23	△ 10	(注3)
その他収入	25	26	1	
目的積立金取崩	64	3	△ 61	(注4)
前中期目標期間繰越積立金取崩	—	57	57	(注5)
計	2,198	2,146	△ 52	
支出				
教育研究経費	434	404	△ 30	(注6)
受託研究等経費及び寄附金事業費等	36	17	△ 19	(注2)
人件費	1,238	1,261	23	(注7)
一般管理費	351	293	△ 58	(注6)
施設整備費	106	87	△ 19	(注1)
補助金事業費	33	20	△ 13	(注3)
計	2,198	2,082	△ 116	
収入－支出	—	64	64	

○ 予算と決算の差異について

- (注1) 一般競争入札により契約額が減少しました。
- (注2) 受託研究の契約額が減少しました。
- (注3) COC（地（知）の拠点整備事業）の補助金が減少しました。
- (注4) 支出実績に応じて目的積立金の取崩し額を変更しました。
- (注5) 退職手当の増加分を前中期目標期間繰越積立金から取崩しました。
- (注6) 光熱費単価の下落や保守契約の見直し等により減少しました。
- (注7) 退職手当の支給や人事院勧告及び札幌市人事委員会勧告の本学への適用等により増加しました。



3 教職員数（平成29年3月31日現在）

1) 学部別教員数（単位：名）

学	長	1
副学	長	1
デザイン学部		32
看護学部		43
教育支援プロジェクトセンター		1
合計		78

2) 職位別教員数（単位：名）

		教授 (特任教授を含む)	准教授	講師	助教 (特任助教を含む)	助手	計	非常勤講師
デザイン学部	男	13	6	5	2	0	26	24
	女	1	3	3	0	0	7	11
看護学部	男	1	2	0	1	0	4	38
	女	10	9	11	6	4	40	20
教育支援プロジェクトセンター	男	0	0	0	1	0	1	0
	女	0	0	0	0	0	0	0
合計		25	20	19	10	4	78	93

3) 職員数（単位：名）

	事務系	教務系	技術・技能系	医療系	その他	計
男	23	2	0	0	0	25
女	49	2	0	0	0	51
合計	72	4	0	0	0	76



4 管理職一覧表（平成29年3月31日現在）

役職名	教職員名
学長	蓮見 孝
副学長兼看護学部長	樋之津 淳子
デザイン学部長	細谷 多聞
看護学研究科長	松浦 和代
デザイン研究科長	城間 祥之
地域連携研究センター長	上遠野 敏
附属図書館長	山本 勝則
事務局長	大古 聡
事務局次長兼桑園事務室長	飯塚 和恵
事務局総務課長	東館 雅人
事務局地域連携課長	上田 理子
事務局学生課長	烝野 直樹
事務局桑園担当課長	布廣 成規

5 学生定員及び学生数（平成28年5月1日現在）

1) 学生定員 (単位：名)

学部	入学定員	3年次編入学定員	総定員
デザイン学部	85	10	360
看護学部	80	10	340
合計	165	20	700

2) 学生数 (単位：名)

学部	学年	男女別		計
		男	女	
デザイン学部	1学年	23	68	91
	2学年	30	63	93
	3学年	32	69	101
	4学年	20	72	92
看護学部	1学年	7	77	84
	2学年	8	77	85
	3学年	3	89	92
	4学年	9	85	94
助産学専攻科		0	9	9
合計		132	609	741

研究科	学年	男女別		計
		男	女	
デザイン研究科 博士前期課程	1学年	10	9	19
	2学年	11	7	18
看護学研究科 博士前期課程	1学年	0	15	15
	2学年	4	24	28
合計		25	55	80

研究科	学年	男女別		計
		男	女	
デザイン研究科 博士後期課程	1学年	2	1	3
	2学年	2	1	3
	3学年	3	3	6
看護学研究科 博士後期課程	1学年	0	1	1
	2学年	0	0	0
	3学年	2	5	7
合計		9	11	20



3) 科目等履修生・聴講生・研究生

(単位：名)

学部	科目等履修生	聴講生	研究生	計
デザイン学部	0	0	0	0
看護学部	0	1	0	1
合計	0	1	0	1

研究科	科目等履修生	聴講生	研究生	計
デザイン研究科	0	1	4	5
看護学研究科	4	2	2	8
合計	4	3	6	13

6 授業料等

(単位：円)

区分	検定料	入学料		授業料
		札幌市内居住者	札幌市外居住者	
学部生	17,000	141,000	282,000	535,800
科目等履修生・聴講生	9,800	14,100	28,200	1単位につき 14,800
研究生	9,800	42,300	84,600	月額29,700

7 奨学金貸与・授業料減免実施状況 (平成29年3月31日現在)

奨学金利用状況

(単位：名)

学年	日本学生支援機構		その他	計
	第1種	第2種		
学部1年生	54	41	0	95
学部2年生	38	32	3	73
学部3年生	56	62	4	122
学部4年生	48	39	2	89
助産学専攻科	3	1	0	4
研究科（博士前期）1年生	6	1	0	7
研究科（博士前期）2年生	7	2	3	12
研究科（博士後期）1年生	1	1	0	2
研究科（博士後期）3年生	1	0	0	1
合計	214	179	12	405



授業料減免実施状況

(単位：名)

学年	学期	全額減免者	半額減免者	学長の定める額 免除者	計
学部1年生	前期	0	10	0	10
	後期	0	18	0	18
学部2年生	前期	0	17	4	21
	後期	0	17	0	17
学部3年生	前期	1	18	2	21
	後期	0	18	0	18
学部4年生	前期	0	24	3	27
	後期	0	25	0	25
助産学専攻科	前期	0	0	0	0
	後期	0	1	0	1
研究科（博士前期） 1年生	前期	0	0	0	0
	後期	0	3	0	3
研究科（博士前期） 2年生	前期	0	2	1	3
	後期	0	3	0	3
合計	前期	1	71	10	82
	後期	0	85	0	85



8 学生の入選・受賞（デザイン学部）

年月	氏名	内容	主催者
平成28年4月	郷家 智代 二ツ森 花織 橋本 阿子	「さっぽろ未来創生プラン」表紙デザイン 最優秀賞（郷家）・優秀賞（二ツ森、橋本）	札幌市（まちづくり政策局）
平成28年4月	金山 小桃	スポーツイベントの広報用イラスト（15種類） 制作	さっぽろ健康スポーツ財団
平成28年4月	泉 遥香 齋藤 瑞 坂野 由葵 山岸 愛咲美	「みんなの生涯学習カレンダー2016」イラスト 制作	北海道教育委員会
平成28年5月	柴崎 颯乃	「第21回サンスター文具プレゼンツ文房具アイ デアコンテスト」優秀賞	サンスター文具株式会社
平成28年6月	渡辺 智香子 朝倉 絵里 園山 菜生	「札幌市まちづくり戦略ビジョン・アクション プラン2015」表紙デザイン 最優秀賞（渡辺）・優秀賞（朝倉、園山）	札幌市
平成28年6月	菊地 冴栞	「滝野すずらん公園お土産セット」すずらんス トラップデザイン採用	滝野すずらん丘陵公園
平成28年7月	水石 公基 金山 小桃 堀田 露敏	ツール・ド・北海道2016（第30回大会）のポス ターデザイン 最優秀賞（水石）・優秀賞（金山、堀田）	ツール・ド・北海道2016
平成28年7月	大池 友 長部 さとみ 高橋 希政 松本 優奈 館野 杏奈	「札幌シーニックバイウエイ藻岩山麓・定山溪 ルート」の活動PR、節電啓発及び住民の町内 会活動への参加啓発の一環としてのオリジナル うちわ制作	札幌市（南区）
平成28年7月	八木橋 ひかり	「日本ブックデザイン賞2016」学生の部 ブッ クジャケット・文庫判部門入選	秋山孝ポスター美術館長岡
平成28年8月	澤 成美	「2016年度精密工学会北海道支部学術講演 会・CAD/CGモデリングコンテスト」CAD/CG モデリングコンテストリアリティ部門 優秀賞	精密工学会北海道支部
平成28年8月	あそびlab 『オヘソ』	第10回キッズデザイン賞入賞	キッズデザイン協議会
平成28年9月	大池 友 長部 さとみ 高橋 希政 松本 優奈 櫻井 彩乃 館野 杏奈 宮町 志織	南区をテーマにした飲料自動販売機のデザイン 制作	札幌市立大学 北海道コカ・コーラボトリ ング㈱ 南区役所地域連携課
平成28年11月	塩田 茉利衣	TV番組「お願い!ランキング」内「親コゴロ」 コーナーのタイトルロゴ、オープニング映像制 作	テレビ朝日
平成28年11月	三上 拓哉 継田 彩乃 坂口 遥佳 吉田 香織	ISCA（International Students Creative Award）2016「デジタルコンテンツ部門」2nd Prize	ナレッジキャピタル
平成28年12月	土屋 慶花	「シマフクロウちびの冒険」原画コンペティ ション最優秀	北海道シマフクロウの会
平成28年12月	榎本 ちひろ	平成28～30年度理容所・美容所衛生管理講習 会受講証デザイン採用	札幌市（保健福祉局）



年月	氏名	内容	主催者
平成28年12月	郷家 智代	平成29年4月からの札幌市敬老優待乗車証（敬老パス）ICカードデザイン採用	札幌市
平成29年1月	船山 哲郎 佐々木賢吾朗 松島 弘樹	平岸配水池上面の（仮称）「ウォッピーテニスパーク」内設置予定PR用水飲み場デザイン採用 最優秀賞（船山）・優秀賞（佐々木、松島）	札幌市（水道局）
平成29年1月	松岡 弥生 森 瑞紀 山岡 美紗希 桑田 奈々 吉田 香織 石岡 葉子 小田部 剛 山越 双葉 山代 修平	「第2回ウッドデザイン賞」授産施設木工製品 デザイン提案 奨励賞	ウッドデザイン賞運営事務局
平成29年1月	佐々木 優二	「日本建築学会大会学術講演発表会環境工学部門」日本建築学会大会学術講演会 環境工学委員会 若手優秀発表賞	日本建築学会
平成29年2月	前川 莉菜	「ANBD特別コラボレーションポスター展」 EXCELLENT AWARD	アジアネットワークビヨンド デザイン（ANBD）特別コ ラボポスター展実行委員会
平成29年3月	三上 拓哉	手話と音楽を組み合わせたシリアスゲーム 「Signism」が第3回ADADA Japan学術大会研 究奨励賞	第3回 ADADA Japan 学術大会 実行委員会
平成29年3月	三上 拓哉 継田 彩乃 坂口 遥佳 吉田 香織	手話と音楽を組み合わせたシリアスゲーム 「Signism」が2016アジアデジタルアート大賞 展FUKUOKA入賞	2016アジアデジタルアート大 賞展実行委員会

9 学生の課外活動

	公認団体
1	吹奏楽部「芸術の森音楽隊」
2	バスケットボール部
3	軽音楽部「halo」
4	美術部「noumenon」
5	YOSAKOIソーラン部「～真花～」
6	デザイン部「GNING」
7	服飾制作部「Alice」
8	写真映像部「SEED」
9	演劇部「デンコラ」
10	茶道部「Cha部」
11	野球部「ウップス！」
12	バレーボール部
13	絵本ボランティアサークル「しゃぼん玉」
14	フットサルサークル「SCUギャラクシー」
15	創作活動サークル「創-KIZ-」
16	ダンスサークル「VOLUME」
17	バドミントンサークル
18	陶器文様研究会「ワレモノ」
19	カレー研究サークル「SCUカレー研究会」
20	スポーツサークル「すぼさ」
21	アウトドアサークル「PEAK」
22	バドミントンサークル
23	アルティメットサークル「Fly☆Fly」
24	国際協力／ボランティアを考える同好会「AMIGO」
25	地域交流ボランティア同好会「act」
26	アクティ部「ナースポ」～ナース＋スポーツ（同好会）
27	ハンドメイド同好会「はらっぱ」
28	合唱同好会
29	ダンス同好会「ROOM」
30	天文観測同好会「スピカ」
31	SCUテニス同好会
32	空間作品制作同好会「The Global Workshop」
33	自由展示同好会「ぼぷら」
34	備災同好会「EZO学さいぼー」
35	バレーボール同好会
36	SCUスイーツ同好会「スイ研」
37	総合スポーツ同好会「Force」
38	アナログゲーム同好会「OFF」



10 後援会

後援会（平成19年2月発足）は、学生の福利厚生の推進等、学生生活の充実に向けて必要な支援を行い、教育目的の達成に寄与することを目的として活動している。

（平成28年度）

役員	（会 長）中田 保之 （副会長）藤島 健志 （理 事）今野 裕二、蛭谷 勝浩、大西 和恵、高橋 節子、滝波 武仁、佐々木 佳造、 宮浦 哲也、勝俣 信俊 （監 事）土屋 節子、五十嵐 明
主な事業	・ 課外活動（部活動、大学祭、地域ボランティア活動等）支援 ・ 就職対策（就職試験対策、就職講話、資格取得支援、国家試験対策） ・ 後援会報「SSA News」発行
後援会費	40,000円（ただし、編入学者は20,000円、助産学専攻科生は10,000円）

11 教育・研究刊行物一覧

発行年月	名称
平成28年4月	平成28年度履修要項＜履修の手引き＞デザイン学部・看護学部
平成28年4月	平成28年度学生生活ハンドブック
平成28年4月	2017大学パンフレット
平成28年5月	平成29年度デザイン学部3年次編入学学生募集要項
平成28年5月	平成29年度学生募集要項（デザイン研究科 博士前期課程 推薦選抜）
平成28年5月	平成29年度学生募集要項（デザイン研究科 博士前期課程 一般選抜・特別選抜）
平成28年6月	平成29年度学生募集要項（デザイン研究科 博士後期課程）
平成28年6月	平成29年度入学者選抜要項（デザイン学部・看護学部）
平成28年6月	平成29年度看護学部3年次編入学学生募集要項
平成28年6月	平成29年度学生募集要項（看護学研究科 博士前期課程）
平成28年6月	平成29年度学生募集要項（助産学専攻科）
平成28年6月	SCU JOURNAL OF DESIGN & NURSING2016 札幌市立大学研究論文集第10巻第1号
平成28年6月	札幌市立大学研究・成果事例集2015
平成28年6月	平成27年度COC共同研究費研究成果報告書
平成28年7月	平成29年度学生募集要項（看護学研究科 博士後期課程）
平成28年7月	札幌市立大学教員研究紹介2015
平成28年8月	平成29年度学生募集要項（デザイン学部・看護学部 特別選抜）
平成28年10月	平成29年度学生募集要項（デザイン学部・看護学部 一般選抜）
平成28年10月	平成29年度学生募集要項（デザイン研究科 博士前期課程 第2次募集）
平成28年11月	平成29年度学生募集要項（看護学研究科 博士前期課程 第2次募集）
平成29年1月	札幌市立大学附属図書館ニュースレターのほほん第10号
平成29年3月	デザイン学部・デザイン研究科卒業修了研究展（2017図録）
平成29年3月	ウェルネス×協奏型地域社会の担い手育成「学び舎」事業 平成28年度成果報告書



12 施設

1) 校地・校舎、講義室・演習室等の面積

(平成29年3月31日現在)

区分	校地・校舎		講義室・演習室等	
	校地面積 (㎡)	校舎面積 (㎡)	総数	面積 (㎡)
芸術の森キャンパス	167,617	23,087	53	5,696
桑園キャンパス	18,152	12,367	30	3,132
合計	185,769	35,454	83	8,828
サテライトキャンパス	178	178	2	152
COCキャンパス	764.43	764.43		

2) 芸術の森キャンパス・桑園キャンパス・サテライトキャンパス・COCキャンパス

(施設配置図・校舎配置図)

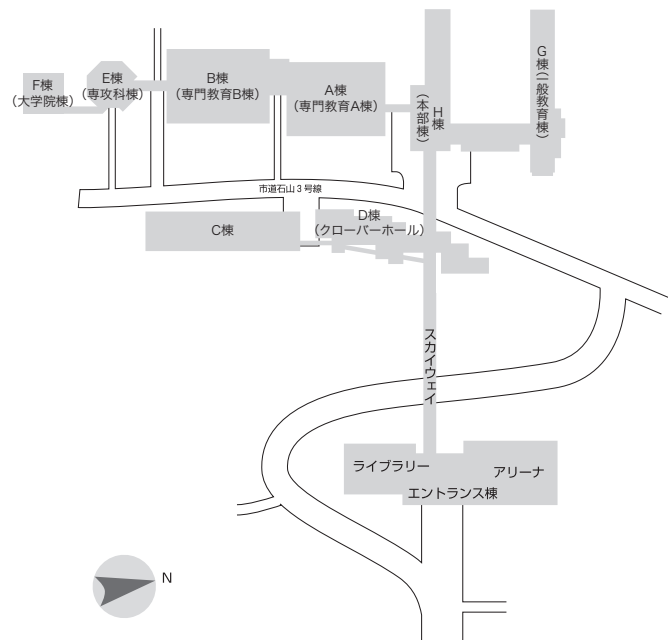
芸術の森キャンパス

〒005-0864

北海道札幌市南区芸術の森1丁目

TEL : 011-592-2300 (代)

FAX : 011-592-2369



●桑園キャンパス

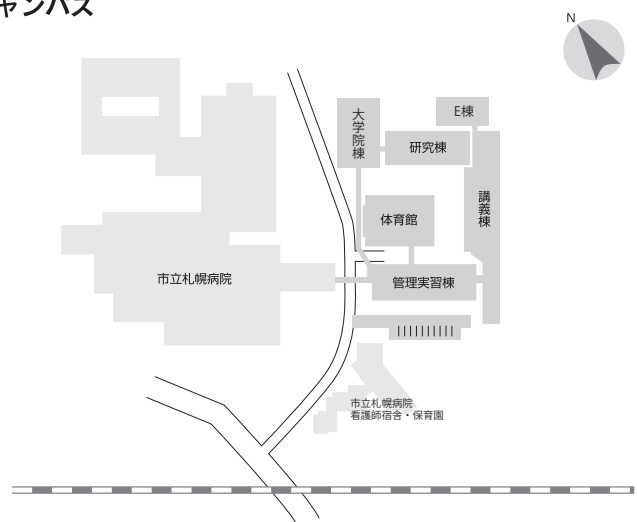
桑園キャンパス

〒060-0001

北海道札幌市中央区北11条西13丁目

TEL : 011-726-2500 (代)

FAX : 011-726-2506





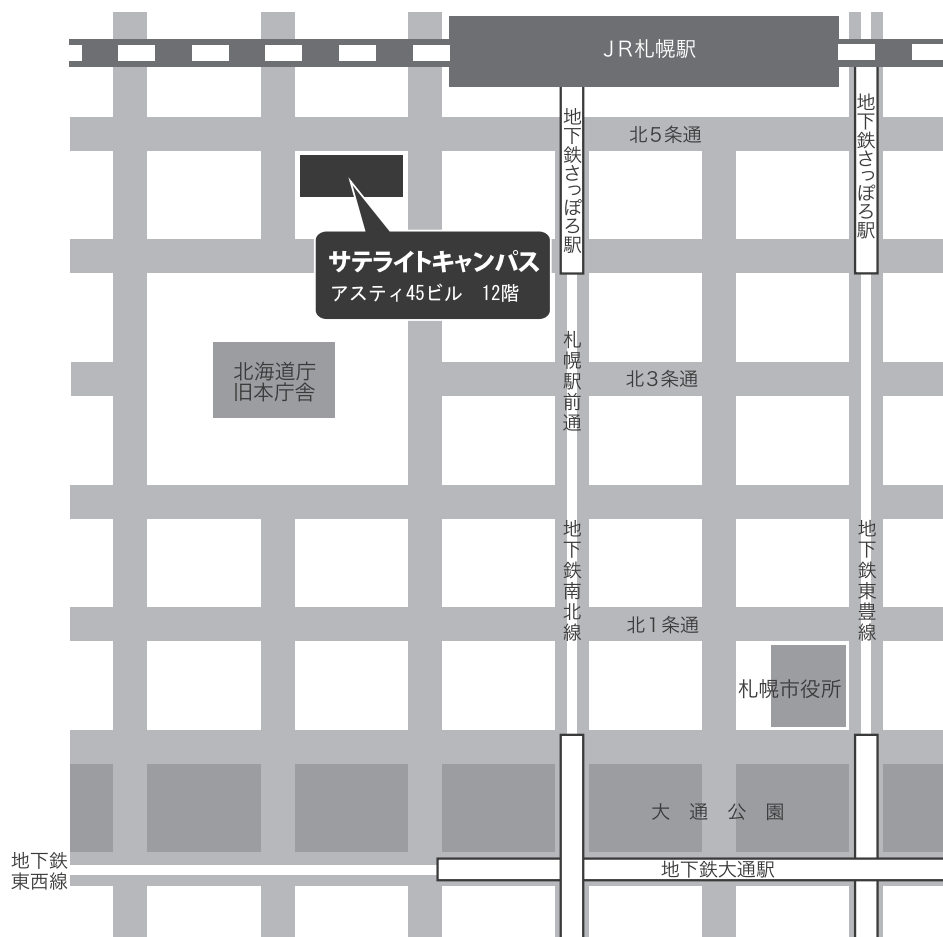
サテライトキャンパス

〒060-0004

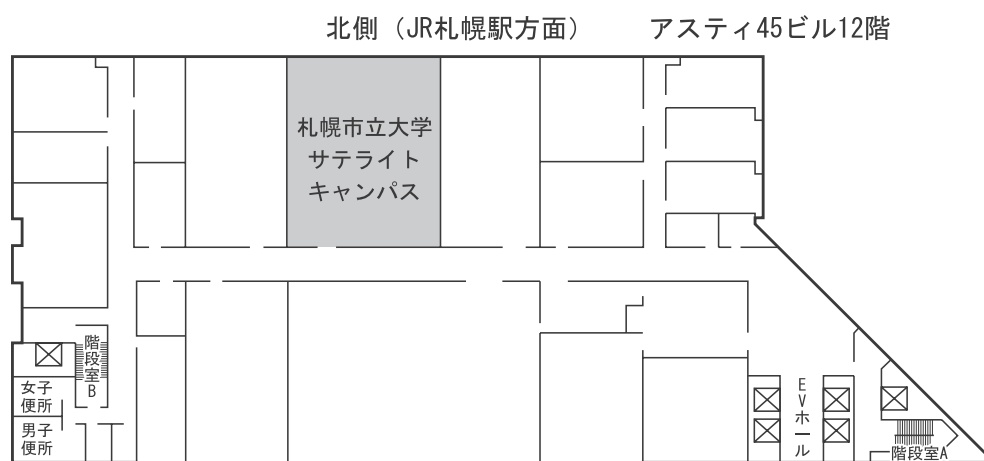
北海道札幌市中央区北4条西5丁目 アスティ45ビル12階

TEL : 011-218-7500 (代)

FAX : 011-218-7507



〈施設平面図〉





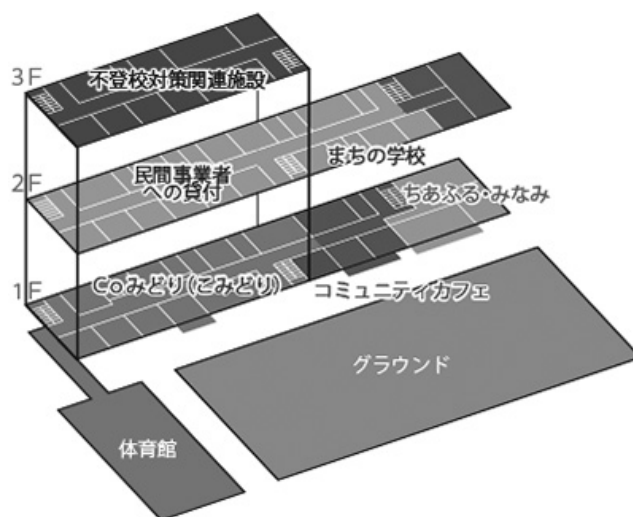
COCキャンパス

〒005-0014

北海道札幌市南区真駒内幸町2丁目2-2 まこまる（旧真駒内緑小学校）内

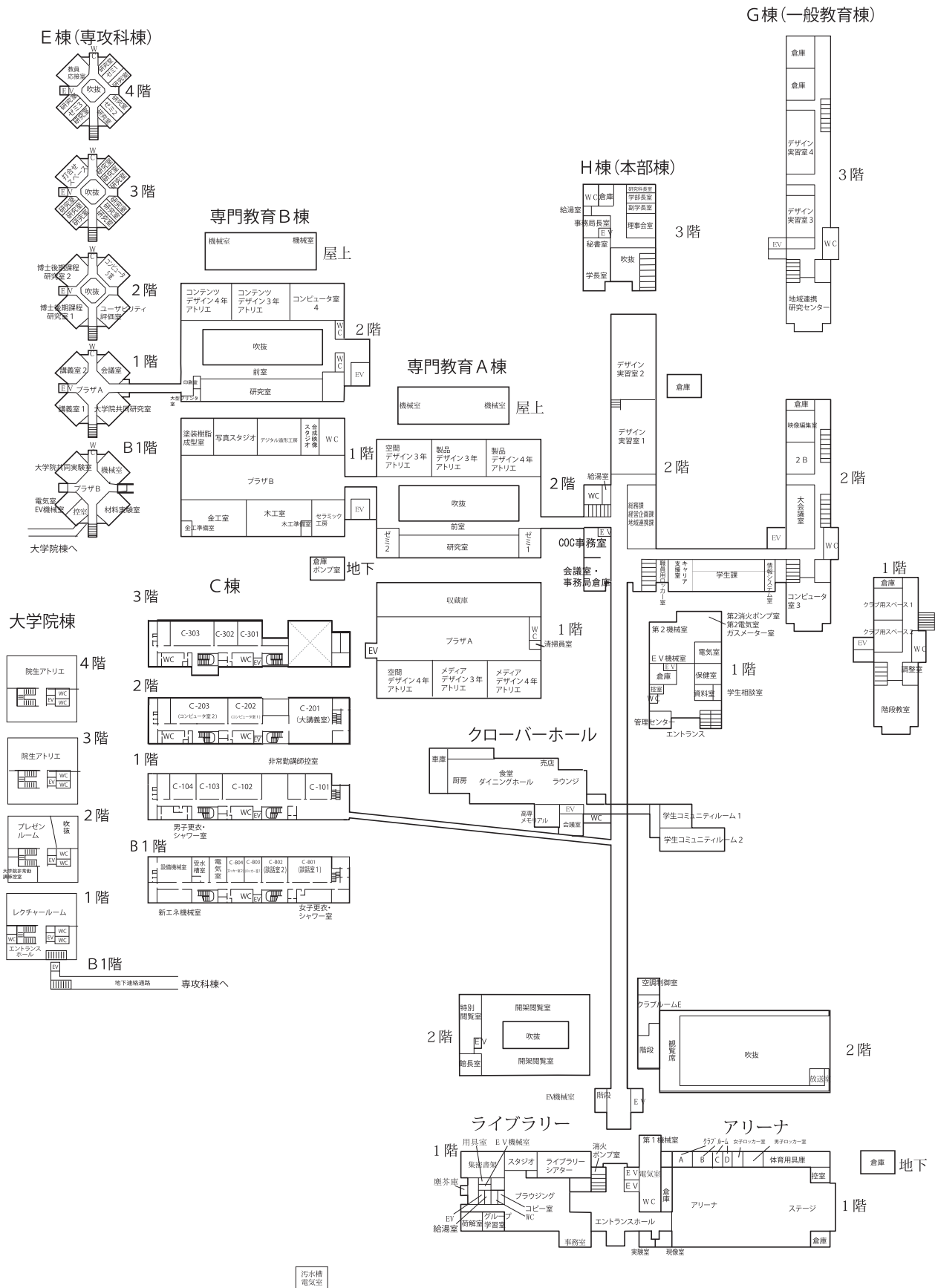
TEL：011-596-6675

FAX：011-596-6676



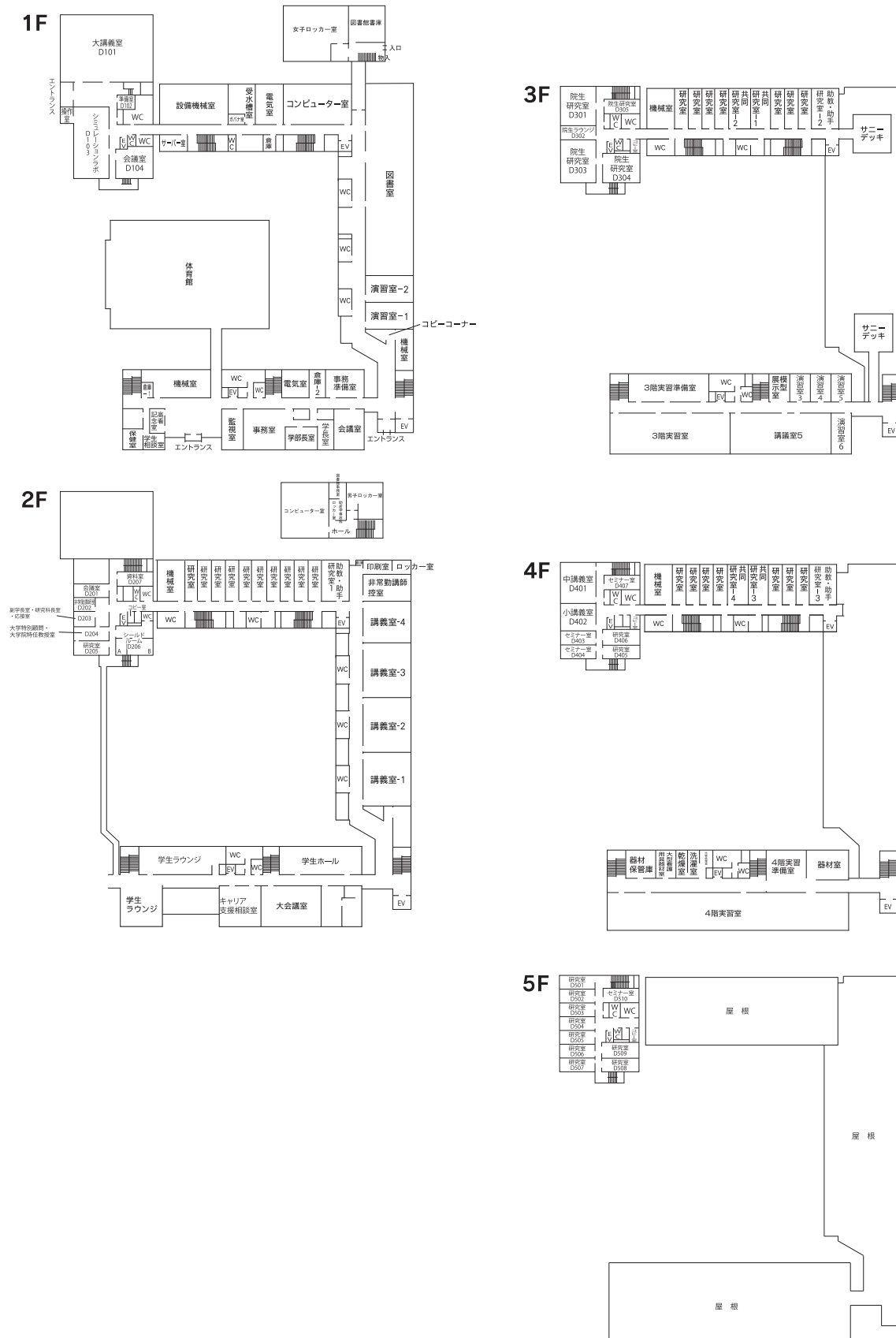


芸術の森キャンパス(校舎配置図)



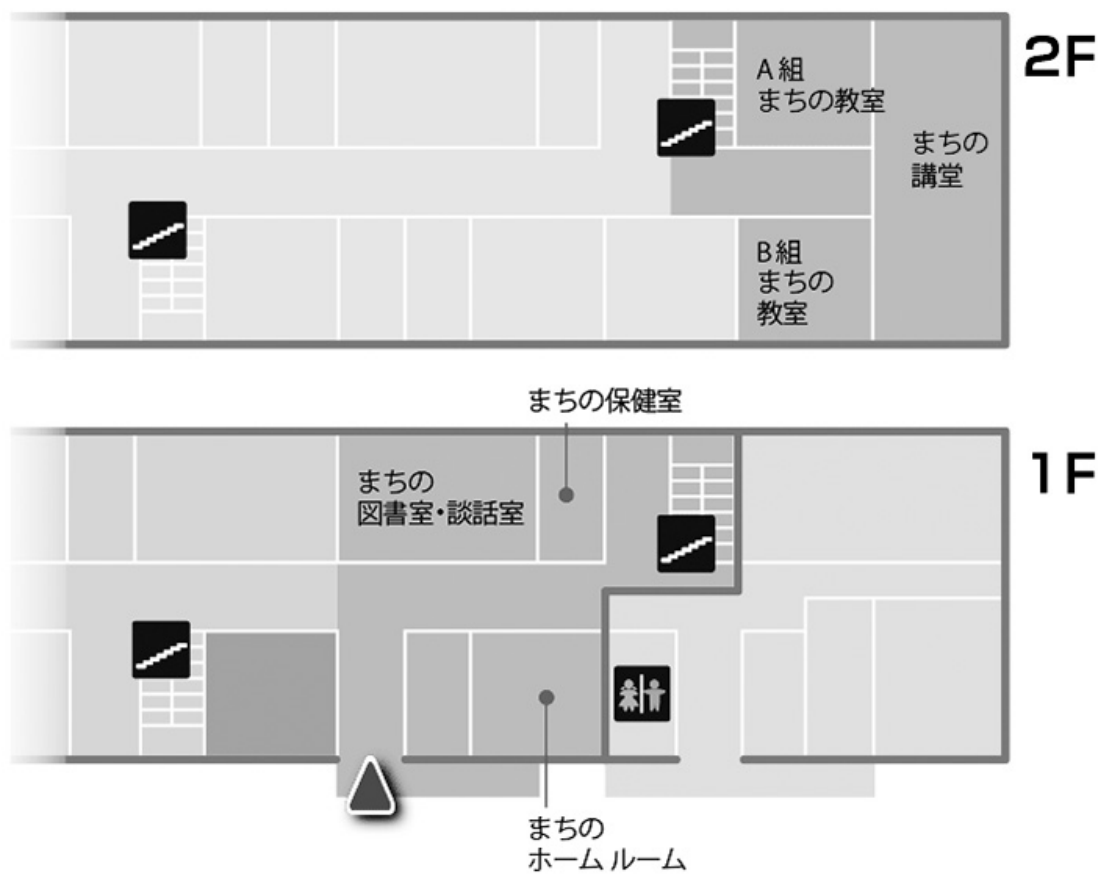


桑園キャンパス〈校舎配置図〉





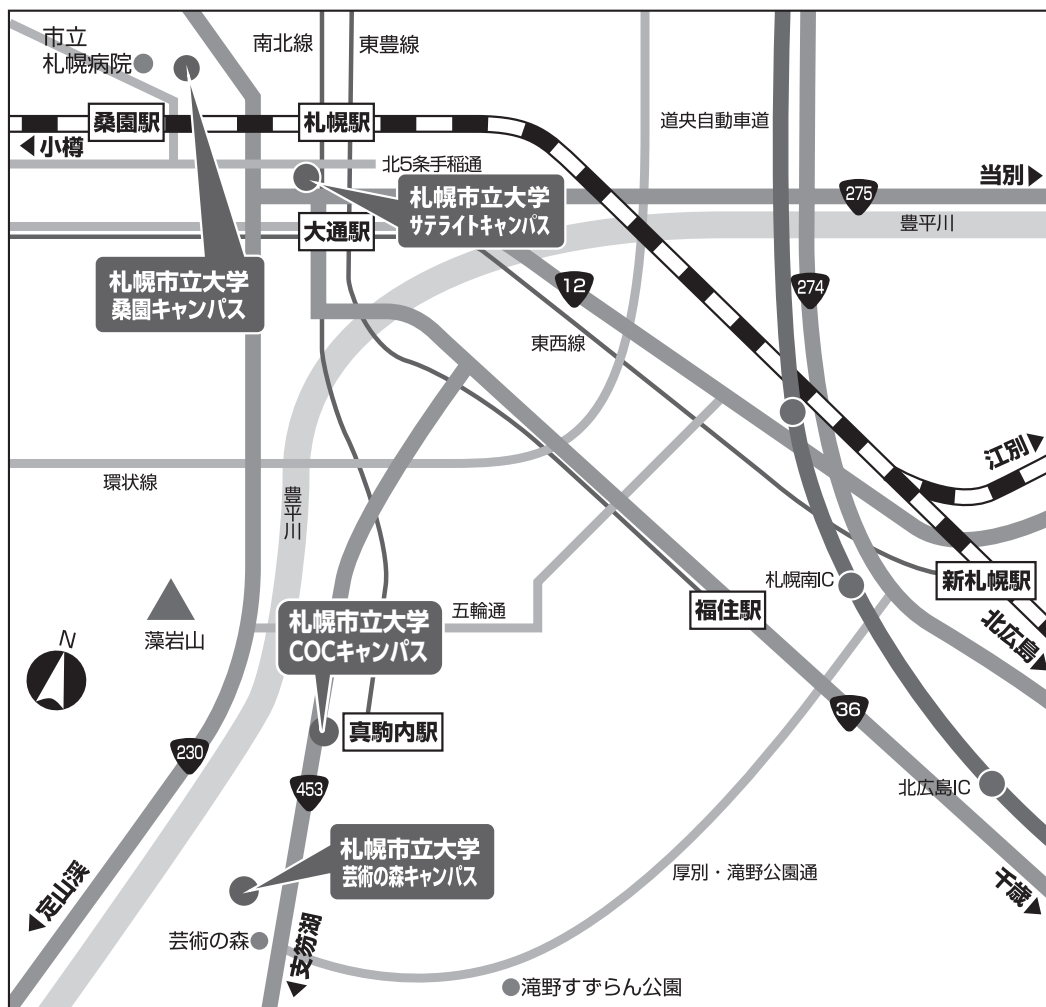
COCキャンパス〈校舎配置図〉



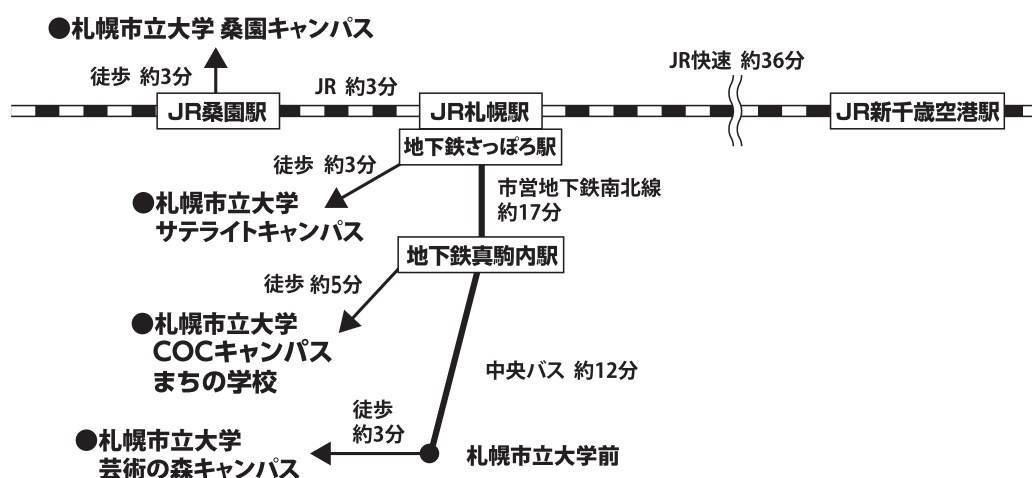


13 大学へのアクセス

1) アクセスマップ



2) 交通案内





14 札幌市立大学 大学歌『みらいの手』

作詞:後藤優太・首藤翠(デザイン学部 第4期生)

作曲:堀 彩菜(デザイン学部 第3期生)

力強く風が吹き抜ける
新たな希望をたずさえて
さあ飛び出そう
翼広げて
光の指す方へと

ともに笑いともに競った仲間たち
これからは別々の道を往く
強い風に吹かれ
立ち止まりかけても
恐れず歩き続けて

僕らには創りあげる手がある
僕らには支えあえる手がある
同じ空の下には今も
走り続ける仲間がいるだろう

僕らには創りあげる手がある
僕らには支えあえる手がある
あの地平の彼方にはきっと
君の染める世界がある

僕らには導く能力(ちから)がある
僕らには差し伸べる精神(こころ)がある
その壁の向こうにはきっと
君を待つ世界がある

『みらいの手』

公立大学法人 札幌市立大学 大学歌

作詞:後藤 優・首藤 優太
作曲:堀 彩菜

Musical score for 'Mirai no Te' (The Hand of Tomorrow). The score is written for voice and piano. It includes a key signature of one sharp (F#) and a 4/4 time signature. The tempo is marked 'Allegro'. The score is divided into sections A, B, and C. The lyrics are in Japanese.

Continuation of the musical score for 'Mirai no Te' (The Hand of Tomorrow). It includes sections C, A, and B. The lyrics are in Japanese.



X 教員一覧

1 教員一覧

デザイン学部		看護学部		教育支援プロジェクトセンター	
職位・コース	教員名	職位・領域	教員名	職位・担当	教員名
教授・人間情報	蓮見 孝	教授・基礎	樋之津 淳子	特任助教・COC 事業	簗谷 祐介
教授・人間情報	細谷 多聞	教授・小児	松浦 和代		
教授・人間情報	城間 祥之	教授・精神	山本 勝則		
教授・人間空間	上遠野 敏	教授・母性	宮崎 みち子		
特任教授・人間情報	酒井 正幸	特任教授・成人	中村 恵子		
教授・人間情報	安齋 利典	教授・管理	猪股 千代子		
教授・人間情報	石井 雅博	教授・成人	小田 和美		
教授・人間情報	齋藤 利明	教授・地域	河原田まり子		
教授・人間空間	中原 宏	教授・成人	川村 三希子		
教授・人間空間	羽深 久夫	教授・基礎	定廣 和香子		
教授・共通教育	原 俊彦	教授・在宅	スーディ神崎 和代		
教授・共通教育	町田 佳世子	准教授・小児	上村 浩太		
教授・人間空間	矢部 和夫	准教授・基礎	大野 夏代		
教授・人間情報	吉田 和夫	准教授・成人	貝谷 敏子		
准教授・人間情報	柿山 浩一郎	准教授・成人	神島 滋子		
准教授・人間空間	斉藤 雅也	准教授・在宅	菊地 ひろみ		
准教授・人間空間	高井 真希子	准教授・地域	清水 光子		
准教授・人間空間	武田 亘明	准教授・成人	菅原 美樹		
准教授・人間情報	張 浦華	准教授・基礎	古都 昌子		
准教授・共通教育	松井 美穂	准教授・老年	村松 真澄		
准教授・人間情報	三谷 篤史	准教授・精神	守村 洋		
准教授・人間空間	山田 信博	准教授・母性	渡邊 由加利		
准教授・人間空間	山田 良	講師・成人	工藤 京子		
講師・人間空間	石田 勝也	講師・成人	小坂 美智代		
講師・人間情報	大渕 一博	講師・地域	櫻井 蘭子		
講師・人間空間	片山 めぐみ	講師・基礎	田中 広美		
講師・人間情報	金 秀敬	講師・老年	原井 美佳		
講師・人間空間	小宮 加容子	講師・成人	藤井 瑞恵		
講師・人間空間	須之内 元洋	講師・小児	三上 智子		
講師・人間情報	福田 大年	講師・母性	森川 由紀		
講師・人間情報	松永 康佑	講師・管理	矢野 祐美子		
助教・人間空間	金子 晋也	講師・母性	山内 まゆみ		
助教・人間情報	矢久保 空遥	講師・母性	山本 真由美		
		助教・母性	石引 かずみ		
		助教・成人	柏倉 大作		
		助教・地域	近藤 圭子		
		助教・地域	田仲 里江		
		助教・管理	坂東 奈穂美		
		助教・基礎	檜山 明子		
		助教・在宅	御厩 美登里		
		助手・母性	大友 舞		
		助手・老年	中田 亜由美		
		助手・精神	星 幸江		
		助手・基礎	横川 亜希子		

※教員一覧の記載内容は教員の申告に基づく

2 教員業績一覧

デザイン学部

蓮見 孝

- ＜学会役員就任状況＞日本デザイン学会（評議員）
- ＜学術集会運営＞アートミーツケア学会大会（大会長）
- ＜講演会・講習会活動＞茨城県議会総務委員会「参考人意見聴取」

細谷 多聞

- ＜学会座長就任状況＞デザイン史セッション座長（平成28年6月、日本デザイン学会）

城間 祥之

- ＜学会発表＞1.歴女のすすめ～史実と創作の割合に注目した歴史漫画コンテンツの研究～（共同、平成28年11月、日本感性工学会北海道支部 学生会第4回研究発表会）／2.Save as .xxx -セーブアズエクス-～画像拡張子をモチーフとした女性向けコンテンツの制作～（共同、平成28年11月、日本感性工学会北海道支部 学生会第4回研究発表会）／3.ソーシャルメディア・アプリ向き観光コンテンツデザインに関する研究（第2報）～中国人観光客を対象とする北海道観光コンテンツの情報収集に関するアンケート調査～（共同、平成29年2月、感性フォーラム札幌2017）／4.壁面広告物とその背景となる建築物の調和に関する研究～札幌市内路面店を対象とする壁面広告物の印象評価を通して～（共同、平成29年2月、感性フォーラム札幌2017）
- ＜論文査読・学会抄録査読＞芸術工学会誌（2件、芸術工学会）
- ＜学会役員就任状況＞日本感性工学会（第10期理事）／芸術工学会（理事）／日本感性工学会（北海道支部支部長）
- ＜学術集会運営＞感性フォーラム札幌2017／日本感性工学会北海道支部学生会第4回研究発表会／第12回日本感性工学会春季大会
- ＜所属学会・研究会＞日本感性工学会

上遠野 敏

- ＜作品発表＞1.ニセコ倉庫邑2016（ニセコ町委託）（平成28年7月）／2.そらち炭鉱の記憶アートプロジェクト2016（平成29年1月）
- ＜学会シンポジウム＞1.デスクッション「風景とラディカル」（平成28年11月、アートミーツケア学会）
- ＜学会招聘講演＞1.札幌国際芸術祭2017記念講演「市民力とアート」（平成28年11月、アートミーツケア学会）
- ＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞地域再生プロジェクト：キャラクターグッズ開発、ゲーム冊子アートディレクター「三吉神社例大祭を楽しくする会」（平成28年5月14日～15日）／そらち炭鉱の記憶アートプロジェクト2016アートディレクター「nop炭鉱の記憶推進事業団」（平成28年10月1日～30日）

酒井 正幸

- ＜学術論文＞1.盲導犬に対する印象評価研究（共著、平成28年4月、日本感性工学会論文誌、15巻、3号、pp.415-423）
- ＜学会発表＞1.ユーザーインタビューによるアフォーダンス視点からの盲導犬の機能特性（共同、平成28年11月、日本人間工学会北海道支部大会）
- ＜論文査読・学会抄録査読＞日本感性工学会論文誌（1件、日本感性工学会）／第6回国際ユニヴァーサルデザイン会議（2件、国際ユニヴァーサルデザイン会議）
- ＜学会役員就任状況＞一般社団法人日本人間工学会（北海道支部役員）
- ＜所属学会・研究会＞日本デザイン学会／日本人間工学会／日本感性工学会／日本昆虫学会

安齋 利典

＜学術論文＞1.デザインマネジメントと感性（単著、平成28年8月、日本感性工学会、14巻、2号、pp.85-89）

＜学会発表＞1.企業ウェブサイトにおけるデザイン最適化に関する研究—その9（プロセス）（単独、平成28年7月、日本デザイン学会）／2.企業の新製品開発におけるデザインの役割とその活用（共同、平成28年7月、日本デザイン学会）

＜学会シンポジウム＞1.言語の壁を越えて使用可能な健康教材の研究（共同、平成29年2月、日本小児学会）

＜学会座長就任状況＞口頭9会場（2-202教室）地域振興、地域研究（単独、平成28年7月、日本デザイン学会）

＜論文査読・学会抄録査読＞札幌市立大学論文集（1件、札幌市立大学）

＜所属学会・研究会＞日本デザイン学会／日本感性工学会／芸術工学会／HCD-Ne+（人間中心設計機構）

石井 雅博

＜学会発表＞1.Holistic and analytic observation of the vertical-horizontal illusion: the way of looking at things alters percept of line length（単独、H28.5、Vision Sciences Society Annual Meeting 2016）／2.運動視差による奥行き知覚における観察者の能動的関与の効果（単独、平成29年1月、日本視覚学会冬季大会）

＜学会研究発表＞1.視覚属性とランダムドットパターン上の主観的輪郭（単独、平成28年7月、電子情報通信学会ヒューマン情報処理研究会）

＜学会座長就任状況＞イメージ・メディア・クオリティとヒューマン情報処理、その他、一般（平成28年7月、電子情報通信学会ヒューマン情報処理研究会）

＜論文査読・学会抄録査読＞1.電子情報通信学会（4件、電子情報通信学会）／2.感性工学会（2件、感性工学会）／3.デザイン学会（1件、デザイン学会）／4.日本バーチャルリアリティ学会（2件、日本バーチャルリアリティ学会）

＜学会役員就任状況＞電子情報通信学会論文誌編集委員会（リエゾン委員D）／電子情報通信学会ヒューマン情報処理研究会（委員長）／日本視覚学会（世話人）／日本バーチャルリアリティ学会VR心理学会研究会（委員）／日本バーチャルリアリティ学会力触覚の提示と計算研究会（委員）／電子情報通信学会和文論文誌Dヒューマンコミュニケーション特集号（幹事）／日本バーチャルリアリティ学会論文誌編集委員会（委員）

＜学術集会運営＞電子情報通信学会ヒューマン情報処理研究会

＜所属学会・研究会＞Vision Sciences Society／電子情報通信学会／情報処理学会／感性工学会／日本バーチャルリアリティ学会／芸術科学会／映像情報メディア学会／電子情報通信学会ヒューマン情報処理研究会／日本バーチャルリアリティ学会VR心理研究会／日本バーチャルリアリティ学会力覚と計算研究会

中原 宏

＜学会発表＞1.まちづくりコミュニティの構造分析 その1 大子町屋台研究会をケーススタディとして（共同、平成28年8月、日本建築学会 大会）／2.まちづくりコミュニティの構造分析 その2 2つのコミュニティ比較と調査対象者へのフィードバックによる検証（共同、平成28年8月、日本建築学会大会）

＜学会座長就任状況＞全国大会 都市計画部門：参加のワークショップ手法（単独、平成28年8月、日本建築学会）

＜論文査読・学会抄録査読＞1.都市学研究no.53（2件、北海道都市地域学会）／2.札幌市立大学研究論文第11巻1号（1件、札幌市立大学）

＜学会役員就任状況＞日本建築学会（論文審査委員会査読員）／北海道都市地域学会（副会長）

＜所属学会・研究会＞日本建築学会／日本都市計画学会／北海道都市地域学会／日本公衆衛生学会

＜講演会・講習会活動＞オリンピック・パラリンピックとまちづくり～1972年札幌オリンピック冬季競技大会を例に～「HoPE 北海道中小企業家同友会産学官連携研究会」（平成29年2月8日）



＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞札幌市立大学と北海道中小企業家同友会会員との懇談会（平成28年9月15日、北海道中小企業家同友会）／インテリアプランナー試験学生受験にかかる本学建築系教員との懇談会（平成29年2月23日、建築技術教育普及センター北海道支部）

羽深 久夫

＜学術論文＞1.北海道勇払郡厚真町における越中型民家の保存活用（単著、平成28年8月、日本建築学会大会建築計画部門研究協議会資料、116号、pp.117）／2.札幌農学校による附属農場の開発手法と北海道の農村開発における位置づけについて（共著、平成28年11月、日本建築学会計画系論文集、81巻、729号、pp.2507-2516）／3.根室市西和田地区における牛舎の小屋組みの構法的特徴（共著、平成29年3月、札幌市立大学、11巻、1号）／4.都市における高層建築の形態と構成に関する研究（共著、平成29年3月、札幌市立大学、11巻、1号）

＜調査研究報告書＞1.武漢市のまちづくり拠点（単著、平成29年3月、札幌市立大学、pp.58-66）／2.創成東地区のまちづくりへの要望（単著、平成29年3月、札幌市立大学、pp.89-90）

＜実務関係報告書＞1.蘇った豊平館（単著、平成29年3月、北を語る会、47号、pp.4-5）

＜論文査読・学会抄録査読＞1.日本建築学会技術報告集（2件、日本建築学会）／2.札幌市立大学研究論文集（1件、札幌市立大学）／3.日本建築学会計画系論文集（1件、日本建築学会）

＜学会役員就任状況＞日本建築学会（建築歴史・意匠本委員会日本建築史小委員会 委員）／日本建築学会（北海道支部歴史意匠専門委員会 委員）

＜講演会・講習会活動＞さっぽろ市民カレッジ2016春・夏期「神社建築からみた北海道神宮」（平成28年6月21日・28日、ちえりあ）／北海道文化財保護協会記念講演会（道民カレッジ連携講座）「蘇った豊平館」（平成28年7月21日、北海道文化財保護協会）／公共建築の日フォーラム記念講演会「『公共建築』～生まれ変わった豊平館～」（平成28年10月7日、公共建築協会）／NHK新さっぽろ文化講座2016秋冬講座 全2回 コルビュジェの建築 10～11月「巨匠ル・コルビュジェの建築ール・コルビュジェが求めた建築ー」（平成28年10月21日・11月25日、NHK新さっぽろ文化教室）／探険・豊平館「探険・豊平館」（平成28年11月1日・2日、札幌市+NTTファシリティーズ）／オオドオリ大学講座「ドリ大join豊栄建設CLAHAS「お正月前に知りたい！秘密の北海道神宮」」（平成28年12月18日、オオドオリ大学）／探険・続・豊平館「探険・続・豊平館」（平成29年1月7日・24日、札幌市+NTTファシリティーズ）／NHK新さっぽろ文化講座2016春夏講座 全6回 新古典主義建築 4～9月「新古典主義建築の成り立ちー近代建築が誕生するまでにー」（毎月第2土曜、NHK新さっぽろ文化教室）／NHK新さっぽろ文化講座2016秋冬講座 全6回 西洋近代建築 10～3月「西洋近代建築の誕生ー各国のモダン・アーキテクチャーの成立ー」（毎月第2土曜、NHK新さっぽろ文化教室）

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞「建築学および建築学関連分野」JABEE審査プログラム審査委員（日本技術者認定機構）／北海道ヘリテージ・マネジメント専門職育成講座 講義（平成28年7月）（北海道教育委員会・北海道建築士会）／開湯150年 定山溪のこれからを探る（平成29年2月）（北海道中小企業家同友会）／理事長・事務局（NPO法人北の民家の会）／北海道地区幹事（NPO法人日本民家協会）／君の椅子プロジェクトの推進活動（NPO法人アルテピアッツァ美唄）／保養センター駒岡運営協議会 委員（札幌市環境福祉事業団）

原 俊彦

＜学術論文＞1.人口減少に対応した社会教育の在り方ー北海道・道南ブロックの事例（単著、平成28年6月、札幌市立大学研究論文集、10巻、1号、pp.67-76）／2.政策科学としての人口学の可能性（会長講演）（単著、平成28年6月、人口学研究、53巻、pp.1-5）／3.日本の人口転換と地域社会の持続可能（単著、平成28年10月、家族社会学研究、28巻、2号、pp.11-25）

＜著書＞1.「第8章 縮減する日本社会の課題」佐藤龍三郎・金子隆一編『ポスト人口転換期の日本』（共著、平成28年7月、9784562092079、原書房、pp.187-216）

＜解説文＞1.【学界展望/学界消息】『人口学事典』の刊行について（単著、平成28年6月、人口学研究、53巻、pp.63-64）／2.【学界展望/学界消息】SpringerBriefs in Population Studies：日本人口学会編サブシリーズの創刊（単著、平成28年6月、人口学研究、53巻、pp.55-62）／3.【学界展望/学界消息】ドイツ連邦人口研究所とドイツ人口学会を訪ねて（単著、平成28年6月、人口学研究、53巻、pp.81-88）／4.【往来】自著紹介HARA, Toshihiko 著A Shrinking Society: Post-Demographic

Transition in Japan (単著、平成28年6月、現代社会学研究、29巻、pp.63-65)

＜学会発表＞1.Educational Attainments of Women and Lowest Low Fertility of Japan (単独、平成28年7月、ISA) / 2.北海道の人口動態 2015年：高齢者の移動と外国人居住者の影響 (単独、平成28年11月、日本人口学会2016年度第1回東日本地域部会) / 3.地方創生政策と少子化 (単独、平成29年3月、2016年度第2回東日本地域部会)

＜その他の論文＞1.論説：地域における人口減少：考え方と政策的対応 (単著、平成29年2月、JOYO ARC2017年2月号、pp.4-9) / 2.特集 少子化とそのゆくえ：地方創生と少子化 (単著、平成29年3月、統計 2017年3月号、pp.26-31)

＜学会シンポジウム＞1.人口政策の成り立ちを考える～Linking Past to Present～ (単独、平成28年6月、第68回日本人口学会)

＜学会招聘講演＞1.北海道の人口減少対策と地方創生 (単独、平成28年8月、アカデミー・フォーラム懇談会)

＜学会研究発表＞1.日本の家族観調査 (FLBS) ? 既存の調査結果に基づく考察 (単独、平成28年9月、人口転換科研 第3回) / 2.北海道の人口動態 2015年：札幌市の動向と外国人居住者の影響 (単独、平成28年10月、2016年度第4回札幌GIS研究会) / 3.【移民・外国人と日本社会】第6章 訪日外国人の経済的社会的効果 (単独、平成28年11月、【人口学研究会】定例会 (第590回)) / 4.人口からみた超高齢社会 (単独、平成29年3月、第1回 北海道大学大学院保健科学研究院 市民公開シンポジウム) / 5.ポスト人口減少社会への展望—人口転換モデルの改良と拡張— (単独、平成29年3月、人口転換科研 第5回研究会) / 6.少子化対策としての家族形成支援策—社会保障システムの再構築に向けて (単独、平成29年3月、平和政策研究所)

＜学会役員就任状況＞日本人口学会 (会長) / 日本人口学会 (地域部会・人口学事典編纂・英書刊行担当)

＜学術集会運営＞第64回北海道社会学会大会

町田 佳世子

＜学術論文＞1.Effects of Hill Walking on Mood and Self-Perceived Physical Conditions among Corporate Employees (共著、平成28年6月、札幌市立大学研究論文集、10巻、1号、pp.39-47) / 2.英語不定冠詞の教育内容と指導過程の構築に向けて (単著、平成29年3月、Research Bulletin of English Teaching、13巻、pp.33-56)

＜学会発表＞1.企業従業員のヘルスプロモーションとしての低山・高原ウォーキングの活用 (単独、平成28年9月、産業・組織心理学会第32回大会)

＜学会シンポジウム＞1.上山市クアオルト健康ウォーキングの心理的効果に関する研究 (単独、平成28年9月、第71回日本体力医学会大会)

＜論文査読・学会抄録査読＞1.札幌市立大学研究論文集 (1件)

＜学会役員就任状況＞日本コミュニケーション学会北海道支部 (監事) / 大学英語教育学会北海道支部 (研究企画委員)

＜学術集会運営＞JACET 55th International Convention 2016 Sapporo

＜所属学会・研究会＞日本コミュニケーション学会 / International Pragmatics Association / 一般社団法人大学英語教育学会 / 日本語用論学会 / 産業・組織心理学会 / 全日本博物館学会

＜講演会・講習会活動＞フレッシュマンコミュニケーションセミナー「コミュニケーションとは」 (平成28年4月5日、(株)アイティ・コミュニケーションズ) / 保健医療総論における講演「人をつなぐ私たちの営み—コミュニケーションについて考える」 (平成28年4月11日、札幌医科大学保健医療学部) / 健康教育学における講義「動物を介した人の心と知の変化」 (平成28年6月27日、北海道大学教育学部) / 文化庁文化部文化審議会国語文化会国語課題小委員会ヒアリング発表「企業と大学生の意識と比較から考えるコミュニケーション能力の構成要素」 (平成29年1月25日、文化庁)

矢部 和夫

＜学術論文＞1.Factors controlling changes in the aquatic macrophyte communities from 1984 to 2009 in a pond in the cool-temperate zone of Japan (共著、平成28年7月、Limnology)

＜調査研究報告書＞1.円山動物園の森ビオトープの生物多様性向上のための研究 (共著、平成29年1

月) / 2.ウトナイ湖北岸における湿生草原の再生手法検討 (単著、平成29年2月) / 3.キウシト湿原植生調査研究 (単著、平成29年2月) / 4.平岡公園人工湿地・池に係る植物生育等環境調査研究 (単著、平成29年2月)

＜学会発表＞1.畑地由来の養分・塩類負荷がミズゴケ類の被度に与える影響 (共同、平成28年9月、応用生態工学会) / 2.畑地由来の養分・塩類負荷及び競争種がミズゴケ類の被度に与える影響 (共同、平成29年3月、日本生態学会) / 3.Comparison of nutrient retention between natural and nutrient-loaded poor fen (共同、平成29年3月、日本生態学会) / 4.Can intraspecific variability of resprouting be explained by the seasonal nutrient allocation in dwarfing alder *Alnus japonica* (共同、平成29年3月、日本生態学会)

＜学会研究発表＞1.寒冷地小河川水系の保全を目的とした水草群落の分布に関する基礎研究と再生試験効果の検証 (共同、平成29年2月、大沼研究発表会)

＜論文査読・学会抄録査読＞1.Wetlands (1件、Springer Link) / 2.科研費の審査におけるピアレビュー (22件、日本学術振興会)

＜学会役員就任状況＞日本湿地学会 (学術研究支援)

＜学術集会運営＞ウエットランドセミナー運営幹事

＜所属学会・研究会＞応用生態子学会 / 日本湿地学会 / 日本生態学会 / 陸水学会 / 宮島沼研究会 / 日本造園学会

＜講演会・講習会活動＞駒里中学校環境教育 (美々川) 道胆振総合振興局 室蘭建設管理部主催 / トライアスカル2016体験学習 / 樹をめぐる物語展関連事業 (札幌芸術の森美術館)

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞専門職就任 (植生管理アドバイザー) 「安平川河道内調整地の希少植物種のレスキュー」 (平成28年4月～平成29年3月、北海道)

吉田 和夫

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞第69回広告電通賞 北海道地区選考会 審査委員長 (平成28年4月28日、広告電通賞審議会) / 駅前通地下広場広告デザイン審査会 委員 (平成28年4月～平成29年3月、札幌駅前通まちづくり㈱) / 社福広報研修講師として広報に関わる講義を行った「社福広報研修「誰に何を伝えるのか」ー広報誌とホームページを考えて見るー」 (平成28年8月8日、(福)札幌市社会福祉協議会)

柿山 浩一郎

＜学術論文＞1.Perception among Japanese Older Adults of the Robot as a Self-Health- Monitoring Agent (共著、平成28年11月、The 17th China-Japan-Korea Joint Symposium on Medical Informatics (CJKMI2016) Proceedings For the next quarter century、pp.39-42)

＜調査研究報告書＞1.平成28年度 共同研究 次期給湯器デザイン (平成29年3月、札幌市立大学)

＜作品発表＞1.2017冬季アジア札幌大会支援企画 ANBD特別コラボポスター展 (単独、平成29年2月、Light flame)

＜学会発表＞1.タブレット端末利用時の無意識動作計測実験計画 (単独、平成28年7月、日本デザイン学会誌 第63回研究発表大会概要集)

＜学会研究発表＞1.「地域資源を基盤とする創造的復興とレジリエンス力強化に関する実践研究」平成28年度研究活動報告会 講評ならびに討論 (共同、平成29年3月、科学研究費基盤研究 (A) 「地域資源を基盤とする創造的復興とレジリエンス力強化に関する実践研究」)

＜論文査読・学会抄録査読＞1.デザイン学研究 (2件、日本デザイン学会) / 2.日本感性工学会論文誌 (1件、日本日本感性工学会) / 3.International Journal of Affective Engineering (1件、日本日本感性工学会)

＜学会役員就任状況＞日本デザイン学会 (春季研究発表大会概要集編集委員会委員) / 日本デザイン学会 (研究推進委員会委員) / 日本デザイン学会 (評議委員) / 日本感性工学会 (論文編集委員会論文編集委員)

＜学術集会運営＞日本デザイン学会 第63回春季研究発表大会 / 日本感性工学会 感性フォーラム札幌2017 / 日本感性工学会北海道支部 学生会第4回研究発表会 / 第22回日本統合医療学会 (準備) / 冬季アジア札幌大会支援企画 ANBD特別コラボポスター 冬の炎特別展

<所属学会・研究会> 日本デザイン学会／日本感性工学会／日本教育工学会

齊藤 雅也

<学術論文> 1. 高性能パッシブ換気住宅における木質バイオマスを用いたコミュニティ暖房システムの検討（共著、平成29年1月、日本建築学会環境系論文集、82巻、731号、pp.67-76）／2. 屋外空間における放射温度の推定と放射エクセルギーに関する検討（共著、平成29年3月、日本建築学会環境系論文集、82巻、733号、pp.205-214）

<著書> 1. CLIMA DESIGN クリマデザイン 新しい環境文化のかたち（共著、平成28年6月、978-4306046405、鹿島出版会、pp.94-117）

<調査研究報告書> 1. 受託研究報告書 建設作業所における作業員の空調服着用による作業環境の改善効果評価と熱ストレス評価ツールの基礎的検討（単著、平成28年9月、札幌市立大学）／2. 平成28年度受託研究報告書 ホッキョクグマ・アザラシ館（仮称）、およびゾウ舎のデザイン研究（共著、平成29年2月、札幌市立大学）／3. 平成28年度受託研究報告書 新類人猿館（仮称）の基本デザイン研究（共著、平成29年2月、札幌市立大学）

<その他の論文> 1. 動物園のクリマデザイン 札幌市円山動物園を事例として（単著、平成28年11月、空気調和・衛生工学会、90巻、11号、pp.935-942）

<学会発表> 1. ペレットストーブと床下暖房を併用するパッシブ換気住宅の温熱環境（共同、平成28年6月、日本建築学会北海道支部研究報告集No.89）／2. 採冷空間を形成する設えのデザイン・製作と放射エクセルギー解析（共同、平成28年6月、日本建築学会北海道支部研究報告集No.89）／3. 超高性能パッシブ換気住宅における夏期・冬期の快適性評価（共同、平成28年6月、日本建築学会北海道支部研究報告集No.89）／4. まちづくりコミュニティの構造分析 その1 大子町屋台研究会をケーススタディとして（共同、平成28年8月、日本建築学会大会（九州）学術講演会（都市計画））／5. まちづくりコミュニティの構造分析 その2 2つのコミュニティ比較と調査対象者へのフィードバックによる検証（共同、平成28年8月、日本建築学会大会（九州）学術講演会（都市計画））／6. 世帯の生活パターンおよび住宅の断熱性能を考慮したコミュニティ暖房システムの検討 その1 地域の熱需要の想定と熱源・搬送システムのモデル化（共同、平成28年8月、日本建築学会大会（九州）学術講演会（環境工学Ⅰ））／7. 世帯の生活パターンおよび住宅の断熱性能を考慮したコミュニティ暖房システムの検討 その2 パラメータスタディによるシステム検証（共同、平成28年8月、日本建築学会大会（九州）学術講演会（環境工学Ⅰ））／8. 街路・公園空間の夏季微気象設計のための人体エクセルギー収支評価に関する研究 屋外の地物表面・天空の放射温度とMRTの算定（共同、平成28年8月、日本建築学会大会（九州）学術講演会（環境工学Ⅰ））／9. 超高性能パッシブ換気住宅に関する実態調査 その1 夏期・冬期の室内環境評価（共同、平成28年8月、日本建築学会大会（九州）学術講演会（環境工学Ⅱ））／10. 超高性能パッシブ換気住宅に関する実態調査 その2 夏期・冬期の快適性評価（共同、平成28年8月、日本建築学会大会（九州）学術講演会（環境工学Ⅱ））／11. 住まい手による採冷空間形成に関する研究 設えのデザイン・製作と放射エクセルギー解析（共同、平成28年8月、日本建築学会大会（九州）学術講演会（環境工学Ⅱ））／12. 小学生の想像温度・暑熱不快・環境調整行動に関する研究 2015年夏の熊本・東京を事例として（共同、平成28年8月、日本建築学会大会（九州）学術講演会（環境工学Ⅱ））／13. 寒冷地における超高性能パッシブ換気住宅に関する実態調査 その2 冬期の室内環境評価（共同、平成28年9月、空気調和・衛生工学会 平成28年度大会（鹿児島））／14. 夏季の屋外放射環境の実測に基づく人体エクセルギー評価 その2. 人体エクセルギー収支の分析（共同、平成28年9月、空気調和・衛生工学会 平成28年度大会（鹿児島））／15. 夏季の屋外放射環境の実測に基づく人体エクセルギー評価 その1. 横浜・札幌の実測結果（共同、平成28年9月、空気調和・衛生工学会 平成28年度大会（鹿児島））／16. 夏季の室内温熱環境下でのヒトの適応プロセスに関する研究（共同、平成29年2月、日本感性工学会北海道支部 感性フォーラム札幌2017）／17. 学校建築を含む住宅群における木質バイオマスを用いたコミュニティ暖房システムの検討（共同、平成29年3月、空気調和・衛生工学会北海道支部 第51回学術講演会）／18. 夏季の周壁からの温放射エクセルギーがヒトの適応的快適性に与える影響（共同、平成29年3月、空気調和・衛生工学会北海道支部 第51回学術講演会）

<学会座長就任状況> 日本建築学会大会 環境工学部門「温熱感覚・反応」「自然エネルギー住宅」ほか（共同、平成28年9月、日本建築学会大会）／空気調和・衛生工学会北海道支部 学術講演会「温熱・環境心理・生理」（単独、平成29年3月、空気調和・衛生工学会北海道支部 第51回学術講演会）

＜論文査読・学会抄録査読＞1.日本建築学会環境系論文集（3件、日本建築学会）／2.日本建築学会技術報告集（2件、日本建築学会）／3.日本デザイン学会論文集（1件、日本デザイン学会）

＜学会役員就任状況＞日本建築学会（バイオフィリックデザイン小委員会・主査）／日本建築学会（環境ライフスタイル普及小委員会・委員）／Low Ex Network（LowEX. Net・委員）／空気調和・衛生工学会北海道支部（運営委員）

＜学術集会運営＞日本建築学会北海道支部環境工学専門委員会主催 第10回環境工学系・卒業論文発表会／空気調和・衛生工学会北海道支部地区講演会「地域のポテンシャルを活かす建築設備デザインの最前線」

＜所属学会・研究会＞日本建築学会／空気調和・衛生工学会／日本デザイン学会／日本太陽エネルギー学会／日本公衆衛生学会／日本感性工学会

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞建築設備ラウンドテーブル これからの建築は何を設え備えるべきか～北海道のクリマデザイン～「これからの北海道の環境の設えを考える会」（平成28年4月23日、ピーエス Kハウス（北広島））／招聘講義（建築設計者向け）「温放射・冷放射によるクリマデザインの可能性」（平成28年9月30日、㈱アトリエブク）／看護臨床分野に対する室内温熱環境デザイン面に関する学術的支援「療養室の窓面温度が患者・職員の体感温度に与える影響」（平成29年1月30日、北のケア環境研究会）／日本建築学会作品選集の建築審査（日本建築学会）／BIS試験講習委員会 委員（養成講習会・講師）（北海道建築技術協会）／特別会員（学術的支援）（特定非営利活動法人外断熱推進会議（EiPC））

武田 亘明

＜学会発表＞1.地域連携によるコミュニケーション活性化のための学びのデザイン（日本教育工学会研究報告集 JSET17-1 pp.647-pp.652）（単独、平成29年3月、日本教育工学会研究会）

＜学会座長就任状況＞A-2「教科指導におけるICT活用6」（平成28年10月、日本教育工学協会）／協働的な学びづくりH会場（平成29年3月、日本教育工学会）

＜学会役員就任状況＞日本教育工学協会（理事）／教育とコンピュータ利用研究会（副会長・北海道支部長）

＜所属学会・研究会＞日本教育工学会／日本教育工学協会／情報処理学会／教育とコンピュータ利用研究会／北海道中国哲学会

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞平成28年度「高校生と語る集い」基調講演「情報社会を生き抜く！ICTの積極的な活かし方」（2016年10月1日、北海道高等学校PTA連合会）／全日本中学校高校Webコンテスト第二次審査員（2016年12月、特定非営利活動法人学校インターネット教育推進協会）

張 浦華

＜作品発表＞1.Moment at Freezing Wate（単独、平成28年8月25日～30日、Asia Network Beyond Design ソウル展2016）／2.Between Silver and Gold（単独、平成28年9月23日～29日、Asia Network Beyond Design 長春展2016）／3.Between Silver and Red（単独、平成28年10月7日～13日、Asia Network Beyond Design 雲林展2016）／4.湧水（単独、平成28年10月15日～11月13日、第1回日本陶磁協会 現代陶芸奨励賞北海道展）／5.Between Silver and Green（単独、平成28年11月19日～27日、Asia Network Beyond Design 東京展2016）／6.Goddess of victory（単独、平成29年2月8日～12日、ANBD Special Collaboratoin Poster Exhibition Flame in Winter）／7.SC釉花皿（単独、平成29年2月28日～3月5日、第37回北海道陶芸作家協会展）／8.有田下絵具花皿（単独、平成29年2月28日～3月5日、第37回北海道陶芸作家協会展）

＜受賞等＞1.第1回日本陶磁器協会現代陶芸奨励北海道展 入選（平成28年10月、本陶磁器協会）

＜学会発表＞1.積雪寒冷地におけるスケートボードの提案（共同、平成29年2月、感性フォーラム札幌2017）

＜学会座長就任状況＞感性フォーラム札幌2017（単独、平成29年2月、感性工学会（札幌支部））

＜学会役員就任状況＞日本感性工学会（日本感性工学会評議員）／北海道陶芸作家協会（理事）／アジアネットワークビヨンドデザイン 日本（特任理事）

＜学術集会運営＞ANBD Special Collaboratoin Poster Exhibition Flame in Winter／感性フォーラム札幌2017



＜所属学会・研究会＞日本デザイン学会／日本感性工学会／北海道陶芸作家協会

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞第5回 チャリティーバザールの企画、販売、出品（平成28年9月10日～11日、北海道陶芸作家協会）／2017 冬季アジア札幌大会支援企画ANBD特別コラボレーションポスター展 特別講演 翻訳（平成29年2月8日、アジアネットワークビヨンドデザイン（ANBD））／2017 冬季アジア札幌大会支援企画ANBD特別コラボレーションポスター展（平成29年2月8日～12日、アジアネットワークビヨンドデザイン（ANBD））／2017 冬季アジア札幌大会支援企画ANBD特別コラボレーションポスター展 ポスターデザイン製作（平成29年2月8日～12日、アジアネットワークビヨンドデザイン（ANBD））／第38回北海道陶芸作家協会展の運営企画（平成29年2月28日～3月5日、北海道陶芸作家協会）／第38回北海道陶芸作家協会展 ポスターデザイン製作（平成29年2月28日～3月5日、北海道陶芸作家協会）

松井 美穂

＜学術論文＞1.孤児としての南部淑女-ナーシサ再読（単著、平成28年4月、『フォークナー』、18号、pp.43-61）

＜著書＞1.*Carson McCullers in the Twenty-First Century*（共著、平成28年11月、3319402919、Palgrave Macmillan、pp.157-173）

＜書評＞1.マーガレット・アトウッド著『キャッツ・アイ』（単著、平成29年3月、日本アメリカ文学会北海道支部、33号、pp.44-46）

＜論文査読・学会抄録査読＞1.アメリカ文学研究（日本アメリカ文学会）／2.北海道英語英文学（日本英文学会北海道支部）／3.札幌市立大学研究論文集（1件、札幌市立大学）

＜学会役員就任状況＞日本アメリカ文学会（編集委員）／日本アメリカ文学会北海道支部（幹事）／日本英文学会北海道支部（編集委員）

＜所属学会・研究会＞日本アメリカ文学会／日本英文学会／日本カナダ文学会／日本ウィリアム・フォークナー協会／アメリカ学会／The Carson McCullers Society

三谷 篤史

＜学術論文＞1.口腔ケアシミュレータおよびその手技記録ソフトウェアの第一次プロトタイプ開発（共著、平成29年1月、看護理工学会、4巻、1号、pp.58-66）／2.Development of Trident Motif Riden Mobile Robot for Robot-Triathlon Robot Contest（共著、平成29年2月、Journal of Robotics and Mechatronics、29巻、1号、pp.269-272）

＜作品発表＞1.Mechatro-Tsumiki（共同、平成28年6月、Bains Numerique 9）

＜特許・意匠登録＞口腔ケア用トレーニング装置（平成29年3月）

＜学会発表＞1.使用者による触知行動の誘発を目的とした能動アート型コミュニケーションツールの開発（使用者とのインタラクションをもたらすモジュールのデザイン）（共同、平成28年6月、ROBOMECH2016）／2.Design and development of a novel 3D printed 1-DOF tactile sensor with conductive polymer based sensing element（共同、平成28年10月、IEEE SENSORS2016）

＜学会シンポジウム＞1.「能動アート」型ナースコールワークショップ（共同、平成28年11月、アートミーツケア学会2016年度総会・大会）

＜学会招聘講演＞1.看護とデザインの循環する教育・研究について 看護の視点でデザインにできること・デザインの視点で看護にできること（単独、平成28年7月、日本看護研究学会第26回北海道地方会シンポジウム）

＜論文査読・学会抄録査読＞1.Proceedings of E&PDE2016（1件、E&PDE2016）／2.Proceedings of IEEE ROBIO2016（4件、IEEE ROBIO）／3.Mechanical Systems and Signal Processing（1件、Elsevier）／4.Proceedings of MerCon2017（4件、Mercon2017）

＜学会役員就任状況＞精密工学会（評議員および広報・情報専門部会委員）／日本機械学会（ロボティクス・メカトロニクス部門第2地区技術委員会幹事）／日本トライボロジー学会（北海道トライボロジー研究会・主査）／精密工学会北海道支部（商議員・会計幹事）

＜学術集会運営＞感性フォーラム2017札幌／SI2016／国際会議SII2016／第22回日本統合医療学会

＜所属学会・研究会＞日本機械学会／日本ロボット学会／計測自動制御学会／アメリカ電気電子学会（IEEE）／日本デザイン学会／精密工学会／日本感性工学会／看護理工学会／北海道トライボロジー

研究会

＜講演会・講習会活動＞3Dプリントペンであかりを作ろう（平成28年10月29日～30日、札幌市青少年科学館）

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞第11回 エンドオブライフ・ケア援助者養成基礎講座における運営補助（平成28年5月7日～8日、エンドオブライフ・ケア協会）／口腔ケアシミュレータ関係の展示（平成28年10月19日～23日、札幌デザインウィーク2016）／サッポロ・ロボットコーナーにおけるロボット展示（通年、札幌市青少年科学館）

山田 信博

＜学会発表＞1.公営住宅の処分過程に関する研究（単独、平成28年8月、日本建築学会全国大会）／2.公的施設の処分過程に関する研究（単独、平成28年6月、日本建築学会近畿支部）

＜学会シンポジウム＞1.「公営住宅の福祉転用」住戸を活用した高齢者グループホーム（単独、平成28年12月、日本建築学会福祉施設委員会）

＜論文査読・学会抄録査読＞1.札幌市立大学（1件）

＜学術集会運営＞アートミーツケア学会

＜所属学会・研究会＞日本建築学会／日本居住福祉学会

山田 良

＜学術論文＞1.接合点としての環境芸術 その2（単著、平成28年7月、環境芸術学会、16巻、pp.73－77）

＜著書＞1.Art Project Edge（共著、平成28年4月、9784862492494、東方出版、pp.112－113）

＜作品発表＞1.海拔ゼロメートル／石狩低地帯（単独、2016年5月、北海道立近代美術館 Emerging Artists Hokkaido）／2.Moon Pavilion（単独、2016年9月、札幌市立大学 Moon Pavilion）／3.Arctic Installation（単独、2017年3月、Arctic Installation,Norway）

＜受賞等＞1.日本建築学会作品選集（平成29年3月、日本建築学会）

＜学会発表＞1.12. 80万年前の水平線「小樽アートプロジェクト 2015／Freedom Desk」および「海拔ゼロメートル／石狩低地帯 2016」（単独、平成28年11月、環境芸術学会）／2.13.立庵／連結力としての小空間（共同、平成28年11月、環境芸術学会）／3.11.空間的療養効果を重視したArt in Hospital「風の家／Breathing House」（共同、平成28年11月、アートミーツケア学会）

＜学会シンポジウム＞1.モノトメディア／環境芸術を語ろう（単独、平成28年11月、環境芸術学会）

＜学会招聘講演＞1.基調講演／風景とラディカルケア（単独、平成28年11月、アートミーツケア学会）

＜学会座長就任状況＞研究口頭発表（単独、平成28年11月、環境芸術学会）／建築作品発表会（共同、平成28年11月、日本建築学会）

＜論文査読・学会抄録査読＞1.環境芸術学会（3件、環境芸術学会）

＜学会役員就任状況＞環境芸術学会（理事）／日本建築学会（作品選集審査委員会）／日本建築学会（設計競技審査委員会）／北海道芸術学会（理事）

＜所属学会・研究会＞環境芸術学会

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞新築病院のデザイン指導「溪仁会病院」（2016年4月～2017年3月、札幌溪仁会病院）

石田 勝也

＜作品発表＞1.光陰如矢（共同、2016年7月、500m美術館 いつかきたみちこどもみち）／2.Fluctuations S.L.A.（共同、2016年5月、Sense Exhibition）

＜学会発表＞1.公共空間におけるインタラクティブな作品展示について（単独、平成28年7月、情報通信学会）

＜学会研究発表＞1.公共空間におけるデジタルスクリーンの可能性について（単独、平成28年7月、道総研共同研究交流会）

＜所属学会・研究会＞芸術科学会

＜講演会・講習会活動＞Youtuber養成講座【環駒ヶ岳（3町）鹿部、森、七飯で開催（1ヶ月に1か

所)】(平成28年12月～平成29年2月、地方創生加速化交付金事業「ICTを活用した南北海道版DMO広域観光推進事業」)／小学生・中学生向けプログラミングワークショップ「ゲームをつくろう」(小学生・中学生向けプログラミングワークショップ「ゲームをつくろう」)(平成29年1月、札幌市)

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞ビジュアルジョッキー養成イベント「VJDB」(平成28年4月2日、VJDB実行委員会)

大淵 一博

＜学会研究発表＞1.つながる地域貢献(共同、平成28年11月、SCU産学官研究交流会)

＜学会役員就任状況＞日本感性工学会北海道支部(幹事、会計担当)

＜学術集会運営＞感性フォーラム札幌2017／日本感性工学会北海道支部 学生発表会

＜所属学会・研究会＞電子情報通信学会／日本教育工学会／日本感性工学会

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞実行委員として企画・運営に参加／本学の出展関連業務を担当「札幌デザインウィーク2016」(平成28年4月10日、札幌デザインウィーク2016実行委員会)／広報媒体デザイン関係者に対し、Webデザインに関する講演を行った「誰に何を伝えるのか～広報誌とホームページを考えてみる～」(平成28年8月8日、札幌市社会福祉協議会)／所属メンバーへのソフトウェア利用に関する個別指導等「色彩分析ソフトウェアの活用方法」(平成28年10月26日、札幌イメージコーディネート研究会)／審査員「札幌市長グリーティングカード デザイン審査会」(平成28年11月4日、札幌市国際部)

片山 めぐみ

＜学会発表＞1.歩行移動時の高揚感と景観資源を記録するスマートフォンアプリケーションの開発(単独、平成29年2月、感性フォーラム)

＜学会シンポジウム＞1.世代間交流施設のデザイン(単独、平成28年4月、日本発達心理学会第27回大会)

＜学会招聘講演＞1.ソーシャルキャピタルを育むコミュニティレストラン(単独、平成28年6月、第68回北海道公衆衛生学会)

＜論文査読・学会抄録査読＞1.デザイン学研究(2件、日本デザイン学会)／2.札幌市立大学研究論文集(1件、札幌市立大学)／3.日本建築学会計画系論文集(1件、日本建築学会)

＜学術集会運営＞日本建築学会北海道支部研究会／JSAI2017(人工知能学会2017年度大会)「仕掛学OS」

＜所属学会・研究会＞日本建築学会／日本デザイン学会／地域活性学会／日本世代間交流学会／日本人工知能学会／北海道社会福祉学会

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞小樽市生活支援体制整備事業研修会「高齢者を支える「助け合いの地域づくり」(平成28年7月15日、小樽市)／平成28年度 管内市町村・保健環境部地域保健関係職員研修会(平成28年10月7日、北海道宗谷総合振興局保健環境部保健行政室(稚内保健所))／「空き家・空き地対策シンポジウム～空き家・空き地の活用が地域を変える！」(平成28年10月24日、特定非営利活動法人TOMネット)

金 秀敬

＜学術論文＞1.Integrating affective values to sustainable behaviour focused on Kansei engineering(共著、平成28年7月、International Journal of Sustainable Engineering (<http://dx.doi.org/10.1080/19397038.2016.1206984>))

＜調査研究報告書＞1.「知覚情報間「干渉構造」に着目した「マルチモーダル評価モデル」提案に関する実証研究」H28年度科学研究実績報告書(2017年5月)(平成29年3月、日本学術振興会)／2.「文字カタチの「情報範囲」に着目した「文字デザイン指標」検討に関する実証研究」H28年度公立大学法人札幌市立大学(学術奨励研究)成果報告書(2017年4月)(平成29年3月、公立大学法人札幌市立大学)／3.「視覚情報と触覚情報の「知覚干渉効果」に関する研究」H28年度公立大学法人札幌市立大学(個人研究)成果報告書(2017年4月)(平成29年3月、公立大学法人札幌市立大学)／4.「拡張キャンパス型地域連携」による過疎市町村の自律的創生デザイン研究」H28年度科学研究実績報告書



(2017年5月) (平成29年3月、日本学術振興会)

＜その他の論文＞1.「拡張キャンパス型地域創生デザインの概念」(平成29年3月、日本デザイン学会)

＜学会発表＞1.Towards Enhanced Affective Design: Rethinking the Notion of Design (2017年7月) (共同、平成29年3月、International Conference on Design Engineering and Product Innovation) / 2.拡張キャンパス型地域創生デザインの概念 (2017年7月) (共同、平成29年3月、日本デザイン学会)

＜論文査読・学会抄録査読＞1.The Proceedings of E&PDE (3件、International Conference on Engineering & Product Design Education) / 2.日本感性工学会論文誌 (1件、日本感性工学会) / 3.The ACM digital library proceedings of TEI (1件、International Conference on Tangible, Embedded and Embodied Interactions) / 4.International Journal of Affective Engineering (1件、日本感性工学会) / 5.The online REDO Cumulus Conference Proceedings (4件、The REDO biannual Cumulus)

＜学術集会運営＞日本感性工学会北海道支部 第4回総会

＜所属学会・研究会＞日本デザイン学会 / 日本感性工学会 / The Design Society / Design Principles & Practices Research Network / IEEE

＜講演会・講習会活動＞広島市立大学「色彩論」 / 広島国際学院大学「デザイン研究法」

小宮 加容子

＜調査研究報告書＞1.平成28年度札幌市大学提案型共同研究費事業「多世代交流を促す遊びに関する基礎的研究」研究報告書(単著、平成29年3月、札幌市立大学、1巻、1号、pp.1-74)

＜作品発表＞1.授業を通じての授産施設「かたるべの森」木工製品のデザイン提案(共同、平成28年7月、北洋銀行ものづくりテクノフェア2016) / 2.地域と大学をつなぐ遊びの活動「コネキッド」の取り組み事例の報告(単独、平成28年7月、北洋銀行ものづくりテクノフェア2016) / 3.授業を通じての授産施設「かたるべの森」木工製品のデザイン提案(共同、平成28年10月、いきいき健康・福祉フェア2016) / 4.授業を通じての授産施設「かたるべの森」木工製品のデザイン提案(共同、平成28年11月、第30回ビジネスEXPO) / 5.イロイロカタチ(単独、平成29年3月、キッズワークショップカーニバルinふくしま)

＜受賞等＞1.第9回キッズデザイン賞復興支援デザイン部門 遊びのワークショップ「きになる！」(平成28年7月、キッズデザイン協議会) / 2.第9回キッズデザイン子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン部門「ユニバーサルな参加・蓄積型の遊びワークショップ」(平成28年7月、キッズデザイン協議会) / 3.ウッドデザイン賞2016奨励賞(審査委員長賞)「授産施設で生産するデザイン性の高い木製品の開発」(平成28年12月、ウッドデザイン賞2016)

＜学会発表＞1.木を身近に感じさせる遊び「きになる！」の活動報告(共同、平成28年7月、日本デザイン学会第63回研究発表会) / 2.異なる環境の相互作用で深まる遊び「風の子GO!GO!」の活動報告(共同、平成28年7月、日本デザイン学会第63回研究発表会) / 3.遊びを組み合わせ発展させた「ハコ×マチ×あそびlab!」の活動報告(共同、平成28年7月、日本デザイン学会第63回研究発表会) / 4.ユニバーサルな参加・蓄積型の遊びの提案とその活動報告(共同、平成28年7月、日本デザイン学会第63回研究発表会) / 5.授業を通じての授産施設「かたるべの森」木工製品のデザイン提案(共同、平成28年7月、日本デザイン学会第63回研究発表会)

＜学会研究発表＞1.授業を通しての地域連携活動の事例紹介ーくるみなの木遊館にて制作・販売する木工製品のデザイン提案ー(単独、平成28年11月、SCU産学官研究交流会)

＜論文査読・学会抄録査読＞1.デザイン学研究(1件、日本デザイン学会)

＜学会役員就任状況＞日本デザイン学会(春季研究発表大会概要集編集委員会)

＜所属学会・研究会＞ヒューマンインタフェース学会 / 日本科学看護学会 / 日本リハビリテーション工学協会 / 日本機械学会 / 日本福祉のまちづくり学会 / 玩具福祉学会

須之内 元洋

＜作品発表＞1.43d records(単独、2016年11月、WORDPRESS 公式テーマデザイン)

＜所属学会・研究会＞Association for Computing Machinery / 情報処理学会 / 芸術科学会

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞アートとリサーチ ワークショップ記録の可視化及びアーカイブ化（平成28年4月～平成28年10月、（一般社団法人AISプランニング）／福祉施設の活動に関するデジタルアーカイブ企画・構築支援（平成28年4月～平成29年3月、みずのき美術館）／陶磁器デザイナー森正洋氏のデジタルアーカイブ構築アドバイス・支援（平成28年4月～平成29年3月、（同）森正洋デザイン研究所）／2017冬季アジア札幌大会公式ホームページ構築支援・運用のアドバイス（平成28年4月～平成29年3月、第8回札幌アジア冬季競技大会組織委員会事務局）／アール・ブリュット・コレクションアーカイブ運用支援（平成28年4月～平成29年3月、日本財団）／アートプロジェクト活動のアーカイブ企画・運用支援（平成28年4月～平成29年3月、（特定非営利活動法人アートフル・アクション）／本学サテライトで開催のワークショップ企画・運営（平成28年4月～平成29年3月、No Maps実行委員会）／財団の文化活動記録アーカイブ構築・運用支援（平成28年4月～平成29年3月、福武財団）／札幌国際芸術祭2017 NMAアーカイブ企画・構築（平成28年4月～平成29年3月、札幌国際芸術祭実行委員会）

福田 大年

＜調査研究報告書＞1.tap interacion - tap behavior プロジェクト 2015-2016 スクリーンを越えた体験のデザインを考える（平成29年2月、札幌市立大学、1巻、1号）／2.もっとE-KURASHI Project 2016 シニアの自主健康管理用ICTツール（E-KURASHI）のWEB化に関する産学連携による開発研究（平成29年2月、札幌市立大学、1巻、1号）／3.札幌市円山動物園ホッキョクグマ・アザラシ館（仮称）、およびゾウ舎（仮称）のサイン計画研究（平成29年3月、札幌市立大学、1巻、1号）

＜学会発表＞1.身近な資源を活かしたコンテンツ制作を促すアプリケーションの試作:地域コンテンツ体験を地域住民が制作・提案できる環境づくりのための基礎的研究（共同、平成28年7月、日本デザイン学会研究発表大会概要集）／2.参加者のスケッチの変化から見た協創型スケッチ法「クルクルスケッチ」の特徴（単独、平成28年7月、日本デザイン学会研究発表大会概要集）

＜学会研究発表＞1.参加者の主体性を促すキーワード抽出方法を取り入れたアイデア生成ワークショップの特長と課題（単独、平成28年7月、第133回ヒューマンインタフェース学会研究会ユーザエクスペリエンス・サービスデザインおよび一般（SIG-UXSD-03））

＜学会座長就任状況＞ポスターセッションA（単独、平成28年7月、日本デザイン学会第63回春季研究発表大会）

＜学会役員就任状況＞日本デザイン学会 第1支部会（幹事）／日本デザイン学会（評議員）

＜所属学会・研究会＞日本デザイン学会／ヒューマンインタフェース学会／日本福祉のまちづくり学会／情報文化学会

＜講演会・講習会活動＞ペロタクシーツアーMAPづくり「ペロタクシーデザイン しま専科」（2016年10月23日、NPO法人さっぽろAMスポーツクラブ）

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞効果的なチラシの作り方研修（平成28年11月30日、（一財）さっぽろ健康スポーツ財団）／厚真町職員情報発信スキル向上研修会「情報発信するために、考えてみるべき4つのポイント」（平成29年2月24日、厚真町）

松永 康佑

＜作品発表＞1.〇〇女子（共同、平成28年9月、南区役所まちなかアート）／2.Signism（共同、平成28年11月、ISCA）／3.Geometarium（単独、平成29年2月、全天周コンテンツコンテスト）／4.Signism（共同、平成29年3月、2016 ASIA DIGITAL ART AWARD FUKUOKA）

＜特許・意匠登録＞投影画像生成装置、投影画像生成方法および投影画像生成プログラム（平成28年4月）

＜受賞等＞1.動画部門 最優秀賞 グランプリ（平成28年11月、全天周コンテンツコンテスト実行委員会 芸術科学会）／2.カテゴリーA 産業応用部門 入賞（平成29年3月、2016アジアデジタルアート大賞展実行委員会）／3.研究奨励賞（平成29年3月、アジアデジタルアートアンドデザイン学会）

＜学会発表＞1.Kinectを用いたフェイシャルプロジェクションマッピング（共同、平成28年4月、インタラクション2016）／2.風力を用いた浮遊型ユーザインターフェースのデザインと検討（共同、平成28年7月、電子情報通信学会 ヒューマン情報処理研究会）／3.手話と音楽を組み合わせたシリアスゲーム「Signism」の開発（共同、平成29年3月、第3回ADADA Japan学術大会）／4.手話と音楽を組



み合わせたシリアスゲームの開発（共同、平成29年3月、インタラクシオン2017）

＜学会座長就任状況＞第3回 ADADA Japan 学術大会（単独、平成29年3月、ADADA Japan）

＜論文査読・学会抄録査読＞1.ADADA International Journal（6件、ADADA）

＜所属学会・研究会＞情報処理学会／電子情報通信学会／ADADA学会

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞帰厚院木造大仏の計測（れきけん）

金子 晋也

＜学術論文＞1.北海道沿岸部における漁業小屋の調査（共著、平成28年6月、札幌市立大学、10巻、1号、pp.95－106）／2.函館市西部地区における建物と坂道の関係性－生活空間からみた都市の構成に関する研究－（共著、平成28年6月、札幌市立大学、10巻、1号、pp.3－18）／3.札幌市南区における高齢者の住まいのアプローチ空間の構成－高齢者の外出困難要因に関する基礎研究－（共著、平成28年6月、札幌市立大学、10巻、1号、pp.59－66）

＜学会発表＞1.積雪寒冷地在住の要介護・要支援高齢者の外出困難に関する質的研究（共同、平成28年7月、日本在宅ケア学会）／2.坂道からみた街区内の外部空間の構成 函館市西部地区の街区構成に関する研究（共同、平成28年8月、日本建築学会大会）／3.日本の広間型民家と英国のホール型民家における架構と空間構成 日本と欧米諸国における木造建築構法の変遷過程に関する比較研究 その1（共同、平成28年8月、日本建築学会大会）／4.北海道における近代畜舎の多様性 日本と欧米諸国における木造建築構法の変遷過程に関する比較研究 その2（共同、平成28年8月、日本建築学会大会）

＜論文査読・学会抄録査読＞1.日本建築学会計画系論文集（1件、日本建築学会）／2.札幌市立大学研究論文集（1件、札幌市立大学）／3.日本建築学会技術報告集（1件、日本建築学会）／4.日本建築学会技術報告集（1件、日本建築学会）

＜学会役員就任状況＞日本建築学会（木造建築構法小委員会幹事）

＜学術集会運営＞日本建築学会木造建築構法小委員会研究会

＜所属学会・研究会＞日本建築学会／芸術工学会／日本在宅ケア学会／NPO木の建築フォーラム

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞さっぽろ観光案内所の空間利用に関する支援活動（平成28年7月6日、札幌市（観光局））／ねむろ健康保健まつり（平成28年9月4日、根室市）

矢久保 空遥

＜調査研究報告書＞1.次期給湯器デザイン（平成29年3月、札幌市立大学）

＜学会発表＞1.現代日本における音に対する共感覚的比喩表現（単独、平成29年3月、日本音響学会）

＜学会研究発表＞1.口琴の弁形態にみる非対称性とその音響的意味の考察（単独、平成28年7月、電子情報通信学会 イメージ・メディア・クオリティ/ヒューマン情報処理研究会）

＜論文査読・学会抄録査読＞1.REDO Cumlus（2件、REDO）

＜学術集会運営＞北海道社会学会

＜所属学会・研究会＞日本デザイン学会／日本音響学会／日本サウンドスケープ協会

＜講演会・講習会活動＞Lecturer of the "Small and Medium Industrial Manufacturing Products Development"「Small and Medium Industrial Manufacturing Products Development」（平成28年9月19日～22日、Industrial Design Study Program, Faculty of art and design, Bandung Institute of Technology）

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞乳児を持つ父母への効果的な映像資料の提示方法について「ここがポイント!研修教材を作成する」（平成28年8月17日、モンゴル国立母子保険健康センター）

看護学部

樋之津 淳子

＜学術論文＞1.仰臥位による足浴の同一体位がもたらす身体負荷に対する主観と生理反応（共著、平成28年4月、日本看護技術学会誌、15巻、1号、pp.64－73）／2.市民参画型の模擬患者養成プログラムの開発－共に育み合う市民主体の学習の場づくりを目指して－（共著、平成28年6月、札幌市立大学研究論文集、10巻、1号、pp.19－29）／3.使用済み注射針とキャップの取り扱いに関する国内書籍の検討



(共著、平成28年12月、天使大学紀要、17巻、1号、pp.63-72)

＜学会発表＞1.看護コンソーシアム構築への段階的研究 パート1 看護管理者・師長への調査（共同、平成28年8月、第20回日本看護管理学会学術集会）／2.看護コンソーシアム構築への段階的研究 パート2 中堅看護師への調査（共同、平成28年8月、第20回日本看護管理学会学術集会）／3.A市の病院における看護師研修の実態と課題（共同、平成28年8月、第20回日本看護管理学会学術集会）

＜学会招聘講演＞1.現場のアイデアがモノになるまで（日本看護管理学会例会in青森）

＜学会座長就任状況＞口から食べる喜びを支援する包括的アプローチの有用性と食事介助技術（平成28年8月、日本看護研究学会第42回学術集会）

＜論文査読・学会抄録査読＞1.日本看護技術学会誌第15回学術集会講演抄録集（3件、日本看護技術学会）／2.第35回日本看護科学学会学術集会講演集（5件、日本看護科学学会）／3.看護人間工学研究誌（2件、日本人間工学会看護人間工学部会）

＜学会役員就任状況＞日本看護技術学会（評議員）／看護理工学会（評議員・監事）／日本看護研究学会（北海道地方会役員）／日本看護研究学会（評議員）／日本人間工学会看護人間工学部会（総務）

＜学術集会運営＞日本看護研究学会第26回北海道地方会学術集会／第68回北海道公衆衛生学会

＜所属学会・研究会＞日本看護研究学会／日本人間工学会／日本人間工学会看護人間工学部会／看護理工学会／日本看護学教育学会／日本がん看護学会／日本看護科学学会／日本看護技術学会／日本看護管理学会

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞北海道専任教員養成講習会の講師（北海道保健福祉部）／北海道看護協会継続教育のあり方検討委員会委員（北海道看護協会）／研究会の運営委員、意見交換（北のケア環境研究会）

松浦 和代

＜学術論文＞1.転倒予防マットレスを用いた運動プログラム導入後の低学年児童の基礎活動力の変化（共著、平成28年7月、小児保健研究、75巻、4号、pp.490-494）

＜著書＞1.看護学テキストNICE小児看護学概論改訂3版（共著、平成29年1月、南江堂、978-4-524-25982-3、pp.26-32）／2.看護学テキストNICE小児看護技術改訂3版（共著、平成29年1月、南江堂、978-4-524-25983-0、pp.1-44）

＜調査研究報告書＞1.小児用木製病室ユニットに関する感応評価（平成29年2月、札幌市立大学看護学部）

＜その他の論文＞1.新人看護師の組織社会化を目指すアサーティブ研修第8回（共著、平成28年4月、看護管理、26巻、4号、pp.376-380）

＜作品発表＞1.Mechatro-Tsumiki（共同、平成28年6月、Bains Numerique 9）

＜受賞等＞1.ウッドデザイン賞2016優秀賞－林野庁長官賞（平成28年12月、株式会社ハルキ）

＜学会発表＞1.児童養護施設における感染症の実態と予防に関する調査（第1報）－感染が拡大した疾患と感染症予防－（共同、平成28年6月、第63回日本小児保健協会学術集会）／2.児童養護施設における感染症の実態と予防に関する調査（第2報）－感染症の管理－（共同、平成28年6月、第63回日本小児保健協会学術集会）／3.小児救急電話相談における困難事例の実態と関連要因（共同、平成28年6月、第63回日本小児保健協会学術集会）／4.小児看護OSCEの実態と研修会開催に向けたニーズに関する調査（共同、平成28年7月、日本小児看護学会第26回学術集会）／5.交流セッション 小児看護OSCEの課題作成と評価方法（共同、平成28年8月、日本看護学教育学会第26回学術集会）／6.小児看護OSCEに対する研修会ニーズ（共同、平成28年12月、第36回日本看護科学学会学術集会）

＜学会招聘講演＞1.会長講演 モンゴル国における先天性股関節脱臼予防ケアの実践（平成29年2月、2016年度日本小児看護学会地方会（北海道地区））

＜学会研究発表＞1.病院の木質化に関するモニタリング調査結果（共同、SCU産学官研究交流会）

＜学会座長就任状況＞シンポジウム 小児看護の知を国際支援へ（共同、平成29年2月、2016年度日本小児看護学会地方会（北海道地区））

＜論文査読・学会抄録査読＞1.日本小児看護学会学術集会（5件、日本小児看護学会）／2.日本小児看護学会誌（1件、日本小児看護学会）／3.日本糖尿病教育・看護学会学術集会（5件、日本糖尿病教育・看護学会）／4.日本看護科学学会学術集会（5件、日本看護科学学会学術集会）／5.札幌市立大学研究論文集（1件、札幌市立大学）



＜学会役員就任状況＞北海道成育看護研究会（理事）／北海道学校保健学会（評議員）／北海道小児保健研究会（幹事）／日本看護科学学会（社員）／全国病弱教育研究会（東日本ブロック北海道世話人）

＜学術集会運営＞2016年度日本小児看護学会地方会

＜所属学会・研究会＞日本小児保健学会／日本小児看護学会／日本看護学教育学会／日本看護科学学会／日本学校保健学会／全国病弱教育研究会／日本行動療法学会／日本糖尿病教育・看護学会

＜講演会・講習会活動＞ACUまなびシェア キッズワークショップ「小児看護師の仕事にチャレンジ！」（平成28年11月23日、㈱クレオテック）

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞新人看護職員の学習支援に関する研修会（講師）（平成28年6月7日・10日、札幌医科大学附属病院）／小児看護研修第1回～第3回（講師）（平成28年9月26日・10月24日・11月28日、手稲溪仁会病院）／病院木質化プロジェクト 成果発表会（平成29年1月28日、病院木質化プロジェクト委員会）

宮崎 みち子

＜学術論文＞1.産後の子宮触診技術に活用できる「装着型産褥子宮モデル」の開発（共著、平成28年6月、札幌市立大学研究論文集、10巻、1号、pp.31-37）／2.性暴力被害者支援センター北海道（SACRACH）（共著、平成28年12月、札幌医学雑誌、85巻、pp.47-52）

＜学会発表＞1.性暴力被害と女性の健康保護（共同、平成28年8月、第22回世界医事法学会）／2.小児医療における子どもの意思決定と情報提供－保護者の認識（共同、平成28年8月、第22回世界医事法学会）／3.性暴力被害者支援センター北海道SACRACH－センター開設3.5年間の活動実態－（共同、平成28年8月、第35回日本主眼教育学会）

＜論文査読・学会抄録査読＞1.日本母性衛生学会誌（3件、日本母性衛生学会）／2.第31回日本助産学会学術集会（2件、日本助産学会）

＜学会役員就任状況＞日本母性衛生学会（代議員）／北海道母性衛生学会（理事）／北海道公衆衛生学会（評議員）／日本母性衛生学会（査読委員）

＜所属学会・研究会＞日本助産学会／日本母性衛生学会／北海道母性衛生学会／日本看護科学学会／日本看護倫理学会／日本医事法学会／世界医事法学会／日本看護管理学会／日本看護学教育学会／日本思春期学会／日本看護研究学会／国際看護研究会／生命倫理学会／北海道公衆衛生学会

＜講演会・講習会活動＞性暴力被害者支援院養成講座「SANEとは・意識の共有－事例を通して考える性暴力被害者支援」（平成28年7月2日・12月3日、ゆいネット北海道）

中村 恵子

＜学術論文＞1.看護学教育に携わる模擬患者への継続支援についての検討（共著、平成28年6月、札幌市立大学研究論文集、10巻、1号、pp.49-57）

＜著書＞1.やさしく学ぶ看護理論：分担共著レイニンガー（共著、平成28年11月、978-4-7760-1817-9、日総研、pp.424-446）

＜学会発表＞1.転倒リスク行動アセスメントツールの開発（共同、平成28年8月、日本看護研究学会）／2.看護記録から抽出した転倒リスクのある患者のS情報・O情報の分析（共同、平成28年8月、日本看護管理学会）／3.看護コンソーシアム構築への段階的研究 パートⅠ看護管理者への調査（共同、平成28年8月、日本看護管理学会）／4.看護コンソーシアム構築への段階的研究 パートⅡ中堅看護師への調査（共同、平成28年8月、日本看護管理学会）／5.A市の病院における看護師研修の実態と課題（共同、平成28年8月、日本看護管理学会）／6.シナリオシミュレーションによる患者急変時の生理学的異常の把握に関する行動パターンの明確化（共同、平成28年10月、日本救急看護学会）／7.看護演習科目へのルーブリック導入の学習効果・ルーブリック評価の信頼性と妥当性の検討（共同、平成28年12月、日本看護科学学会）／8.北海道における在宅酸素事業者の災害に対する対策と課題（共同、平成28年12月、日本看護科学学会）

＜学会招聘講演＞1.基調講演「シミュレーションを看護教育に活用する－基礎教育と現任教育を結ぶ試み」（単独、平成28年7月、日本看護研究学会北海道地方会）／2.特別講演「看護教育・継続教育とシミュレーション－技術トレーニングの可能性」（単独、平成28年9月、第83回日本応用心理学会）

＜学会座長就任状況＞教育講演「クリティカルケア領域における看護管理」（単独、平成28年6月、日本クリティカルケア看護楽器）／教育講演「医療現場をかえる看護研究」（単独、平成28年8月、（一



般社団法人日本看護管理学会) / 日本看護管理学会例会IN青森(単独、平成28年11月、一般社団法人日本看護管理学会)

＜論文査読・学会抄録査読＞1.日本看護管理学会誌(5件、一般社団法人日本看護管理学会) / 2.日本看護学教育学会誌(4件、一般社団法人日本看護学教育学会) / 3.日本看護科学学会(4件、公益社団法人日本看護科学学会) / 4.日本臨床救急医学会(10件、一般社団法人日本臨床救急医学会) / 5.日本看護研究学会(5件、一般社団法人日本看護研究学会)

＜学会役員就任状況＞一般社団法人日本看護管理学会(理事・社員(評議員)) / 一般社団法人日本看護学教育学会(理事・社員(評議員)) / 公益社団法人日本看護科学学会(社員) / 一般社団法人日本臨床救急医学会(社員) / 一般社団法人日本看護研究学会(副理事長・社員) / 公益社団法人札幌がんセミナー(社員) / 特定非営利活動法人地域の包括的な医療に関する研究会(理事・社員(評議員))

＜所属学会・研究会＞一般社団法人日本看護研究学会 / 一般社団法人日本看護学教育学会 / 一般社団法人日本看護管理学会 / 一般社団法人日本救急看護学会 / 一般社団法人クリティカルケア看護学会 / 一般社団法人日本災害看護学会 / 公益社団法人日本看護科学学会 / 一般社団法人日本臨床救急医学会 / 一般社団法人日本医療・病院管理学会 / 一般社団法人日本集中治療医学会 / 特定非営利活動法人地域の包括的な医療に関する研究会 / 北の療養環境研究会 / Doコーチング研究会

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞フォーラムにおける講演とパネルディスカッション「疲弊する看護を救う」(平成28年7月、北のケア環境研究会) / クリティカルケアの理解のために「クリティカルケア看護学」(平成28年9月、高知県立大学) / 助産課程の教育評価(OSCE)「教育評価」(平成28年11月、天使大学)

猪股 千代子

＜調査研究報告書＞1.北海道地区における全人的ケアの歩みと今後の課題(共著、平成28年5月、日本統合医療学会誌、9巻、1号、pp.114-119)

＜その他の論文＞1.統合医療の実践における現状と今後の展望ー地域医療、臨床モデル、教育の現状と課題(共著、平成28年9月、日本統合医療学会誌、9巻、2号、pp.150-162)

＜学会発表＞1.母親役割を持つ看護師の仕事家庭間役割葛藤ー職場環境及びワークエンゲイジメントを用いた因果関係モデルの検証(共同、平成28年8月、日本看護管理学会) / 2.病棟看護師のケアリング力を引き出す看護師長のケアリング行動(共同、平成28年8月、日本看護管理学会) / 3.内省経験が看護師長のEQリーダーシップ獲得に及ぼす影響(共同、平成28年8月、日本看護管理学会) / 4.多職種協同で浮かび上がる統合医療の本質ーディープアクティブラーニングの活用(共同、平成28年12月、日本統合医療学会)

＜学会シンポジウム＞1.統合医療看護の探求ーこころ・体・霊性を調え癒すケアの実践・教育・研究からの学び(単独、平成28年10月、第8回岡田式健康法研究会) / 2.ウェルネス・癒しのケアをデザインの視点から考える(単独、平成28年11月、アートミーツケア学会2016年度総会・大会) / 3.こころ・体・霊性を調え癒すケアの実践・教育・研究を通して、統合医療の理念は現代西洋医学を超えることが可能か否かを論及する(単独、平成28年12月、第20回日本統合医療学会学術大会) / 4.病院で働く看護職員の心の健康セルフケア研修(ナースだって癒されたい研修)の拡がり(単独、平成28年12月、第36回日本看護科学学会学術集会)

＜学会座長就任状況＞実践と教育が循環する看護人材育成(平成28年7月、日本看護研究学会第26回北海道地方会学術集会) / 第49群 退院支援(平成28年8月、第20回日本看護管理学会学術集会)

＜論文査読・学会抄録査読＞1.日本統合医療学会誌(5件、日本統合医療学会誌) / 2.日本医療マネジメント学会誌(8件、日本医療マネジメント学会) / 3.日本看護管理学会(10件、日本看護管理学会) / 4.日本統合医療学会誌(10件、日本統合医療学会) / 5.札幌市立大学紀要(1件、札幌市立大学紀要)

＜学会役員就任状況＞日本統合医療学会(理事) / 日本看護管理学会(評議員) / 日本医療マネジメント学会(評議員) / 北海道統合医療研究会(会長) / 日本統合医療学会北海道支部(副支部長) / ハマナス・音楽&看護療法研究会(会長)

＜学術集会運営＞日本看護研究学会第26回北海道地方会学術集会 / 日本統合医療学会認定セミナーIMJ北海道地区2016

＜所属学会・研究会＞日本統合医療学会 / 日本看護管理学会 / 日本医療マネジメント学会 / 日本看護科

学学会／日本看護教育学会

小田 和美

＜学術論文＞1.「看護の教育的関わりモデル」を活用した教員とのアクションリサーチによる看護師の実践に対する認識の変化（共著、平成28年12月、日本看護科学会誌、36巻、pp.19-26）

＜学会発表＞1.OSCE参加回数と「看護師として必要な基本姿勢と態度」「社会人基礎力」の関係（共同、平成28年8月、日本看護管理学会）／2.熟練看護師の糖尿病患者に対する生活者の視点を活かした教育的関わり（共同、平成28年9月、日本糖尿病教育・看護学会）／3.有資格ボランティアと大学教員の協働による地域住民への健康支援活動「まちの健康応援室」の取り組み（共同、平成28年10月、北海道公衆衛生学会）／4.看護演習科目へのルーブリック導入の学習効果・ルーブリック評価の信頼性と妥当性の検討（共同、平成28年12月、日本看護科学学会）

＜学会座長就任状況＞ケアリングマインドでみんなを幸せに（単独、平成28年6月、日本保健医療行動科学会）

＜論文査読・学会抄録査読＞1.札幌市立大学研究論文集（2件）

＜学会役員就任状況＞日本保健医療行動科学会（指名理事）／日本糖尿病教育・看護学会（評議員）／日本循環器看護学会（査読委員）

＜学術集会運営＞日本看護研究学会 第26回北海道地方会／第22回日本統合医療学会 北海道大会／第31回日本保健医療行動科学会学術大会

＜所属学会・研究会＞日本糖尿病教育・看護学会／日本看護科学学会／日本保健医療行動科学会／日本看護研究学会／日本循環器看護学会／日本がん看護学会／日本看護学教育学会／日本糖尿病学会／日本糖尿病・妊娠学会／日本心身医学会／日本看護管理学会

＜講演会・講習会活動＞札幌市立大学・道総研共同セミナー 知活ゼミナールコーディネーター（平成28年10月15日）／平成28年度第2期えるのす連続講座～女性大学～「生活習慣病とその予防を考える」

川村 三希子

＜著書＞1.がん看護コアカリキュラム日本版（共著、平成28年5月、医学書院、978-4-260-02850-9、pp.333-335）／2.看護実践に活かす中範囲理論（共著、平成28年10月、メヂカルフレンド社、978-4-8392-1612-2、pp.437-451）

＜調査研究報告書＞1.高齢がん患者が主体的に疼痛コントロールに取り組むための研究（共著、平成29年2月、笹川記念保健協力財団ホスピス緩和ケア研究助成、pp.1-11）

＜その他の論文＞1.学生をひきつける講義の工夫② 教材の使い方（単著、平成28年6月、南江堂、16巻、3号、pp.50-53）

＜学会発表＞1.The process of Pain Assessment in Elderly Cancer patients with dementia（共同、平成28年6月、9th World Research congress of the European association for Palliative care）／2.患者の意向に沿ったエンド・オブ・ライフ・ケアの提供のためのコミュニケーション研修の評価（共同、平成28年6月、第21回日本緩和医療学会）／3.一般病棟看護師の終末期がん患者とその家族に対する看取りケアの実践とその関連要因（共同、平成28年9月、日本サイコオンコロジー学会）／4.看護演習科目へのルーブリック導入の学習効果・ルーブリック評価の信頼性と妥当性の検討（共同、平成28年12月、第36回日本看護科学学会）／5.認知症を伴う高齢がん患者の疼痛アセスメントのプロセス（共同、平成29年2月、第31回日本がん看護学会）

＜学会シンポジウム＞1.Safe community of Inquiryと死の臨床（単独、平成28年10月、日本死の臨床研究会）

＜学会招聘講演＞1.診断時から取り組むアドバンスケアプランニング（単独、平成28年11月、北海道がん化学療法看護研究会）

＜学会座長就任状況＞専門的緩和ケアとは（単独、平成28年4月、第14回日本ホスピス緩和ケア協会北海道支部大会）／看護師の教育（単独、平成29年2月、第31回日本がん看護学会）

＜論文査読・学会抄録査読＞1.第31回 日本がん看護学会（5件）／2.第40回日本死の臨床研究会（10件）／3.日本看護科学学会（3件）／4.第22回 日本緩和医療学会（19件）／5.日本医療大学紀要（1件）



＜学会役員就任状況＞日本緩和医療学会（理事）／日本ホスピス緩和ケア協会（理事）／日本がん看護学会（代議員）／日本ホスピス緩和ケア協会北海道支部（役員）／日本看護科学学会（和文査読専任委員）／北海道がん医療心身ネットワーク研究会（世話人）

＜学術集会運営＞第40回日本死の臨床研究会／日本サイコオンコロジー学会／日本統合医療学会

＜所属学会・研究会＞日本看護科学学会／日本がん看護学会／日本緩和医療学会／日本死の臨床研究会／日本サイコオンコロジー学会／日本ホスピス緩和ケア協会／European Association for Palliative Care

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞日本ホスピス緩和ケア協会北海道支部第14回年次大会 特別講演企画「日本ホスピス緩和ケア協会北海道支部第14回年次大会」（平成28年4月、日本ホスピス緩和ケア協会北海道支部）／M4、M6の講義、ロールプレイ、グループワークのファシリテーター「質の高い在宅看取りケア実践のためのELNEC-J2016」（平成28年7月2日～3日、日本訪問看護事業団）／エンド・オブ・ライフ・ケア研修会 講師、ファシリテーター「エンド・オブ・ライフ・ケア研修会」（平成28年8月23日～24日、北海道看護協会）／専門的緩和ケア看護師教育プログラム 企画進行「専門的緩和ケア看護師教育プログラム」（平成28年9月～11月、日本ホスピス緩和ケア協会）／北海道がんセンターELNEC-J 講師、ファシリテーター「北海道がんセンターELNEC-J」（平成28年10月22日～23日、北海道がんセンター）／ELNEC-J看護師教育プログラム 講師、ファシリテーター「ELNEC-J看護師教育プログラム」（平成29年1月28日～29日、山形県訪問看護連絡協議会）／ELNEC-Jコアカリキュラム指導者養成研修・看護職セミナー「ELNEC-Jコアカリキュラム指導者養成研修・看護職セミナー」（平成29年3月、日本緩和医療学会）

定廣 和香子

＜学術論文＞1.精神疾患患者に対する看護師の疼痛アセスメント方法（共著、平成28年6月、日本精神保健看護学会誌、25巻、1号、pp.47－55）

＜学会発表＞1.「実習安全のための教授活動自己評価尺度－看護学教員用－の開発」信頼性・妥当性の検討（共同、平成28年8月、日本看護教育学学会）／2.看護師個々が実践する腰痛予防対策に関する研究（共同、平成28年9月、日本看護技術学会）／3.看護師の業務遂行中の誤認・失念回避のための対策（共同、平成28年9月、日本看護技術学会）／4.空間的療養効果を重視したArt in Hospital:風の家／Breathing House（共同、平成28年11月、アートミーツケア学会）

＜学会研究発表＞1.気候性地形療法に基づく定山溪地域におけるヘルスツーリズムの検討（共同、平成28年11月）

＜学会座長就任状況＞日本看護学教育学会第26回学術集会（平成28年8月、日本看護学教育学会）

＜論文査読・学会抄録査読＞1.SCUジャーナル（1件）／2.日本看護学教育学会会誌（4件、日本看護学教育学学会）

＜学会役員就任状況＞日本看護学教育学会（評議員）／日本看護教育学学会（看護社会保険連合 診療報酬のあり方検討会 委員）

＜学術集会運営＞日本看護教育学学会第26回学術集会

＜所属学会・研究会＞日本看護教育学学会／日本看護学教育学会／日本看護科学学会／千葉看護学会／医療の質と安全学会／日本精神保健看護学会／Sigma Theta Tau International

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞専任教員養成講習会（平成28年7月4日・8日・15日、北海道）／実習指導研修会企画・講師「今あらためて実習指導とは（基礎編）」（平成29年3月4日～5日、日本看護学教育学会）

上村 浩太

＜学術論文＞1.市民参画型のSCU模擬患者養成プログラムの開発－共に育み合う市民主体の学習の場づくりを目指して－（共著、平成28年6月、札幌市立大学論文集、10巻、1号、pp.19－29）

＜実務関係報告書＞1.COCウェルネス×協奏型地域社会の担い手育成学び舎事業 平成28年度成果報告書（共著、平成29年3月、札幌市立大学、pp.22－25）

＜学会発表＞1.小児看護OSCE研修会開催後の結果とネットワークの活用に向けた調査（共同、平成28年7月、日本小児看護学会）／2.小児看護OSCEの課題作成と評価方法（共同、平成28年8月、日本看護学教育学会）／3.地域志向型異分野連携科目「学部連携演習」の学習成果と課題（共同、平成28年10



月、北海道公衆衛生学会) / 4.小児看護OSCEに対する研修会ニーズ (共同、平成28年12月、日本看護科学学会)

＜論文査読・学会抄録査読＞1.北海道科学大学研究紀要 (1件、北海道科学大学) / 2.札幌市立大学論文集 (1件、札幌市立大学)

＜学術集会運営＞ 2016年度 日本小児看護学会 北海道地方会

＜所属学会・研究会＞日本小児看護学会 / 日本看護科学学会 / 日本看護学教育学会 / 日本小児保健学会 / 日本学校保健学会 / 北海道公衆衛生学会

＜講演会・講習会活動＞ACU まなびシェア キッズワークショップ2016「小児看護師の仕事にチャレンジ！」 (平成28年11月23日)

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞緊急サポートネットワーク事業 病児・病後児保育の基礎A・B (江別市、札幌市、小樽市) 「病児・病後児保育の基礎A・B」 (平成28年6月22日・7月26日・7月29日、北海道子育て支援ワーカーズ) / 「北海道産針葉樹材を活用した新規木質部材開発」検討委員会委員 (平成28年6月1日～平成29年2月28日、㈱ハルキ)

大野 夏代

＜著書＞1.ナースングマッサージ入門 (共著、平成28年12月、日本看護協会、pp.33-38、76-78)

＜その他の論文＞1.新人看護師の組織社会化を目指す アサーティブ研修 教材の作成と学習展開8 「What's チームワーク? ④モヤモヤの巻」 (共著、平成28年4月、医学書院、26巻、4号、pp.376-380)

＜実践報告書＞1.日本応用心理学会第83回大会報告 自主企画WS 気持ち良い体験をしよう～ここに響く看護師のマッサージ (共著、平成29年3月、日本応用心理学会アカデミーセンター、9巻、pp.20-20)

＜学会発表＞1.交流セッション5 触れるケアはイキイキ働く看護師を育てます (共同、平成28年8月、日本看護学教育学会) / 2.自主企画WS 気持ち良い体験をしよう～ここに響く看護師のマッサージ (共同、平成28年9月、日本応用心理学会第83回大会) / 3.看護学生の衛生的な手洗いにおける洗浄時間による手荒れの評価-15秒法と30秒法の比較 (共同、平成28年9月、日本看護技術学会第15回学術集会) / 4.体位や姿勢の制限による苦痛に対する足浴の効果-後頸部温罨法との比較 (共同、平成28年9月、日本看護技術学会第15回学術集会) / 5.Designing global nurses through undergraduate education in Japan (共同、平成28年12月、第36回日本看護科学学会学術集会) / 6.病院で働く看護職員の心の健康セルフケア研修 (ナースだって癒されたい研修) の拡がり (共同、平成28年12月、第36回日本看護科学学会学術集会)

＜論文査読・学会抄録査読＞1.第36回日本看護科学学会学術集会 (5件、日本看護科学学会) / 2.札幌市立大学研究論文集 10 (1件)

＜学会役員就任状況＞国際看護研究会 (運営委員)

＜学術集会運営＞日本応用心理学会第83回大会 / 第26回日本看護研究学会北海道地方会学術集会実行委員

＜所属学会・研究会＞日本看護科学学会 / 日本看護研究学会 / 国際看護研究会 / 日本看護学教育学会 / 日本人間工学会看護人間工学部会 / 日本国際保健医療学会 / 日本渡航医学会 / 日本人間工学会

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞勤医協札幌病院看護研究指導 (平成28年4月～平成29年3月、大学・病院 連携プロジェクト)

貝谷 敏子

＜学術論文＞1.皮膚・排泄ケア認定看護師経験年数別にみた褥瘡管理に関する調整力自己評価尺度の活用可能性の検討 (共著、平成28年4月、日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌、20巻、1号、pp.32-42)

＜調査研究報告書＞1.看護経済学の構築に向けた基盤研究 褥瘡患者立脚型QOL評価指標の開発 (単著、平成28年4月、札幌市立大学、pp.1-39)

＜その他の論文＞1.ドレッシング材を用いた創傷管理. 総合リハビリテーション. 2016;44 (8) :694-700. (共著、平成28年8月、医学書院、44巻、8号、pp.694-700)

＜実務関係報告書＞1.学術の発展と継承: 日本創傷・オストミー・失禁管理学会25周年記念誌 (単著、



平成28年5月、照林社、pp.8-14)

＜学会発表＞1.看護演習科目へのルーブリック導入の学修効果・ルーブリック評価の信頼性と妥当性の検討（共同、平成28年12月、第36回日本看護科学学会学術集会）／2.看護学におけるヘルステクノロジーアセスメントの構築のあり方について 褥瘡ケアに関するHTAの現状（共同、平成28年12月、第36回日本看護科学学会学術集会）

＜学会招聘講演＞1.看護学におけるヘルステクノロジーアセスメントの構築のあり方について 褥瘡ケアの経済評価（単独、平成28年11月、第7回護経済・政策研究学会学術集会）

＜学会研究発表＞1.褥瘡管理者専従以外の皮膚・排泄ケア認定看護師の業務実態（共同、平成28年12月、第46回日本創傷治癒学会）

＜学会座長就任状況＞主題演題 English Session（共同、平成28年6月、第25回日本創傷・オストミー・失禁管理学会）／創傷管理におけるイメージング（共同、平成28年12月、第46回日本創傷治癒学会）

＜論文査読・学会抄録査読＞1.看護理工学会誌（3件、看護理工学会）／2.日本看護科学学会（5件、日本看護科学学会）／3.札幌市立大学研究論文集（1件、札幌市立大学）

＜学会役員就任状況＞第25回日本創傷・オストミー・失禁管理学会（庶務担当理事）／日本褥瘡学会（評議委員）／看護理工学会（査読委員）

＜学術集会運営＞第27回日本創傷・オストミー・失禁管理学会／第46回日本創傷治癒学会

＜所属学会・研究会＞日本看護科学学会／日本褥瘡学会／日本創傷・オストミー・失禁管理学会／日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会／看護理工学会／日本創傷治療学会／医療経済学会

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞院内褥瘡患者へのケア支援・スタッフ指導「褥瘡回診時のアドバイス等」（毎週火曜日、勤医協西区病院）

神島 滋子

＜著書＞1.ナーシンググラフィカ成人看護学⑤リハビリテーション看護（共著、平成29年1月、メディカ出版、9.87484E+12、pp.129-138）

＜その他の論文＞1.新人看護師の組織社会化を目指すアサーティブ研修 教材の作成と学習展開（第8回）（最終回）"What'sチームワーク?"シリーズ教材「モヤモヤの巻」（共著、平成28年4月、医学書院、26巻、4号、pp.376-380）／2.実践講座 知っておきたい褥瘡治療 ドレッシング材を用いた創傷管理（共著、平成28年8月、医学書院、44巻、8号、pp.694-700）／3.看護記録の分析から看護記録の現状と課題を考える 転倒リスク状態の看護記録に着目して（単著、平成29年2月、日総研、26巻、6号、pp.42-47）

＜学会発表＞1.A病院における転倒リスクをもつ患者の看護記録のSOAPの特徴（共同、平成28年7月、第17回日本医療情報学会看護学術大会）／2.看護記録から抽出した転倒リスクのある患者のS情報・O情報の分析（共同、平成28年8月、第20回日本看護管理学会学術集会）／3.看護演習科目へのルーブリック導入の学習効果・ルーブリック評価の信頼性と妥当性の検討（共同、平成28年11月、第36回日本看護科学学会学術集会）

＜学会役員就任状況＞日本脳神経看護研究学会（評議員）／日本脳神経看護研究学会（編集委員）／日本看護研究学会（北海道地方会役員）／日本看護研究学会（学術奨励賞選定委員）／日本脳神経看護研究学会（北海道地方部会副会長）

＜学術集会運営＞日本脳神経看護研究学会北海道地方部会・看護研究発表会

＜所属学会・研究会＞日本看護科学学会／日本看護研究学会／日本看護学教育学会／日本脳神経看護研究学会／日本高次脳機能障害学会／日本看護管理学会／日本褥瘡学会／日本慢性看護学会／日本ニューロサイエンス看護学会

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞看護実践指導（平成28年4月～平成29年3月、北海道済生会小樽病院）／看護研究指導（平成28年5月～平成29年3月、北海道中央労災病院せき損センター）／看護職員研修講師「看護研究 基調講演」（平成28年6月24日、札幌市病院局市立札幌病院）

菊地 ひろみ

＜学術論文＞1.訪問看護による遠隔看護システムを介した高齢者住宅入居者の在宅支援（共著、平成28年10月、日本遠隔医療学会雑誌、12巻、2号、pp.165-168）／2.難病をもつ子どもの在宅療育の



「今」と「これから」（単著、平成28年12月、日本難病看護学会誌、21巻、2号、pp.145－146）
 ＜学会発表＞1.パーキンソン病患者の長期療養生活における苦悩に対する訪問看護師の支援（共同、平成28年8月、日本難病看護学会第22回学術集会）／2.有資格ボランティアと大学教員の協働による地域住民への健康支援活動（共同、平成28年11月、第66回北海道公衆衛生学会）
 ＜学会研究発表＞1.人々の「居場所」を探る対話型ツール「居場所曼荼羅」の開発（共同、平成28年11月、SCU産学官研究交流会）
 ＜学会座長就任状況＞一般演題口演（単独、平成28年8月、日本難病看護学会）
 ＜論文査読・学会抄録査読＞1.日本難病看護学会誌（6件、日本難病看護学会）
 ＜学会役員就任状況＞北海道公衆衛生学会（評議員）
 ＜学術集会運営＞日本難病看護学会第22回学術集会／第68回北海道公衆衛生学会
 ＜所属学会・研究会＞日本看護科学学会／日本看護学教育学会／日本難病看護学会／日本難病医療ネットワーク学会／日本プライマリケア学会／日本在宅ケア学会／日本在宅看護学会／日本がん看護学会／日本遠隔医療学会／日本看護研究学会
 ＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞看護研究支援「看護研究導入講義」（平成28年5月30日、札幌厚生病院）

菅原 美樹

＜学術論文＞1.救命救急センターで働く看護師へのせん妄の教育に関する研究（共著、平成29年1月、日本救急看護学会雑誌、19巻、1号、pp.21－31）
 ＜解説文＞1.素朴なギモン 輸液管理 意識障害のアセスメント、JCSとGCS、どちらが何に向くの？（単著、平成29年2月、照林社 Expert Nurse、33巻、3号、pp.49－50）
 ＜学会発表＞1.シナリオシミュレーションによる患者急変時の生理学的異常の把握に関する行動パターンの明確化（共同、平成28年10月、第18回日本救急看護学会学術集会）／2.看護演習科目へのルーブリック導入の学習効果・ルーブリック評価の信頼性と妥当性の検討（共同、平成28年12月、第36回日本看護科学学会学術集会）
 ＜学会座長就任状況＞ICUの日常生活援助～早期離床を考える～（単独、平成28年6月、第12回日本クリティカルケア看護学会学術集会）／災害を含めた緊急時支援における質の保証（単独、平成28年10月、第18回日本救急看護学会学術集会）／口演第22群「クリティカルケア／周手術期看護」（単独、平成28年12月、第36回日本看護科学学会学術集会）／一般演題：口演 終末期ケア（単独、平成29年3月、第44回日本集中治療医学会学術集会）
 ＜論文査読・学会抄録査読＞1.日本クリティカルケア看護学会誌（1件、日本クリティカルケア看護学会）／2.第36回日本看護科学学会学術集会講演集（5件、日本看護科学学会）／3.日本救急看護学会雑誌（1件、日本救急看護学会）
 ＜学会役員就任状況＞日本救急看護学会（理事）／日本クリティカルケア看護学会（将来構想委員会）／日本循環器看護学会（専任査読委員）／看護系学会等社会保険連合（社員）／北のケア環境研究会（運営委員）
 ＜学術集会運営＞第27回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会／第22回日本統合医療学会北海道大会
 ＜所属学会・研究会＞日本救急看護学会／日本クリティカルケア看護学会／日本循環器看護学会／日本臨床救急医学会／日本集中治療医学会／日本看護科学学会／日本看護教育学会／日本看護研究学会／日本災害看護学会／日本看護管理学会
 ＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞呼吸セミナーの企画・開催「座学 呼吸教室 Trilogyトリロジー」（平成28年10月8日、神戸百年記念病院 尾崎塾）

古都 昌子

＜学術論文＞1.看護職生涯発達学の視座からの看護基礎教育における学生のとらえ（単著、平成28年4月、東京女子医科大学看護学会誌、11巻、1号、pp.43－48）／2.臨床実習における物理的環境と教員の認識（共著、平成28年6月、札幌市立大学研究論文集、10巻、1号、pp.77－83）
 ＜著書＞1.クエスチョンバンク Select必修2017看護師国家試験問題集（共著、平成28年4月、MEDIC MEDIA、978-4-89632-617-8、pp.237－243）／2.看護師・看護学生のためのレビューブック2018（共



著、平成29年3月、MEDIC MEDIA、978-4-89632-641-3、pp.22-30)

＜学会発表＞1.看護学の学士課程修了時の学生から語られた看護職としての変容（単独、平成28年8月、日本看護学教育学会第26回学術集会）／2.基礎看護学実習における物理的環境についての教員の認識（第1報）北海道内の看護師養成教育施設の現状と課題（共同、平成28年8月、第20回日本看護管理学会学術集会）／3.基礎看護学実習における物理的環境についての教員の認識（第2報）物理的環境の理想、課題、調整に必要なことに着眼して－（共同、平成28年8月、第20回日本看護管理学会学術集会）／4.看護学生とはどのような存在か－看護職生涯発達学の視座から－（共同、平成28年8月、日本看護学教育学会第26回学術集会）／5.地域志向型異分野連携科目「スタートアップ演習」における学び（共同、平成28年10月、第68回北海道公衆衛生学会）／6.地域志向型異分野連携科目「学部連携演習」の学習成果と課題（共同、平成28年10月、第68回北海道公衆衛生学会）／7.お薬手帳の活用を考える－デザインと看護の協働による「使える」お薬手帳の試作（共同、平成28年10月、第68回北海道公衆衛生学会）／8.看護学生のコミュニケーションにおける現状と変容－社会人経験のある学生に焦点をあてて－（共同、平成28年12月、第36回看護科学学会学術集会）

＜論文査読・学会抄録査読＞1.看護科学学会抄録集（5件、看護科学学会）／2.日本医療大学紀要（1件、日本医療大学図書・学術振興委員会）

＜学会役員就任状況＞北海道看護教育施設協議会（倫理審査委員）／北海道看護教育施設協議会（幹事）

＜学術集会運営＞第48回日本看護学会看護管理学会抄録選考コアメンバー／第22回日本統合医療学会広報委員長／日本看護学教育学会第26回学術集会実行委員／第68回北海道公衆衛生学会実行委員

＜所属学会・研究会＞日本看護科学学会／日本看護学教育学会／日本看護管理学会／日本看護協会／日本看護技術学会／日本看護倫理学会／日本医療マネジメント学会／日本医学看護学教育学会／東京女子医科大学看護学会／北海道公衆衛生学会／東京女子医科大学大学院ポスドク研究会

＜講演会・講習会活動＞社会事業協会帯広病院職員および附属看護学校3年生対象 看護倫理の講演「臨床における倫理的課題の検討と意思決定」（平成28年8月5日、社会事業協会帯広病院）

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞看護職員研修「臨床指導者研修Ⅰ」講師「看護基礎教育における実習の意義と指導」（平成28年5月6日、市立札幌病院）／運営アドバイザー「協議会予算の立案・研修計画」（平成28年6月～、北海道看護教育施設協議会）／リーダーⅠ研修、卒後2年研修、プリセプター研修講師「リーダーⅠ研修、卒後2年研修、プリセプター研修」（平成28年6月30日、8月5日、平成29年2月14日、社会事業協会帯広病院）／研究方法演習講師「研究計画書指導」（平成28年7月～9月／6回、北海道専任教員養成講習会）／中堅看護師研修「研修Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」（平成28年9月～11月、教育プロジェクトセンタ）／看護部倫理研修講師「看護倫理の基本と倫理的意思決定」（平成28年10月5日、苫小牧市立病院）

村松 真澄

＜学術論文＞1.口腔ケアシミュレータおよびその手技記録ソフトウェアの第一次プロトタイプ開発（共著、平成29年1月、看護理工学会誌、4巻、4号、pp.58-66）

＜著書＞1.緩和ケアにおける口腔ケア（共著、平成29年2月、医学書院、978-4-260-02439-6、pp.142-147）

＜特許・意匠登録＞口腔ケア用トレーニング装置（平成29年3月）

＜学会発表＞1.地域在住高齢者の認知機能に関連する困難感の検討（共同、平成28年6月、第17回日本認知症ケア学会）／2.介護老人福祉施設高齢者のOral Assessment Guide（OAG）の2014年と2015年との比較（共同、平成28年6月、第27回日本老年歯科医学会）／3.特別養護老人ホームにおける歯科の取り組み－Oral Assessment Guide（OAG）と口腔内状況、発熱日数の変化（共同、平成28年6月、第27回日本老年歯科医学会）／4.地域高齢者の臼歯咬合支持と食事摂取状況・体格との関連性（共同、平成28年6月、第27回日本老年歯科医学会）／5.介護老人福祉施設への口腔ケアシステム導入前後の高齢者の口腔環境について（共同、平成28年7月、日本老年看護学会第21回学術集会）／6.地域一般住民における年齢および口腔内健康状態とインスリン抵抗性との関係（共同、平成28年6月、第58回日本老年医学学会）／7.積雪寒冷地における地域在住高齢者の外出頻度と外出自己効力感との関係－性別と、体の痛みの有無の比較検討－（共同、平成28年7月、日本老年看護学会第21回学術集会）／8.A町で生活する高齢者の健康習慣と生活の質との関係（共同、平成28年7月、日本老年看護学会第21回学術集会）



／9.介護療養型医療施設で働く看護職の排便ケア実態－排便改善ケアと道徳的感受性について－（共同、平成28年7月、日本老年看護学会第21回学術集会）／10.地域在住高齢者の自己評価咀嚼能力とソーシャルサポートとの関係（共同、平成28年7月、日本看護研究学会第26回北海道地方会）／11.A大学におけるOSCEへの参加と「看護師として必要な基本姿勢と態度」「社会人基礎力」との関係（共同、平成28年7月、日本看護研究学会第26回北海道地方会）／12.異なる年度に同一の課題を課したOSCE得点の比較（共同、平成28年8月、第26回日本看護教育学会学術集会）／13.『のみこみ安心ネット・札幌』の活動報告：第2報（共同、平成28年9月、第22回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会）／14.介護老人保健施設における認知症女性への整容支援の実態調査（共同、平成28年10月、第68回北海道公衆衛生学会）／15.摂食嚥下障害を有する高齢患者に対して看護師が実施する嚥下機能評価・業務と現任教育の実態－回復期リハビリテーション病棟での調査－（共同、平成28年10月、第68回北海道公衆衛生学会）／16.高齢者の生きがい対象と生きがい感との関係（共同、平成28年10月、第68回北海道公衆衛生学会）／17.北海道の特別豪雪地帯における高齢者の健康と自己効力感との関係について（共同、平成28年10月、第68回北海道公衆衛生学会）／18.地域間・地域内食支援ネットワーク『のみこみ安心ネット・札幌』（共同、平成28年10月、第68回北海道公衆衛生学会）／19.特別豪雪地帯の高齢者の主観的幸福感に関連する要因の検討（共同、平成28年10月、第68回北海道公衆衛生学会）／20."An oral assessment guide for acute and subacute Japanese stroke patients（共同、平成28年10月、2016Global Human Caring Conference）／21.地域自立高齢者における介護予防の行動変容ステージに関連する要因について（共同、平成28年10月、第75回日本公衆衛生学会）／22.介護老人福祉施設に入所する高齢者のOral Assessment Guide（OAG）と食品形態との関係（共同、平成28年10月、第75回日本公衆衛生学会）／23.寒冷な特別豪雪地帯に居住する高齢者の尿失禁の有訴率とリスク要因の検討（共同、平成28年10月、第75回日本公衆衛生学会）／24.看護演習科目へのルーブリック導入の学習効果・ルーブリック評価の信頼性と妥当性の検討（共同、平成28年12月、第36回日本看護科学学会）／25.高齢者の車椅子専用クッションの開発に関する基礎的研究（単独、平成28年12月、第36回日本看護科学学会）／26.A大学による卒業前スキルアップトレーニングの効果 看護学生と卒業生を対象とした2年間の比較（共同、平成28年12月、第36回日本看護科学学会）

＜学会招聘講演＞1.多職種で協働できる口腔アセスメントガイド（単独、平成28年8月、第27回日本歯科審美学会学術大会教育講演）／2.高齢者が幸せに暮らすための口腔看護と口腔アセスメントガイド（単独、平成28年11月、第61回公益財団法人日本口腔外科学会総会・学術大会）

＜学会座長就任状況＞高齢者保健・在宅医療（座長交代にて）（単独、平成28年10月、第68回北海道公衆衛生学会）

＜論文査読・学会抄録査読＞1.第36回日本看護科学学会学術集会査読（3件、日本看護科学学会）／2.日本摂食嚥下リハビリテーション学会学会誌査読（1件、日本摂食嚥下リハビリテーション学会）／3.日本老年看護学会第22回学術集会査読（3件、日本老年看護学会）

＜学会役員就任状況＞日本口腔ケア学会（評議員、ガイドライン作成委員会委員）／日本摂食嚥下リハビリテーション学会（評議員）／日本老年看護学会（評議員）／日本公衆衛生学会（モニタリング委員）／北海道公衆衛生学会（評議員）／日本口腔看護研究会（副代表）

＜学術集会運営＞第68回北海道公衆衛生学会／日本看護研究学会第26回北海道地方会／アートミーツケア学会大会2016／第23回日本統合医療学会

＜所属学会・研究会＞日本看護研究学会会員／日本老年歯科医学会会員／日本歯科医学会会員／北海道歯学会会員／日本公衆衛生学会会員／日本看護科学学会会員／日本口腔ケア学会評議員／日本摂食嚥下リハビリテーション学会評議員／日本老年看護学会評議員／日本がん看護学会会員／北海道口腔ケア研究会会員／日本看護管理学会会員／日本看護教育学会会員／日本地域看護学会会員／日本看護技術学会会員／日本認知症ケア学会／看護理工学会会員／日本在宅ケア学会会員／日本世代間交流学会／日本民族衛生学会

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞新人職員研修「口腔ケア」への支援「新人研修及び摂食嚥下認定看護師への支援」（平成28年4月～平成29年3月、市立札幌病院）／幹事：日本財団の助成で運営している、企画担当「第9回公開研修会を開催。事例検討会」（平成28年4月～平成29年3月、のみこみ安心ネット札幌）／日本老年歯科学会の助成により運営している、企画担当「第15回北海道口腔ケアセミナーを開催」（平成28年4月～平成29年3月、北海道口腔ケア研究会）／幹事、企画担当（平成28年4月～平成29年3月、旭川口腔ケア普及研究会）／幹事、企画担当（平成28年4月～平成29年3月、日本



口腔看護研究会) / エンドオブライフ援助者研修会のファシリテータ「エンドオブライフ・ケア援助者養成講座」(平成28年4月～平成29年3月、エンドオブライフ協会) / 第15回北海道口腔ケアセミナー「高齢者、認知症高齢者の支援」(平成28年5月7日、北海道口腔ケア研究会) / 2016医療マルチステークホルダー・ダイアログin 北海道のファシリテータ「2016医療マルチステークホルダー・ダイアログin 北海道」(平成28年7月9日～10日、医療マルチステークホルダー・ダイアログ) / 第20回「口から食べたい」講演会「高齢社会を乗り越えるために日本版OAG(口腔アセスメントガイド)を使って連携しよう」(平成28年10月16日、伊予歯科医師会) / 日本口腔看護研究会第4回北海道地区セミナー「食支援、最期まで食べられる口づくりを目指して」(平成28年11月5日、日本口腔看護研究会)

守村 洋

＜学術論文＞1.精神疾患患者に対する看護師の疼痛アセスメント方法(共著、平成28年6月、日本精神保健看護学誌)

＜学会発表＞1.統合失調症当事者の服薬体験に関する予備的考察(共同、平成28年9月、第83回日本応用心理学会) / 2.自殺予防としての精神看護シミュレーション教育の効果と課題～精神看護演習前後の自信、気分および感情の変化から～(単独、平成29年3月、第36回日本社会精神医学会)

＜学会シンポジウム＞1.自殺の正しい理解とリスク対応(共同、平成28年9月、第29回日本サイコソコロジー学会総会)

＜論文査読・学会抄録査読＞1.第36回日本看護科学学会学術集会一般演題(5件、日本看護科学学会) / 2.名寄市立大学紀要第11巻(1件、名寄市立大学) / 3.熊本保健科学大学紀要「保健科学研究誌」(1件、熊本保健科学大学)

＜学術集会運営＞第27回日本精神保健看護学会

＜所属学会・研究会＞日本看護科学学会 / 日本精神障害者リハビリテーション学会 / 日本社会福祉学会 / 日本精神保健看護学会 / 日本救急看護学会 / 日本臨床救急医学会 / 日本自殺予防学会 / 日本うつ病学会 / 日本看護学教育学会 / 日本看護技術学会 / 日本社会精神医学会

＜講演会・講習会活動＞生活支援員登録に向けた研修説明会講師(平成28年6月22日・8月26日・11月17日・平成29年3月21日) / 精神療養講座講師(平成28年8月20日)

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞平成28年度自殺予防対策研修(網走保健所) / PEEC@札幌アシスタント(PEEC) / 清田区障がい者支援関係者研修会(清田区保健所) / 平成28年度自殺未遂者支援連携体制構築研修会(中標津保健所) / 名寄市立総合病院・看護係長研修(名寄市立総合病院) / 苫小牧自殺未遂者研修(苫小牧保健所)

渡邊 由加利

＜学術論文＞1.産後の子宮触診技術に活用できる「装着型産褥子宮モデル」開発(共著、平成28年6月、札幌市立大学研究論文集、10巻、1号、pp.31-37) / 2.看護学教育に携わる模擬患者への継続支援についての検討(共著、平成28年6月、札幌市立大学研究論文集、10巻、1号、pp.49-57) / 3.性暴力被害者支援センター北海道(共著、平成28年12月、札幌医学雑誌、85巻、1号、pp.47-52)

＜学会発表＞1.看護OSCEに参加している模擬患者の体験ーコミュニケーション技術と身体接触を伴う技術による違いー(共同、平成28年7月、日本看護研究学会北海道地方会) / 2.「装着型産褥子宮モデル」を使用した子宮復古の観察場面における看護学生の学習効果の検討ー3年生の場合ー(共同、平成28年7月、日本看護研究学会北海道地方会) / 3. Victims of Sexual Violence and WomensHealth Protection(共同、平成28年8月、Annual World Association foe Medical Law) / 4.性暴力被害者支援センター北海道SACRACHー相談活動の実態ー(共同、平成28年8月、日本思春期学会) / 5.「装着型産褥子宮モデル」を使用した子宮復古の観察場面における看護学生の学習効果(共同、平成28年12月、日本看護科学学会)

＜所属学会・研究会＞日本思春期学会 / 日本看護科学学会 / 日本助産学会 / 日本看護教育学会 / 人間工学会 / 日本看護研究学会 / 母性衛生学会 / 北海道母性衛生学会

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞研究支援(平成29年3月23日、桶谷式乳房管理法研鑽会)

工藤 京子

＜学術論文＞1.看護学教育に携わる模擬患者への継続支援についての検討(共著、平成28年6月、札幌



市立大学、10巻、1号、pp.49－57)

＜学会発表＞1.北海道における在宅酸素事業者の災害に対する対策と課題（共同、平成28年12月、第36回日本看護科学学会学術集会）

＜学術集会運営＞第26回日本看護研究学会地方会／第27回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会

＜所属学会・研究会＞日本看護学教育学会／日本看護科学学会／日本呼吸ケア・リハビリテーション学会／日本看護研究学会／日本慢性看護学会／日本創傷治癒学会／日本看護技術学会／日本看護管理学会

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞中堅看護師研修コースの指導、授業への参加、OSCE課題作成指導「中堅看護師ステップアップ研修」（平成28年4月～6月、8月～平成29年2月、手稲溪仁会病院）

小坂 美智代

＜学術論文＞1.終末期がん患者への食事/栄養サポートにおいて訪問看護師が抱く困難（共著、平成29年3月、千葉県立保健医療大学紀要、8巻、1号、pp.9－18）

＜学会発表＞1.終末期がん患者への食事/栄養サポートにおいて訪問看護師が抱く困難（共同、平成29年2月、日本がん看護学会学術集会）

＜学術集会運営＞第27回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会

＜所属学会・研究会＞日本看護科学学会／日本がん看護学会／千葉看護学会

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞「中堅看護師ステップアップ研修OSCE」講師「基礎教育との連携 OSCE体験コース」（平成28年8月～平成29年2月、手稲溪仁会病院）

櫻井 蘭子

＜学会発表＞1.産後尿失禁に関連する要因と対処方法に関する先行研究の動向（共同、平成28年10月、第68回北海道公衆衛生学会）／2.乳幼児健康診査での保健師の看護実践プロセスに関する文献研究（共同、平成28年10月、第68回北海道公衆衛生学会）

＜学会役員就任状況＞日本産業衛生学会（看護部会幹事）／日本産業衛生学会北海道地方会（役員／看護部会幹事）／北海道公衆衛生学会（評議員）

＜所属学会・研究会＞日本看護科学学会／日本産業衛生学会／日本公衆衛生看護学会／日本産業看護学会／日本産業精神保健学会／日本公衆衛生学会／北海道公衆衛生学会／日本精神保健看護学会／日本フォレンジック看護学会／日本地域看護学会

田中 広美

＜特許・意匠登録＞注射針廃棄容器／スライディングボード

＜学会発表＞1.A市の病院における看護師研修の実態と課題（共同、平成28年8月、第20回日本看護管理学会学術集会）／2.看護コンソーシアム構築への段階的研究パート1（共同、平成28年8月、第20回日本看護管理学会学術集会）／3.看護コンソーシアム構築への段階的研究パート2（共同、平成28年8月、第20回日本看護管理学会学術集会）／4.A大学による卒業前スキルアップトレーニングの効果～看護学生と卒業生を対象とした2年間の比較～（共同、平成28年12月、第36回日本看護科学学会学術集会）

＜所属学会・研究会＞日本看護歴史学会／日本看護科学学会／日本看護研究学会／日本看護技術学会／日本看護学教育学会／日本看護管理学会

原井 美佳

＜学術論文＞1.中年期女性の尿失禁のリスク要因の検討（共著、平成29年2月、札幌医学雑誌、85巻、pp.29－32）

＜調査研究報告書＞1.寒冷な特別豪雪地帯の高齢者に対する健康啓発プログラムの開発報告書（共著、平成29年3月、札幌市立大学）

＜実務関係報告書＞1.平成28年度COC成果報告書（共著、平成29年3月、札幌市立大学、pp.42－48）／2.平成28年度キャリア支援委員会活動報告書（共著、平成29年3月、札幌市立大学、pp.28－32）

＜学会発表＞1.異なる年度に同一の課題を課したOSCE得点の比較（共同、平成28年8月、第26回日本看護学教育学会学術集会（東京））／2. Investigation of urinary incontinence in middle-aged



women living in the cold districts of Japan（共同、平成28年9月、ICS2016（東京）（Interanational Continenace Society））／3.特別豪雪地帯の高齢者の主観的幸福感に関連する要因の検討（共同、平成28年10月、第68回北海道公衆衛生学会（札幌））／4.北海道の特別豪雪地帯における高齢者の健康と自己効力感について（共同、平成28年10月、第68回北海道公衆衛生学会（札幌））／5.寒冷な特別豪雪地帯に居住する高齢者の尿失禁の有訴率とリスク要因の検討（共同、平成28年10月、第75回日本公衆衛生学会総会（大阪））

＜学会役員就任状況＞北海道公衆衛生学会（評議員）

＜学術集会運営＞第68回北海道公衆衛生学会

＜所属学会・研究会＞日本老年看護学会／日本看護科学学会／日本看護学教育学会／日本公衆衛生学会／北海道公衆衛生学会／日本産業カウンセラー協会／日本女性骨盤底医学会／札幌市介護支援専門員連絡協議会／福祉住環境コーディネーター協会／愛知排泄ケア研究会／日本コンチネンス協会／日本老年泌尿器科学会／日本排尿機能学会／日本認知症ケア学会

＜講演会・講習会活動＞「ファーストエイド講座」協力「子どもの外遊びに関するスタッフ育成講座③ファーストエイド講座」（平成28年9月8日、特定非営利活動法人さっぽろAMスポーツクラブ）

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞エンドオブライフ・ケア援助者養成基礎講座におけるファシリテーター（平成28年5月2日、一般社団法人エンドオブライフ・ケア協会）

藤井 瑞恵

＜学会発表＞1.看護コンソーシアム構築への段階的研究 パート1ー看護管理者・看護師長への調査よりー（共同、平成28年8月、日本看護管理学会）／2.看護コンソーシアム構築への段階的研究 パート2ー中堅看護師への調査ー（共同、平成28年8月、日本看護管理学会）／3.A市の病院における看護師研修の実態と課題（共同、平成28年8月、日本看護管理学会）／4.積雪寒冷地における血液透析患者の通院状況と背景要因の検討（共同、平成28年12月、日本看護科学学会）／5.看護演習科目へのルーブリック導入の効果・ルーブリック評価の信頼性と妥当性の検討（共同、平成28年12月、日本看護科学学会）／6.A大学による卒業前スキルアップトレーニングの実施報告（共同、平成28年12月、日本看護科学学会）

＜論文査読・学会抄録査読＞1.日本糖尿病教育・看護学会誌（3件、糖尿病教育看護学会）／2.看護総合科学研究会誌（1件、看護総合科学学会）

＜学術集会運営＞日本応用心理学会第83回学術集会／日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会

＜所属学会・研究会＞日本看護科学学会／日本看護学教育学会／日本慢性看護学会／日本糖尿病看護・教育学会／日本看護管理学会／日本透析医学会／日本循環器病予防学会／日本疫学会／日本公衆衛生学会／日本糖尿病学会／日本老年医学会

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞院内研究支援（平成28年6月～29年3月、札幌厚生病院）／中堅看護師研修（3回）（平成28年10月7日・21日・11月5日、看護コンソーシアム参加表明した医療施設）

三上 智子

＜学術論文＞1.転倒予防マットレスを用いた運動プログラム導入後の低学年児童の基礎活動力の変化（共著、平成28年7月、小児保健研究、75巻、4号、pp.490－494）

＜調査研究報告書＞1.小児用木製病室ユニットに関する感応評価

＜受賞等＞1.ウッドデザイン賞2016優秀賞～林野庁長官賞優秀賞（平成28年10月、株式会社ハルキ）

＜学会発表＞1.A大学におけるOSCEへの参加と「看護師として必要な基本的姿勢と態度」「社会人基礎力」の関係（共同、平成28年5月、第21回日本看護管理学会学術集会）／2.小児看護OSCEの実態と研修会開催に向けたニーズに関する調査（共同、平成28年7月、日本小児看護学会第26回学術集会）／3.交流セッション 小児看護OSCEの課題作成と評価方法（共同、平成28年8月、日本看護学教育学会第26回学術集会）／4.小児看護OSCEに対する研修会ニーズ（共同、平成28年12月、第36回日本看護科学学会学術集会）／5.A大学による卒業前スキルアップトレーニングの効果～看護学生と卒業生を対象とした2年間の比較～（共同、平成28年12月、第36回日本看護科学学会学術集会）

＜学会研究発表＞1.病院の木質化に関するモニタリング調査結果（共同、平成28年11月、SCU産学官研究交流会）



＜学術集会運営＞2016年度日本小児看護学会地方会

＜所属学会・研究会＞日本看護管理学会／日本小児看護学会／日本看護学教育学会／日本看護科学学会

＜講演会・講習会活動＞(株)クレオテック ACU学びシェアキッズワークショップ「小児看護師の仕事にチャレンジ！」（平成28年11月23日）

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞受付業務「病院木質化プロジェクト 成果発表会」（平成29年1月28日、病院木質化プロジェクト委員会）

森川 由紀

＜学会発表＞1.生殖補助医療による妊娠・出産を受容する過程（単独、平成28年6月、看護研究学会北海道地方会）／2.産褥1か月間に育児へ「大変」と「戸惑い」を感じた生殖補助医療後の母親の体験（単独、平成28年10月、第57回日本母性衛生学会学術集会）／3.「装着型産褥子宮モデル」を使用した子宮復古の観察場面における看護学生の学習効果の検討（共同、平成28年12月、第36回日本看護科学学会学術集会）／4.A大学による卒業前スキルアップトレーニングの効果～看護学生と卒業生を対象とした2年間の比較～（共同、平成28年12月、第36回日本看護科学学会学術集会）

＜所属学会・研究会＞日本看護研究学会／日本母性衛生学会／日本看護科学学会／日本看護科学学会／日本助産学会

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞推薦委員会「役員推薦業務（月1回）」（平成28年6月～平成29年3月、北海道看護協会）

矢野 祐美子

＜学会発表＞1.看護コンソーシアム構築への段階的研究 パート2中堅看護師への調査（共同、平成28年8月、第20回日本看護管理学会学術集会）／2.看護コンソーシアム構築への段階的研究 パート1巻後管理者・師長への調査より（共同、平成28年8月、第20回日本看護管理学会学術集会）／3.A市の病院における看護師研修の実態と課題（共同、平成28年8月、第20回日本看護管理学会学術集会）

＜論文査読・学会抄録査読＞1.札幌市立大学紀要（1件）

＜学術集会運営＞第22回日本統合医療学会

＜所属学会・研究会＞日本看護管理学会／日本看護科学学会／日本医療・病院管理学会／日本看護評価学会／日本看護学教育学会

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞臨地実習指導者研修（指導者の役割や心構え）「臨地実習指導者研修」（平成28年7月7日、（医）母恋天使病院）／臨地実習指導者研修（ゴードン機能的健康パターンの基本と実習指導のポイント）「臨地実習指導者研修」（平成29年3月7日、（医）母恋天使病院）

山内 まゆみ

＜学術論文＞1.産後の子宮触診技術に活用できる「装着型産褥子宮モデル」の開発（共著、平成29年3月、本学紀要、10巻、1号、pp.31-37）

＜学会発表＞1.「装着型産褥子宮モデル」を使用した子宮復古の観察場面における看護学生の学習効果の検討－3年生の場合－（共同、平成28年7月、日本看護研究学会第26回北海道地方会学術集会）／2.北海道・東北地域で勤務する現職助産師の保健専門職に関する業務能力の調査報告－ICMが提示する基本的助産業務に必須な能力項目から（共同、平成28年7月、日本看護研究学会第26回北海道地方会学術集会）

＜所属学会・研究会＞日本母性看護学会／日本助産学会／日本地域看護学会／日本看護研究学会／日本医療教授システム学会／日本看護科学学会／日本母性衛生学会／日本母乳の会／北海道母性衛生学会

山本 真由美

＜学術論文＞1.産後の子宮触診技術に活用できる「装着型産褥子宮モデル」の開発（共著、平成28年6月、札幌市立大学、10巻、1号、pp.31-37）

＜学会発表＞1.地域志向型異分野連携科目「スタートアップ演習」における学び（共同、平成28年6月、第68回北海道公衆衛生学会）／2.地域志向型異分野連携科目「学部連携演習」の学習成果と課題（共同、平成28年6月、第68回北海道公衆衛生学会）／3.「装着型産褥子宮モデル」を使用した子宮復

古の観察場面における看護学生の学習効果の検討ー3年生の場合ー（共同、平成28年7月、日本看護研究学会第26回北海道地方学術集会）／4.タイムスタディによる看護業務量測定・評価方法に関する文献検討（共同、平成28年11月、第81回日本民族衛生学会）／5.「装着型産褥子宮モデル」を使用した子宮復古の観察場面における看護学生の学習効果（共同、平成28年12月、第36回日本看護科学学会学術集会）

＜学会研究発表＞1.看護実践能力を向上させるための教材開発と評価ー装着型産褥子宮モデルー（共同、平成28年11月、SCU産官学研究交流会）

＜学術集会運営＞日本応用心理学会

＜所属学会・研究会＞日本助産学会／日本母性衛生学会／日本看護科学学会／日本看護管理学会／日本看護学教育学会／日本看護研究学会／日本看護技術学会／日本看護理工学会／北海道母性衛生学会

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞看護研究の講義および指導「看護研究「研究計画書の作成・文献検索の方法」」（平成28年4月22日、北海道がんセンター）／「北海道がんセンター看護研究指導」（平成28年度、北海道がんセンター）／「看護研究発表会講評」（平成29年3月13日、北海道がんセンター）

石引 かずみ

＜学術論文＞1.産後の子宮触診技術に活用できる「装着型産褥子宮モデル」の開発（共著、平成28年6月、札幌市立大学研究論文集、10巻、1号、pp.31-37）

＜学会発表＞1.「装着型産褥子宮モデル」を使用した子宮復古の観察場面における看護学生の学習効果の検討ー3年生の場合ー（共同、平成28年7月、日本看護研究学会 第26回北海道地方学術集会）／2.「装着型産褥子宮モデル」を使用した子宮復古の観察場面における看護学生の学習効果（共同、平成28年12月、第36回日本看護科学学会学術集会）

＜学会研究発表＞1.看護実践能力を向上させるための教材開発と評価ー装着型産褥子宮モデルー（共同、平成28年11月、2016年度 SCU産官学研究交流会）

＜所属学会・研究会＞日本助産学会／日本母性衛生学会／日本看護科学学会／日本看護研究学会／北海道母性衛生学会

柏倉 大作

＜学会発表＞1.看護演習科目へのルーブリック導入の学習効果・ルーブリック評価の信頼性と妥当性の検討（共同、平成28年12月、第36回日本看護科学学会）

＜学術集会運営＞日本応用心理学会第83回大会

＜所属学会・研究会＞日本看護科学学会／日本看護技術学会／日本看護教育学会／日本看護理工学会

近藤 圭子

＜調査研究報告書＞1.寒冷な特別豪雪地帯の高齢者に対する健康啓発プログラムの開発（共同、平成29年3月、札幌市立大学）

＜受賞等＞1.優秀ポスター賞「職場のソーシャルキャピタルと労働者の精神的健康との関連」（共同、平成29年1月、第5回日本公衆衛生看護学会学術集会）

＜学会発表＞1.北海道の特別豪雪地帯における高齢者の健康と自己効力感について（共同、平成28年10月、第68回北海道公衆衛生学会）／2.積雪寒冷地における要支援高齢者の積雪期と非積雪期の行動範囲の変化及び健康関連QOLの関連（共同、平成28年10月、第68回北海道公衆衛生学会）／3.寒冷な特別豪雪地帯に居住する高齢者の尿失禁の有訴率とリスク要因の検討（共同、平成28年10月、第75回日本公衆衛生学会）／4.A大学公衆衛生看護学臨地実習における実習体験内容と今後の課題（共同、平成29年1月、第5回日本公衆衛生看護学会）／5.公衆衛生看護学OSCEの看護実践力の評価（共同、平成29年1月、第5回日本公衆衛生看護学会）／6.A大学における公衆衛生看護学OSCE（客観的臨床試験）の実施状況について（共同、平成29年1月、第5回日本公衆衛生看護学会）／7.職場のソーシャルキャピタルと労働者の精神的健康との関連（共同、平成29年1月、第5回日本公衆衛生看護学会）

＜学術集会運営＞第68回北海道公衆衛生学会学術集会

＜所属学会・研究会＞日本プライマリ・ケア連合学会／北海道公衆衛生学会／日本公衆衛生学会／日本地域看護学会／日本公衆衛生看護学会

田仲 里江

＜調査研究報告書＞1.地域保健活動評価のためのソーシャル・キャピタル測定尺度の開発（平成28年6月、札幌市立大学）／2.都市に暮らす高齢者のソーシャル・キャピタルの実態と今後の地域保健福祉活動（平成28年6月、札幌市立大学）

＜受賞等＞1.優秀歩スター賞「職場のソーシャル・キャピタルと労働者の精神的健康との関連」（平成29年1月、第5回日本公衆衛生看護学会学術集会）

＜学会発表＞1.A大学における公衆衛生看護学OSCE（客観的臨床試験）の実施状況について（共同、平成29年1月、第5回日本公衆衛生看護学会学術集会）／2.公衆衛生看護学の看護実践力の評価ー平成26年度OSCE課題の実施状況及び成績の分析ー（共同、平成29年1月、第5回日本公衆衛生看護学会学術集会）／3.A大学公衆衛生看護学臨地実習における実習体験内容と今後の課題（共同、平成29年1月、第5回日本公衆衛生看護学会学術集会）／4.職場のソーシャル・キャピタルと労働者の精神的健康との関連（共同、平成29年1月、第5回日本公衆衛生看護学会学術集会）／5.Development and Improvement of Aged People's Body Surface Observation Scale（共同、平成29年3月、8th Asian Safe Community Conference）／6.Support for Victims of Intimate Partner Violence in Japan : Police Officers' Opinions on the Facilities Provided by General Hospitals and Private Hospitals（共同、平成29年3月、8th Asian Safe Community Conference）／7.Developing a Support System for Aged People with Dementia in Cooperation with Nurses and Police～ Interview with Parties Involved and an Examination of the Literature ～（共同、平成29年3月、8th Asian Safe Community Conference）

＜学術集会運営＞第68回北海道公衆衛生学会 運営委員／第69回北海道公衆衛生学会 査読委員

＜所属学会・研究会＞日本地域看護学会／日本看護科学学会／日本公衆衛生学会／日本看護学教育学会／日本公衆衛生看護学会／日本学校保健学会／北海道公衆衛生学会／看護総合科学研究会／日本フォレンジック看護学会

坂東 奈穂美

＜学術集会運営＞第22回日本統合医療学会 in 北海道 プログラム委員／応用心理学会第83回大会 運営ボランティア／第68回北海道公衆衛生学会 運営ボランティア

＜所属学会・研究会＞日本看護科学学会／日本看護管理学会／医療マネジメント学会／日本看護技術学会／日本看護理工学会／日本看護教育学会

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞病棟の看護研究グループへの研究支援（平成28年6月～平成29年3月、札幌厚生病院）

檜山 明子

＜学術論文＞1.精神疾患患者に対する看護師の疼痛アセスメント方法（共著、平成28年6月、日本精神保健看護学会誌、25巻、1号、pp.47－55）／2.入院患者に対する転倒予防の看護実践に関する文献調査（単著、平成28年9月、看護総合科学研究会誌、17巻、1号、pp.21－31）

＜特許・意匠登録＞注射針取外し容器（平成29年2月）

＜受賞等＞1.日本看護研究学会北海道地方会研究奨励賞（平成28年7月、日本看護研究学会北海道地方会）

＜学会発表＞1.Accuracy of prediction of risk for fall in hospital: Evaluation of a fall risk behavior assessment tool in a case control study（共同、平成28年9月）／2.Utilizing fall risk assessment tool for nurse in hospital: The relationship between the utility of the tool and characteristics of nurse（単独、平成29年3月）

＜学術集会運営＞日本看護研究学会北海道地方会学術集会

＜所属学会・研究会＞日本看護研究学会／日本看護倫理学会／日本看護学教育学会／日本看護科学学会／看護総合科学研究会／北のケア環境研究会／日本看護技術学会／日本医療・病院管理学会／看護総合科学研究会／日本看護管理学会／日本精神保健看護学会

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞運営委員（事務局）（平成28年8月3日・平成29年1月30日、北のケア環境研究会）



御厩 美登里

＜学術論文＞1.市民参画型の模擬患者養成プログラムの開発ー共に育み合う市民主体の学習の場づくりを目指してー（共著、平成28年6月、札幌市立大学研究論文集、10巻、1号、pp.19－29）／2.訪問看護師の職務継続意向に関連する要因ー訪問看護特有の職場環境に焦点をあててー（単著、平成28年8月、日本地域看護学会誌、19巻、2号、pp.66－73）

＜調査研究報告書＞1.2016年度在宅療養・在宅死を可能にする社会を目指して 研究報告書（平成28年12月、札幌市立大学）

＜学会発表＞1.市民を交えた異分野連携演習の効果ー第一報：A大学の看護学部・デザイン学部と模擬療養者連携事例ー（共同、平成28年7月、日本在宅ケア学会第21回学術集会）／2.道内看護管理者ネットワークの5年目評価と期待（共同、平成28年8月、日本看護管理学会学術集会）／3.道内看護管理者ネットワーク参加による変化（共同、平成28年8月、日本看護管理学会学術集会）／4.市民を交えたシミュレーション授業の効果計測手法の検討 学生の姿勢変化グラフに基づく心的負荷推定の試み（共同、平成29年3月、第11回日本感性工学会春季大会）

＜所属学会・研究会＞日本在宅ケア学会／日本地域看護学会／日本看護科学学会／日本看護学教育学会／日本看護管理学会／北海道公衆衛生学会／北海道医療大学看護福祉学部学会

＜講演会・講習会活動＞北海道・フィンランド遠隔シンポジウム 在宅療養・在宅死を可能にする社会を目指して（平成28年9月23日）

大友 舞

＜所属学会・研究会＞日本助産学会／日本母性衛生学会／日本看護協会

中田 亜由美

＜学術論文＞1.札幌市南区における高齢者の住まいのアプローチ空間の構成 高齢者の外出困難要因に関する基礎研究（共著、平成28年6月、札幌市立大学、10巻、1号、pp.85－94）／2.小児の歯科恐怖の影響要因に関する検討ー基本的属性、歯科や病院での恐怖体験、歯科受診歴、特性不安との関係ー（共著、平成28年11月、小児保健研究雑誌、75巻、6号、pp.804－809）

＜学会発表＞1.積雪寒冷地在住の要介護・要支援高齢者の外出困難に関する質的研究（共同、平成28年7月、第18回日本在宅医学会大会 第21回日本在宅ケア学会学術集会合同大会）／2.地域志向型異分野連携科目「学部連携演習」の学習効果と課題（共同、平成28年10月、第68回北海道公衆衛生学会）

＜学会役員就任状況＞アートミーツケア学会（アートミーツケア学会大会2016札幌 実行委員）

＜学会シンポジウム＞1.ケアの現場におけるアートの可能性（共同、平成28年11月、2016年度アートミーツケア学会大会）

＜学術集会運営＞2016年度アートミーツケア学会大会／第26回日本看護研究学会北海道地方会学術集会／第68回北海道公衆衛生学会

＜所属学会・研究会＞日本看護研究学会／日本在宅ケア学会／日本老年看護学会／日本公衆衛生学会／日本小児保健協会／北海道成育看護研究会／看護総合科学研究会

教育支援プロジェクトセンター

籾谷 祐介

＜学術論文＞1.札幌市南区における高齢者の住まいのアプローチ空間の構成 高齢者の外出困難要因に関する基礎研究（共著、平成28年6月、札幌市立大学、10巻、1号、pp.85－94）

＜調査研究報告書＞1.廃校活用を目的とした空間デザイン手法に関する研究（共著、平成28年6月、札幌市立大学研究企画推進チーム、pp.13－17）／2.平成28年度札幌市都市政策研究費採択事業 真駒内地域におけるリノベーションまちづくりの手法検討に関する研究業務（共著、平成29年3月、札幌市立大学、pp.1－214）

＜受賞等＞1.いばらきデザインセレクション2016 ソーシャルデザイン部門選定（平成28年10月、茨城県・茨城県デザインセンター）／2.日本都市計画学会北海道支部平成28年度研究発表会 優秀賞（平成28年10月、日本都市計画学会北海道支部）

＜学会発表＞1.まちづくりコミュニティの構造分析 その1 大子町屋台研究会をケーススタディとして（共同、平成28年8月、2016年度日本建築学会大会学術講演会）／2.まちづくりコミュニティの構造分析 その2 2つのコミュニティ比較と調査対象者へのフィードバックによる検証（共同、平成28年8月、2016年度日本建築学会大会学術講演会）／3.まちづくりコミュニティの構造分析手法に関する研究－大子町屋台研究会をケーススタディとして－（共同、平成28年10月、日本都市計画学会北海道支部平成28年度研究発表会）

＜学会役員就任状況＞アートミーツケア学会（アートミーツケア学会大会2016札幌 実行委員）

＜学術集会運営＞アートミーツケア学会大会2016札幌

＜所属学会・研究会＞日本建築学会／アートミーツケア学会／芸術工学会／日本在宅ケア学会

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞芸術の森社会福祉協議会シンボルマーク選考審査委員長「芸術の森社会福祉協議会シンボルマーク選考審査」（平成28年11月21日、芸術の森社会福祉協議会）

「札幌市立大学のシンボルマークについて」

札幌市立大学のシンボルマークは、
英国の著名なクリエイティブグループtomatoの
ジョン・ワーウィッカー氏によってデザインされました。
雪の結晶のイメージは、札幌の自然環境を特徴づけると共に、
大学での学習過程を図像的にあらわしたものです。(登録商標)



札幌市立大学
SAPPORO CITY UNIVERSITY

札幌市立大学年報 平成28年度 第11号

編 集 広報室

担 当 事 務 経営企画課

発 行 日 平成29年12月1日

発 行 行 札幌市立大学

〒005-0864 北海道札幌市南区芸術の森1丁目

TEL : 011-592-2300 FAX : 011-592-2369

URL <http://www.scu.ac.jp>